

QC
990
.J3
085
1915

LIBRARY

MAR 2000

National Oceanic &
Atmospheric Administration
U.S. Dept. of Commerce

National Oceanic and Atmospheric Administration

Environmental Data Rescue Program

ERRATA NOTICE

One or more conditions of the original document may affect the quality of the image, such as:

Discolored pages

Faded or light ink

Binding intrudes into the text

This document has been imaged through the NOAA Environmental Data Rescue Program. To view the original document, please contact the NOAA Central Library in Silver Spring, MD at (301) 713-2607 x124 or www.reference@nodc.noaa.gov.

Information Manufacturing Corporation
Imaging Subcontractor
Rocket Center, West Virginia
September 14, 1999

大正五年二月二十五日印刷
全 年二月三十一日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江戸橋下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社 三交堂

(電話土佐橋二三四一號)

c/pec

地方天氣豫報暴風警報適否調査

種	天氣豫報	暴風警報
	風向	溫度
類	向	度
發布數	三一	四〇
正中	二四	四
偏中	七	〇
不中	〇	〇
正中心 分比例	八九	一〇〇

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地



所名	國郡市	町村	緯度東經	北緯	取攝官衙
谷川	和泉國泉南郡	多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川渚水上巡查派出所
尾崎	和泉國泉南郡	尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署
佐野	和泉國泉南郡	佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡	岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺	和泉國堺市	香妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署水津川分署
水津川	攝津國大阪府	西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	全水津川分署北加賀屋水上巡查派出所
北加賀屋	攝津國大阪府	數津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全水津川分署波島水上巡查派出所
難波	攝津國大阪府	西區中口町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署
安治川	攝津國大阪府	北區安治川通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安立大
天保町	攝津國大阪府	西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大
大阪	攝津國大阪府	西區一條通	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署
傳法	攝津國豐能郡	傳法町	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東郷村役場

平均千満ノ差	一九七糎
満潮ノ極	二四四糎
其ノ日ノ時	八日午前六時四十分
干潮ノ極	五一糎
其ノ日ノ時	十一日午前三時〇分 十二日午前二時五十分
千満最大差	一六六糎
其ノ日	八日
千満最小差	九一糎
其ノ日	三日

平均千満ノ差	一九〇糎
満潮ノ極	二〇七糎
其ノ日ノ時	八日午後八時十分
干潮ノ極	五一糎
其ノ日ノ時	七日午前二時〇分
千満最大差	一五五糎
其ノ日	八日
千満最小差	四八糎
其ノ日	三十日

平均千満ノ差	一九七糎
満潮ノ極	一九四糎
其ノ日ノ時	七日午前九時〇分
干潮ノ極	五二糎
其ノ日ノ時	四日午後十一時五分 十二日午前四時〇分
千満最大差	一三九糎
其ノ日	七日
千満最小差	三五糎
其ノ日	十八日

●淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 二尺零寸八分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 一尺七寸四分

平均水位 最高水位 廣瀬一尺六寸 庭窪一尺零寸	十二月		廣瀬	十二月		廣瀬	十二月		廣瀬
	前六時	午後六時		前六時	午後六時		前六時	午後六時	
平均水位 最高水位 廣瀬一尺六寸 庭窪一尺零寸 (二十二日午後六時)	一八〇	一七〇	廣瀬	一八〇	一七〇	廣瀬	一八〇	一七〇	廣瀬
	一七五	一七〇	大	一七五	一七〇	大	一七五	一七〇	大
	一七〇	一六五	日	一七〇	一六五	日	一七〇	一六五	日
	一六五	一六〇	十二月	一六五	一六〇	十二月	一六五	一六〇	十二月
	一六〇	一五五	十一月	一六〇	一五五	十一月	一六〇	一五五	十一月
	一五五	一五〇	十二月	一五五	一五〇	十二月	一五五	一五〇	十二月
	一五〇	一四五	十一月	一五〇	一四五	十一月	一五〇	一四五	十一月
	一四五	一四〇	十二月	一四五	一四〇	十二月	一四五	一四〇	十二月
	一四〇	一三五	十一月	一四〇	一三五	十一月	一四〇	一三五	十一月
	一三五	一三〇	十二月	一三五	一三〇	十二月	一三五	一三〇	十二月
	一三〇	一二五	十一月	一三〇	一二五	十一月	一三〇	一二五	十一月
一二五	一二〇	十二月	一二五	一二〇	十二月	一二五	一二〇	十二月	
一二〇	一一五	十一月	一二〇	一一五	十一月	一二〇	一一五	十一月	
一一五	一一〇	十二月	一一五	一一〇	十二月	一一五	一一〇	十二月	
一一〇	一〇五	十一月	一一〇	一〇五	十一月	一一〇	一〇五	十一月	
一〇五	一〇〇	十二月	一〇五	一〇〇	十二月	一〇五	一〇〇	十二月	
一〇〇	九十五	十一月	一〇〇	九十五	十一月	一〇〇	九十五	十一月	
九十五	九十	十二月	九十五	九十	十二月	九十五	九十	十二月	
九十	八十五	十一月	九十	八十五	十一月	九十	八十五	十一月	
八十五	八十	十二月	八十五	八十	十二月	八十五	八十	十二月	
八十	七十五	十一月	八十	七十五	十一月	八十	七十五	十一月	
七十五	七十	十二月	七十五	七十	十二月	七十五	七十	十二月	
七十	六十五	十一月	七十	六十五	十一月	七十	六十五	十一月	
六十五	六十	十二月	六十五	六十	十二月	六十五	六十	十二月	
六十	五十五	十一月	六十	五十五	十一月	六十	五十五	十一月	
五十五	五十	十二月	五十五	五十	十二月	五十五	五十	十二月	
五十	四十五	十一月	五十	四十五	十一月	五十	四十五	十一月	
四十五	四十	十二月	四十五	四十	十二月	四十五	四十	十二月	
四十	三十五	十一月	四十	三十五	十一月	四十	三十五	十一月	
三十五	三十	十二月	三十五	三十	十二月	三十五	三十	十二月	
三十	二十五	十一月	三十	二十五	十一月	三十	二十五	十一月	
二十五	二十	十二月	二十五	二十	十二月	二十五	二十	十二月	
二十	十五	十一月	二十	十五	十一月	二十	十五	十一月	
十五	十	十二月	十五	十	十二月	十五	十	十二月	
十	五	十一月	十	五	十一月	十	五	十一月	
五	〇	十二月	五	〇	十二月	五	〇	十二月	
〇	〇	十一月	〇	〇	十一月	〇	〇	十一月	
〇	〇	十二月	〇	〇	十二月	〇	〇	十二月	

大日一尺四寸二分
 (二十三日午後六時)

方法やら雲の観測法を教へて置く即ち風力では

風速(メートル)	名稱	観測法
〇より一、四	無風	標が直立して木葉が動かぬとき
一、五より三、四	軟風	人の肌に風を感じるき
三、五より五、九	和風	木の葉動くとき
六、〇より九、九	疾風	木の小枝動くとき
一〇、〇より一四、九	強風	大木の枝動くとき
一五、〇より二八、九	烈風	大木の幹動くとき
二九、〇以上	颶風	大木の倒るとき

右の様な例を幾つも教へて置いて別に設備してある所の子供測候日記に記入させる仕組だが其項目は全く本もの測候所から教へてもらつた通りを遣つて居るので其の記入も子供測候所の實施狀況も實に可愛らしい凛々しいものである而して之を實行して以來の學童間に於ける効果と云ふべきものを並べて見ると子供生活と測候の接近は申すまでもなく頓て大人社會に測候的效果を熟知せしむるに至るべきは疑ひもないようだが最も手近いこととして

●大阪港潮汐観測

平均潮位	種目	月次	十月	十一月	十二月
			一二四、九糎	一二三、六糎	一二五、七糎

作業の新しい爲めに兒童が非常の興味を持つて居る事測候所から新聞社と同様に翌日の天氣豫報を知らせて呉れるので其れと一所に學校の詳しい測候成績を添て校門に張り出すのを非常に名譽とすること
風向計を設けて以來全生徒が部内の方角に就いて正確の觀念を得たること

人生と測候の大切なる關係を熟知せること
大阪の氣象の概要を知得せること

各地の温度と住居せる地方の温度との明確に對照する習慣を得たこと

翌日の天氣を豫測する習慣の一般に濃厚となつた事等主なるものだ云ふが子供相應に頭を傾けて風の向きや風の速度から

修學旅行の天氣などを巧に豫測するのが何よりも面白いと云ふことである尙近々赤白縁の測候旗をも設へつけ其標の見分の練習をさせるぞうだ(大阪毎日新聞)

年發展せらるゝ爲め高層氣流の觀測或は地上風力の觀測等を公衆の目前にて實施せるに依り一層注意を深ふし世人に大關係あることを知る様になつた現に市内の小學校にて日々測候所より天氣豫報の通知を受け之れを揭示し又は天氣豫報旗を掲揚し其他簡易の測候をなせるは惠美堀江、汎愛、清堀、愛日等の學校にして其他の學校にても漸次始むる由、因に測候を最も利用し居るは海事又は農事に關するもの其他商工業、衛生、治水等に關するものなりと

●子供測候所 小學校の新しき試み

小學校の學童が趣味的に實行する自發作業の選擇と云ふことは昨今の教育者を惱まして居る問題だが昨年の四月から大阪市南區の惠美第一小學校で實行して居る學童の測候作業は慥に一新事例として矚目するの値があるろう同校は前回發表の兒童と活動寫眞の關係調査にも早くから着手した學校であるが部内の状態が非常に低級で兎角に日常生活を趣味化することの出來ない地方である爲に一般の社會から閑却されて居る生活と天候の關係を子供から吹き込みつゝ次第に社會

生活の好參考たらしめようと云ふ子供相應の測度機を學校に設置して子供に實驗させることが出來るか否やを下野測候所長に尋ねねて見ると同氏は言下に其可能なるを答へ機械の選擇を始め後援を與へようと云ふ意味を發表されたので直ちに其實行に着手したのだが下野氏の注意に依て目下實行して居るものは氣壓、濕度、溫度、雨量風向、風力の六項目で

其の設備 たる子供測候所の内容を云ふと
庭内に建てた百葉箱（鎧戸で圍まれた機械裝置用の測候高脚棚）の中には乾濕寒暖計、最高溫度計最低溫度計を設へ

子供植物園の中に雨量計を置き

講堂の屋根の上に東、西、南、北の文字を明瞭に現した矢の風向計を取りつけ

てあるに過ぎないのだが擔任の學童は三人乃至五人を一組として其の中に主任を設け一般の測候方は高等二年一年尋常六年の全部に對して地理、理科、藝術の學科中に乾濕度計の換算から最高最低溫度の換算を教へ別に極通俗な測度法 として學者も承認して居る風力の觀測

此の方法は毎六時又は毎四時に繰り返され夜間も亦同じく繼續されるれども夜間の方は風船を少しく大となし之れにボケット電燈を裝置してあるので恰も人造の星を見るが如くである

斯様にして決定された高層の風向や風速は漢堡迄電送し又和蘭、獨逸及「スカンデナヴィア」の共同觀測は無論獨逸陸軍航空隊に少なからざる利益があるのである如此觀測は今尙繼續されて居る而して其大目的は英國にあるのであるから若し獨逸氣象技師が好天氣の時期を豫知し餘り移動せざる高氣壓を觀測したときは英國海岸に向つて飛航船を發するのである尤も此方法は今日實際行はれて居るものと英國に於ても亦同様に同じことを觀測し侵略的の意味でなしに英國の生命財産を防禦する爲めに利用して居る

平生は天氣豫報をなして居つたのも天候の豫報と云ふて結句飛航船や飛行機の襲撃が來りそ—だと云ふことを電報で警察署長や危儼な虞のある軍隊などに夫々報告するのである

無論海軍にも同様の報告をするが孰れも無線電信では

却て敵の爲めに利用され又は障害を被る虞があるから有線電報に依ることにして居る

「アストロノミー」雜誌に「フラマリオン」の論じた一節中にも飛航船及避難し易すからざる「ツェツペリン」の行動は主として風と天氣に依り左右せらるゝものであると書いてあるが彼等若し靜穩の日に英國の東海岸に襲來せば英の航空機も亦之れを追撃することが出来る英國の科學者は出來るだけの力を軍隊に竭して成るべく速に且有効に戦争の終局を告ぐる様努めて居る

(ノーチカルマガジン摘録)

●小學生と測候

技手 稻森 佐市 郎

小學讀本には天氣豫報や暴風警報乃や天氣圖の事までを概略載せてあるが讀本のみにては解し難き所もあるので所謂一見は百聞にしかずで實地見學の爲め四、五年前より小學生の測候所を參觀せらるゝもの著しく増加し近年は市内の學校は勿論市外乃至奈良縣邊より來る者もありて測候所は頗る多忙なるが元來氣象觀測の事は歐米先進國にては普く知悉せられ居るも我國は近年漸く世人の注意する様になつた位であるが近年飛行機や航空船の年一

又福岡にては午後七時五十八分十九秒に大連にては午後七時五十九分二十秒に此地震を觀測せりと

前に記する所の各所の觀測に依りて震央地までの距離を計算するに大阪よりは約四千五百杆東京よりは約四千六百杆臺北よりは約四千四百杆にして發震時は南方より北方に至るに従ひ遅延せるが故に其震源は南方に存するこゝと明かにして一月一日南洋「カロリン」群島の大震と同震源帶に發したるものなるべし尙南洋各所の報告を得て再報せんとす

●英國の氣象と航空　英國の氣象學者は英國の氣象狀態を新聞に掲載し敵に英國の天候の良否を日々知らしむるのは英國の爲め不利益極るものであると云ふので新聞紙上氣象の記事を登載することを一切禁止することにしたとす

尤も此前からして既に英國では天氣豫報に風の方向などは示さないことにして居た所がこれが敵に非常に不利であつたことが證明されたこと云ふのは獨逸では白耳義の「ブラッセルス」や其他の地方に於て氣象の技術者が天氣豫報を慎重に研究の上發して居るにも拘はらず本年（大

正四年二月十七日の颶風は全く豫報が出来なくて「ツェツペリン」飛航船エル3號と4號は「ジャットラント」海岸に於て難破して了つた之れ畢竟は英國の風向が不分明であつたのが一原因をなして居たのである天文學會の「ガゼット、アストロノミク」に氣象と航空と云ふことに就て面白い記事が載せてあるのを見た

昨年（大正三年）八月二十日「ブラッセルス」が獨軍の手に落ち白耳義兵が安土府に引上げたとき獨國の氣象専門技師四人が「ブラッセルス」府の氣象臺と天文臺を占領したが之が護衛として百二十人の獨逸兵を附して居たこと尤も今日では護衛兵僅かに其の十分の一即ち十二人に減じて居る夫れ以來各測候所の仕事は直に獨軍の氣象技師に依て復活され高層の氣象乃至氣候の状態は常に水素瓦斯を入れたゴム風船に依て觀測されて居る即ち風船の行衛は經緯儀を以て追跡するので之は一基ばかりでなしに他の塲所にも亦同様の測定をなし氣流の方向及速度を極めるので經緯儀の同時の讀取りを材料となし風船の上昇速度は變らざるものとすし置くのである

終 期	主 要 動	初期微動				最大振幅 (センチ)	振動期 秒
		P	S	L	M ₁		
F	全	全	全	全	一八三七	二三、五	
					六〇五	二三、〇	

終 期	主 要 動	初期微動				最大振幅 (センチ)	振動期 秒
		P	S	L	M ₁		
F	全	全	全	全	四六〇以上	二四、四	
					一四八七	二一、六	

又各所に於て地動計を以て觀測したる發震時は左の如し

臺北	午後五時二六分二三秒
シカウエー	全 五時二七分五四秒
大阪	全 五時二八分〇五秒
福岡	全 五時二八分〇七秒
水戸	全 五時二八分二四秒
東京	全 五時二八分二六秒
大連	全 五時二八分二六秒
仁川	全 五時二八分三四秒

第三の地震は第一初期微動の繼續時間五分三十三秒第二は四分四十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後八時二十八分三十五秒に於て二十二「ミクロン」振動期十九秒四、南北動は午後八時十七分三十六秒に於て二十五「ミクロン」振動期二十一秒六を現し後漸次に微となり靜止し全振動時間は東西動は一時六分五十二秒南北動は一時十九分零秒に亘たり即ち次表に記するが如し

東西動地動計觀測

南北動地動計觀測

終 期	主 要 動	初期微動				最大振幅 (センチ)	振動期 秒
		P	S	L	M		
F	全	全	全	全	二二	一九、四	
					(一)		

終 期	主 要 動	初期微動				最大振幅 (センチ)	振動期 秒
		P	S	L	M		
F	全	全	全	全	二五	二一、六	
					(一)		

東西動地動計觀測

發 現 時	初期微動		最大振幅		振動期
	P	S	(ミクロン)		
	全	全			秒
	一五時五分四五秒	三一分二八秒			
主 要 動	L	M ₁	(一)		振動期
	M ₂	全			
	全	全	一八〇		二〇、二
	三五分四七秒	三七分四二秒			二、六
終 期	F	全			
	一七時〇七分一〇秒	四二分一九秒			

南北動地動計觀測

發 現 時	初期微動		最大振幅		振動期
	P	S	(ミクロン)		
	全	全			秒
	一五時五分四五秒	二一分二八秒			
主 要 動	L	M ₁	(十)		振動期
	M ₂	全			
	全	全	一二七		二五、三
	三五分四七秒	三八分四五秒			〇、七
終 期	F	全			
	一七時一分一五秒	四分四九秒			

又各所に於て地動計を以て觀測したる發震時は左の如し

臺 北	午後三時四分〇九秒
シカウエー(支那上海)	全 三時二五分四七秒
大 阪	全 三時二五分四五秒
福 岡	全 三時二五分五七秒
水 戸	全 三時二六分一〇秒
東 京	全 三時二六分一三秒
大 連	全 三時二六分二三秒

午後五時四十五分二十三秒に於て千八百三十七「ミクロン」振動期二十三秒五南北動は主要動に入りて振幅著しく増大し爲めに描針圓筒外に逸出したるが故に最大振幅を測ること能はざりしが之れを推測するに午後五時四十分三十六秒に於て四千六百「ミクロン」以上に達し振動期二十四秒四を現し後漸次微となり靜止し全振動時間は二時三十分三十二秒に亘りたり即ち次表に記するが如し

第二の大震は第一初期微動の繼續時間五分三十七秒第二は四分二十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は

東西動地動計觀測

發 現 時	最大振幅	振動期
-------------	------	-----

南北動地動計觀測

發 現 時	最大振幅	振動期
-------------	------	-----

和田は大阪より約二十五杆深日は大阪より約五十杆孰れも南方にあり

深 日 岸和 田

微白濁にして黒色の浮遊物あり
微白濁にして黒色の浮遊物あり

一 外 状	ナ シ	ナ シ
一 臭 氣	ナ シ	ナ シ
一 比重攝氏十五度にて	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一 反 應	中 性	中 性
一 全、固、形、分	三〇、四〇	二二、九〇
一 熱、灼、減、量	三、九〇	四、二五
一 矽 質 物	五、五〇	二、五八
一 鐵 及 礬 土	一、二六	〇、九二
一 滿 倦	ナ シ	ナ シ
一 石 灰	三、四四	二、九六
一 苦 土	一、五七	一、〇二
一 全アルカリ	六、三七	五、六二
一 無 水 硫 酸	五、〇二	三、四五
一 鹽 素	四、四七	三、二六
一 無 水 煖 酸	〇、〇七	〇、二三
一 アンモニア	痕 跡	ナ シ
一 硝 酸	ナ シ	痕 跡
一 亞 硝 酸	ナ シ	痕 跡

●南洋「カロリン」群島の大震

技手 圓岡平太郎

大正五年一月一日南洋「カロリン」群島附近に發したる大震概況は既に前號に掲載せしが全月十三日にも同方面に又大震を發せり第一は十三日午後二時二十五分四十五秒第二は午後五時二十八分五秒第三は午後七時五十八分三十七秒の三回にして第一は一日の大震に比すれば稱々弱かりしも第二は一日の大震と略ぼ同程度の大震なり又第三の地震は極めて弱かりし

今第一の大震に就て云ふに第一初期微動の繼續時間は五分四十四秒第二は四分十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後三時三十七分四十二秒に於て三百二十「ミクロン」振動期二十秒二、南北動は午後三時三十八分四十五秒に於て千七百七十二「ミクロン」振動期二十五秒三を現し後漸次に微となり靜止し全振動時間は東西動は一時間四十一分二十五秒南北動は一時間四十五分三十秒に亘りたり即ち次表に記するが如し

法は當所と同じ蒸發の觀測を開始し大正四年に至る滿四ヶ年の成績を得たれば左に表記すへし

深日日蔭蒸發量

年	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治四十五年		七〇、二	七〇、一	四七、七	五〇、一	五五、三	五〇、四	五五、一	六〇、二	四七、五	四七、八	四七、五	四七、七	五五、三
大正二年		六四、四	四七、七	四四、二	四三、五	五八、八	四〇、九	七二、六	六〇、六	五〇、五	四四、二	四八、六	三九、七	五〇、一
大正三年		四四、四	三三、三	三六、一	四八、一	四三、〇	四〇、五	七九、三	六六、六	五七、三	四八、六	四二、八	四四、九	五九、七
大正四年		五九、五	二八、八	四四、四	五九、〇	五九、四	六〇、五	六六、三	五五、四	五三、六	四四、六	四三、三	四四、七	五九、七
平均		五九、九	三二、〇	三九、六	四四、九	五三、四	四九、一	六八、一	六〇、九	五〇、八	四六、三	四三、四	四四、五	五五、八

岸和田日日蔭蒸發量

年	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治四十五年		五〇、二	四四、一	四〇、九	五〇、九	五〇、一	四四、八	四六、五	五七、九	五七、九	四七、二	五〇、九	六〇、六	五八、七
大正二年		四七、九	四四、四	四九、三	五〇、六	六五、三	六九、〇	一〇八、六	一一、〇	七九、八	七〇、六	六〇、六	五〇、四	八〇、五
大正三年		六九、一	五九、五	七〇、六	八八、五	七五、七	七七、三	九五、五	一一〇、三	八七、三	七七、七	五九、六	六六、六	九六、五
大正四年		六二、二	五八、八	八一、七	六〇、〇	八八、九	六七、七	九四、〇	七〇、五	五八、三	八二、一	六四、六	六八、三	八〇、〇
平均		五九、〇	四九、九	五〇、九	五五、七	六三、五	六四、四	八六、二	七〇、六	六八、八	七〇、四	六九、三	六九、九	八二、七

前表に依て看るに深日は一ヶ年に平均五百七十五耗八にして一坪面より蒸發する量は十石五斗三升即ち大阪より約一石八斗多く岸和田は一ヶ年に平均八百三十一耗七にして一坪面より蒸發する量は十五石二斗二升即ち大阪より

り約六石五斗深日より約四石七斗多し斯く差異あるは一は氣象状態に依るならんも主なるものは水質の善悪に基因するものならんか左に右二ヶ所の水質分拆表を掲記し参考以供せんとす但し大阪は水道の水を用いたる因に岸

日 蔭 蒸 發 量

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治四十四年	六五	七〇	七五	八〇	八五	九〇	九五	一〇〇	一〇五	一一〇	一一五	一二〇	一〇八
明治四十五年	七〇	七五	八〇	八五	九〇	九五	一〇〇	一〇五	一一〇	一一五	一二〇	一二五	一一〇
大正二年	七五	八〇	八五	九〇	九五	一〇〇	一〇五	一一〇	一一五	一二〇	一二五	一三〇	一一〇
全三年	七二	七七	八二	八七	九二	九七	一〇二	一〇七	一一二	一一七	一二二	一二七	一一〇
全四年	六八	七三	七八	八三	八八	九三	九八	一〇三	一〇八	一一三	一二〇	一二五	一一〇
平均	七〇	七五	八〇	八五	九〇	九五	一〇〇	一〇五	一一〇	一一五	一二〇	一二五	一一〇

日 曝 蒸 發 量 と 日 蔭 蒸 發 量 と の 比

(日蔭蒸發量を100)
とし日曝の方

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治四十四年	九〇	八五	八〇	七五	七〇	六五	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	九〇
明治四十五年	八五	八〇	七五	七〇	六五	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	八〇
大正二年	八〇	七五	七〇	六五	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	八〇
全三年	八二	七七	七二	六七	六二	五七	五二	四七	四二	三七	三二	二七	八〇
全四年	七八	七三	六八	六三	五八	五三	四八	四三	三八	三三	二八	二三	八〇
平均	八〇	七五	七〇	六五	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	八〇

上表によりて一年中の變化を看るに其年の氣候によりて多少差異あれども要するに盛夏の八月頃に最多を呈し冬季一、二月頃に最少を呈する外に梅雨前の五月頃に小なる最多を呈し梅雨期に小なる最少を呈するものゝ如し

更に本府管内一二の地に於て試に蔭所の蒸發量を觀測したるに氣象に依り差異あるは勿論其他蒸發の觀測に用ゆる水質の如何によりて蒸發量に多少の差あるへし今明治四十五年一月より泉南郡深日及岸和田に於て日蔭(觀測

を拂ひ其變化を講究せるへからす而して元來蒸發は熱の高低に依りて差異あるか故に太陽の直射を受くる所と蔭所とは勿論多少あれば當所は特に日曝と日蔭（日曝とは觀測露場に直徑二粉の圓筒形銅器に二十耗の水を入れ地上二粉の高さに置き毎日午前十時に蒸發したる量を計り又日蔭とは「ステグエンソン」型百葉箱内に同型の器に同様水を入れ地上約一米の高サに置き蒸發を觀測せり）との蒸發量を觀測したるに其一年中の變化は殆んど同一な

れども量は日曝の方日蔭より著しく多し今最近五年間の平均に就て看るに日曝は一ケ年に千四百八十五耗一にして一坪面より二十七石一斗七升余の水を蒸發したるも日蔭にありては一ケ年に四百七十八耗四にして一坪面より蒸發したる量は八石七斗五升余にして日曝の約三分ノ一に達せざりき
左に最近五年間平均の毎月降水量と日曝蒸發量とを對比せんに

種日	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
降	四三、三	六八、八	九八、八	一四、八	一五、三	一九、九	一四、三	三五、九	一五、九	二六、六	六、八	四八、八	三九七、八
日曝蒸發	五七、七	六〇、〇	八八、四	一七、三	一五、二	一四、九	二六、七	三六、〇	一四、〇	二二、四	七、五	六八、八	一四〇、一

にして平均一ケ年の量は蒸發の方百三十七耗三の多量を示し七、八の兩月は殆んど二倍に達せり又同期間の日曝

と日蔭との毎月蒸發量及其比を表記すれば左の如し

日 曝 蒸 發 量

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治四十四年	五七、七	五九、九	九四、〇	二五、六	一九、五	一五、〇	二〇、三	三三、一	一五、七	二五、五	七、六	四九、二	四八八、一
明治四十五年	六四、〇	六五、四	七三、六	二八、六	一五、四	一五、〇	二四、一	三五、九	一五、〇	二五、五	七、〇	六、一	一四四、五
大正元年	六四、三	七四、三	八八、九	二〇、五	一五、八	一七、五	三三、七	三三、四	一四、四	二六、二	六、三	七、九	一四七、七
大正二年	六三、四	六九、九	九八、九	二七、二	一五、二	一六、八	二九、九	三五、八	一六、六	二五、七	八、〇	七、六	一七〇、〇
大正三年	六三、四	六九、八	九八、九	二七、二	一五、二	一五、八	二九、九	三五、八	一六、六	二五、七	八、〇	七、六	一七〇、〇
大正四年	六三、四	六九、八	九八、九	二七、二	一五、二	一五、八	二九、九	三五、八	一六、六	二五、七	八、〇	七、六	一七〇、〇
平均	五七、七	六〇、〇	八八、四	一七、三	一五、二	一四、九	二六、七	三六、〇	一四、〇	二二、四	七、五	六八、八	一四〇、一

(一) 十二月十四日十五日の暴風 十三日日本海西部にありし低氣壓は北東に進むに從ひ著しく發達し十四日朝北海道西岸に到り七百三十耗を示し同夜宗谷海峽に到りたる時は七百二十耗以下に降り遂に千島列島に去れり當時高氣壓は支那北部より東方に擴張し來り本邦一帯に北乃至北西の強烈風吹き起り奥羽以北は風雪烈しかりし大阪にては十四日午前七時より西の強風吹き起り午後八時最も強く毎秒速度十七米九に達し十五日午後七時まで吹き續けり其吹續時間は三十四時にして内強風は十八時間烈風は十六時間なり

(二) 十二月十七日十八日の暴風 十六日朝日本海西部に顯れたる低氣壓は東に進み著しく發達し十七日朝能登沖を經て同夜奥羽地方に到りたる時は七百四十二耗を示し遂に太平洋に入り十八日朝中室の南東方海上に到れり當時高氣壓は支那北部にありて著しく發達し七百八十二耗に上昇し東方に擴張し來り氣壓の傾斜急峻となりしを以て本邦にては北西の強烈風吹き起り所々に暴風雪を起したり大阪にては十七日午前八時より俄然風力増勢し九時より西の強風吹き起り十八日午前五時最も強く毎秒速度二十

米一に達し午前十時まで吹き續けり其總吹續時間は二十時にして内強風八時間烈風十四時間に亘れり因に此日西風強く爲に氣温著しく降り寒冷となり十八日午前十時より午後零時二十分まで初雪降り(前號廣區域に亘りたる初雪の項參照)

(三) 十二月二十二日二十三日の暴風 二十一日朝黃海に現はれたる低氣壓は東に進み日本海に入り二十二日夜津輕海峽に到り著しく發達し七百四十五耗を示し二十三日朝千島列島に到りて七百四十耗以下に降り而して高氣壓は支那北部にありて七百七十六耗以上を示し東方に擴張し來り氣壓の傾斜急となりたる爲に本邦一帯に北乃至北西の強烈風吹き北部に風雪烈しかりし大阪にては二十二日午前十一時より西の強風吹き起り午後一時最も強く毎秒速度十六米六に達し二十三日午後四時まで吹き續けり其總吹續時間は二十八時にして内強風は十九時間烈風は九時間なり

●日曝と日蔭との蒸發に就て 技手 芝野 強地上より水の蒸發し太氣中に飛散する量と降水量とは兩々相俟つて農業土功等には最も必要なる事項にして注意

又參照の爲め最近十年間の七、八、九月の氣温、日照時數、降水量と米收穫とを列記すれば左の如し

年次	氣温			日照時數			降水量			米作付反別	收穫總高	一反の平均收量
	七月	八月	九月	七月	八月	九月	七月	八月	九月			
明治三十九年	二五・八	二七・一	二二・九	一九八・一	二四七・四	一四六・一	一一・一	二五五・九	五三・五五	一、一六、三五	二、一七	
全 四十一年	二五・三	二七・〇	二三・六	一九一・一	二四三・〇	一七〇・〇	一一五・〇	二四九・二	五三・五三	一、二六、四九	二、三六	
全 四十二年	二四・七	二六・八	二三・六	二〇〇・二	二四三・八	一四四・一	八七・一	二〇六・七	五三・九五	一、二五、二〇	二、三〇	
全 四十三年	二六・三	二七・五	二三・八	二二〇・九	二五五・八	一三三・一	一一〇・四	二六六・五	五三・六六	一、〇八、三七	二、三三	
全 四十四年	二五・七	二六・一	二三・四	二四九・〇	二四九・八	二〇一・一	一一五・九	二六八・九	五三・九四	一、一五、三六	二、三四	
大正元年	二五・二	二六・六	二三・五	二二〇・三	二五九・一	一八八・三	一一九・六	二四六・四	五三・九〇	一、〇七、九〇	二、三三	
全 二年	二五・〇	二六・一	二三・一	一九五・六	二四〇・四	一三七・六	一一五・七	二五五・〇	五三・七九	一、〇七、四四	二、三三	
全 三年	二六・〇	二六・三	二三・二	二九七・九	二五九・〇	一八五・五	一一〇・六	二四四・七	五三・九八	一、〇七、四六	二、三三	
全 四年	二六・四	二七・四	二四・九	二六三・八	二六四・一	一三四・九	八二・七	二四四・四	五三・四四	一、〇四、三三	二、六四	
平 年	二五・八	二七・一	二三・三	二二一・九	二四六・一	一六六・三	一一五・七	二五七・三	五三・八四	一、〇四、八八	二、三三	

前表に依りて看るに本年度の米收穫高は平均一反歩に付

二石四斗一升三合にして最も豊作なりし大正三年に亞く

豊作にして平年より一斗六升一合の増收を示せり而して

氣象は大正三年より氣温稍々低く日照稍々少く降水量多

かりし又平年に比すれば氣温稍々高く日照稍々多く降水

量は七、九の二ヶ月は少かりしも八月は稍々多かりし

大陸の高氣壓は著しく發達し本邦に壓迫し來るか故に北

乃至西の風増勢し數日間強烈風吹き續くことあり特に大

阪地方は地勢の關係上西風最も強く船舶荷役の不可能な

ると尠からざりしが本月は比較的弾烈なる暴風少く稍々

顯著なりしは(一)十四日十五日の暴風(二)十七日十八日の暴

風及び(三)二十二日二十三日の暴風の三回なり今其概況を

● 十二月中の暴風概況 冬季寒冷となるに従ひ

記すれば左の如し

る虞なしとせす

今本期間に於ける九月中旬より十一月月上旬に至る日々の
 気温の變化を見るに十月十五日、二十八日、二十九日、十
 一月一日の四日間は稍々低温なりしも其他は概して頗る
 高温に經過したり

更に本年の氣象を前年及平年に比較するに気温は早、中、
 晩を通して高く、日照時数は前年より少く平年より早、
 中の二稻は多く晩稻は少し、降水日数及量は前年より
 多く平年より降水日数は稍々多かりしも水量は稍々少し
 即ち左に記するか如し

(表中▲印は高又は多)

氣象		本年	前年に比し本年の方	平年に比し本年の方
早	稻	二二二	▲	▲
	日	二一八、九	▲	▲
	均	二二二、三	▲	▲
中	稻	二二二	▲	▲
	日	二六九、五	▲	▲
	均	二二二	▲	▲
晩	稻	二二二	▲	▲
	日	二二八、〇	▲	▲
	均	二二〇、二	▲	▲
量		二三八、〇	▲	▲
時		二八〇、五	▲	▲
温		二〇、二	▲	▲
日		二二八、〇	▲	▲
時		二二八、〇	▲	▲
温		二二八、〇	▲	▲
日		二二八、〇	▲	▲
時		二二八、〇	▲	▲
温		二二八、〇	▲	▲

之れを要するに本年の稻作期間は(前年は著しく高温寡
 雨且つ日照頗る多く氣候は頗る良好なりし(平年より氣
 温高く日照時數多かりしも降雨は稍々多き方にあり而し
 地方にありては大したる被害なかりし
 て當地方は幸に暴風雨少く稍々顯著なりしは八月三日よ
 り五日及十月七日より九日に至る二回の暴風雨にして當

雨の終期)は頗る低温にして土用前即ち七月中旬より著しく高温(就中七月十五日より十六日に至る二日間は平年より約三度の高温なりし)となり土用中は概して高温に經過し、土用後即ち八月中下の二旬は高低相半し八月末より著しく低温(就中九月四日にありては平年より五度〇低かりし)となりしか九月六日頃より高温となり順

に復せり
更に本年の氣象を前年及平年に比較するに氣温は早、中、晩を通して前年より低く平年より稍々高し、日照時數も亦前年より少く平年より稍々多し、降水日數及量は前年及平年より多し即ち左に記するか如し

氣象

象

本

年

前年に比し本年の方

平年に比し本年の方

晚				中				早			
同	降	日	平	同	降	日	平	同	降	日	平
水	照	均	均	水	照	均	均	水	照	均	均
日	時	氣	氣	日	時	氣	氣	日	時	氣	氣
量	數	數	温	量	數	數	温	量	數	數	温

四五八、五	三〇	六三二、五	二六、五	四三七、二	二九	五八二、〇	二六、五	三七〇、六	二二	五一三、七	二六、七
-------	----	-------	------	-------	----	-------	------	-------	----	-------	------

▲	▲			▲	▲			▲	▲		
二二七、六	六	一〇五、九	一、三	二二七、四	七	一一二、七	一、四	一七一、九	三	七四、一	二

▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
七三、四	一	五五、九	〇、五	一二五、三		四三、一		八一、〇	一	四六、九	〇、五

〔表中▲印に高又は多〕

成熟期

本期間は出穂より成熟するまでの間にして 關係は甚大にして高温多照なれば子實の充實を良好なら専ら稻の成熟の作用を營むを以て生育期と同しく氣象の しむるも之れに反する時は秕粒を生じ其結果收穫を減す

種	早	中	晚	種	早	中	晚
	稲	稲	稲		稲	稲	稲
目	五月九日より六月二十五日			播種より移植まで	六月二十五日より八月二十九日		
	全	全	全		全	全	全
期	早	中	晚	期	早	中	晚
	稲	稲	稲		稲	稲	稲
種	早	中	晚	種	早	中	晚
	稲	稲	稲		稲	稲	稲
目	八月二十九日より十月十五日			出穂より成熟まで	九月九日より十月二十六日		
	全	全	全		全	全	全

苗代期 本期間は播種より苗の熟して本田に移植するまでの間即ち五月九日より六月二十四日に至る四十日間にして生育、成熟の両期に比すれば氣象の關係は稍々少しと雖も而かも氣象の影響に依り苗の軟弱又は齊

一を歛き延ひて移植期を遅延せしむる虞なしとせず今此期間の氣象を看るに氣温は前年に等しく平年より高し、日照時数は前年及平年より少く、降水日數及量は前年より少く平年より多し即ち左に記するか如し

表中▲印は高次に多

氣	象	本	年	前年に比し本年の方	平年に比し本年の方	
				二〇、二	一	〇、五
平	均	氣	温	二六六、三	一一、六	四〇、二
日	照	時	數	二四	五	四
降	水	日	數	二八一、五	一四七、八	▲
同			量			▲

生育期 本期間は移植より出穂に至る間即ち六月二十五日より早稲は八月二十八日、中稲は九月八日、晚

最も肝要なる時にして氣象の關係も亦著大なりとす今本期間に於ける日々の氣温の變化を看るに六月下旬(即ち梅雨の中頃)は平年より高温なりしか七月上旬(即ち梅

稲は九月十四日に至る間とす而して此期間は稲の生育上

此地震は振幅微にして振動の名部判明ならざれども最大

振幅は東西動は午前九時七分十五秒に於て三十七「ミク

ロン」振動期五秒三南北動は午前九時七分二十秒に於て

三十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり靜止せり

全振動時間は東西動は六分十秒南北動は六分零秒なり

附記

此地震は内海中部に發したるものにして岡山にては人身に感
覺なきも地震計に感じたり

二〇一 十二月廿八日午後五時十二分二十四秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一

分八秒にして主要動となり最大振幅は午後五時十三分四

十五秒に於て十「ミクロン」振動期五秒三を現し後微と

り靜止せり全振動時間は七分二秒なり（南北動微動計百

二十倍の觀測）

附記

此地震は本邦内に發したるものならんも未だ震源は詳ならず

二〇二 十二月二十九日午前八時五十八分四十四秒の

地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大

振幅は午前八時五十九分四十三秒に於て二十「ミクロン」

振動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は十
分五十八秒なり（南北動微動計百二十倍の觀測）

附記

此地震は本邦内に發したるものならんも未だ震源は詳ならず

●大正四年度稻作期間の氣象概況 抑も稻

の生育を左右するに最も有力なるものを温熱とす之に

亞きて同化作用を營むに必要なものを日光とす、又光

熱と相俟て發育に欠くへからざるものを水分とす、蓋し

農植物には孰れも適當の溫度ありて此溫度を得るにあら

されは決して完全なる發育を營み得るものにあらず、元

來稻は熱帶の産物なるか故に比較的高溫を要し同化作用

の盛なるは二十五度乃至三十度の間を恰好溫度とす、斯

るが故に氣象要素中にありても溫度、日照、降水等を以

て關係の最も著大なるものとす今左に大正四年度に於け

る稻作期間の氣象を調査し之れを前年及半年に比較し其

差異を示して當業者の參考に資せん

稻種及稻作期間

農商務省農事試験場畿内支場

於て豊凶試験に使用せられたる稻種及大正四年度、播種

より成熟に至る期間は左の如し

分二十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後四時五十八分五十八秒に於て二十五「ミクロン」振動期七秒〇、南北動は午後四時五十八分廿四秒に於て三十「ミクロン」振動期七秒二を現し後微となり静止せり全振動時間
間は東西動は十四分廿九秒南北動は十三分三十四秒なり

附記

此地震は三陸沖に發したるものにして石巻、秋田、福島、青森にては人身に感覺なきも地動計に感じたり

一九六 十二月十三日午前二時五十分五十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十秒にして主要動となり最大振幅は午前二時五十分
五十九秒に於て十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微と
なり静止せり全振動時間は十分六秒なり（南北動微動計
百二十倍の観測）

附記

此地震は磐城洋に發したるものにして福島にては人身に感覺なきも地動計に感じたり

一九七 十二月十三日午後二時二十五分十五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分十八秒にして主要動となり最大振幅は午後二時二十七
分四十七秒に於て十五「ミクロン」振動期五秒三を現し後

微となり静止せり全振動時間は十三分三十四秒なり（
南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は磐城洋に發したるものにして福島及八丈島にては人身に感覺なきも地動計に感じたり

一九八 十二月十三日午後八時十七分二十九秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならされども最大
振幅は午後八時二十分十六秒に於て十「ミクロン」振動期
五秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は十五分三
秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は未だ震源詳ならざれども畿内附近に發したる震實な
るべし

一九九 十二月十七日午後四時十九分四十八秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し振動の各部判明なら
ざれども最大振幅は東西動は午後四時三十三分二十五秒
に於て七十五「ミクロン」振動期七秒二南北動は午後四時
三十一分四十一秒に於て五十七「ミクロン」振動期七秒〇
を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は四十分
三十六秒南北動は三十八分五十二秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したる者にして未だ震源は詳ならず

二〇 十二月二十日午前九時六分三十四秒の地震

覺なきも地動計に感じたり

一九二 十二月三日午前十一時四十七分三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は十三分零秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後零時二分五十一秒に於て百八十七「ミクロン」振動期九秒八南北動は午後零時四分三十二秒に於て百三十二「ミクロン」振動期十二秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間
間は東西動は一時二十一分四十八秒南北動は一時二十二分三十秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し但し時刻は日本中央標準時に據る以下皆同じ

シカウエー(支那上海)	午前一二時四四五六秒
臺北	全 一一時四五分四八秒
福岡	全 一一時四六分〇四秒
大阪	全 一一時四七分〇三秒
水澤	全 一一時四七分一七秒

一九三 十二月五日午後九時四十九分三十一秒の地震
此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大

振幅は午後九時五十分十九秒に於て二十一「ミクロン」振動期五秒七を現し全振動時間は七分四十秒なり(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は陸中に發したるものにして陸中の水澤にては人身に感覺なきも地動計に感じたり

一九四 十二月七日午前六時一分四秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は二分十四秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前六時四分四十四秒に於て二百五十五「ミクロン」振動期九秒六を現し後微となり靜止せり全振動時間
間は東西動は五十八分三十秒南北動は五十三分二十秒なり

附記

此地震は櫻葉岬の南東沖に發したるものにして震域長半徑七十五里短半徑五十里を有し有感覺微震部は一萬一千七百八十里に亘り函館、青森、秋田、石巻、福島、水戸等にては人身に感覺なきも地動計に感じたり

一九五 十二月八日午後四時五十六分三十六秒の地震
此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一

海地方及枚方に強風吹けり●十九日概ね晴天所々に霜あり●廿日概ね晴天所々に霜あり●二十一日概ね曇天午後より雨降り翌日にほる●二十二日前日來の雨新庄、天王は霰を交へ概ね午前歇み上之郷、長承寺、大阪に強風吹けり●二十三日概ね晴天大阪、新庄、東郷に霜あり大阪、長野に強風吹けり●二十四日概ね晴天所々に霜あり●二十五日概ね晴天東郷、八尾に霜あり沿海地方及妙見山に驟雨あり●二十六日概ね晴天池田、富田林に霜、大阪、新庄、東郷に濃霧、大阪、田原に強風吹けり●二十七日概ね晴天所々に霜あり●二十八日晴曇相半し岸和田、池田、田原、富田林に霰あり●二十九日概ね曇天大阪、新庄、池田、東郷、天王に霜あり●三十日概ね晴天池田、東郷に霜あり大阪に強風吹けり●三十一日概ね晴天所々に霜あり

大阪地震観測概況

爰に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て観測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の器械にて観測したるものを記せり又振動の各部知数は左の如し

Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Iは長波即ち主

要部全上、Mは主要部の最大動、Cは終期の最大動、Fは振動の終了又(+)は南北動にありては北、東西動にありては東、(-)は南北動にありては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」(毫の千分一)を以て記す

本月中に地震を観測したる数は十二回にして人身に感覺ありたるものは一回もなく人身に感覺なく普通地震計に感したるものも亦一回もなかりしか無感覺地震にして地動計又は微動計に感じ其震源本邦内にありたるものは十回即ち三陸沖、盤城洋各二回襟裳岬の南東沖、紀伊水道、内海中部畿内附近各一回震源未詳二回なり又遠距離地震は二回にして未だ震源は詳ならず今其観測概況を列記すれば左の如し

一九一 十二月二日午後十時五十六分二十九秒の地震
此地震は性質稍々急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分六秒にして主要動となり最大震幅は午後十時五十六分四十九秒に於て十八「ミクロン」振動期一秒〇を現はし後微となり静止せり全振動時間は七分四十八秒なり
(南北動微動計百二十倍の観測)

附記

此地震は紀伊水道に發したるものにして潮岬にては人身に感

全	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十	卅一	全
月	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	月
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五
七	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	七
元	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	元
七	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	七
二	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	二
三	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	三
六	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	六
六	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	六
六	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	六
六	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	六
六	十一	六									
六	十二	六									
六	十三	六									
六	十四	六									
六	十五	六									
六	十六	六									
六	十七	六									
六	十八	六									
六	十九	六									
六	二十	六									
六	廿一	六									
六	廿二	六									
六	廿三	六									
六	廿四	六									
六	廿五	六									
六	廿六	六									
六	廿七	六									
六	廿八	六									
六	廿九	六									
六	三十	六									
六	卅一	六									

管内天氣摘要

●一日概ね晴天所々に霜あり新庄、妙見山、茨木に驟雨あり●二日概ね晴天所々に霜あり大阪、妙見山、天王に驟雨あり●三日概ね晴天所々に霜あり妙見山、天王、田原、富田林、長野に驟雨、堺、大阪に強風吹けり●四日概ね晴天東郷茨木に霜あり所々に驟雨、深日、岸和田、堺、大阪枚方に強風吹けり●五日概ね晴天所々に霜あり●六日概ね晴天所々に霜あり●七日概ね曇天妙見山、富田林に雨、天王に雪降り深日、岸和田、大阪、長野に強風吹けり●八日晴曇相半し長承寺、池田、東郷に霜あり

所々に雨降り●九日概ね曇天一般に雨降り大阪に強風吹けり●十日晴曇相半し深日、大阪に強風吹けり●十一日晴曇相半し長承寺、茨木、田原、富田林に霜あり●十二日晴曇相半し所々に霜あり●十三日概ね晴天所々に霜あり●十四日概ね晴天所々に霜あり上之郷、妙見山、天王に驟雨沿海地方及枚方に強風吹けり●十五日晴曇相半し岸和田、堺、大阪、八尾に強風吹けり●十六日概ね晴天北部の山間に霜あり天王、清水に雨降り●十七日概ね雨天堺、八尾、柏原、富田林に霜を交へ沿海地方に強風吹けり●十八日概ね曇天一般に雪降り所々に霜あり沿

●一日概ね晴天所々に霜あり新庄、妙見山、茨木に驟雨あり●二日概ね晴天所々に霜あり大阪、妙見山、天王に驟雨あり●三日概ね晴天所々に霜あり妙見山、天王、田原、富田林、長野に驟雨、堺、大阪に強風吹けり●四日概ね晴天東郷茨木に霜あり所々に驟雨、深日、岸和田、堺、大阪枚方に強風吹けり●五日概ね晴天所々に霜あり●六日概ね晴天所々に霜あり●七日概ね曇天妙見山、富田林に雨、天王に雪降り深日、岸和田、大阪、長野に強風吹けり●八日晴曇相半し長承寺、池田、東郷に霜あり

第四表 管内降水日量

十二月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	
深日																							
郷上之																							
岸和長承																							
濱寺																							
堺																							
天王																							
大阪																							
福島																							
新庄																							
池田																							
妙見山																							
東郷																							
天王																							
茨木																							
清水																							
枚方																							
田原																							
八尾																							
相原																							
富田																							
長野																							

一般に少なき方にあり要するに本月の氣候は氣温稍々高く降水少なかりしも先づ順當の裡に經過したるものなり更に氣温、降水量等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は南部深日の八度七より北部妙見山の二度四の間にありて之れを平年に比すれば一般に稍々高き方にあり而して最高は其起日區々なりと雖も下旬に現れたるもの大く南部深日の十九度二を高極とし東部柏原の十八度二之れに亞き其他は十七度より十六度を示せしか北部天王は十三度四同妙見山は十度六に止まれり又最低は概ね十九日より二十日に亘りて現はれ北部妙見山の零下六度一同天王の零下五度九同東郷の零下五度六等を低極とし同清水の零下四度九東部田原の零下四度〇之れに亞き其他は零下三度乃至零下一度を示せり要するに本月の氣温

は最高十九度二より最低零下六度一の間にありて其較差は二十五度三に達せり

降 水 總量は東部富田林の五十九耗四より西部

枚方の二十二耗五の間にありて之れを平年に比すれば二三の地に稍々多量を告げたれとも其他は一般に少なく平年の二分ノ一乃至三分ノ二に過さりき而して日量の最多は二十一日午後より二十二日未明に亘る降雨の際にありて東部富田林は三十七耗〇に達せり又日量の二十耗以上なりしは深日、上之郷、岸和田、天王寺、大阪、瀬島、妙見山、長野の八ヶ所にして其他は十九耗七より十三耗〇の間にありき

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲印は高又は多)

十七日	四八	七〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前七時七分より十時十分迄小雨あり、午前九時より十時午後一時及四時より吹雪、翌日に到る午後一時十分より二時十分迄微雨 前日中の強風午前十時迄吹き續けり、午前九時十分より午後三時十分迄微雨断続す、午後九時より十時迄強風吹り午後七時十分より八時五分迄月光環現る、夜微霜あり
十八日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
十九日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
二十日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿一日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿二日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿三日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿四日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿五日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿六日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿七日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿八日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
廿九日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
三十日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり
十一月一日	二〇	八〇	九三	二〇	八八	一一三	朝霧あり、午前八時十分より十一時十分迄微霜あり、午前九時十分より十時十分迄月光環現る、夜微霜あり

大阪府管内氣象概況

前既に述べたるが如く本月は全く冬季の状態を呈し寒氣凜冽となり霜は管内各地に亘り山間部には概ね降雪あり平坦部にありても往々雪霰を降すことあり然りと雖も降雪量は前月に比するに著しく減少し所謂低溫寡雨に経過

するを常とす而して本年十二月の氣候を調査するに上旬より中旬に亘りて漸次寒冷となり十七日及十八日には管内一帯に雪霰を降らし氣温は各地共零度以下に降り最低は北部天王に於て零下五度九に達し凍霜嚴水を認めしが二十五日頃より温暖となり以て翌年に入りては降雪水量は

水量は前月に比するに著しく減少し所謂低溫寡雨に経過するを常とす而して本年十二月の氣候を調査するに上旬より中旬に亘りて漸次寒冷となり十七日及十八日には管内一帯に雪霰を降らし氣温は各地共零度以下に降り最低は北部天王に於て零下五度九に達し凍霜嚴水を認めしが二十五日頃より温暖となり以て翌年に入りては降雪水量は

三十日	去四、六	一九〇	▲	二、七	一六、三	五、二	二、〇	六、五	六	二、二	三、五	二、八	北	北	二、一	三、四	一、六	一、九
廿一日	去九、九	八〇	▲	二、四	一五、五	二、三	一、三	六、〇	去	二、三	二、四	四、〇	北北東	北北東	〇、三	八、三	▲	二、二
全月	去六、五	七三	▲	〇、二	三、四	二、八	九、五	五、五	三	二、二	四、六	三、一	西 北北東	西 北北東	四、六	一五、五	二、四	二、八

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

十二月 地皮十種二十種三十種六十種 最低

諸現象の摘要

日	地皮十種	二十種	三十種	六十種	最低	諸現象の摘要
一	六、六	九、五	一〇、九	一三、四	二、八	朝霜あり、夜薄露あり
二	六、八	九、八	一〇、九	一三、三	二、〇	朝霜あり、午後一時三分より午後二時五十分迄小雨斷續す夜薄露あり
三	六、九	九、四	一〇、四	一三、二	二、〇	朝微霜あり、午後十一時より強風吹き起り翌日に到る
四	七、一	一〇、一	一〇、八	一三、二	二、二	前日來の強風午前七時迄吹き續けり、午前零時十分より九時五十六分迄微雨あり、夜微霜あり
五	四、七	八、四	九、九	一二、四	三、八	朝霜あり、午前六時二十分より七時三十分迄薄露あり、午前九時乃至十時朝霧あり、夜露あり
六	六、四	八、五	九、六	一〇、九	三、四	朝霜あり、午前七時八分より九時十分迄薄露あり、午後一時二十分より二時十分迄日曇れる、夜薄露あり
七	六、四	九、二	一〇、〇	一二、一	三、三	朝霧あり、午前七時五十分より八時十五分迄日曇れる、午前九時二十分より九時三十分迄微雨あり、午後十一時より午後六時迄強風吹き、午後一時五十分より二時二十四分迄日曇れる
八	五、二	八、四	九、六	一〇、九	三、一	夜薄露あり
九	七、六	八、七	九、五	一〇、六	三、九	朝薄露あり、午前三時四十分より午後八時五十分迄小雨斷續す、午後十一時より夜半迄強風吹き
十	六、一	九、一	一〇、〇	一二、〇	三、八	午後一時より三時迄強風吹けり
十一	四、六	八、一	九、三	一〇、六	三、七	夜薄露あり、
十二	五、七	七、七	八、八	一〇、一	三、五	朝霜あり、午前六時二十分より九時三十分迄薄露あり、夜薄露あり
十三	五、七	八、〇	九、一	一〇、一	三、七	朝薄露あり、午前四時五十分より十一時十分迄薄露あり、午前十一時より午後四時迄まで霧あり夜露あり
十四	五、五	八、二	九、〇	一〇、一	三、三	朝露あり、午前七時より夜半迄強風吹けり
十五	五、六	七、八	八、八	九、九	三、一	午前一時より午後七時迄強風吹けり
十六	六、九	八、四	九、〇	一〇、〇	三、〇	朝薄露あり、午前八時三十分より九時三十分迄薄露あり、午前十一時朝霧あり、夜薄露あり

平	夜	後							午			正	十	十一	
		十	九	八	七	六	五	四	三	二	一				十
均	半	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
七六、四	七六、五	七六、六	七六、七	七六、八	七六、九	七六、〇	七六、一	七六、二	七六、三	七六、四	七六、五	七六、六	七六、七	七六、八	七六、九
八、〇二	九、七七	一〇、六五	一一、四四	一二、二六	一三、一〇	一三、九四	一四、七九	一五、六三	一六、四八	一七、三二	一八、一七	一九、〇一	一九、八六	二〇、七〇	二一、五五
五、六三	五、六二	五、六二	五、六二	五、六二	五、六二	五、六二									
七、一	六、三〇	五、五〇	四、七〇	三、九〇	三、一〇	二、三〇	一、五〇	〇、七〇	〇、〇〇	〇、三〇	〇、六〇	〇、九〇	一、二〇	一、五〇	一、八〇
二、四八	三、五三	四、五八	五、六三	六、六八	七、七三	八、七八	九、八三	一〇、八八	一二、九三	一四、九八	一七、〇三	一九、〇八	二一、一三	二三、一八	二五、二三
四、五一	四、六八	四、八七	五、〇六	五、二五	五、四四	五、六三	五、八二	六、〇一	六、二〇	六、三九	六、五八	六、七七	六、九六	七、一五	七、三四
五、六	五、六	五、六	五、六	五、六	五、六										
一七、五五	一〇、〇〇	一八、七〇	二〇、〇〇	二一、七〇	二三、四〇	二五、一〇	二六、八〇	二八、五〇	三〇、二〇	三一九、九〇	三二、六〇	三四、三〇	三六、〇〇	三七、七〇	三九、四〇
一、〇	〇、〇	一、七	二、六	三、五	四、四	五、三	六、二	七、一	八、〇	八、九	九、八	一〇、七	一一、六	一二、五	一三、四
六、九七	七、〇〇	七、〇三	七、〇六	七、〇九	七、一二	七、一五	七、一八	七、二一	七、二四	七、二七	七、三〇	七、三三	七、三六	七、三九	七、四二
七、〇五	八、四九	八、五二	八、五五	八、五八	八、六一	八、六四	八、六七	八、七〇	八、七三	八、七六	八、七九	八、八二	八、八五	八、八八	八、九一
八、四四	八、五〇	八、五五	八、六〇	八、六五	八、七〇	八、七五	八、八〇	八、八五	八、九〇	八、九五	九、〇〇	九、〇五	九、一〇	九、一五	九、二〇
九、八四	九、八〇	九、七七	九、七四	九、七一	九、六八	九、六五	九、六二	九、五九	九、五六	九、五三	九、五〇	九、四七	九、四四	九、四一	九、三八
三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇										

第二表

大阪毎日氣象觀測成績の一

(表中▲印は高又は多)

十二月	氣壓		空氣		溫度		水蒸氣		濕度		風		日照		降水		
	平均	本年	平均	本年	最高	最低	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大	
一日	七六、九	七六、九	七、七	七、七	一〇、三	三、〇	三、三	五、七	五、七	三、四	三、六	八、〇	北	八、一	▲	三、二	一
二日	七六、五	七六、五	七、八	七、八	一〇、三	三、〇	三、三	五、七	五、七	三、四	三、六	八、〇	北	八、一	▲	三、二	一
三日	七六、四	七六、四	七、九	七、九	一〇、四	三、一	三、四	五、八	五、八	三、五	三、七	八、一	北	八、二	▲	三、三	一
四日	七六、〇	七六、〇	八、〇	八、〇	一〇、五	三、二	三、五	五、九	五、九	三、六	三、八	八、二	北	八、三	▲	三、四	一

到れり當時大陸の高氣壓は支那北部に迫り氣壓著しく高くして七百七十五耗に昇り東方に擴張し來りし爲め本邦にては概ね北西の強烈風吹き起れり

大阪にては十九日朝來北の軟風吹きしが午前八時俄に風力加はり午前十一時より強風となり午後一時最も強く毎秒速度十四米七に達し午後五時まで吹き續けり其總吹續時間は七時間なり

●廣區域に亘りたる初雪 十二月十六日朝日本海の西部に現はれたる低氣壓は著しく發達し十七日朝能

登沖に到りて七百四十五耗以下に降り同夜奥羽地方を横切り太平洋に入れり而して大陸の高氣壓は急速に發達し十七日朝は七百七十二耗以上を示せしが十八日朝は七百八十二耗以上に増高し氣壓の傾斜頗る急峻となりたるを以て十七十八の兩日は本邦一帯に北乃至西の強烈風吹き寒氣増進し九州より北海道に至る各地方に初雪を觀たり今前號及前々號所載以降の各地方に於ける初雪月日を半年及昨年と比し表記すれば左の如し

地名	本年	平年より	昨年より	地名	本年	平年より	昨年より
濱田	全	十二月十四日早	一日早	敦賀	全	十二月十七日晚	十三日晚
境	全	晚六日	晚二日	大邱	全	早一日	晚十日
宮津	全	全十一日	全六日	佐賀	全	晚七日	全五日
舞鶴	全	全八日	全一日	新居濱	全	全三日	全五日
福井	全	全九日	全十六日	前橋	全	十二月十八日全	十五日全
小名濱	全	十二月十五日全	一日早	名古屋	全	全四日	全二十日
彦根	全	全八日	晚七日	津	全	早五日	日早二十二日
岐阜	全	全五日	全十七日	八木	全	全二日	全二十六日
熊本	全	十二月十七日早	晚六日	京都	全	全十日	日晚五日
佐世保	全	全	全六日	和歌山	全	早三日	日早二十六日
長崎	全	早一日	全二日	大阪	全	全四日	日全二十六日
廣島	全	晚九日	全一日	神戸	全	晚二日	日全二十二日
				岡山	全	全六日	日全二十六日
				多度津	全	早十八日	全二十六日
				徳島	全	早晚ナシ	全二十六日
				高知	全	早十七日	早七十二日
				四阪島	全	全二日	日早一日
				松山	全	晚二日	日早二十六日
				下關	全	早三日	日晚六日
				大分	全	晚七日	日早五日
				福岡	全	早一日	日全二十六日
				鹿児島	全	早十五日	早二十六日

年 別	作 付 反 別	總 收 穫 高	平均一反步收量	平均一反步收量			
				大	麥	一 反 步	小
明治三十九年	三,七六三	四七,八七五	一,四六六	二,〇一七	一,五六七	一,一八四	
全 四十年	三,七九五	四七,七四四	一,五三三	二,〇九九	一,五五二	一,三二七	
全 四十一年	三,〇八六	四三,〇六八	一,四九六	二,〇九八	一,四〇〇	一,三三六	
全 四十二年	二九,七七一	四三,〇六六	一,五二三	二,〇七三	一,四四二	一,三三六	
全 四十三年	二九,七九九	四〇,一四九	一,三六七	一,九二四	一,二八三	一,一四四	
全 四十四年	二八,七五二	四〇,五三〇	一,五四九	二,二一九	一,四四五	一,四四六	
全 四十五年	二九,〇四六	四三,五六二	一,五六九	二,一〇五	一,四七六	一,三三三	
大正元年	三〇,四〇〇	四八,五六三	一,五六九	二,一六四	一,五二〇	一,三〇〇	
大正二年	三二,四七八	三八,九二二	一,二四九	一,七三三	一,一五六	一,一〇一	
全 一三年	三二,八五四	四三,〇五八	一,四二四	一,八三四	一,三六〇	一,一三〇	
全 一四年	三〇,五五〇	四四,八七五	一,四七三	二,一三三	一,三六七	一,一五九	
平 年							

前表に依り本府管内平均一反歩の收穫高を看るに平年より五升七合の減收にして最近十年間に於ける第三の凶作なりし

●十一月中の暴風概況

十一月は顯著なる暴風はなかりしか就中稍々強かりしは(一)十二日及(二)十九日の両日にして其概況を記すれば左の如し

(一)十一日支那東海にありし低氣壓は急速に進行し十一日夜房總沖に到れり當時高氣壓は支那北部にありて著し

く發達し七百八十耗を示し東方に發展し來りたるが故に氣壓の傾斜急となり本邦中部以北に強烈風吹き起れり

大阪にては十二日未明は北の軟風吹きしが午前十時より俄然風力増勢し十一時より強風となり午後二時最も強

毎秒速度十四米九に達し午後四時まで吹き續き漸次に減力せり總吹續時間は六時間なり

(二)十九日朝日本海東部に顯れたる低氣壓は北東に進み十九日午後二時には青森を横りて斗南半島の東方海上に

平均氣温		日照時數		降水量	
總	平均	總	時數	總	量
自六月一 日	自六月一 日	自六月一 日	自六月一 日	自六月一 日	自六月一 日
五 月	五 月	五 月	五 月	五 月	五 月
至全 十八 日	至全 十八 日	至全 十八 日	至全 十八 日	至全 十八 日	至全 十八 日
日 數	日 數	日 數	日 數	日 數	日 數
三	一〇	二	二	五	一
二八、九	三〇、六	〇、四	〇、一	▲	▲
七、一	一、〇	▲	▲	▲	▲
三、九	一、〇	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲
三三、一	三三、六	二五、七	二五、七	二四、〇	二四、〇
▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲

更に最近十年間麥作期間の氣象を記列すれば左の如し

年	種目	自播種		自發芽		自出穗		自出穗至成熟		
		平均氣温	日照時數	降水量	平均氣温	日照時數	降水量	平均氣温	日照時數	降水量
明治三十九年	全	一〇、九	六、五	二、五	七、三	七、九	三、五	一八、六	二九、七	二、四
全	四十一年	五、九	三、九	二〇、九	六、九	九、〇	三、六	一八、七	三〇、五	二、五
全	四十三年	六、八	三、四	八、九	七、〇	七、九	四、六	一八、七	三〇、七	二、五
全	四十二年	八、〇	六、九	四、九	六、九	七、七	四、五	一八、八	三〇、八	二、六
全	四十三年	八、九	五、九	五、八	六、五	七、一	三、四	一八、四	三〇、三	二、五
全	四十四年	九、〇	七、七	二、八	七、三	八、五	三、七	一八、五	三〇、四	二、六
全	四十五年	九、九	五、三	三、五	七、九	八、三	四、八	一八、二	三〇、五	二、六
大正二年	全	七、九	七、一	三、八	七、一	八、三	三、四	一八、一	三〇、五	二、六
全	三年	九、七	三、七	一、七	七、七	八、五	四、三	一八、三	三〇、四	二、六
全	四年	八、九	四、八	〇、〇	七、五	八、九	三、三	一八、九	三〇、七	二、六
平	年	八、六	五、五	一、四	七、〇	七、八	三、九	一八、七	三〇、六	二、六

又参照の爲め大阪府管内最近十年間の麥作高を列記すれば左の如し

氣象

本年

前年に比し
本年の方

平年に比し
本年の方

氣象

本年

前年に比し
本年の方

平年に比し
本年の方

降水日數						平均氣溫					
總	四	三	二	一	至自	總	四	三	二	一	至自
日	月	月	月	月	全十二	平	月	月	月	月	全十二
數	中	中	中	中	月二	均	中	中	中	中	月二
六五	六	三	二	三	九	七五	一三〇	六八	五三	四六	七五
▲	▲		▲	▲			▲		▲		▲
九	一	一	四	五	一	二〇	二一	三〇	一〇	〇五	〇八
▲	▲		▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲
三	三	一	七	三	一	〇五	一〇	〇六	一三	〇五	一三
降水量						日照時數					
總	四	三	二	一	至自	總	四	三	二	一	至自
量	月	月	月	月	全十二	時	月	月	月	月	全十二
中	中	中	中	中	月二	數	中	中	中	中	月二

出穂より成熟に至る期間も亦た氣象の關係著大にして晴天持續し日照時數多き年は成熟良好なるも之れに反する年は成熟よろしからず、今此期間を看るに成熟の早きは五月三十一日遅きは六月十八日なり故に便宜上此期間を五月一日より六月十八日に至る四十九日間として氣象を

調査するに氣温の平均は十八度九にして前年より低く平年より高し、日照時數は三百十五時七にして前年及平年より少し、降水日數は前年より少く平年に等し即ち左の如し

自出穂至成熟

(表中▲は高又は多)

氣象

本年

前年に比し
本年の方

平年に比し
本年の方

氣象

本年

前年に比し
本年の方

平年に比し
本年の方

前表に依りて看るに播種は大正三年十一月二十五日にし
て發芽は十二月二日なれば其前日即ち十二月一日に至る
七日間は種子の土中にありたるものにして氣象の關係は
著しからざれども此期間の氣象を記すれば氣温の平均は

八度九にして前年より低く平年より高し、日照時数は四
十一時八にして前年及平年より多く降水日數及量は少し
即ち左の如し

自播種至發芽前日

(表中▲は高又は多)

氣象		本年	前年に比し本年の方	平年に比し本年の方
平均氣温	八、九	〇、八	▲	▲
日照時數	四一、八	▲	▲	▲
降水日數	〇	▲	▲	▲
降水量	〇、〇	▲	▲	▲

發芽より出穂に至る期間は氣象の關係顯著なるが故に各
月に分ちて前年及平年に比せんとす而して其期日を見る
に出穂は早きは四月二十四日遅きは五月十日なり、故に
其中庸を取り此期間を大正三年十二月二日より同四年四
月三十日に至る百五十日間として氣象を調査するに氣温

の平均は七度五にして前年より低く平年より高し、日照
時数は八百四時九にして前年より少く平年より多し、降
水日數は六十五日にして其水量は五百二十二耗六にして
前年及平年より孰れも多し即ち左の如し

自發芽至出穂

(表中▲印は高又は多)

振幅は東西動は午後十時三十六分三十四秒に於て二十六
 「ミクロン」振動期一秒四南北動は午後十時三十六分四十
 六秒に於て二十「ミクロン」振動期一秒一を現し後微とな
 り静止せり全振動時間は東西動は五分四十三秒南北動は
 五分四十一秒なり

附記

此地震は琵琶湖附近に發したるものにして本根にてば人身に
 感覺なきも地震計に感じたり

●大正四年度麥作期間の氣象概況 本年度の

麥作は大正三年十一月に播種し同四年六月に收穫したる
 ものにして此期間の氣象を前年及平年に比し概記せんに

氣温は播種より成熟に至る期間は前年より低かりしも平
 年より高く、日照時數は播種より發芽に至る期間は頗る
 多かりしも發芽より出穂に至る期間は前年より少くして
 平年より多く又出穂より成熟に至る期間は概して少し、
 降雨は播種より發芽に至る期間は連日微雨ありたるも其
 量極めて少く發芽より出穂に至る期間は多く出穂より成
 熟に至る期間は前年より少く平年より多し
 尙詳細に調査せんが爲め先づ農商務省農事試驗場畿内支
 場の豊岡考照試驗に係る麥の種類及播種より成熟に至る
 各期日並に一反歩の收量を左に掲ぐ

種	類	播種期	發芽期	出穂期	成熟期	一反歩收量
裸麥	豐丹	十一月二十五日	十二月二日	四月二十七日	六月二日	一、三五四
	波白	全	全	全 二十六日	五月三十一日	一、四一四
麥	於染	全	全	全	六月二日	一、四一六
	コールデン、メロン	全	全	五月十日	全 十四日	一、三七九
大麥	倍取	全	全	四月二十八日	全 二日	一、六五〇
	交野	全	全	全 二十四日	五月三十一日	一、七六〇
小麥	和歌山	全	全	五月三日	六月十一日	一、三二九
	フレルツ	全	全	全 十六日	全 十八日	一、〇七九
廣島	シブレイ	全	全	全 二日	全 十二日	一、二三六

東西動地動計觀測

發	現	時	最大振幅	振動期
初期微動	P	一三時〇四分〇九秒	(ミクロン)	秒
主要動	L	一三時〇六分〇二秒		
	M	〇七分一七秒	(一) 一七〇五	九、一
終期	F	一四時五六分四一秒		

附記 此地震は磐城沖に發したるものにして震域頗る廣く北方は北海道の函館に南方は八丈島に南西方は江州彦根附近に達し長半徑百二十里短半徑九十五里を有し弱震部は六千九百十一方里有感覺微震部は三萬五千八百十四方に達し微動は遠く支那上海及臺灣等に達したり

一八八 十一月十九日午前五時二十四分二十四秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は三分五十二秒にして主要動となり最大振幅は東西は午前五時二十八分五十四秒に於て九十七「ミクロン」振動期八秒六南北動は午前五時二十八分三十三秒に於て百二十七「ミクロン」振動期九秒二を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は五十分四十三秒南北動は四十八分三

南北動地動計觀測

發	現	時	最大振幅	振動期
初期微動	P	一三時〇四分〇九秒	(ミクロン)	秒
主要動	L	一三時〇六分〇二秒		
	M	〇七分一六秒	(一) 二二一七	五、〇
終期	F	一四時五七分二七秒		

附記 此地震は臺灣附近に發したるものにして臺灣各所の地震計に感したれども人身には感覺なかりし

一八九 十一月二十日午前四時四十八分八秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は東西動は午前四時四十八分八秒に於て四十三「ミクロン」振動期一秒四南北動は午前四時四十八分四十四秒に於て二十五「ミクロン」振動期一秒七を現はし全振動時間は四分四十秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記 此地震の震源は未だ詳ならざれども畿内附近に發したる微震なるべし

一九〇 十一月二十八日午後十時二十六分四秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分四秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十一
時五十七分四十五秒に於て二十二「ミクロン」振動期一秒
九南北動は午前十一時五十七分四十六秒に於て十五「ミ
クロン」振動期一秒八を現し後微となり靜止せり全振動
時間は五分三十九秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして震域北方は岩代の福
島邊に四方は駿河の沼津附近に達し長半徑四十里短半徑二十
五里を有し有感覺微震部は三千四百四十二方に亘り微動は畿
内附近に達したり

一八五 十一月十六日午後七時八分九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分七秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後七時
九分十九秒に於て十六「ミクロン」振動期一秒八を現し後
微となり靜止せり全振動時間は六分八秒なり(簡單微動
計六十倍の觀測)

附記

此地震は常陸國に發したるものにして震域北方は岩代の福島
邊に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津附近に達し水戸、筑
波、福島にては微震を感じたり

一八六 十一月十七日午前八時五十三分四十四秒の地

震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前八時
五十四分五十一秒に於て二十「ミクロン」振動期二秒〇、
南北動は午前八時五十五分一秒に於て二十「ミクロン」振
動期二秒四を現し後微となり靜止せり全振動時間は六分
二十二秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記

此地震は浦賀水道に發したるものにして震域北方は水戸附近
に西方は駿河の沼津邊に達し長半徑四十里短半徑二十里を有
し有感覺微震部は二千五百二十二方に亘り布長にては性質愈
なる強震を感じたり

一八七 十一月十八日午後一時四分九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五十三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後
一時七分十七秒に於て千七百五「ミクロン」振動期九秒一
南北動は午後一時七分十六秒に於て二千百十七「ミクロ
ン」振動期五秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間
は東西動は一時五十二分三十二秒南北動は一時五十三分
二十秒なり即ち次表に記するが如し

短半徑三十里を有し有感覺微震部は四千二百四十一方に達し東京にては微震を感じ銚子、横須賀にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

一八一 十一月十六日午前零時四十六分四十秒の地震此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前零時四十七分五十秒に於て四十「ミクロン」振動期三秒二南北動は午前零時四十八分四秒に於て廿二「ミクロン」振動期二秒四を現し後微となり靜止せり全振動時間は七分〇秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記 此地震は越後國魚沼郡に發したるものにして震域長半徑三十五里短半徑二十五里を有し有感覺微震部は二千七百四十九方に達し新潟、長野にては微震を感じたり

一八二 十一月十六日午前十時卅八分三十四秒の地震此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十時四十分四十一秒に於て二百九十五「ミクロン」振動期四秒八南北動は午前十時四十分十六秒に於て三百八十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は二十二分八秒、南北動は二十分五十三

秒なり

附記 此地震は房總沖に發したるものにして震域頗る廣く北方は本州の北部に南方は八丈島に達し西方は加賀の金澤邊に及びて長半徑百五里短半徑六十五里を有し有感覺微震部は二萬千四百四十二方に達し九州西部に達したり

一八三 十一月十六日午前十一時卅五分廿二秒の地震此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十六秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十一時三十七分一秒に於て百九十五「ミクロン」振動期四秒三南北動は午前十一時三十七分四秒に於て二百一十二「ミクロン」振動期四秒六を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は十九分二十秒南北動は十八分二十五秒なり

附記 此地震は河賀水道に發したるものにして震域北方は岩代の福島に南方は八丈島に達し西方は丹後の宮津附近に及びて長半徑五十五里短半徑三十五里を有し有感覺微震部は六千四百八方里に亘り布良、横濱にては強震を感じ微動は遠く九州西部に達したり

一八四 十一月十六日午前十一時五十六分四十一秒の地震

後微となり静止せり全振動時間は十九分十六秒なり（南
北動微動計百二十倍の観測）

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして震域北方に青森附近
に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津邊に達し長半徑七十里
短半徑五十里を有し有感覺微震部は一萬九百九十六方に達
し石巻、宮古、福島、水戸、筑波にては微震を感じたり

一七七

十一月十四日午前一時二十八分零秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分三十二秒にして主要動となり最大振幅は午前一時三十
分四秒に於て十「ミクロン」振動期四秒六を現し後微とな
り静止せり全振動時間は十分四十二秒なり（南北動微動
計百二十倍の観測）

附記

此地震は三陸沖に發したるものにして宮古にては微震を感じ
石巻、福島、秋田、水戸等にては人身に感覺なきも地震計に感
じたり

一七八

十一月十四日午前十時廿七分四十九秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十
時二十八分二秒に於て五「ミクロン」振動期一秒二南北動
は午前十時二十八分一秒に於て七「ミクロン」振動期一秒

〇を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は五分
五秒南北動は五分三十二秒なり

附記

此地震は岡山附近に發したるものにして岡山にては性質急に
して地鳴を伴ひたる弱震を感じ宮津にては性質急なる微震を
感じたり

一七九

十一月十四日午後三時廿六分四十九秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大
振幅は東西動は午後三時二十八分三十九秒に於て三十一
「ミクロン」振動期三秒〇南北動は午後三時二十八分十八
秒に於て十八「ミクロン」振動期二秒九を現し全振動時間
は五分二十六秒なり（簡單微動計六十倍の観測）

附記

此地震は未だ震源詳ならざれども畿内附近に發したる微震な
るべし

一八〇

十一月十五日午前四時四十四分卅九秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大
振幅は午前四時四十六分二十六秒に於て十二「ミクロン」
振動期四秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は六
分五十三秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は上總の國に發したるものにして震域長半徑四十五里

附記

此地震は上總沖に發したるものにして震域頗る廣く北方は本州の北部に南方は八丈島邊に西方は丹後の宮津附近に達し長半徑九十里短半徑七十五里を有し有感覺微震部は二萬二千二百六方里に亘り微動は九州西部に達したり

一七三 十一月十二日午前八時十六分五十八秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前八時
十八分三十七秒に於て三十五「ミクロン」振動期三秒二南
北動は午前八時十八分三十四秒に於て七十「ミクロン」振
動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西
動は十一分四十三秒南北動は十二分十五秒なり

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして震域北方は陸前の石巻附に北西方は加賀の金澤邊に達し長半徑六十五里短半徑五十里を有し有感覺微震部は一萬二百十方里に達し横濱にては強震を感じたり

一七四 十一月十二日午後二時十五分十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分五十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後
二時十七分九秒に於て七十二「ミクロン」振動期四秒三、
南北動は午後二時十六分五十九秒に於て八十五「ミクロ

ン」振動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間
は東西動は十分二十秒南北動は十分十二秒なり

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして震域北方は羽後の秋田邊に南方は八丈島に西方は伊勢の津附近に達し長半徑六十五里短半徑六十里を有し有感覺微震部は一萬二千二百五十二方里に達し布良にては強震を感じたり

一七五 十一月十三日午後十時五十八分五十五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十九秒にして主要動となり最大振幅は午後十一時一
分十八秒に於て三十八「ミクロン」振動期五秒七を現し後
微となり靜止せり全振動時間は十一分五十五秒なり(南
北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は磐城沖に發したるものにして震域北方は陸中の宮古附近に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津邊に達し長半徑四十五里短半徑三十五里を有し有感覺微震部は四千九百四十八方里に達し福島、水戸、筑波にては微震を感じたり

一七六 十一月十三日午後十一時十分五十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分四十五秒にして主要動となり最大振幅は午後十一時十
三分二十九秒に於て七十二「ミクロン」振動期五秒四を現し

一六八 十一月五日午後十一時廿八分四十九秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は午後十一時三十分零秒に於て七「ミクロン」振動期一秒四を現し全振動時間は八分十七秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は備後洋に發したるものにして伊豫の四阪島にては強震を感じ別子、新居濱、吳、高知等にては弱震を感じ多度津にては微震を感じたり

一六九 十一月七日午後二時二分三十八秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は午後二時四分二十八秒に於て二十二「ミクロン」振動期四秒七を現し全振動時間は七分五十五秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は廣島附近に發したるものにして吳にては弱震を感じ廣島にては性質急なる微震を感じたり

一七〇 十一月九日午前五時五十六分四十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分二十九秒にして主要動となり最大振幅は午前五時一分三十九秒に於て二十二「ミクロン」振動期四秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は二十分三十二秒なり（南

北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならず

一七一 十一月九日午後九時二十八分五十三秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五秒にして主要動となり最大振幅は午後九時二十九分六秒に於て四「ミクロン」振動期零秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は三分五十七秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は江濃地方に發したるものにして岐阜及彦根にては性質急なる微震を感じたり

一七二 十一月十二日午前三時二十二分卅七秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前三時二十四分三十秒に於て二百二「ミクロン」振動期三秒八南北動は午前三時二十四分四十秒に於て三百八十五「ミクロン」振動期四秒三を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は十九分零秒南北動は二十分三十二秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分三十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前
十一時八分二十三秒に於て五十二「ミクロン」振動期八秒
二南北動は午前十一時七分五十二秒に於て四十七「ミク
ロン」振動期五秒〇を現し後微となり静止せり全振動時
間は東西動は二十三分三十五秒南北動は二十四分二十六
秒なり

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして震域北方は青森附近
に南西方は遠州濱松邊に達し微動は遠く支那上海「ジカウエ
」に達したり

一六五 十一月四日午後零時十三分四十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五十三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後
零時十七分十三秒に於て三百十二「ミクロン」振動期七秒
七、南北動は午後零時十六分三十秒に於て三百六十五
「ミクロン」振動期五秒八を現し後微となり静止せり全振
動時間は東西動は一時十二分五十四秒南北動は一時十五
分四十八秒なり

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして震域北方は北海道の
南部に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津邊に達し長半徑百

三十里短半徑百五里を有し有感覺微震部は四萬二千、百八十
三方里に亘り微動は遠く支那上海及臺灣等に達したり

一六六 十一月四日午後五時十分五十三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分三十秒にして主要動となり最大振幅は午後五時十二分
三十四秒に於て十一「ミクロン」振動期五秒六を現し後微
となり静止せり全振動時間は十分三十一秒なり（南北動
微動計百二十倍の觀測）

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして福島、秋田、水戸等に
ては人身に感覺なきも地震計に感じ微動は畿内附近に達したり

一六七 十一月五日午前十一時五十分一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分四十七秒にして主要動となり最大振幅は午前十一時五
十二分五十三秒に於て十二「ミクロン」振動期四秒三を現
し後微となり静止せり全振動時間は十二分十八秒なり
（南北動微動計百二十倍の觀測）

附記

此地震は磐城沖に發したるものにして震域北方は羽後の秋田
附近に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津邊に達し水戸にて
は微震を感じ微動は畿内附近に達したり

方、柏原に強風吹けり●二十五日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る●二十六日前日來の雨午前歇み枚方に強風吹けり●二十七日概ね晴天天王に霜あり●二十八日概ね晴天大阪、池田、田原に霜、深日、岸和田、大阪に強風吹けり●二十九日概ね晴天妙見山、天王に雪降り深日、岸和田、大阪、枚方、長野に強風吹けり●三十日概ね晴天長野に霰降り大阪、池田、茨木に霜あり

大阪地震観測概況

爰に記する所のものは主として大森式地動計（東西及南北動）を以て観測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の器械にて観測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し

Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Iは長波即ち主要部全上、Mは主要部の最大動、Oは終期の最大動、Fは振動の終了又（）は南北動にありては北、東西動にありては東、（一）は南北動にありては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」（毫の千分一）を以て記す

本月は一日に三陸沖に強震あり爾後餘震頻發し爲めに其數著しく増加し總數三十五回に達せり而して人身に感覺ありたるものは一回もなかりしか人身に感覺なく普通地震計に感じたるものは一日午後四時二十五分四十秒三陸

沖に發したる強震一回なり無感覺地震にして地動計又は微動計に感じ其震源本邦内にありたるものは三十一回即ち三陸沖十回、盤城沖四回、上総沖、浦賀水道各三回、金華山沖、房總沖、常陸國、上總、越後國佐沼郡、江濃地方、琵琶湖附近、備後洋、岡山附近、廣島附近、臺灣附近各一回にして震源未詳二回なり又遠距離地震は一回にして未だ震源詳ならず今其觀測概況を列記すれば左の如し
一五六 十一月一日午後四時二十五分四十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五十秒にして主要動に移り振幅著しく増大し東西動は
描針圓筒外に逸出し最大震幅を知る能はざりしが之れを
推測するに午後四時二十八分零秒に於て三千三百「ミク
ロン」以上振動期二十六秒四に達したるもの、如し又南
北動は午後四時二十八分五秒に於て三千二百三十「ミク
ロン」振動期二十四秒〇を現はし後漸次振幅縮小し終期
に入りしが續震ありたるため全振動時間を測ること能は
ざりし

附記

此地震は三陸沖に發したるものにして震域頗る廣く北方は北
海道に南方は八丈島に南西方は畿内附近に達し長半徑百六十

全	三	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿
月	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
二五七	九、五〇四六	八三、八	八五〇	九、八六四	六、〇七、八	七、九													

管内天氣摘要

●一日概ね晴天 ●二日概ね曇天所々に雨降り ●三日概ね晴天堺、大阪、新庄、田原、八尾に濃霧天王に霜あり ●四日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る ●五日前日來の雨未明歇み後概ね曇天 ●六日晴曇相半す ●七日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る ●八日前日來の雨未明歇みしか午後に至り復々雨降り翌日に亘る ●九日前日來の雨断續して夜に入り歇む妙見山、天王に濃霧あり ●十日晴曇相半し長野に強風吹けり ●十一日晴曇相半し北部に霜あり午後に至り一般に雨降り長野に強風吹けり ●十二日

概ね晴天大阪、天王に強風吹けり ●十三日概ね晴天所々に霜あり ●十四日概ね晴天田原、富田林に霜あり ●十五

日概ね晴天田原に霜あり ●十六日概ね晴天東郷に霜あり ●十七日概ね晴天富田林に霜、大阪に強風吹き所々に雨降り ●十八日概ね晴天大阪に強風吹き東郷に雨降り ●十九日概ね晴天大阪、枚方に強風吹き所々に霜あり ●廿日概ね晴天新庄、東郷、天王、富田林に霜あり ●二十一日概ね晴天大阪、枚方に強風吹き所々に霜あり ●二十二日概ね晴天所々に霜あり ●二十三日概ね晴天枚方に強風吹き池田、田原、富田林に霜あり ●二十四日概ね晴天枚

第四表 管内降水日量

十一月	深井	岸和	寺長承	濱寺	堺	天王	大阪	福島	新庄	池田	妙見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柳原	富田	長野
一			0.2				0.0	0.0	0.1			0.0				0.0					
二							0.0														
三							0.0														
四							0.0														
五							0.0														
六							0.0														
七							0.0														
八							0.0														
九							0.0														
十							0.0														
十一							0.0														
十二							0.0														
十三							0.0														
十四							0.0														
十五							0.0														
十六							0.0														
十七							0.0														
十八							0.0														
十九							0.0														
二十							0.0														
廿一							0.0														
廿二							0.0														

りき而して降水量は一般に少く北部天王の如きは半年の半に達せざりき之れを要するに本月の氣候は上旬は温暖にして降雨多かりしも中旬以後は天氣好晴にして稍々順當の裡に經過せり更に氣温、降水量等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は南部深日の十四度三より北部妙見

山の八度三の間にありて之れを平年に比すれば一度乃至二度の高温なり而して最高は概ね三日及五日に現はれ西部枚方の二十四度九を高極とし其他は二十四度四より二十一度六の間を示し北部の山間は二十度〇より十六度六に止まれり又最低は二十日より二十三日の間に現はれ北部妙見山の零下一度六を低極とし天王の零下一度〇田原の零下零度六之れに亞き其他は一帶に零度以上にして山間部より平坦部地方

は零度六より二度七大阪市附近より沿海部は三度より四度六を示せり要するに本月の氣温は最高二十四度九より最低零下一度六の間にありて其較差は二十六度五に達せり

降 水 總量は南部深日の百二十五耗七より北部

天王の六十九耗八の間にありて之れを平年に比すれば一般に少なく過半は半年の三分ノ二に達せず特に天王は半年の半より遙かに少なかりき而して日量の最多は二十五日の降雨の際にありて南部深日の六十五耗〇を最多とし全上之郷の四十四耗〇之れに亞けり又日量の三十耗以上なりしは岸和田、長承寺、濱寺、天王寺、池田、茨木の六ヶ所にして其他は二十九耗二より二十一耗二の間にあり

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲印は高又(トセ)

十七日	一三八	一四二	一四六	一五三	一六八	七・七	朝霧あり、午前六時二十四分より六時三十三分迄紅霧現る、午前六時七分より六時五十七分迄及午後三時三十八分より五時十五分迄小雨繼續す、午前十時朝霧あり、午後五時強風吹けり、夜薄霧あり
十八日	二一九	一四三	一四九	一五六	一六九	七・七	朝霧あり、午後五時乃至六時強風吹けり、夜薄霧あり
十九日	八七	三六	三九	一五三	一六八	〇・九	朝霧あり、午前十一時より午後五時迄強風吹けり、夜薄霧あり
二十日	八三	二六	三〇	一四二	一五八	〇・三	朝霧あり、午前七時二十分より九時二十分迄霧あり、午前七時朝霧を深し、夜薄霧あり
廿一日	七八	二〇	二四	一三八	一五三	二・七	朝霧及微霜あり、之れを本冬季の初霜とす、平年より十一日遅く、昨年より二日早し、夜霧あり
廿二日	七七	一〇	一四	一五九	一六八	二・五	朝霧及微霜あり、夜薄霧あり
廿三日	八五	一〇	一八	一三一	一五六	〇・九	朝霧あり、夜薄霧あり
廿四日	二六	三三	三五	一五三	一五六	七・五	午前十一時二十四分より十一時四十八分迄及午後零時五十四分より一時十二分迄日暈現る、午後七時四十分より九時三十五分迄月暈現る
廿五日	二〇	一三	一五	一五〇	一五五	二・一	午前二時五十四分より三時三十八分まで月暈現る、午後一時十五分より一時五十分まで及全七時五十分より小雨翌日に降る
廿六日	一五	一五	一七	一四七	一五三	五・八	前日來の小雨午前四時十分歇む、夜薄霧あり
廿七日	一七	一三	一四	一五三	一五六	三・八	朝霧あり、午前七時三十三分より全九時四十分まで薄霧あり、夜薄霧あり
廿八日	一〇	一三	一四	一五三	一五六	三・八	朝霧あり、午後一時及全三時乃至五時強風吹けり
廿九日	七	一〇	一三	一五三	一五六	三・二	午前零時乃至二時及全五時乃至七時強風吹けり
三十日	六八	一〇	一三	一五〇	一五三	一・五	朝霧あり、夜微霜あり
十一月	一七	一三	一七	一五三	一五三	四・七	

大阪府管内氣象概況

前既に述べたるが如く本月は北乃至西の季節風増勢し寒氣漸く加はりしも比較的好晴の天氣多く降水量は前月に比すれば稍々減少するを常とす而して本年十一月の氣候を調査するに上旬は温暖にして氣温は一般に月中の最高を現はせしが中旬に入りては稍々冷氣となり十一日より

十三日に亘りては山岳に接近したる地方より大阪市の北部に初霜を認め越えて二十一日には和泉の南海岸を除くの外全管内に亘りて結霜せり之れを平年に比すれば稍々遅かりしも昨年より早く爾後日を逐ふに従ひ寒氣増進し來りて氣候順に復し二十九日には北部の山間に初雪翌三十日には東部長野に初霰ありて平年及昨年に略ぼ等しか

三十日	七六八、四	七六六、▲	〇〇二	二二一、	四一、	九〇、	四、九	五五、	三二、	三九、	七四、	西北西	北北西	三、三	六二、▲	三、五	一	二六、
全月	七七一、五	三三〇、▲	〇〇七、	一七九、	八八、	九一、	八、四	七五、	六〇、	三八、	一四九、	北	北	四八、	一六四、▲	五、一	七九、五	七六、五

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二一

十一月 地中溫度(平均) 最低 諸現象の摘要

日	地中溫度(平均)	最低	諸現象の摘要
一	二二、一	二、三	朝露あり
二	二二、九	七、一	午後四時五十六分より五時十八分迄及六時五十八分より七時二十分迄微雨
三	二二、八	六、四	朝露多し、午前五時十分より全十時三十二分迄薄あり午前六時前後は最も甚し夜露あり
四	二四、五	六、九	朝露あり、午前八時七分より小雨斷續して翌曉に亘る
五	二七、六	九、七	前日來の小雨斷續して午前八時十五分歇む
六	三三、八	八、八	朝露あり
七	三二、四	七、四	午後四時五分より小雨翌曉に亘る
八	二五、六	二、三	前日來の雨斷續して翌曉に亘る
九	二六、〇	一、五	前日來の雨斷續して午後八時四十五分歇む
十	一五、〇	五、〇	夜露あり
十一	一五、三	六、一	朝露あり、午後五時二十五分より小雨翌曉に亘る
十二	三五、〇	四、九	前日來の雨午前一時二十分歇む、朝露あり、午前十一時より午後四時三十分迄微雨、夜露あり
十三	二〇、〇	一、四	朝露あり
十四	二〇、一	一、八	朝露あり、午前五時四十分より全八時迄薄霧あり、夜露あり
十五	一〇、五	三、八	朝露あり
十六	一一、四	二、四	朝露あり、午後五時四十分より十時十分迄薄霧あり、夜露あり

二十糎にありては午後八時乃至九時、同三十糎にありては午前一時乃至二時に生じ、最低は地皮にありては午前六時、地中十糎にありては午前八時乃至九時、同二十糎にありては午前十時乃至十一時、同三十糎にありては午後三時に生じり、之れに依りて地皮より地中に熱の傳達する梗概を知るを得べし

度五六高く、月中の最低は二十一日午前七時頃に於て零下一度七を示せり、而して零下に降りたる日数は四日にして平年より一日多し

天氣日數 快晴は五日にして平年より一日少く、曇天は六日にして平年に等しく、霜は三日にして平年より一日少し

尙詳細は左に掲ぐる氣象觀測成績表を参照すべし

第一表 大阪毎時氣象觀測成績表

十一月		氣壓		氣温		水蒸氣		濕度		飽差		風速度		雲量		日照		降水量		地中溫度			
前	午	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	時數	毫米	十糎	二十糎	三十糎	六十糎		
九時	一時	七六〇	七六〇	三二	三二	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	六六	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
八時	二時	七六〇	七六〇	二	二	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
七時	三時	七六〇	七六〇	一	一	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
六時	四時	七六〇	七六〇	九	九	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
五時	五時	七六〇	七六〇	一〇	一〇	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
四時	六時	七六〇	七六〇	一〇	一〇	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
三時	七時	七六〇	七六〇	一〇	一〇	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
二時	八時	七六〇	七六〇	一〇	一〇	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三
一時	九時	七六〇	七六〇	一〇	一〇	八	八	七四〇	七四〇	二九四	二九四	三	三	五	五	七〇	〇	二七	二七	一四	一四	七三	七三

八耗三を示せり、又蒸發總量は七十六耗五にして平年に比すれば一耗二多く一日中の最多量は二十八日の五耗二なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は十一度七四にして平年に比すれば零度一四低く、月中の最高は五日午後一時に於て二十六度一を示し、最低は二十一日午前七時及三十日夜半に於て三度〇を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後一時にありて十八度一四、最低は午前六時にありて八度五三を示し其較差は九度六一なり

地中十糶の溫度 平均は十三度九〇にして平年に比すれば零度六四高く、月中の最高は五日午後五時に於て十九度一を示し、最低は三十日午前九時に於て九度四を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後五時にありて十四度八四、最低は午前八時乃至九時にありて十三度〇三を示し其較差は一度八一なり

地中二十糶の溫度 平均は十四度七〇にして平年に比すれば零度七〇高く、月中の最高は五日午後八時

に於て十八度一を示し、最低は三十日午前十時乃至午後二時に於て十一度三を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後八時乃至九時にありて十四度九一、最低は午前十時乃至十一時にありて十四度四二を示し其較差は零度四九なり

地中三十糶の溫度 平均は十五度六四にして平年に比すれば零度八六高く、月中の最高は一日午前一時に於て十八度四を示し、最低は三十日午後二時乃至四時に於て十二度七を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午前一時乃至二時にありて十五度八五、最低は午後三時にありて十五度四八を示し其較差は零度三七なり

地中六十糶の溫度 平均は十七度二六にして平年に比すれば零度八五高く、月中の最高は一日午前一時乃至八時に於て十九度七を示し最低は三十日午後二時乃至夜半に於て十五度〇を示せり、但し此深さにありては殆んど一日中の變化を認め難し

以上列記する地中溫度を通觀するに最高は地皮にありては午後一時、地中十糶にありては午後五時、同

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

八耗四四にして平年に比すれば零耗四八高く、月中の最高は五日午後一時に於て十五耗一を示し、最低は廿九日午前二時及三時に於て三耗八を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後六時にありて八耗七七、最低は午前六時にありて八耗一八を示し其較差は零耗五九なり

濕度の平均は七十五、〇にして平年に比すれば〇、八多く、月中の最少は十九日午後二時乃至三時に於て四十を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前六時にありて八十七、六、最少は午後二時にありて五十六、六を示し其較差は三十一、〇なり

飽差の平均は毎立方米中三五〇〇にして平年に比すれば零瓦〇三少く、月中の最多は十六日午後三時に於て十九瓦六を示し、最少は三日午前七時に於て零瓦〇を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午後二時にありて六瓦三四、最少は午前六時にありて一瓦一二を示し其較差は五瓦二二なり

風

平均速度は毎秒三米七七にして平年に比すれば

零米四〇弱く、月中の最大速度は十二日午後一時乃至二時の間にありて毎秒速度十四米九（一間平方面を垂直に壓する力は二十三貫五百目に當る）の北風なり、又強風以上の吹きたる日数は七日にして平年より二日、其時数は二十六時にして平年より二十二時孰れも少し、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後二時乃至五時にありて五米二七、最小は午前三時にありて二米七〇を示し其較差は二米五七なり、風向は北及北東風最も多く南風は少し、之れを平年に比すれば北風は多く東及西の風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は四、八にして平年に等しく、日照時數は百六十四時〇五にして平年に比すれば五時〇七多く一日中日照時間の最も長かりしは十三日の九時一〇なり

降水及蒸發量

降水日數は九日にして平年に等しく、其水量は七十九耗五にして平年に比すれば十四

耗五多く一日中の最多量は八日に於て二十耗五、一時間の最多量は二十五日午後十時乃至十一時に於て

大阪測候所月報

大正四年
十一月 大阪氣象概況

氣候の寒冷となるに従ひ大陸亦た冷却し太氣濃密となるが故に氣壓增高して高壓部となるに至れり、而して本月は大陸に高氣壓ありて北海道の東方に低氣壓あるが故に北乃至西の風吹き寒氣増進し結霜は殆んど全管内に亘り攝津北部及河内東部の山間部地方には往々雪霰を降らし結氷することあり、然り而して本年十一月の氣候を調査するに氣溫は平年より高くして日照時數多く降水日數は平年に等しきも其水量は稍々多し而して強風以上の風は少し、今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百六十七耗五四にして平年に比

すれば一耗二二高く、日々の變化は氣象圖に示す如く顯著なる昇降は四回にして其他は微なり、而して月中の最高は二十一日午前九時及二十三日午前十時に於て七百七十五耗五を示し、最低は十七日午後

氣 溫 平均は十二度九六にして平年に比すれば

三時に於て七百五十九耗五を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに第一の最高は午前九時にありて七百六十八耗三三、第一の最低は午後二時にありて七百六十六耗六七を示し、第二の最高は午後九時にありて七百六十七耗八七、第二の最低は午前四時にありて七百六十七耗四一を示せり而して主なる最高最低の較差は一耗六六なり

容度七三高く、平均氣溫日々の變化は氣象圖に示すが如く一日十三日及廿日より廿二日に至る三日間を除くの外は皆平年より高く特に下旬を甚だしとす而して月中の最高は五日午後三時頃に於て二十四度二を示し、最低は二十二日午前六時頃に於て二度九を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後二時にありて十七度三〇、最低は午前六時にありて九度八六を示し其較差は七度四四なり

例言

一 本報は當測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者す但し日々の觀測は當測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一 氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は乾(曲尺三厘三毛)を以て示す

一 溫度は凡て攝氏の度を用ひ零度以下の度には()を附記す、但し攝氏を華氏に改算せんには九を乘じ五にて除し三十二度を加ふべし

一 最高溫度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものは之れを前日に繰上げて記入せり

一 飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(グラム)二七にて示す

一 濕度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す

一 降水量は乾を以て其深さを測り之を記す、但し一乾は一歩面に水量一升八合三勺を散布したるに相當す

一 雲量は十分率を以て示す

一 風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり

一 風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かざるもの、一は軟風にして人をなして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一 風向は北北東東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す

一 天氣日數中雨とは雨聲響電の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

大阪府管内氣象觀測所位置

觀測所	國	郡市	町	村	緯度	經度	觀測主任
深日	和泉	泉南郡	深日	村	三五度〇九分	三四度一九分	上出源助
岸和田	國泉	南郡	岸和田	町	三五度一八分	三四度二三分	馬場留藏
長承寺	國泉	北郡	長承寺	村	三五度二三分	三四度二七分	森内清次
瀨寺	國泉	北郡	瀨寺	村	三五度二七分	三四度三二分	前川由太郎
天王寺	國泉	南區	天王寺	町	三五度二九分	三四度三五分	今井富次
大坂	國泉	西區	大坂	町	三五度二九分	三四度三九分	吉村正輔
福島	國泉	北區	福島	町	三五度二九分	三四度三九分	加藤昭純
新庄	國泉	成郡	新庄	村	三五度三一分	三四度四五分	笠谷正三郎
池田	國泉	能郡	池田	町	三五度二六分	三四度五〇分	笹部利作
妙見	國泉	能郡	妙見	村	三五度二八分	三四度五六分	阪部文二郎
東郷	國泉	能郡	東郷	村	三五度二九分	三四度五七分	大原仁之助
天	國泉	能郡	天	村	三五度二三分	三五度〇二分	高橋政次郎
茨木	國泉	三島郡	茨木	町	三五度三四分	三四度四九分	山本義一
清水	國泉	三島郡	清水	村	三五度三六分	三四度五三分	東尾重藏
枚方	國泉	北河內郡	枚方	町	三五度三九分	三四度四九分	家村八五郎
田原	國泉	北河內郡	田原	村	三五度四二分	三四度四三分	水谷芳松
八尾	國泉	中河內郡	八尾	町	三五度三六分	三四度三八分	畿内農事試驗支場
柏原	國泉	南河內郡	柏原	村	三五度三七分	三四度三五分	塔本幸太郎
富田	國泉	南河內郡	富田	町	三五度三七分	三四度三〇分	松本道水
長野	國泉	南河內郡	長野	町	三五度三五分	三四度二七分	

Monthly Report

of The

Osaka Meteorological Observatory.

November

1915

大阪測候所月報

大正四年十一月

第拾六年第十一號

目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 十一月大阪府管内氣象概況
- 十一月大阪地震觀測概況
- 大正四年度冬季期間の氣象概況
- 十一月中の暴風概況
- 廣區域に亘りたる初雪
- 南洋「カロリン」群嶋の大震
- 大阪市の燐煙
- 淀川の水位
- 地方天氣報暴風警報編否

於て十度二を示せり、但し此深さにありては殆んど一日中の變化を認め難し

以上列記する地中溫度を通過するに最高は地皮にありては午後一時、地中十糎にありては午後五時、同二十糎にありては午後九時、同二十糎にありては午前二時に生し、最低は地皮にありては午前七時、地中十糎にありては午前九時、同二十糎にありては午前十時乃至十一時、同三十糎にありては午後三時乃至四時に生せり、之れに依りて地皮より地中に熱の

傳達する梗概を知るを得べし

最低地温 平均は零下一度二五にして平年に比すれば零度六一低く、月中の最低は十九日午前六時に於て零下五度九を示せり、而して零下に降りし日數は二十一日にして平年に比すれば一日多し

天氣日數

快晴は五日にして平年より一日曇天は一日にして平年より三日孰れも少く、霧は一日、霜は十四日にして孰れも平年に等し

尙詳細は左に掲ぐる氣象觀測成績表を参照すべし

第一表 大阪毎時氣象觀測成績表

十二月		平氣	平均氣	水蒸氣	平均濕	平均差	平均風	平均雲	日照	降水量	地皮	地中	溫度	(平均)
前	午	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	時數	量	十糎	二十糎	三十糎	六十糎
九時	一時	七六、四	四、九	五、三	八、五	一、三	三、六	五、九	—	〇、〇	二、四	七、八	八、七	一〇、〇
八時	二時	七五、三	四、六	五、四	八、五	一、三	四、〇	三、九	—	〇、八	二、八	七、六	八、九	一〇、五
七時	三時	七五、元	四、六	五、五	八、五	一、九	三、九	三、八	—	—	二、九	七、七	八、〇	一〇、〇
六時	四時	七五、二	四、五	五、六	八、五	一、八	四、〇	三、六	—	〇、一	二、七	七、六	八、八	一〇、〇
五時	五時	七五、六	四、六	五、三	八、三	一、五	四、〇	三、六	—	〇、六	二、九	七、五	八、七	一〇、〇
四時	六時	七五、七	四、三	五、三	八、〇	一、〇	三、七	三、五	—	〇、三	二、七	七、三	八、七	一〇、〇
三時	七時	七五、七	四、三	五、三	八、〇	一、〇	三、七	三、五	—	〇、三	二、七	七、三	八、七	一〇、〇
二時	八時	七六、三	四、六	五、三	八、七	一、三	四、三	四、八	—	一、四	二、九	七、〇	八、八	一〇、〇
一時	九時	七六、四	四、三	五、五	八、一	一、八	四、七	五、八	—	一、五	四、四	六、九	八、五	一〇、五

かりしは二十三日の八時四〇なり

降水及蒸發量

降水日数は七日にして平年に等しく

其水量は二十八耗一にして平年に比すれば二十六耗七少く一日中の最多量は二十一日の十九耗五、一時間中の最多量は同日午後五時乃至六時の五耗五なり、又蒸發總量は六十三耗四にして平年に比すれば二耗六少く一日中の最多量は十四日の五耗九なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は五度三四

にして平年に比すれば零度八六低く、月中の最高は一日午後二時に於て十四度七を示し、最低は十九日午前七時に於て零下一度三を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後一時にありて十一度七五最低は午前七時にありて二度二七を示し其較差は九度四八なり

地中十糶の溫度 平均は七度八五にして平年に比すれば零度〇二高く、月中の最高は四日午後三時乃至

四時に於て十度九を示し、最低は十九日午前八時乃至九時に於て四度五を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後五時にありて八度七

六最低は午前九時にありて六度九九を示し其較差は一度七七なり

地中二十糶の溫度 平均は八度七七にして平年に比すれば零度〇二高く、月中の最高は一日午前一時に於て十一度五を示し、最低は二十四日午前十時乃至午後二時に於て六度六を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後九時にありて九度〇一最低は午前十時乃至十一時にありて八度四九を示し其較差は零度五二なり

地中三十糶の溫度 平均は九度八八にして平年に比すれば零度三六高く、月中の最高は一日午前一時に於て十三度〇を示し、最低は二十四日午後三時乃至四時に於て七度九を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午前二時にありて十度〇五最低は午後三時乃至四時にありて九度七五を示し其較差は零度二〇なり

地中六十糶の溫度 平均は十二度〇二にして平年に比すれば零度四一高く、月中の最高は一日午前一時乃至四時に於て十五度〇を示し最低は三十日正午に

一日中の變化を見るに最高は午後二時にありて十一度六〇最低は午前七時にありて四度二〇を示し其較差は七度四〇なり

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

五耗五一にして半年に比すれば零耗一四高く、月中の最高は九日午後七時及廿五日午後六時に於て八耗四を示し、最低は十八日午後十一時に於て二耗八を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後六時にありて五耗八三最低は午前六時にありて五耗二〇を示し其較差は零耗六三なり

濕度の平均は七十二、九にして半年に比すれば一、七多く、月中の最少は十四日午前十一時に於て四十を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最多は午前七時にありて八十四、五最少は午後二時にありて五十五、〇を示し其較差は二十九、五なり

飽差の平均は毎立方厘米中二瓦三〇にして半年に比すれば零瓦〇七少く、月中の最多は三十一日午後二時に於て七瓦八を示し、最少は二十六日午前六時乃至

八時に於て零瓦一を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最多は午後二時にありて四瓦六六、最少は午前七時にありて一瓦〇四を示し其較差は三瓦六二なり

風

平均速度は毎秒四米六三にして半年に比すれば零米八〇弱く、月中の最大速度は十八日午前四時乃至五時の間にありて毎秒速度二十米一（一間平方面を垂直に壓する力は四十二貫七百目なり）の西風なり、又強風以上の吹きたる日數は十三日にして平年より四日、其時數は百十一時にして平年より二十五時孰れも少し、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最大は午後三時乃至四時にありて六米一一、最小は午前一時にありて三米七六を示し其較差は二米三五なり、風向は北東風最も多く北風之れに亞き南風は最も少し、之れを平年に比すれば北及北東風は多くして西風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は四、六にして平年に略ほ等しく、日照時數は百五十時五〇にして平年に比すれば一時三九少く一日中日照時間の最も長

大阪測候所月報

大正四年
十二月
大阪氣象概況

冬期亞細亞大陸の冷却するに従ひ氣壓增高し支那北部に宏大なる高氣壓を生ずると同時に北太平洋の北部なる北海道の東方に低壓部を生じ氣壓は西より東に漸次急減するを以て北乃至西風優勢となり寒氣を吹送せるを以て氣候は此風に支配せられ氣溫著しく降り寒氣増進し雪霰を降らし霜又は結氷を觀るに至る、然れども此大陸性の風は乾燥せるか故に天氣は概して晴燥寡雨なるを常とす、然り而して本年十二月の氣候を調査するに氣溫は平年より高く、日照時數は平年より少く、降水日數は平年に等しきも其水量は平年より少し

今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百六十五耗四七にして平年に比す

れば零耗六八低く日々の變化は氣象圖に示すが如く顯著なる昇降は約五回にして其他は微なりき、而し

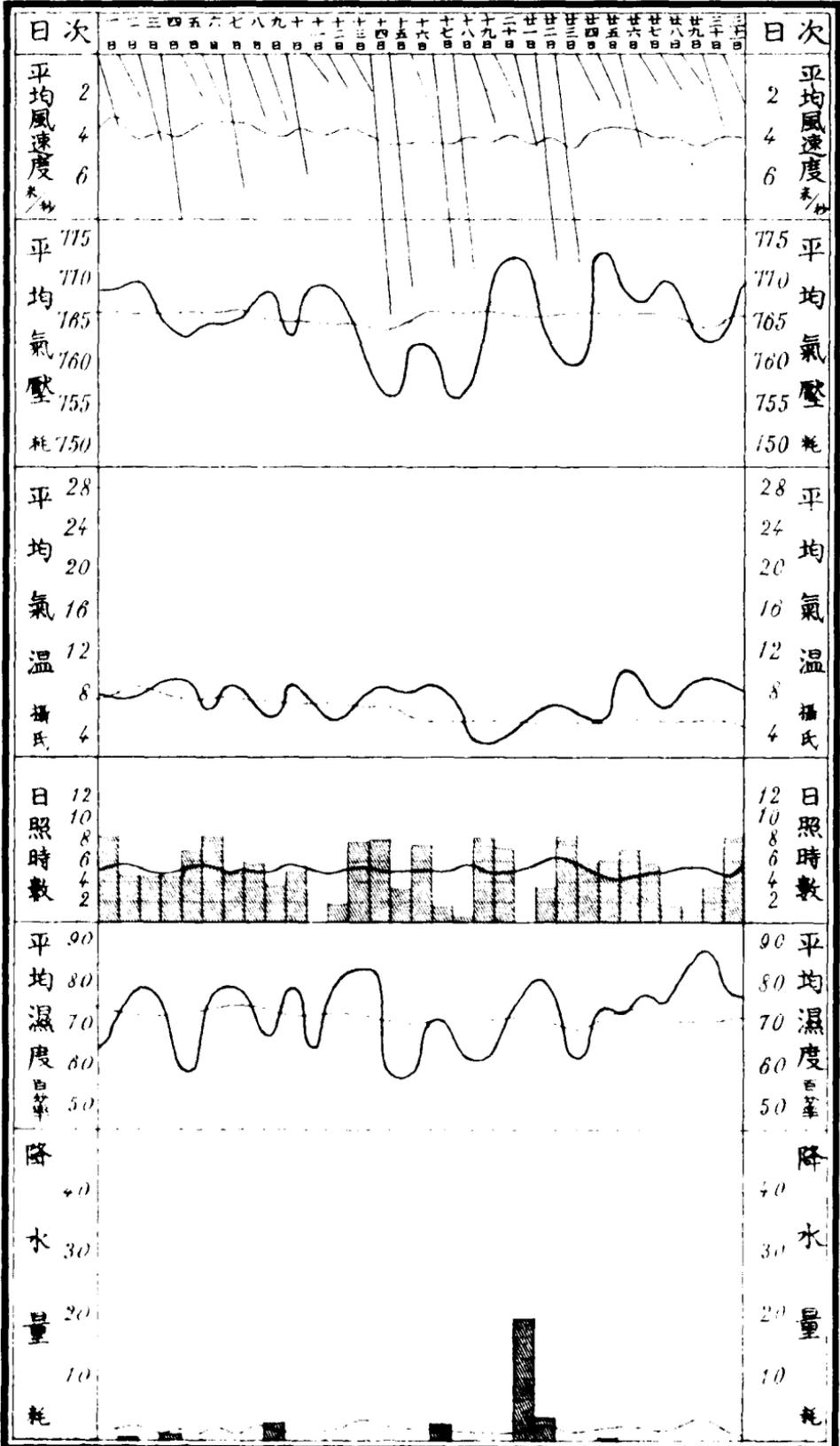
概況

て月中の最高は二十四日午前九時乃至十時に於て七百七十四耗八を示し、最低は十四日午前六時に於て七百五十二耗三を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに第一の最高は午前九時乃至十時にありて七百六十六耗四二、第一の最低は午後三時にありて七百六十四耗五五を示し、第二の最高は午後十時にありて七百六十五耗七二、第二の最低は午前四時にありて七百六十五耗二五を示せり、而して其主なる最高最低の較差は一耗八七なり

氣 溫 平均は七度二二にして平年に比すれば零度

一九高く、平均氣溫日々の變化は氣象圖に示すが如く上旬は高低相半せるか中旬以後は概ね高度を保てり、而して月中の最高は廿五日午後二時頃に於て十七度三を示し、最低は十九日午前七時頃に於て零下零度三を示せり、又最低氣溫の零度以下に降りし日數は二日にして平年に等し、而して月平均に就きて

本圖の日平均又ハ合計 依リテ記載ス 風速度 氣壓 氣温 湿度ハ本年——半年——日照時數ハ本年——半年——降水量ハ本年——半年——



大正四年大阪測候所月報總目次

毎月定時記事

大阪氣象概況、大阪府管内氣象概況	一	一
大阪地震觀潮概況、淀川水位	一	一
地方天氣豫報、同暴風警報、臨時豫報適不適宜	一	一
種 錄	一	一
寒中の氣象概況	一	一七
一月中の暴風概況	一	二〇
歐洲大戦と大氣豫報	一	二五
三寒四暖ノ説	一	二六
氣象發號機停止	一	二七
大正三年中の地震	二	四一
二月中の暴風概況	二	四三
鹿兒島灣の潮位増昇	二	四七
鹿兒島附近の土地低下	二	四八
月宗非幻月	二	四八
二月中の暴風概況	二	七一
大阪港に於ける荷役不可能之天候	三	七三
天師堂大阪間の大氣流行と 氣通掃拜高層氣流觀測	三	七五
春季彼岸の氣象概況	三	七五
梅雨概況	三	七七
大阪市の煤煙	三	七八
大阪港の潮汐觀測	三	七九
四月中の暴風概況	四	一〇一
日照時間に就て	四	一〇二
當所の出品	四	一〇五
五月の冷氣に就て	四	一〇六

獨國飛行船と氣象警報	四	一〇七
暴風季節	五	一三二
雨降の時間と水量を調査し 兩日間の間に及ぶ量を調査し	五	一三四
六月二十日までの雨に就て	五	一三九
六月二十五日の大雨に就て	五	一四〇
勸業加沖の大震	五	一四二
本府管内氣象觀測所の閉廢	五	一四二
六月中の暴風概況	六	一六三
本年の梅雨概況	六	一六三
山岳と氣象	六	一六五
七月十二日の雷雨に就て	六	一七三
燒鐵大噴火概況	六	一七四
四ノ宮の噴火の南方へロー大轟	六	一七四
大阪港の潮汐觀測	六	一七五
本年七月中の氣象概況	七	一九六
七月中の暴風雨概況	七	一九八
アウクシアン群島沖の大震	七	一九八
當所の出品	七	一九九
本年七月後の氣象概況	八	二二二
八月中の暴風雨概況	八	二三五
中央亞米利加の大震	八	二三九
大阪府管内の初霜季節	八	二四〇
本冬季の初霜	八	二五一
九月八日九日の暴風雨概況	九	二四九
大阪府管内の初雪季節	九	二五一
本冬季の初雪	九	二五二
本冬季の初雪	九	二五三
馬訪瀬島の鳴動と地震	九	二五三

當所の出品	四	一〇七
大阪港の潮汐觀測	五	一三二
十月中の大氣概況	五	一三四
九月下旬より十月まで 至る高温に就て	五	一三九
陸前沖の地震の調査	五	一四〇
噴火と地震	五	一四二
水雷發射と暴動	五	一四二
本年の初霜	六	一六三
本府管内の初雪	六	一六三
本年の初雪	六	一六五
大正四年推察在關西の氣象概況	六	一七三
十一月中の大氣概況	六	一七四
關西に亘る初雪	六	一七四
南洋カマロニ群島の大雪	六	一七五
大阪市の煤煙	七	一九六
大正四年推察在關西の氣象概況	七	一九八
十二月中の暴風概況	七	一九八
日歸と日陰の暴發に就て	七	一九九
南洋カマロニ群島の大雪	八	二二二
關西の氣象概況	八	二三五
小學生の測量	八	二三九
了供觀測所	八	二四〇
大阪港の潮汐觀測	八	二五一

例言

大阪府管内氣象觀測所位置

一本報は常測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者ぞす但し日々の觀測は常測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は靴(曲尺三厘毫毛)を以て示す一湿度は凡て攝氏の度を川る零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふへし

一最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものは之れを前日に繰上げて記入せり

一飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(グラム)二七)にて示す

一湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す

一降水量は靴を以て其深さを測り之を記す、但し一靴は一步面に水量一升八合三勺を撒布したるに相當す

一雲量は十分率を以て示す

一風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり

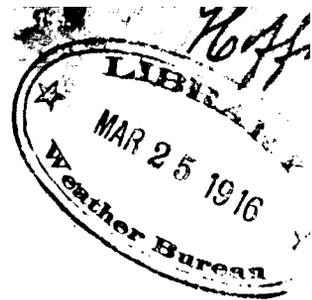
一風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かざるもの一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一風向は北北東東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す

一天氣日數中雨とは雨霽電の何たるに拘らず降水量一靴の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

八以上の日を云ふ

觀測所	國郡市	町	村	緯度	經度	觀測主任
深日	和泉國	南郡	深日村	三五度〇九分	三四度一九分	上出源助
上之郷	國泉南郡	上之郷村		三五度一八分	三四度二三分	馬場留藏
岸和田	國泉南郡	岸和田町		三五度二三分	三四度二七分	森内清次
長承寺	國泉北郡	鳳村		三五度二七分	三四度三二分	前川由太郎
濱寺	國泉北郡	高石村		三五度二六分	三四度三二分	今井富次
堺	國堺市	市車ノ町		三五度二九分	三四度三五分	吉村正輔
天王寺	大阪府	市南區	天王寺	三五度三一分	三四度三九分	加藤昭
大阪	大阪府	市西區	一條通	三五度二六分	三四度三九分	府立大阪一等測候所
福島	國大阪府	市北區	上福島	三五度二九分	三四度四二分	笠谷正三郎
新庄	國西成郡	新庄村		三五度三一分	三四度四五分	植田靈顯
池田	國豐能郡	池田町		三五度二六分	三四度五〇分	笹部利作
妙見山	國豐能郡	東郷村		三五度二八分	三四度五六分	阪部文二郎
東郷	國豐能郡	東郷村		三五度二九分	三四度五七分	大原仁之助
天	國豐能郡	根根村		三五度三三分	三四度五五分	高橋政次郎
茨木	國三島郡	茨木町		三五度三三分	三四度五五分	高橋政次郎
清	國三島郡	清水村		三五度三六分	三四度五三分	山本義一
枚方	國北河内郡	枚方町		三五度三九分	三四度四九分	家村八五郎
田原	國北河内郡	田原村		三五度四二分	三四度四三分	東尾重藏
八尾	國中河内郡	八尾町		三五度三六分	三四度三八分	水谷芳松
柏原	國中河内郡	柏原村		三五度三七分	三四度三五分	徳内農事試驗支場
富田	國南河内郡	富田町		三五度三七分	三四度三〇分	塔本幸太郎
長野	國南河内郡	長野町		三五度三五分	三四度二七分	松本達水



Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory.

December

1915

大阪測候所月報

大正四年十二月

第拾六年第十二號

目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 本年大阪地震觀測概況
- 大正四年度米作期間の氣象概況
- 十二月中の暴風概況
- 日露と日陸との海難に就て
- 南洋「カロリン」群島の火災
- 英國の氣象と航空
- 小學生と測候
- 子供測候所
- 大阪港の潮汐觀測
- 淀川の水位
- 地方天氣觀測暴風警報通否

大正五年一月二十五日印刷
全 年一月三十一日發行

府立夫阪一等測候所

(電話四八九七番)

大坂市西區江戸堀下三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

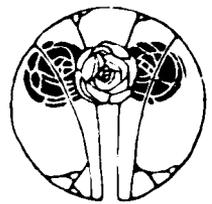
(電話土佐通三五四二番)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

暴風警報	天氣豫報	風向	風速	溫度
	天			
一	三〇	三〇	〇	一
〇	二四	二七	〇	一
一	六	三	〇	一
〇	九〇	九五	〇	五〇

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市	町村	緯度東經	北緯	取扱官衙
谷川	和泉國泉南郡	多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所
尾崎	和泉國泉南郡	尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署
佐野	和泉國泉南郡	佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡	岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺川	和泉國堺市	香妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署木津川分署
木津川	攝津國大阪府	西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
北加賀屋	攝津國東成郡	津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全木津川分署難波島水上巡查派出所
難波島	攝津國大阪府	西區中口町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全木津川分署難波島水上巡查派出所
安治川	攝津國大阪府	北區安治里通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安治川水上警察署
天保町	攝津國大阪府	西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署
大阪	攝津國大阪府	西區一條通	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等地測候所
傳法	攝津國豐能郡	東傳法村	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署
東傳法	攝津國豐能郡	東傳法村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東傳法村役場



中之島	1	1	1.19	2.13	0.81	4.04	5.80	3.99	1.14	1.67	2.77
福島	3.5	2.83	3.9	3.33	3.18	4.8	2.89	1.9	2.27	8.5	2.6
下福島	9.0	3.7	2.3	9.19	3.9	7.3	2.95	8.0	7.7	2.7	2.6

上表を通観するに各方面共非常に減少したるを知るを得 下し來るは其附近に不完全なる汽罐を有する大工場あるべし然れども大正三年九月より観測を開始したる下福島に基因するものにして當中最多區域なることしと云ふは四年度の降水量頗る多く最も近き府立工業試験場即ち 但し煤煙量は煤煙防止研究會の調査に據る福島と比較するに殆ど四倍に達せり如斯多量の煤煙降

● 淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 二尺四寸三分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 二尺零寸九分

十一月	廣瀬		大日		十一月	廣瀬		大日	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
十一日	3.40	3.5	3.5	3.5	二十一日	3.5	3.5	3.5	3.5
十日	3.0	3.9	3.0	3.5	二十日	3.5	3.5	3.5	3.5
九日	3.5	3.5	3.5	3.5	十九日	3.5	3.5	3.5	3.5
八日	3.5	3.5	3.5	3.5	十八日	3.5	3.5	3.5	3.5
七日	3.5	3.5	3.5	3.5	十七日	3.5	3.5	3.5	3.5
六日	3.5	3.5	3.5	3.5	十六日	3.5	3.5	3.5	3.5
五日	3.5	3.5	3.5	3.5	十五日	3.5	3.5	3.5	3.5
四日	3.5	3.5	3.5	3.5	十四日	3.5	3.5	3.5	3.5
三日	3.5	3.5	3.5	3.5	十三日	3.5	3.5	3.5	3.5
二日	3.5	3.5	3.5	3.5	十二日	3.5	3.5	3.5	3.5
一日	3.5	3.5	3.5	3.5	十一日	3.5	3.5	3.5	3.5

平均水位廣瀬二尺五寸六分 最高水位廣瀬四尺二寸 (九日午後六時) 大日二尺六寸 四尺零寸 (十日午前六時) 三三二

して大なる工場は多く之れを使用し居ると本府に於て各
 工場に從事する汽罐手を養成したるこの結果斯くは煤煙
 降下量に減少を告たるものならんと之れ即ち衛生思想の
 發達に伴ひたる賜にして全工場に涉りて此の方法を採ら
 ず乎全然煤煙の噴出を防ぐことは勿論製産力等の關係よ

り不可能の事ならんも煙の都たる冠詞を脱するを得べ
 らん且つ氣象上より看ても此の煤煙の減少するに於ては衛
 生上最も良好の土地と云つても敢て過言に非ざるべし左
 に各月に於ける觀測の結果を表記し市内煤煙の分布の概
 況を示さんとす

大正三年度煤煙量

築港	西九條	船場	難波	天王寺	天満	福島
十一月	二、六六	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
十二月	三、七〇	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
一月	三、七〇	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
二月	二、三三	一、七〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
三月	二、三三	一、七〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
四月	一、六九	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
五月	一、五九	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
六月	一、八二	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
七月	三、七〇	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
八月	三、九三	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
九月	三、八二	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
十月	三、八二	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
合計	三、九四	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

大正四年度煤煙量

築港	船場	難波	天王寺
十一月	一、八六	一、〇〇	一、〇〇
十二月	一、七五	一、〇〇	一、〇〇
一月	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
二月	二、〇四	一、〇〇	一、〇〇
三月	一、七三	一、〇〇	一、〇〇
四月	一、六九	一、〇〇	一、〇〇
五月	一、八二	一、〇〇	一、〇〇
六月	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
七月	一、六七	一、〇〇	一、〇〇
八月	一、三三	一、〇〇	一、〇〇
九月	一、六〇	一、〇〇	一、〇〇
十月	一、六〇	一、〇〇	一、〇〇
合計	一、九二	一、〇〇	一、〇〇

仁 川 全一〇時二九分二八秒 六〇六〇料
大 連 全一〇時三〇分二七秒 六三八〇料

又一月十三日にも同方面に地震あり其發震時は午後三時二十五分四十五秒にして續震二回あり其時刻は午後五時二十八分五秒と全七時五十八分三十七秒なり詳細は次號に記すべし

●大阪市の煤煙 技手 芝 野 弧

本市の煤煙量觀測を始めたは大正二年三月頃にして最初は一ニヶ所に過ぎざりが漸次増加せられ現今は市内七八ヶ所を有せり然れども觀測所の内或は中途より觀測を停止し又は新に觀測を始めたる所等ありて煤煙量の増減變化を詳悉すること能はざるは遺憾なりしが最初より觀測を連續せしは府立工業試驗場(福島)と府立大阪一等測候所(築港)及難波第六尋常高等小學校(難波)の三ヶ所なるを故に此三ヶ所に就き煤煙量の變化を試に調査せしに大正三年度の觀測結果は

難 波	一〇、七〇	五六、一五	六六、八五
福 島	九、四八	四一、四五	五〇、九三
築 港	五、九八	二五、九六	三一、九四
			合計

平 均 八、七二 四一、二九 四九、九一
又大正四年度の觀測結果は

難 波	六、六六	二九、〇九	三五、七五
福 島	七、五四	三四、一九	四一、七三
築 港	三、二七	一五、八四	一九、一一
平 均	五、八二	二六、三七	三二、二九
			合計

なり此の平均量に依て大阪市の面積三、七平方里に對する煤煙降下量を計算するに大正三年度は約七千五百八十噸全四年度は約四千八百九十噸にして大正三年より全四年の減少したるは二千六百九十噸に達せり斯る現象を呈したるは他に原因あらんも一は煤煙防止裝置を施したるものあるに因らずんばある可らず依て本府保安課の家人技師に其教を乞ひたるに果せる哉各工場に煤煙防止裝置を試験的に取付けたる個數百五十五大正四年六月現在に達し其外市内五百に餘る湯屋業の如きは全部内國製のこれに相當せる防止裝置を施し試験したるに未だ内國製のものは其効果顯著ならずして廢止したるもの多く爲めに現在數稍々減少したれども外國製のものは結果良好に

十五秒に於て四千八百十二「ミクロン」振動期二十六秒四 二時五十分十六秒、南北動は二時四十八分二十八秒なり
 を現し後漸次に微となり静止せり總振動時間は東西動は 即ち次表に示すが如し

東西動地動計観測 南北動地動計観測

發 現 時		最大振幅	振動期
初 期 微 動	P 二二時二八分三八秒	—	—
	S 全 三五分〇二秒	—	—
	L 全 三八分四二秒	—	—
主 要 動	M ₁ 全 四三分一二秒	一六七二	一九・七
	M ₂ 全 五一分五九秒	一二四七	二〇・二
	M ₃ 全 五九分四四秒	二八五	一六・八
終 期	F (翌日) 二時二八分五四秒	—	—

發 現 時		最大振幅	振動期
初 期 微 動	P 二二時二八分三八秒	—	—
	S 全 三五分〇二秒	—	—
	L 全 三八分四二秒	—	—
主 要 動	M ₁ 全 四二分一五秒	四八一二	二六・四
	M ₂ 全 四九分二二秒	一四七七	二一・一
	M ₃ 全 五四分一九秒	一七六二	二〇・二
終 期	F (翌日) 二時七分〇六秒	—	—

前表中第二初期微動は稍々判明を缺ける點あるが故に第一初期微動の繼續時間に依り大森博士の算式を用ひ震央地までの距離を計算するに大阪より五千二百軒となり又東京帝國大學地震學教室の観測に依り同式を以て距離を計算するに東京より五千三百七十軒更に其他の測候所にて観測したるものに據れば福岡よりは五千三百九十軒支那上海「ジカウエー」より五千六百五十軒、仁川より六千六十軒、大連より六千三百八十軒にして發震時は北西方に

到るに従ひ漸次遅延せり是等を綜合し觀察するに其震源は本州の遙南東方即ち南洋「カロリン」群島附近の海底に發したるものなるべし今各所にて地動計を以て観測したる發震時と震央地までの距離を列記すれば左の如し

東 京	大 阪	福 岡	シカウエー(支那上海)
午後一〇時二八分三六秒 五三七〇軒	全 一〇時二八分三八秒 五二〇〇軒	全 一〇時二八分四六秒 五三九〇軒	全 一〇時二九分一四秒 五六五〇軒

大阪府下の初雪

本冬季に於ける大阪の初雪は

前表に示すが如く十二月十八日にして平年より四日早く昨年より二十三日早かりし而して此の日の平均気温は三度二にして同日の累年平均より二度二低く又最高は五度六にして同日の累年平均より四度四、最低は零度にして同

日の累年平均より一度一孰れも低く翌十九日朝最低気温は零下零度七を示し同日の累年平均より一度七の低度を示せり又本府管内の初雪も概して十二月十八日において平年及昨年より早し今其初雪月日を平年及昨年に比し表記すれば左のし如し

地名	本年	平年より	昨年より	地名	本年	平年より	昨年より	地名	本年	平年より	昨年より
妙見山	十一月廿九日	早晩	ナシ	田原	十二月十八日	早五	日早六	大阪	十二月十八日	早五	日早二十六
天王	全	晚二	日晚一	八尾	全	全九	日全二十八	天王寺	全	全九	日全
東郷	十二月十八日	晚五	日全十	柏原	全	全五	日全	堺	全	全五	日全
池田	全	早晚	ナシ	富田林	全	全二	日全二十六	長承寺	全	全一	日全九
清水	全	早二	日全	長野	全	全三	日全六	岸和田	全	全五	日全二十六
茨木	全	全五	日全	新庄	全	全七	日全二十一	上之郷	全	全	日全
枚方	全	全	全	福嶋	全	全四	日全二十六	深日	全	全十六	日早二十九

南日本ノ初雪 臺灣中央山脈一帯は十二月二十九

日より寒氣頓に加はり元日の朝までに「シルビヤ」、合歡 茨萊主、能高、白狗大山等の諸峯は七合目以上白雪皚々たるを見たりと云ふ

大正五年一月一日午後十時過當所地動計は遠距離の地に

發したる大震の波動を記録せり其發震時は午後十時二十八分三十八秒にして第一初期微動の繼續時間は六分二十四秒、第二は三分四十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後十時四十三分十二秒に於て千六百七十二

●南洋「カリロン」群島の大地震

技手 圓岡平太郎

「カリロン」振動期十九秒七、南北動は午後十時四十二分

大正四年十二月十日印刷
全 年十二月十五日發行

府立大阪一等測候所

(電話四八九七番)

大阪市西區江戸橋下墨三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

(電話土佐通三三四一號)

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市町村	緯度	經度	北緯	東經	緯度	經度	緯度	經度
谷川崎	和泉國泉南郡多奈川村	百三十五度二十九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所					
尾崎	和泉國泉南郡尾崎村	百三十五度十六分	三十四度三十二分	岸和貝警察署尾崎分署					
佐野	和泉國泉南郡佐野村	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場					
岸和田	和泉國泉南郡岸和田町	百三十五度二十二分	三十四度三十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所					
堺	和泉國堺市	百三十五度二十五分	三十四度四十分	安治川水上警察署堺市巡查派出所					
木津川	攝津國大阪府西區南洲江村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全木津川分署北加賀室水上巡查派出所					
北加賀屋	攝津國大阪府西區中目町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全木津川分署難波島水上巡查派出所					
難波島	攝津國大阪府西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署					
安治川	攝津國大阪府西區一條通	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等測候所					
天保町	攝津國大阪府西區一條通	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署					
大阪	攝津國豐能郡	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東郷村役場					

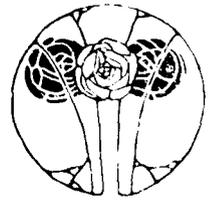
淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 三尺二寸六分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 三尺〇寸

日	十月		十一月		十二月	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
一	三、一〇	三、〇五	三、九五	三、九〇	二、五〇	二、五〇
二	三、一五	三、一〇	三、〇五	三、〇〇	二、五五	二、五五
三	三、二〇	三、一五	三、一〇	三、〇五	二、五〇	二、五〇
四	三、二五	三、二〇	三、一五	三、一〇	二、五五	二、五五
五	三、三〇	三、二五	三、二〇	三、一五	二、五〇	二、五〇
六	三、三五	三、三〇	三、二五	三、二〇	二、五五	二、五五
七	三、四〇	三、三五	三、三〇	三、二五	二、五〇	二、五〇
八	三、四五	三、四〇	三、三五	三、三〇	二、五五	二、五五
九	三、五〇	三、四五	三、四〇	三、三五	二、五〇	二、五〇
十	三、五五	三、五〇	三、四五	三、四〇	二、五五	二、五五

地方天氣豫報暴風警報適否調査

種	類	發布數			正中	偏中	不中	正中百分比例
		正	中	偏				
暴風警報	天氣豫報	三	〇	〇	〇	〇	〇	九〇
	風向	三	〇	〇	〇	〇	〇	九〇
暴風警報	溫度	三	〇	〇	〇	〇	〇	九〇
	風向	三	〇	〇	〇	〇	〇	九〇



観測所	本年	平年より	昨年より	観測所	本年	平年より	昨年より	観測所	本年	平年より	昨年より
天王	十月二十九日早晩	ナシ	晚六日	清水	十一月十一日晚	五日	日早十二日	福島	十一月十三日晚	三日	日早十日
田原	全	早一日	日早廿四日	上之郷	十一月十三日	一日	一日	新庄	十一月十九日全	九日	日全三日
牧方	全	全十五日全	廿五日	界	全	早一日	日早十日	茨木	全	全十一日全	四日
長承寺	全	全十四日全	廿四日	八尾	全	晚二日	日全十日	大阪	十一月廿一日全	全	全二日
池田	十一月十一日晚	三	日全十一日	柏原	全	全一日	日全十日	天王寺	全	全八日	日全二日
妙見山	全	全二日全	九日	富田林	全	全六日	日全十日	崇和田	十二月一日全	全十九日	晚九日
東郷	全	全十三日全	十一日	長野	全	全四日	日全十日	深日	十二月六日全	全六日	日早廿四日

●本年の初雪

本冬季の初雪は前號所報の如く十月十日樺太の敷香にありしを最早とし漸次南下し來りて

より攝津北部の天王に達せり之れ本府管内の初雪にして

全月二十八日には北海道南部の壽都より札幌を経て本州北端なる青森に達せしが十一月中旬には朝鮮北部及陸中の宮古、伊豫の別子にあり越えて二十九日には本邦中部

平年より二日昨年より一日遅かりき今各地の測候所に於て観測したる初雪月日を平年及昨年と比較すれば左の如し

地名	本年	平年より	昨年より	地名	本年	平年より	昨年より	地名	本年	平年より	昨年より
紗那	十月廿四日早	五日	日早九日	南京	十一月廿四日早	十四日早	十六日	石巻	十一月廿九日晚	七日	日晚一日
元山	十一月十一日全	四日	日全十五日	木浦	十一月廿八日晚	八日	日晚八日	福島	全	全六日	日全七日
京城	十一月十八日早晩	ナシ	全三日	高山	十一月廿九日全	十六日全	八日	伏木	全	早二日	日全一日
大連	全	晚十二日	晚十五日	松本	全	全六日	日全七日	新潟	全	晚二日	日全一日
別子	十一月十九日全	六日	日早三日	山形	全	全十三日	日全七日	長野	全	全十二日	日全七日
宮古	全	早二日	日全三日	金山	全	全一日	日全一日	金澤	十二月七日全	全六日	日全九日

地名	本年	平年より	昨年より	地名	本年	平年より	昨年より
壽都	十一月十四日	晚十一日	晚十五日	鹿兒島	十一月廿九日	晚二日	晚七日
江陵	全		全七日	佐世保	全	早一日	全六日
八木	十一月二十日	晚十六日	早三日	長崎	十一月三十日	晚七日	全五日
熊本	十一月廿一日	全十三日	晚三十日	廣島	全	全十六日	全八日
大阪	全	全十二日	早二日	横濱	全	全八日	全八日
松山	十一月廿二日	全十三日	全一日	沼津	全	晚四日	早十三日
津賀	全	全七日	全一日	横須賀	全	全一日	全十五日
敦賀	全	全三日	全七日	宮崎	全	全十日	全八日
金澤	全	全八日	全一日	高崎	全	全七日	全八日
新潟	全	晚五日	早卅八日	茅ヶケ	全	全十四日	全八日
新居	十一月廿三日	早晚ナシ	早晚ナシ	神戶	十一月一日	全四日	全八日
南	十一月廿六日	晚八日	晚廿一日	大分	全	早三日	晚八日
杭州	十一月廿九日	全九日	晚七日	銚子	十二月二日	晚十五日	全九日
嚴原	全	全十三日	全	伏木	十二月三日	全廿二日	全廿一日
漢口	十一月三十日	早六日	全九日	徳島	全	全六日	全十一日
東京	十一月廿九日	晚十九日	全七日	和歌山	十二月五日	全三日	早十四日

●本府管内の初霜 本冬季に於ける本府管内の初霜は十月二十九日北部天王、東部出原、西部枚方、南部

長承寺にありしものを最早とし天王は平年と等しきも田原は一日長承寺は十四日枚方は十五日早く越えて十一月

十一日より全十三日に亘りては山間地方より和泉北部及

大阪市北部に達し大阪港附近は全二十一日なり之れを平

年に比すれば孰れも遅かりしも昨年より早かりき即ち次表に示すが如し

表に示すが如し

原は一日長承寺は十四日枚方は十五日早く越えて十一月十一日より全十三日に亘りては山間地方より和泉北部及

の大破裂時期と目下の大破裂時期とが百三十年を距つる所以なるべく尤も大地震が本州四國等の各地に續發せる時期は大噴火時期とは一致せず却て交互するの傾向あり即ち弘化、安政年間の如き大地震活動期は今より六七十年前に當り元祿十六年寶永四年の兩大地震を發せるは安永天明の大噴火時期よりは更に七十年内外前に當るものなるの事實を述べたるとあり地震の六十年周期説も或は此より轉訛せるものならんかと思はるゝも實は目下の如き噴火時期は却て大地震の時期に非ずとの意義に歸着すべし勿論局部的地震及單獨の噴火は常時と雖も屢々發起することあり一般なる結論を成すを得ざるも兎に角大地震の單純なる六十年周期説は論據を缺くものなりとす（大阪新報）

●水雷發射と地動

今回の御即位式に就き御警衛の爲め大阪港に碇泊中の第二艦隊は十一月八日各艦乗組員の端艇競漕を築港大棧橋の南側に於て舉行し終了後水雷發射を公衆に觀覽せしめたるが其爆發の音響は恰も火藥庫又は火山の爆發の時觀測したるものと同様に當所の地震計に感したり其概況を記するに最初西方に當り強き

音響を聞くと同時に戸障子鳴り普通地震計に感じ地動計又は微動計は孰れも急なる振動を描出せり其時刻は八日午後一時四十二分四十八秒にして初期微動と認むるもの殆どなく南北動は發震より約四秒目に於て七十七ミクロン、東西動は全時刻に於て四十三ミクロンを現し振動期は孰れも約一秒を示し總振動時間は零分五十三秒に及ひたり因に記す水雷を發射したる所と當所地震計室との距離は約一千米なり此種の觀測は近距離地震の波動と比較研究をなすに頗る好資料なるを以て爰に記することとせり

●本年の初霜 本冬季の初霜は前號及前々號を以て報せし如く九月十五日滿州の長春にありし以來十一月半迄には本邦一帯即ち北海道より九州に至る山岳に接近したる地方は既に初霜を認めしか十一月二十一日大阪にあり越えて全二十九日より全三十日に亘りては東京より鹿兒島に至る海岸地方一帯にあり神戸は翌十二月一日越中の伏木は最も遅く十二月三日なり今各地の測候所に於て觀測したる初霜日を平年及昨年と比較すれば左の如し

なかつたが然し震動は頗る長かつた宮城縣石の巻附近では震動頗る強く幸に格別の震害は生じなかつたが震後全縣志津川灣では微弱なる海嘯が起つた震源距離は東京より四百四十軒なるを示し初動は南四十度西に向ひ全時に上方動を伴ふたので震源は東京より北四十度東の方百十里の距離即ち陸前志津川の正東に當り海岸から約三十里の海底にあることが解つた而して今度更に陸前沖より強震や海嘯を起したのを見れば時の分布上陸羽兩國の地震と東方三回海嘯地震と多少關係がある許りでなく是等兩震源を連絡すれば本州島孤に直角なる一線を得、即ち一個の横地震脈を指示するやうである本年四月から八月に亘つて房總半島附近から許多の地震を發生したが爾後は活動の中心を一時本州東方磐城の海底に移し十月十三日より十七日の間に十餘回の地震を起したが今回更に其の北接の區域に於て強震を見るに至つたのである因に三日の「ロイタル」電報に大地震の震動倫敦の地震計に現はれたり震源は日本内地が其附近ならんと打電し來たりしは此地震を云ふのであらう(大阪新報)

餘震 前記地震は歐洲にまで感したる程の強震なりしか故に震後餘動を發すること甚だ多かりし今大阪の地震計に感したるものを記すれば左の如し

大阪の發震時	震央地附近の震度
十一月一日 午後四時五十分三十五秒	弱 震
全 六時〇二分〇二秒	全

全	全 六時五十九分五七秒	微 震
全	二日 午前零時四三分四二秒	全
全	午後一時三〇分一八秒	全
全	三日 午後二時三十八分二一秒	全
全	四日 午前五時三〇分五〇秒	全
全	全 一一時〇六分三五秒	全
全	午後零時一三分四九秒	全
全	全 五時一〇分五三秒	全
全	五日 午前二時五〇分〇二秒	全

●噴火と地震

噴火には六十年説があれど地震には此事なしと大森博士語る

地震に六十年の周期ありとて世人が惑はさるゝこと尠からざるが曾て少しく噴火の周期を調査せる所ありしに淺間山噴火現象が盛なりし時期相互の年差若くは大島、三宅島の破裂の順次の年差は左の如く

淺間山の分	六十三年中
大島(概略)	五十七年
三宅島	五十九年

にして平均約六十年四となるの結果を得たり即ち六十年内外が噴火活動の一周期なるべければ其二倍なる百三三十年の長さも又其周期となるべく恰も安永、天明、寛政

更に重なる地方の發震時及震度を列記すれば左の如し

地名	發	時	震	度
石巻	全	午後四時四分一三秒	烈	性質急 棚上の物落つ、續震あり
金山	全	四時四分三〇秒	強	(弱き方) 戸障子鳴る
福島	全	四時四分二八秒	強	(弱き方) 性質急、時計止り、續震あり
秋田	全	四時三分〇二秒	強	(弱き方)
横濱	全	四時五分一七秒	強	時計止る
宮古	全	四時五分〇〇秒	弱	上下動あり、家屋動揺す
山形	全	四時五分〇〇秒	弱	性質急
青森	全	四時四分三三秒	弱	戸障子鳴る
函館	全	四時五分〇四秒	弱	性質緩
宇都宮	全	四時五分〇四秒	弱	性質緩
熊谷	全	四時五分一三秒	弱	上下動あり、家屋動揺す
新潟	全	四時四分五〇秒	弱	(弱き方) 液體波動す
水戸	全	四時四分四六秒	弱	(弱き方) 震動時間長し
筑波	全	四時四分四八秒	弱	(弱き方) 性質緩、地鳴あり
東京	全	四時二分五〇六秒	弱	(弱き方) 性質緩
甲府	全	四時二分五二二秒	弱	(弱き方) 上下動あり、家屋動揺す
沼津	全	四時二分五二二秒	弱	(弱き方) 續震あり
津	全	四時二分五〇九秒	弱	性質緩

又地動計を以て観測したる發震時及震源までの距離を記すれば左の如し

岐阜	全	四時三分五五秒	微	性質緩
彦根	全	四時二分五〇七秒	微	性質緩
八丈島	全	四時三分三一一秒	微	(感覺なし)
濱松	全	四時二分七〇一秒	微	(感覺なし)
長野	全	四時四分〇九秒	微	(感覺なし)
名古屋	全	四時二分六三六秒	微	(感覺なし)
金澤	全	四時二分三八一秒	微	(感覺なし)
福井	全	四時二分八四五秒	微	(感覺なし)
大阪	全	四時二分五四〇秒	微	(感覺なし)
和歌山	全	四時二分四〇〇秒	微	(感覺なし)
石垣島	全	四時二分二〇〇秒	微	(感覺なし)
東京		午後四時二分四六秒		四四〇軒
大阪	全	四時二分五四〇秒		八四〇軒
福岡	全	四時二分六三八秒		一七三〇軒
仁川	全	四時二分七〇〇秒		一八四〇軒
臺北	全	四時二分七五五秒		二四〇〇軒
シカウエー	全	四時二分八分一四秒		二一五〇軒

此地震に就きて大森理學博士の談は左の如し

一日午後四時二十四分四十六秒に起つた地震は大阪に於ては人に感じ

に其震波を觀測することを得現に當所に於て大森式地動計を以て南米智利、墨西哥、北米桑港及歐洲伊太利等の地震の波動を觀測したることあり又明治三十八年四月四日英領印度に發したる激震は當初最近の距離より來りたる震波を感じ次に反對の方向より來りたるものを描き最後には當初來りたる震波が地球を一周して再び來りたるものを印象せり

今回の地震は可なり強烈なりしが故に歐洲等の地震計に震波を現したるなるべし故に當時の諸新聞に外電を轉載して日本附近に大地震ありしならん又は日本附近に大地震あらん杯と記せしものありしか故に世間にては種々の風説をなせしが是れは全く陸前沖に發したる地震の波動が歐洲に傳達し地震計に印象せしものにして日本附近に大地震あらんと記載あるは誤謬なりとす

東西動地動計觀測

發 現	初 期 微 動	P	一六時二五分四〇秒	最大 振 幅	振 動 期
	S	一六時二七分三〇秒			
主 要 動	L	一六時二七分三〇秒	最大 振 幅	振 動 期	秒
	M	二八分〇〇秒			
終 期	F	三三〇〇以上	二六、四		

然り而して此地震は近來稀なるものにして震源に近き仙臺にては電信及電話線等は恰も波の如くに振れ人々郊外に避難せしもの多く東北地方一帯に強弱震を感じたり而して大阪地方にては人身に感覺なかりしも地震計は甚だ大なる震波を現せり今其概要を記するに發震時是一日午後四時二十五分四十秒にして初期の微動は一分五十秒時間繼續し主要動となり振幅著しく増大し爲めに東西動は描針圓筒外に逸出し最大振幅を知る能はざりしが之を推測するに午後四時二十八分零秒に於て三千三百「ミクロン」以上に達したるものゝ如く而して其振動期は二十六秒四なり又南北動は午後四時二十八分五秒に於て三千二百三十「ミクロン」、振動期二十四秒〇を現し後漸次振幅縮小せしか同時五十一分三十五秒續震を發し總振動時間は知るを得ざりし即ち次表に示すが如し

南北動地動計觀測

發 現	初 期 微 動	P	一六時二五分四〇秒	最大 振 幅	振 動 期
	S	一六時二七分三〇秒			
主 要 動	L	一六時二七分三〇秒	最大 振 幅	振 動 期	秒
	M	二八分〇五秒			
終 期	F	(一) 三三〇〇	二四、〇		

月種日 平均氣溫 平年より 昨年より 最高氣溫 平年より 昨年より 最低氣溫 平年より 昨年より

九月二十日	三、五	▲	一、六	▲	二七、五	▲	一、一	▲	二、四	▲	一九、四	▲	一、〇	▲	一、六
全 廿一日	二、八	▲	四、三	▲	三〇、四	▲	四、五	▲	四、六	▲	三、六	▲	四、六	▲	三、一
全 廿二日	二、七	▲	三、五	▲	二九、八	▲	四、一	▲	三、九	▲	三、四	▲	三、八	▲	一、九
全 廿三日	二、五	▲	四、三	▲	三二、〇	▲	四、九	▲	五、一	▲	三、一	▲	三、一	▲	二、九
全 廿四日	二、五、六	▲	四、八	▲	三九、八	▲	四、五	▲	二、六	▲	三、五	▲	三、三	▲	七、一
全 廿五日	二、六、三	▲	六、〇	▲	三二、五	▲	六、八	▲	六、七	▲	三、三	▲	五、四	▲	四、三
全 廿六日	二、四、一	▲	三、六	▲	二八、六	▲	三、三	▲	二、三	▲	二、六	▲	四、一	▲	二、三
全 廿七日	三、三、六	▲	一、八	▲	二六、三	▲	二、六	▲	三、四	▲	一九、五	▲	二、四	▲	三、五
全 廿八日	三、二、一	▲	〇、七	▲	二五、四	▲	二、三	▲	〇、〇	▲	一、九	▲	二、四	▲	三、五
全 廿九日	三、二、二	▲	一、一	▲	二五、八	▲	〇、七	▲	五、九	▲	一、八	▲	二、四	▲	三、八
全 三十日	三、三、〇	▲	三、三	▲	二五、一	▲	一、一	▲	七、七	▲	二、八	▲	四、二	▲	四、四
十月一日	三、四、七	▲	五、一	▲	二九、一	▲	四、六	▲	六、三	▲	三、六	▲	六、一	▲	六、三
全 二日	三、三、八	▲	二、九	▲	二四、一	▲	〇、一	▲	七、七	▲	九、七	▲	五、三	▲	四、七
全 三日	三、三、二	▲	三、三	▲	二九、一	▲	五、〇	▲	五、三	▲	一、八	▲	四、三	▲	六、〇
全 四日	三、三、六	▲	三、九	▲	二六、四	▲	四、六	▲	四、七	▲	六、八	▲	三、四	▲	五、三
全 五日	三、四、〇	▲	四、三	▲	二六、九	▲	五、一	▲	四、六	▲	九、九	▲	五、三	▲	六、四
全 六日	三、四、六	▲	五、二	▲	二六、八	▲	四、八	▲	四、八	▲	三、〇	▲	六、七	▲	七、〇
全 七日	三、五、六	▲	四、九	▲	二五、七	▲	一、八	▲	一、七	▲	三、六	▲	六、三	▲	七、九
全 八日	三、五、八	▲	七、四	▲	二六、〇	▲	五、四	▲	四、七	▲	三、三	▲	七、九	▲	四、四
全 九日	三、六、八	▲	五、八	▲	二六、三	▲	三、五	▲	三、七	▲	三、〇	▲	六、四	▲	四、四
全 十日	三、六、六	▲	三、三	▲	二五、九	▲	三、四	▲	三、七	▲	三、〇	▲	六、四	▲	四、六
全 十一日	三、九、三	▲	一、九	▲	二五、七	▲	二、八	▲	三、九	▲	五、七	▲	六、八	▲	五、〇
全 十二日	三、〇、五	▲	三、〇	▲	二五、九	▲	五、九	▲	四、二	▲	七、七	▲	五、一	▲	八、三

(二) 二十八日の暴風概況

二十六日夜日本海北部に顯はれたる低氣壓は北東に進行するに従ひ急速に發達し北海道を通過して二十七日朝オホツク海に入りたる時は七百五十二耗に低下し同時高氣壓は支那北部にありて七百七十四耗以上を示し東方に發展し來りたるが故に本邦中部以北は強烈風吹き起り北部地方は雨又は雪を交へ暴風雨雪となれり

大阪にては二十八日午前十時より北の強風吹き起り午後二時最も強く毎秒速度十五米六に達し同日午後五時まで吹き續けり其吹續時間は八時にして内烈風一時間強風七時間なり

● 九月下旬より十月下旬に至る高温に就て

技手 芝 野 彊

九月は暑候より寒候に遷らんとする所謂氣候變遷期なるを以て氣壓は亞細亞大陸に増嵩して爰に高壓部を生し南洋に低壓部を生するか故に主として北方より冷風を吹走し來り十月に入りては亞細亞大陸の高壓部は漸く發展し低壓部は漸次東方に移動し北太平洋北部に到り孰れも稍々固定し爲めに氣層は西より東に向つて遞減し九月の北

風は北西乃至西風となりて秋氣熱すを當とす然りと雖も元來此期間は氣候變遷期なるが故に暖冷の氣交々來りて氣温は一高一低定らず時としては平年より五度乃至八度の高或は低度を示すこと々にして氣候の激變を呈するは本期間及四、五月頃に最も多しとす而して本年は如何と云ふに例年より著しく高温を呈し且つ長期間に亘りたるは稀有の現象と云ふへし今之れを詳記せんに九月二十日より十月二十七日に至る三十八日間の氣温を平年及昨年と比較するに次表に示すか如く平均氣温は九月二十八日、十月十四、十五日の三日は平年より稍々低かりしも其他は一般に高く其差大なるは七度四に達し特に十月五日より全九日に至る五日間は連日五度以上の高度を示せり又最高最低の兩氣温を看るに最高氣温も平年及昨年より概して高かりしか最低氣温は特に顯著にして平年より四度以上高かりしは全日數の半以上に及びて二十一日に達し五度以上なりしは十二日にして六度以上なりしは五日に達せり

(表中▲印ハ高ナホス)

附記

此地震は越中國東礪波郡に發したるものにして震域南東方は信州長野に南西方は江州彦根に達し長徑三十里短徑二十五里あり、地震を感じたる總面積は二千三百五十五方に亘れり而して金澤、伏木にては性質急なる弱震を感じ金澤及福井等にては地鳴を聞けりと云ふ

一五三 十月廿三日午前一時十七分三十八秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十
一時二十一分三十八秒に於て百七十五「ミクロン」振動期
六秒二南北動は午前十一時二十一分十一秒に於て八十五
「ミクロン」振動期六秒七を現し後微となり靜止せり全振
動時間は東西動は二十六分五十五秒南北動は二十七分十
秒なり

附記

此地震は日向洋に發したるものにして震域北東方は丹後の宮津に南西方は琉球の大島に達し長徑六十里短徑四十里を有し地震を感じたる總面積は七千五百三十六方に亘り微動は遠く水澤、仁川及支那上海等に及びたり

一五四 十月二十六日午後零時卅七分三十二秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分九秒にし主要動となりて最大振幅は東西動は午後零時

三十七分四十二秒に於て五「ミクロン」振動期一秒〇南北
動は午後零時三十七分四十二秒に於て五「ミクロン」振動
期一秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動
は六分三十秒南北動は六分二十五秒なり

附記

此地震は紀伊水道に發したるものにして震域東方は伊勢の津
五附に達し西方は伊豫の新居濱邊に及びり而して徳島にては
性質急なる微震を感じたり

一五五 十月二十七日午後十一時二分三十五秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後十一
時二分四十五秒に於て百七十五「ミクロン」振動期一秒〇南北動
は午後十一時二分四十五秒に於て九「ミクロン」振動期一
秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は七
分四十秒南北動は七分五十四秒なり

附記

此地震は伊賀國に發したるものにして震域北方は武前の福井邊
に東方は名古屋附近に達し南方は紀伊南郡に西方は四國の東
部に及びり而して大阪、京都、和歌山にては人身に微震を感
じたり

●十月中の暴風雨概況 十月中には(一)十月七日

より九日に至る暴風雨を最も強大なるものとす而して之
れに亞きて(二)二十八日も暴風雨あり然れども前者に比

一四九 十月十六日午前一時五十七分十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分四十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前一時五十九分十三秒に於て三十三「ミクロン」振動期七秒七南北動は午前一時五十九分二十秒に於て五十二「ミクロン」振動期五秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間には東西動は十九分四十秒南北動は十九分五十五秒なり

附記

此地震は金華山沖に發したるものにして震域北方は北海道の南部に南方は岩代の福島に達し長徑百二十里短徑七十里を有し地震を感じたる總面積は二萬六千三百七十六方里に亘れり

一五〇 十月十七日午前零時二十二分二十五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分四十三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前零時二十六分三十九秒に於て五十「ミクロン」振動期七秒二、南北動は午前零時二十五分五十四秒に於て四十二「ミクロン」振動期五秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は二十二分二十一秒南北動は二十一分三秒なり

附記

此地震は三陸沖に發したるものにして震域北方は北海道の南

部に南方は東京灣に南西方は駿河の三津邊に達し長徑百四十五里短徑八十五里を有し地震を感じたる總面積は三萬八千七百〇一里に亘れり

一五一 十月十七日午前三時四十分九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は十分十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前三時四十二分二十八秒に於て三十七「ミクロン」振動期六秒七、南北動は午前三時四十三分四秒に於て三十二「ミクロン」振動期七秒二を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は十四分四十三秒南北動は十二分四十秒なり

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして宮古、石巻、福島、秋田、青森、水戸、東京に於ては人身に感覺なきも地震計に感じたり

一五二 十月二十三日午前八時四十分九秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は東西動は午前八時四十分五十秒に於て十七「ミクロン」振動期一秒四南北動は午前八時四十分四十六秒に於て十六「ミクロン」振動期一秒四を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は五分三十一秒南北動は五分三十八秒なり

南北動は午前四時四十六分三十秒に於て四十七「ミクロン」振動期五秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間
は東西動は十三分五十五秒、南北動は十五分四秒なり

附記

前地震は全震源帯に發したるものにして震域北方は北海道の南部に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津邊に達し長徑百三十五里短徑七十五里を有し地震を感じたる總面積は三萬一千七百九十三方に亘れり而して微動は遠く仁川及支那上海等に及びたり

一四六 十月十五日午前一時二十八分二十六秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十四秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前
一時三十分十二秒に於て七十二「ミクロン」振動期五秒三
南北動は午前一時三十一分十六秒に於て五十二「ミクロ
ン」振動期七秒二を現し後微となり靜止せり全振動時間
は東西動は十八分十秒南北動は十九分五十八秒なり

附記

前地震は全震源帯に發したるものにして震域北方は北海道の南部に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津邊に達し長徑百四十五里短徑七十五里を有し地震を感じたる總面積は三萬二千九百七十七方に亘り微動は遠く支那上海等に及びたり

一四七 十月十五日午前三時四十一分十五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十四秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前
三時四十三分五十一秒に於て百三「ミクロン」振動期六秒
二、南北動は午前三時四十三分二十六秒に於て九十七
「ミクロン」振動期七秒二を現し後微となり靜止せり全振
動時間は東西動は二十一分五十六秒、南北動は二十三分
四秒なり

附記

此地震は金華山沖に發したるものにして震域北方は北海道の南部に南方は東京灣に南西方は遠州濱松邊に達し長徑百里短徑六十里を有し地震を感じたる總面積は一萬八千八百四十四方に亘り微動は遠く支那上海等に及びたり

一四八 十月十五日午後七時十一分二十七秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大
振幅(南北動)は午後七時十三分五十一秒に於て七「ミク
ロン」振動期五秒二を現し後微となり靜止せり全振動時
間は十分八秒なり

附記

此地震は三陸沖に發したるものにして震域北方は北海道の南部に南方は岩代の福島に達し長徑七十里短徑五十里を有し地震を感じたる總面積は一萬九百九十九方に亘り

二百九十七方里なり而して秋田にては水平上下両動の弱震を感じ

石巻、函館、福島、水戸、熊谷、東京、横浜等にては微震を

感じ微動は遠く支那上海及臺北等に達したり

一四二 十月十三日午後三時三十八分三十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十六秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後
三時四十一分四十七秒に於て五十七「ミクロン」振動期七
秒二、南北動は午後三時四十分三十一秒に於て七十二
「ミクロン」振動期七秒七を現し後微となり静止せり全振
動時間は東西動は二十一分十五秒南北動は二十三分二十
五秒なり

附記

此地震は三陸沖に發したるものにして震域北方は青森に南
方は熊谷に達し福島、水戸、秋田、青森、熊谷等にては人
身に感覺なきも地震計に感じ微動は遠く支那上海に達したり

一四三 十月十三日午後八時四分三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十七秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後
八時五分五十九秒に於て四十「ミクロン」振動期五秒〇南
北動は午後八時五分四十七秒に於て三十七「ミクロン」振
動期六秒七を現し後微となり静止せり全振動時間は東西

動は十二分二十秒南北動は十四分二十秒なり

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして福島、水戸、秋田、
青森、東京にては人身に感覺なきも地震計に感じ微動は遠く
支那上海に達したり

一四四 十月十三日午後九時十分二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後
九時十二分十二秒に於て十七「ミクロン」振動期四秒八、
南北動は午後九時十一分五十六秒に於て十二「ミクロン」
振動期四秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は東
西動は十一分二十八秒南北動は十二分三十七秒なり

附記

前地震と全震源帯に發したるものにして震域北方は北海道の
南部に南方は東京灣に達し約五百五十五里約四百五十五里有り
地震を感じたる總面積は七千七百七十二方里に亘り宮古にて
は性質急なる微震を感じ微動は遠く仁川及支那上海等に及び
たり

一四五 十月十四日午前四時四十四分二十三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前
四時四十六分十一秒に於て六十一「ミクロン」振動期五秒〇

附記

此地震は八丈島の南東方に發したるものにして震域頗る廣く北方は北海道の南部に南方は小笠原島に西方は廣島附近に達し長徑二百八十里短徑百二十五里を有し地震を感じたる總面積は十萬九千九百方に亘れり

今重なる地方の發震時及震度等を列記すれば左の如し

布 頁	午後零時三六分〇〇秒	強震	家屋動搖す
橫 濱	全 零時三六分三一秒	強震	
東 京	全 零時三七分〇四秒	弱震	
大 阪	全 零時三七分〇六秒	微震	
水 澤	全 零時三七分三四秒	全	
函 館	全 零時三七分四一秒	全	
福 岡	全 零時三八分二六秒	全	
仁 川	全 零時三八分二七秒	全	
大 連	全 零時三八分二一秒	全	
小笠原島	全 零時三八分三四秒	全	
石垣島	全 零時四〇分五〇秒	全	

一三九 十月十二日午前十一時三十二分三秒の地震

震動 各部判明ならざれども最大

附記

此地震に微にして未だ震源は詳ならざれども畿内附近に發したる微震なるべし

一四〇 十月十二日午前一時十八分十九秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は午前一時二十三分十三秒に於て十四「ミクロン」振動期四秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は十二分五十四秒なり(南北動微動計百二十倍観測)

附記

此地震は八丈島の南東方に發したるものにして八丈島にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

一四一 十月十三日午前六時三十一分四秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前
六時三十二分五十六秒に於て四百九十七「ミクロン」振動
期五秒の南北動は午前六時二十三分四十七秒に於て五百
五十「ミクロン」振動期五秒三を現し後微となり静止せり
全振動時間は東西動は一時十八分十四秒、南北動は一時
十七分四十一秒なり

此地震は三陸沖に發したるものにして震域北方は北海道の南

部は八丈島の南東方に發したるものにして長徑百三十

十里短徑八十里を有し地震を感じたる總面積は三萬四千

福 岡 全 四時〇六分一六秒
 壺 北 全 四時〇六分二一秒

シカウエー(支那上海) 全 四時〇六分二一秒

一三七 十月五日午後十時五十七分四十二秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續

時間は八分三十三秒、第二は六分二十六秒にして主要動

となり最大振幅は東西動は午後十一時十七分三十三秒に

於て十二「ミクロン」振動期十二秒〇、南北動は午後十一

時十八分二十二秒に於て十「ミクロン」振動期十三秒二を

現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は一時三分

四十二秒南北動は一時五十分十秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

東西動地動計觀測

發 現 時		最大振幅	振動期
初期微動	P 零時三十七分〇六秒	(一)	秒
主 要 動	L 零時三十七分五一秒		
	M 全 三十七分五六秒	一三二七	
終 期	F 一時三六分三七秒		五、〇

壺 北 午後一〇時五十六分五九秒

大 阪 全 一〇時五十七分四二秒

水 澤 全 一〇時五十七分四八秒

函 館 全 一〇時五十七分四八秒

シカウエー(支那上海) 全 一〇時五十八分一一秒

福 岡 全 一〇時五十八分四二秒

仁 州 全 一〇時五十八分三三秒

一三八 十月九日午前零時三十七分六秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零

分四十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前

零時三十七分五十六秒に於て千三百二十七「ミクロン」振

動期五秒〇南北動は午前零時三十八分三十二秒に於て千

五百三十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり靜止

せり全振動時間は東西動は五十九分三十一秒南北動は五

十七分二十三秒なり即ち次表に示すが如し

南北動地動計觀測

發 現 時		最大振幅	振動期
初期微動	P 零時三十七分〇六秒	(一)	秒
主 要 動	L 零時三十七分五一秒		
	M 全 三十八分三二秒	一五三〇	
終 期	F 一時三十四分二九秒		四、八

十七日概ね晴天●二十八日概ね晴天深日、岸和田、大阪
 枚方に強風吹けり●二十九日概ね晴天長承寺、天王、田
 原に霜あり之れ本府管内の初霜とす●三十日概ね晴天な
 りしが午後より雨降り翌日に亘る●三十一日前日來の雨
 午前歇み深日、大阪に強風吹けり

大阪地震観測概況

爰に記する所のものは主として大森式地動計（東西及南北動）を以て
 観測したるものを記し種微なる地震にありては百二十倍の微動計其他
 の器械にて観測したるものを記せり又振動の各部印號は左の如し

Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Lは長波即ち主
 要部全上、Mは主要部の最大動、Cは終期の最大動、Fは振動の終
 す又Fは南北動にありては北、東西動にありては東、(一)は南北動にあ
 りては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」(毫の千分一)を
 以て記す

本月九日安房沖に強震あり爾後十二日より十七日に亘り
 三陸沖に地震頻發し常所にて観測したるもの九回に達せ
 り斯くの如きは稀なる現象と云ふべし而して本月中に観
 測したる地震の總數は二十回にして人身に感覺ありたる
 ものは二十七日午後十一時二分三十五秒畿内附近に發し
 たるもの一回人身に感覺なく普通地震計に感じたるもの

は九日午後零時三十七分六秒八丈島の南東方、十一日午
 前十一時三十二分三秒畿内附近に發したるもの各一回な
 り無感覺地震にして地動計又は微動計に感じ其震源本邦
 内にありたるものは十六回即ち三陸沖九回、金華山沖二
 回、八丈島の南東方、越中國東礪波郡、伊賀國、紀伊水
 道、日向洋各一回なり又遠距離地震は二回にして未だ震
 源は詳ならず今其観測概況を列記すれば左の如し

一三六 十月三日午後四時五分三十二秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續
 時間は十分零秒、第二は七分四十六秒にして主要動とな
 り最大振幅(東西動)は午後四時四十八分三十二秒に於て
 百五十五「ミクロン」振動期十五秒四を現し後微となり靜
 止せり全振動時間は二時二十九分四十四秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源に詳なら
 ざれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれ
 ば左の如し(但し時刻は日本中央標準時に依る以下皆全)

南	館	午後四時〇四分三六秒
水	澤	全四時〇四分五三秒
大	阪	全四時〇五分三二秒
仁	川	全四時〇五分二六秒

第四表 管内降水日量

十	月	深日	郷上之	岸和	長承	濱寺	堺	天王	大阪	福島	新庄	池田	妙見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	富田	長野
一	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
二	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
三	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
四	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
五	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
六	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
七	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
八	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
九	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十一	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十二	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十三	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十四	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十五	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十六	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十七	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十八	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
十九	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
二十	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九
廿一	日	七〇	一五	一五	一七	一七	一九	二二	二八	一三	〇	一〇	一	一	八六	一	一	一	一	一	一	一	一九

地方最も多くして孰れも百耗以上の増量を呈せり更に氣温、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は西部枚方の二十度五より北部妙見

山の十四度六の間にありて之れを平年に比すれば一般に二度以上の高温にして其差大なるは三度二に及へり而して最高は其起日區々なりと雖も概ね上旬中に現はれ東部富田林の三十一度七の高極として之れに亞くは全長野の三十度一全柏原及西部枚方北部清水の三十度〇にして沿海部地方及大阪府附近は二十九度九より二十八度六を示し北部の妙見山は二十二度五に止まれり又最低は概ね二十九日に現はれ東部田原の二度四を低極とし南部長承寺の三度八西部枚方の四度〇北部清水の四度一之れに亞き北部の山間は割合に高く妙見山は四度四、天王は四度九を示せり之れを要するに本年十月の氣温は最高三十一度七

より最低二度四の間にありて其較差は二十九度三に達せり

降 水 總量は北部大王の二百五十八耗一より南

部濱寺の百二十耗五の間にありて之れを平年に比すれば一般に多く北部地方は特に甚たく孰れも百耗以上の多量を示せり而して日量の最多は二十五日の大雨の際にありて天王の七十六耗七を最多とし妙見山の六十四耗五之れに亞けり又日量の五十耗以上なりしは深日、上之郷、東郷、清水、田原の五ヶ所にして其他は四十九耗〇より二十八耗五の間にあり

雷 雨 本月中に雷雨を観測したるは二日、七日十三日の三回にして十三日に起りたるものは稍々強かりしも其他は微弱なりし

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲印は高又は多)

十七日	二六六	一九一	三〇〇	三三〇	三三四	一四三	前日來の雨斷續して翌日に亘る、正午強風吹けり
十八日	一九三	一九六	一九九	三〇七	三三〇	二、九	前日來の雨午後零時廿五分歇む、夜薄露あり
十九日	一八八	一九八	三〇三	三〇〇	三三〇	一〇、〇	朝夜露あり
二十日	一八四	一九五	三〇一	三〇九	三三九	九、七	朝露あり、午後九時四十分より十時五分迄月暈現る、夜薄露あり
廿一日	一九四	一九八	三〇三	三〇九	三三八	二、三	朝露あり
廿二日	一八六	三〇二	三〇五	三〇〇	三三八	一四、三	朝薄露あり、午前六時五分より七時五十四分迄小雨斷續す、午前十一時より正午迄烟霧あり午後一時十分より九時十分迄小雨斷續す、午後十時五分より霧あり翌日に亘る
廿三日	三〇六	三〇七	三〇八	三一一	三三七	三、四	前日來の霧午前零時世五分一旦消散し全六時十分より六時廿五分迄薄霧あり夜薄露あり
廿四日	三〇五	三〇四	三〇四	三〇七	三三七	三、五	朝薄露あり、午前一時五十分より二時十分迄月暈現る、午前六時二十分より小雨斷續して翌日に亘る
廿五日	一五四	一八三	一九五	三〇四	三三五	三、五	前日來の小雨斷續して翌日に亘る、午後一時強風吹けり
廿六日	一六九	一七九	一八五	一九六	三一一	二、五	前日來の雨斷續して午前七時五十分歇む、夜薄露あり、午前二時及三時強風吹けり
廿七日	一七八	一八五	一八九	一九六	三一一	一〇、七	朝薄露あり、午後四時十二分より四時十五分迄微雨
廿八日	一四〇	一七三	一八四	一九六	三〇八	三、三	午前十時より午後五時迄強風吹けり、午後一時二十分より一時廿八分迄微雨
廿九日	一三七	一五五	一七〇	一八六	三〇五	二、六	朝露あり
三十日	一四九	一六三	一六九	一八二	三〇二	一〇、〇	午前十時八分より十一時四十二分迄日暈現る、午後六時十八分より小雨翌日に亘る
卅一日	一四九	一六七	一七四	一八二	二九七	五、三	前日來の小雨斷續して午後四時卅二分歇む、午後十時より午後三時迄強風吹けり、午後五時卅七分より六時廿五分迄小雨斷續す、夜薄露あり
全月	一九一	二〇六	二一〇	三三〇	三三七	三、四	

大阪府管内氣象概況

前既に述べたるが如く本月は亞細亞大陸に氣壓増嵩し高壓部を生じ北太平洋北部に低壓部ありて氣壓は西より東に向ひて漸次遞減せるか故に主として西乃至北西風吹き氣温は日を逐ふて低下し山間部地方にありては初霜を看ることあり而して本年十月の氣候を調査し之れを平年に

比するに氣温は著しく高く十五、十六日の両日は高氣壓支那北部より發展し來りたるを以て冷氣となりしが爾後復々温暖となり下旬の末に至りて漸く順に復し二十九日には北部天王東部田原南部長承寺に初霜を認めたり之れを平年に比すれば天王は等しきも田原は二日長承寺は十四日の早現なりき又降水量は一般に多量を示し就中北部

三十日	去六、二	六、八	一七	三、六	三、九	九七	〇、六	七	三、八	六、二	八七	北	北東	六、四	四、五	一、八	一、三
卅一日	去五、五	一四、八	〇、一	一八、六	一〇、五	八、一	八、六	六	四、〇	六、二	一四、三	北	北	三、九	六、四	一、一	一、六
全月	去三、二	一四、四	二、〇	二四、一	一五、六	八、七	三、八	六	四、四	四、五	三、六	南西	北東	六、四	二、三	一、八	一、二

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

十月 地中溫度(平均) 最低 地溫 諸現象の摘要

日	地中溫度(平均)	最低地溫	諸現象の摘要	
一	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
二	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
三	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
四	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
五	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
六	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
七	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
八	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
九	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
十	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
十一	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
十二	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
十三	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
十四	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
十五	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり
十六	二五、〇	二四、四	二四、二	朝露あり

前日來の雨斷續して午前三時三十分歇む、午前一時十五分より一時三十分迄四方に雷雨あり
 午後五時三十分より七時廿八分迄小雨斷續す
 午前五時二十分より七時廿八分迄薄霧あり午前七時五十八分より降雨斷續し時々大雨を交へ午
 後九時十分歇む、午後二時五十八分より三時二十分迄東方に雷雨あり
 午前三時五十分より五時二十分迄月暈現る、夜薄露あり
 朝露あり、午後零時五分より零時十五分迄日暈現る
 朝露あり
 午後零時五十四分より一時十六分迄日暈現る
 午前零時十一分より小雨斷續して午後十一時三十分歇む、午前一時、四時、十一時より午後
 五時迄及八時強風吹けり
 午前零時五分より三時二十分迄小雨斷續す午前一時より午後三時迄強風吹けり、夜薄露あり
 朝露あり、午前九時より午後十時迄強風吹けり
 朝露あり、夜薄露あり
 朝露あり、午前五時四十分より午後六時三十分迄薄霧あり、午後四時三十分より降雨時々大雨
 を交へ斷續し翌日に亘る
 前日來の小雨斷續して午前十時四十分歇む午後五時九分より五時十五分迄日暈現る夜薄露あり
 朝露あり、午前四時三十分より六時廿七分迄薄霧あり、午後四時三十分より五時四十二分
 迄降雨斷續す、午後四時三十分北西に雷雨起り四時四十分より雷雨となり五時卅二分南西に廻
 り五時五十二分收聲す
 朝露あり
 朝露あり
 朝露あり、午前九時四十八分より十一時三十分迄及午後三時三分より三時三十分迄日暈現る、
 午後五時廿五分より小雨翌日に亘る

平	夜	後										正	十	十						
		十一時	十時	九時	八時	七時	六時	五時	四時	三時	二時				一時	十一時	十一時			
表一、四	表一、三	表二、三	表三、三	表三、四	表三、五	表三、六	表三、七	表三、八	表三、九	表三、十	表三、十一	表三、十二	表三、十三	表三、十四	表三、十五	表三、十六	表三、十七	表三、十八	表三、十九	表三、二十
一、四	一、三	二、三	二、四	二、五	二、六	二、七	二、八	二、九	二、十	二、十一	二、十二	二、十三	二、十四	二、十五	二、十六	二、十七	二、十八	二、十九	二、二十	二、二十一
三、四	三、三	四、三	四、四	四、五	四、六	四、七	四、八	四、九	四、十	四、十一	四、十二	四、十三	四、十四	四、十五	四、十六	四、十七	四、十八	四、十九	四、二十	四、二十一
七、九	八、九	八、十	八、十一	八、十二	八、十三	八、十四	八、十五	八、十六	八、十七	八、十八	八、十九	八、二十	八、二十一	八、二十二	八、二十三	八、二十四	八、二十五	八、二十六	八、二十七	八、二十八
四、六	四、五	五、五	五、六	五、七	五、八	五、九	五、十	五、十一	五、十二	五、十三	五、十四	五、十五	五、十六	五、十七	五、十八	五、十九	五、二十	五、二十一	五、二十二	五、二十三
六、四	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三										
一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三											
六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二											
二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二											
二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九											
三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八											
三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九											
三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九											

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の一

(表中▲印は高又は多)

十	月	氣壓			空			濕			風			雲			日照			降水			
		平均	本年	平年	平均	本年	平年	平均	本年	平年	平均	本年	平年	平均	本年	平年	平均	本年	平年	平均	本年	平年	
一	日	表四、七	三、八▲	三、八▲	六、六	六、六	六、六	八、四	八、四	八、四	四、七	四、七	四、七	四、〇	四、〇	四、〇	北	北	北	九、七	三、五	一、二	二、八
二	日	表四、七	三、八▲	三、八▲	六、六	六、六	六、六	八、四	八、四	八、四	四、七	四、七	四、七	四、〇	四、〇	四、〇	北	北	北	九、七	三、五	一、二	二、八
三	日	表一、五	三、三▲	三、三▲	一、〇	一、〇	一、〇	二、九	二、九	二、九	一、九	一、九	一、九	一、八	一、八	一、八	南	北	北	九、四	一、一	四、七	六、八
四	日	表一、五	三、三▲	三、三▲	一、〇	一、〇	一、〇	二、九	二、九	二、九	一、九	一、九	一、九	一、八	一、八	一、八	北	北	北	九、四	一、一	四、七	六、八
		表一、九	三、六▲	三、六▲	二、六	二、六	二、六	一、五	一、五	一、五	二、三	二、三	二、三	一、五	一、五	一、五	北	北	北	九、六	七、九▲	四、〇	一、五
		表一、九	三、六▲	三、六▲	二、六	二、六	二、六	一、五	一、五	一、五	二、三	二、三	二、三	一、五	一、五	一、五	北	北	北	九、六	七、九▲	四、〇	一、五
		表一、九	三、六▲	三、六▲	二、六	二、六	二、六	一、五	一、五	一、五	二、三	二、三	二、三	一、五	一、五	一、五	北	北	北	九、六	七、九▲	四、〇	一、五
		表一、九	三、六▲	三、六▲	二、六	二、六	二、六	一、五	一、五	一、五	二、三	二、三	二、三	一、五	一、五	一、五	北	北	北	九、六	七、九▲	四、〇	一、五
		表一、九	三、六▲	三、六▲	二、六	二、六	二、六	一、五	一、五	一、五	二、三	二、三	二、三	一、五	一、五	一、五	北	北	北	九、六	七、九▲	四、〇	一、五

りては正午、地中十糎にありては午後五時、同二十糎にありては午後八時、同三十糎にありては翌午前一時に生し最低は地皮にありては午前六時地中十糎にありては午前八時、同二十糎にありては午前十時同三十糎にありては午後三時に生せり、之れに依りて地皮より地中に熱の傳達する梗概を知るを得べし最低地温 平均は十二度四二にして平年に比すれば

二度三三高く月中の最低は二十九日午前四時に於て二度六を示せり

天氣日數 快晴は二日にして半年より五日少く曇天

は九日にして半年より二日多く電雷は二日にして半年より二日多し

尙詳細は左に掲ぐる氣象觀測成績表を参照すべし

第一表 大阪毎時氣象觀測成績表

前	午									十
	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	月
七、七	七、八	七、九	七、〇	七、一	七、二	七、三	七、四	七、五	七、六	平氣
七、七	七、八	七、九	七、〇	七、一	七、二	七、三	七、四	七、五	七、六	均壓
一七、七	一七、八	一七、九	一七、〇	一七、一	一七、二	一七、三	一七、四	一七、五	一七、六	平氣
一七、七	一七、八	一七、九	一七、〇	一七、一	一七、二	一七、三	一七、四	一七、五	一七、六	均温
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	平張
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	均力
八、八	八、九	九、〇	九、一	九、二	九、三	九、四	九、五	九、六	九、七	平濕
八、八	八、九	九、〇	九、一	九、二	九、三	九、四	九、五	九、六	九、七	均度
二、七	二、八	二、九	二、〇	二、一	二、二	二、三	二、四	二、五	二、六	平飽
二、七	二、八	二、九	二、〇	二、一	二、二	二、三	二、四	二、五	二、六	均差
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	平風
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	均速度
五、七	五、八	五、九	五、〇	五、一	五、二	五、三	五、四	五、五	五、六	平雲
五、七	五、八	五、九	五、〇	五、一	五、二	五、三	五、四	五、五	五、六	均量
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	時日
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	數照
四、三	四、四	四、五	四、六	四、七	四、八	四、九	五、〇	五、一	五、二	降水量
四、三	四、四	四、五	四、六	四、七	四、八	四、九	五、〇	五、一	五、二	地
一六、五	一六、六	一六、七	一六、八	一六、九	一七、〇	一七、一	一七、二	一七、三	一七、四	地皮
一六、五	一六、六	一六、七	一六、八	一六、九	一七、〇	一七、一	一七、二	一七、三	一七、四	地十糎
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	地二十糎
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	地三十糎
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	地六十糎
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	地六十糎
三、七	三、八	三、九	三、〇	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五	三、六	地六十糎

の十一耗四なり、又蒸發總量は百十四耗七にして平年に比すれば二耗三多く一日中の最多量は九日の七耗二なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は十九度

一〇にして平年に比すれば一度一四高く月中の最高は一日午後一時に於て三十二度八を示し、最低は二十九日午前四時及七時に於て七度八を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は正午にありて二十五度七二、最低は午前六時にありて十五度六二を示し其較差は十度一〇なり

地中十糶の溫度 平均は二十度五六にして平年に比すれば一度七八高く月中の最高は一日午後六時に於て二十六度〇を示し最低は二十九日午前九時に於て十四度三を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後五時にありて二十一度五四、最低は午前八時にありて十九度六五を示し其較差は一度八九なり

地中二十糶の溫度 平均は二十一度一九にして平年に比すれば一度七三高く月中の最高は一日午後八時

及九時に於て二十四度九を示し最低は二十九日午前一時より午後二時及、三十日午前五時より正午に於て十六度六を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後八時にありて二十一度四五、最低は午前十時にありて二十度九〇を示し其較差は零度五五なり

地中三十糶の溫度 平均は二十一度九八にして平年に比すれば一度九二高く月中の最高は一日午後十一時乃至二日午後一時に於て二十五度〇を示し最低は三十日午前十時乃至午後六時に於て十八度一を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午前一時にありて二十二度一七、最低は午後三時にありて二十一度八三を示し其較差は零度三四なり

地中六十糶の溫度 平均は二十二度七五にして平年に比すれば一度七六高く月中の最高溫度は一日午前一時より五時に於て二十四度八を示し最低は三十一日午前六時乃至八時に於て十九度六を示せり、但し此深さにありては殆ど一日中の變化を認め難し

以上列記する地中溫度を通觀するに最高は地皮にあ

十二耗八四にして平年に比すれば一耗六七高く月中の最高は七日午後七時乃至八時に於て二十耗三を示し最低は三十一日午後十一時に於て五耗八を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後七時にありて十三耗一五、最低は午前六時にありて十二耗五八を示し其較差は零耗五七なり

湿度の平均は七十五、九にして平年に比すれば〇、八多月中の最少は十九日午後二時乃至三時に於て四十二を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前三時乃至五時にありて八十七、二最少は午後一時にありて五十九、一を示し其較差は二十八、一なり

飽差の平均は毎立方米中四瓦三八にして平年に比すれば零瓦三二多月中の最多は十九日午後三時に於て十三瓦六を示し最少は二十日午前六時に於て零瓦四を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午後一時にありて八瓦七七、最少は午前五時にありて一瓦八八を示し其較差は六瓦八九なり

平均速度は毎秒四米五二にして平年に比すれば

零米三二強く月中の最大速度は八日午前六時乃至七時に於て毎秒二十一米六（一間平方面を垂直に壓する力は四十九貫四百目に當る）の南西風なり、又強風以上の吹きたる日数は八日にして平年より一日、強風以上の吹きたる時數に五十六時にして平年に比すれば十二時孰れも多し、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後二時乃至三時にありて六米二五、最小は夜半にありて三米二五を示し其較差は三米〇〇なり、風向は北東風最も多く北風之れに亞き南風は最も少し之れを平年に比すれば北風は多くして東風は少く其他の風は大差なかりし

雲量及日照時數　　雲量の平均は六、四にして平年に比すれば一、〇多く日照時數は百六十二時三〇に

して平年に比すれば十三時八五少く一日中日照時間是最も長かりしは四日、二十九日の九時三〇なり

降水及蒸發量　　降水日數は十五日にして平年に比

すれば四日、其水量は百六十耗一にして平年に比すれば四十三耗五孰れも多く又一日中の最多量は二十六日の三十二耗八、一時間の最多量は一日午前三時

大阪測候所月報

大正四年十月
大阪氣象概況

氣候の漸次寒冷となるに従ひ亞細亞大陸の氣壓増高し支那北部に高氣壓を生し北太平洋北部即ち北海道の東方は低壓部となり氣壓は西より東に向ひ遞減し爲めに西乃至北西の風卓越して吹き漸次冷氣となり下旬に至りては攝津北部河内東部の山間地方には初霜を見るを常とす、然り而して本年十月の氣候を調査するに氣温は平年より高く降雨多くして日照時數少く強風稍々多かりし今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百六十二耗二四にして平年に比

すれば零耗六四低く日々の變化は氣象圖に示すが如く稍々著しき昇降は四回にして其他は微なる昇降なりき、而して月中の最高は二十九日午前八時、九時に於て七百七十三耗九を示し、最低は七日夜半に於て七百三十八耗五を示せり又月平均に就きて一日中

の變化を看るに第一の最高は午前九時にありて七百

六十三耗一五、第一の最低は午後三時にありて七百

六十一耗五五を示し第二の最高は午後十時にありて

七百六十二耗四八、第二の最低は午前二時にありて

七百六十一耗八五を示し其主なる最高低の較差は一

耗六〇なり

氣 温 平均は十九度四五にして平年に比すれば

一度九五高く平均氣温日々の變化は十四、十五、二

十八、二十九日の四日間は低きも其他は皆高く特に

上旬及中旬の半頃を最も甚たしとす而して月中の最

高は一日及三日の午後三時頃に於て二十九度一を示

し最低は二十九日午前六時頃に於て七度二を示せり

又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後

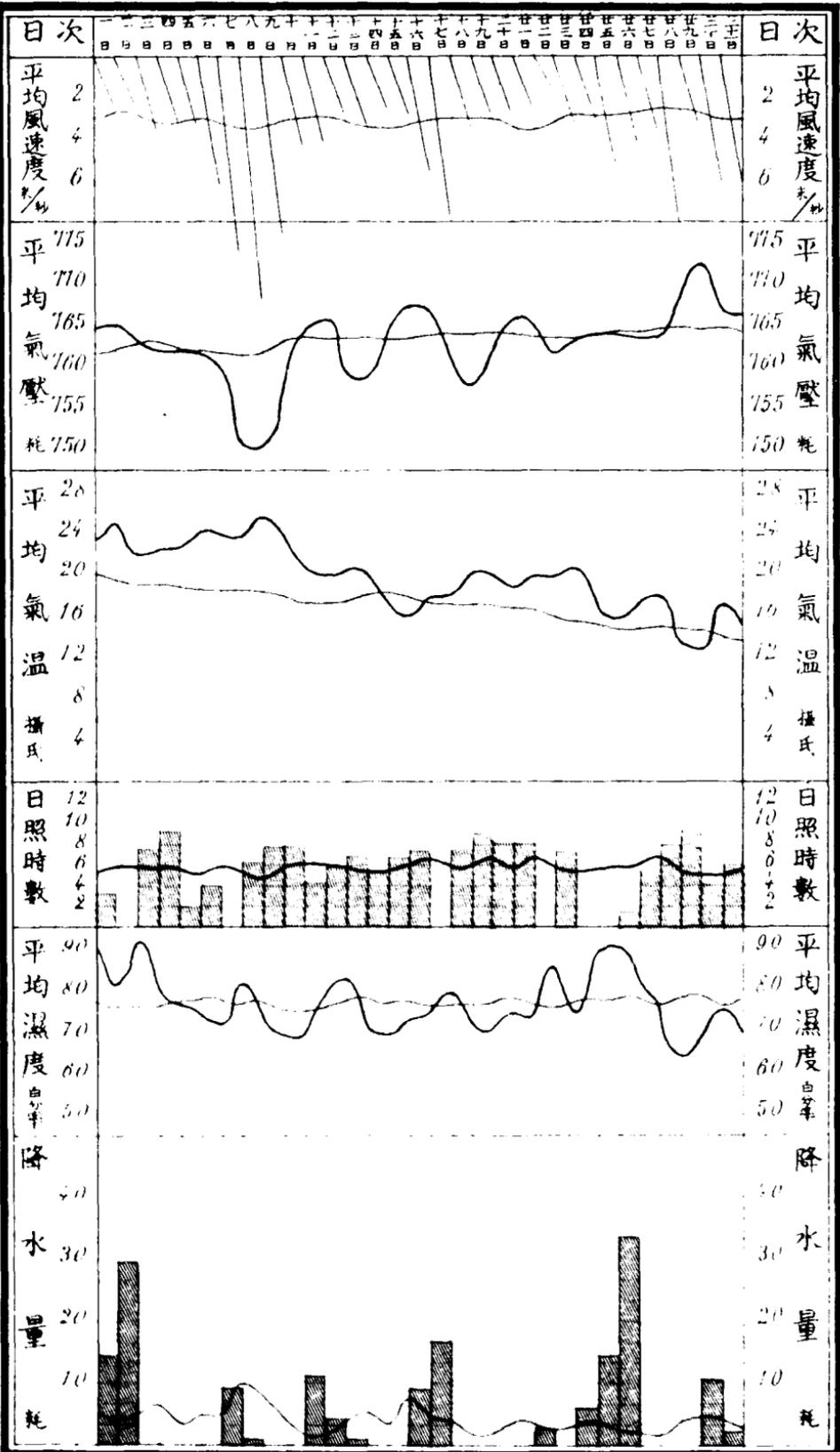
一時にありて二十三度四〇、最低は午前六時にあり

て十六度七一を示し其較差は六度六九なり

水蒸氣張力、濕度及飽差 水蒸氣張力の平均は

大阪氣象圖

本圖ハ日平均又ハ合計ノ依リテ調製ス。風速度、氣壓、氣温、濕度ハ本年——半年——日照時數、本年——半年——降水量ハ本日——半日——



例言

一 本報は當測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者なり但し日々の觀測は當測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一 氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は乾(曲尺三厘毛)を以て示す
 一 温度は凡て攝氏の度を用ふる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふへし
 一 最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものは之れを前日に繰上げて記入せり

一 飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(零忽二七)にて示す
 一 湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す
 一 降水量は乾を以て其深さを測り之を記す、但し一乾は一歩面に水量一升八合三勺を散布したるに相當す
 一 雲量は十分率を以て示す

一 風速度は一秒時間の米(曲尺三三寸三寸)數なり
 一 風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は解繩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かさるもの一は軟風にして入を以て風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一 風向は北北東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す
 一 天氣日數中雨とは雨霰霰雹の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

大阪府管内氣象觀測所位置

氣象觀測所		國郡市	町村	緯度	東經	北緯	觀測主任															
長野	富田	柏原	八尾	田原	枚方	清水	茨木	天王	東郷	妙見	池田	新庄	福島	大坂	天王	堺	濱寺	長承	岸和田	上之郷	深日	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
國南河内郡	國南河内郡	國南河内郡	國中河内郡	國北河内郡	國北河内郡	國三島郡	國三島郡	國豐能郡	國豐能郡	國豐能郡	國豐能郡	國西成郡	國大阪北區	國大阪北區								
野全	林全	原全	尾全	原全	方全	水全	木全	王全	郷全	山全	田全	庄全	島全	阪全	寺全	全	寺全	寺全	田全	之全	日全	
國南河内郡	國南河内郡	國南河内郡	國中河内郡	國北河内郡	國北河内郡	國三島郡	國三島郡	國豐能郡	國豐能郡	國豐能郡	國豐能郡	國西成郡	國大阪北區	國大阪北區								
長野	林全	原全	尾全	原全	方全	水全	木全	王全	郷全	山全	田全	庄全	島全	阪全	寺全	全	寺全	寺全	田全	之全	日全	
野全	林全	原全	尾全	原全	方全	水全	木全	王全	郷全	山全	田全	庄全	島全	阪全	寺全	全	寺全	寺全	田全	之全	日全	
一三五度三五分	一三五度三七分	一三五度三七分	一三五度三六分	一三五度四二分	一三五度四二分	一三五度三六分																
三四度二七分	三四度三五分	三四度三五分	三四度三八分	三四度四三分																		
松本	塔本	鐵内	水谷	東尾	家尾	山本	高橋	高橋	大原	阪部	飯部	笹部	植田	笠谷	府立	如藤	吉村	今井	前川	森内	島出	
本	本	内	谷	尾	尾	本	橋	橋	原	部	部	部	田	谷	立	藤	村	井	川	内	出	
速水	太	農	芳	重	八	義	政	政	仁	文	文	利	正	正	一	昭	正	宮	由	清	源	
水	太	事	松	藏	五	一	次	次	之	二	二	作	三	三	等	純	輔	次	大	次	助	

Monthly Report of the Osaka Meteorological Observatory.

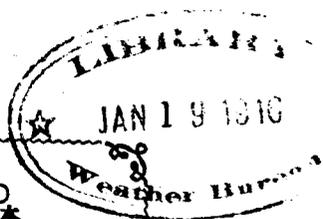
October

1915

大阪測候所月報

大正四年十月

第拾六年第十號



目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 十年大阪地震觀測概況
- 十月中の暴風雨概況
- 九月下旬より十月下旬に至る高温に就て
- 陸前沖の地震歐洲に感ず
- 噴火と地震
- 水管發射と地動
- 本年の初霜
- 本府管内の初霜
- 本年の初雪
- 淀川の水位
- 地方天氣觀測暴風警報通否

大正四年十一月十日印刷

全 年十一月十五日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江戸堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

(電話上住堀三三四一番)

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國	郡	市	町	村	緯	經	北	緯	取	扱	官	衙
谷崎	和泉國	和泉郡	多奈根村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所							
尾崎	和泉國	和泉郡	尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署							
佐野	和泉國	和泉郡	佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場							
岸和田	和泉國	岸和田郡	岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所							
堺	和泉國	堺市	香菱通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署本津川分署							
木津川	攝津國	大阪府	西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	安治川水上警察署本津川分署							
北加賀屋	攝津國	東成郡	敷津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全津川分署北加賀屋水上巡查派出所							
難波島	攝津國	大阪府	西區中目町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全津川分署難波島水上巡查派出所							
安治川	攝津國	大阪府	北區安治一丁目	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安治川水上警察署天保町分署							
天保町	攝津國	大阪府	西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署							
大阪	攝津國	大阪府	西區一條通	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署							
傳法	攝津國	豐能郡	東郷村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東郷村役場							

● 淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 三尺四寸六分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 三尺三寸七分

九 月	廣 瀬		九 月	廣 瀬		九 月	廣 瀬	
	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時		午前六時	午後六時
一 日	一八〇	一八〇	十一日	四九〇	四〇〇	二十一日	二六五	二六〇
二 日	一七九	一八〇	十二日	三九〇	三〇〇	二十二日	二六〇	二六〇
三 日	一七〇	一七五	十三日	三〇〇	二〇〇	二十三日	二五五	二五五
四 日	一七〇	一七〇	十四日	三〇〇	二〇〇	二十四日	二五五	二五〇
五 日	一六五	一七〇	十五日	三〇〇	二〇〇	二十五日	二五〇	二五〇
六 日	一六〇	一六五	十六日	三〇〇	二〇〇	二十六日	二五〇	二五〇
七 日	一五五	一六〇	十七日	二九〇	一九〇	二十七日	二五〇	二五〇
八 日	一四九	一五〇	十八日	二八〇	一九〇	二十八日	一九〇	一九〇
九 日	一四〇	一四〇	十九日	二七五	一九〇	二十九日	一八五	一八五
十 日	一三〇	一三〇	二十日	二七五	一九〇	三十日	一八五	一八五

平均水位 廣瀬 三尺三寸五分
 最高水位 廣瀬 三尺六寸
 (九月午前九時) 大日 三尺一寸
 (九月午後六時)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

種 類	發 布 數		正 中		偏 中		不 中		正 中 百 分 比 例
	風 向	風 速	一	二	一	二	一	二	
暴 風 警 報	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇〇
天 氣 豫 報	三〇	三〇	一	一	〇	〇	〇	〇	八二



●本年の初雪

本冬季の初雪は十月十日樺太の敷香にありしもの最も早く満州長春の十月十八日之れに亞き全二十一日には樺太の落合、眞岡全二十二日には帯廣全二十三日には大泊にありしが翌二十四日には北海道に

來りて旭川にあり越えて廿八日北海道の書都、函館より尙ほ南下し青森に達せり之れを平年に比すれば長春及旭川は稍々晩かりしも其他は一般に早し

地名	本年	平年より	昨年より	地名	本年	平年より	昨年より
歌香	十月十日	早十一日	晚五日	青森	十月廿八日	早十三日	全廿四日
長春	十月十八日	晚七日	早二日	函館	全	全九日	全十一日
落合	十月廿一日	早四日	早晚ナシ	書都	全	全七日	全十日
眞岡	全	全	全	龍巖	全	全	全
帶廣	十月廿三日	全	早	浦全	全	早	早
大泊	十月廿三日	全	早	津浦	全	早	早
旭川	十月廿四日	晚二日	早十五日	全	全	全	全

●諏訪瀨島の鳴動と地震

鹿兒島縣大島郡諏訪

瀨島は昨年大噴煙をなしてより屢々爆發の虞あることを報せられしが本年九月三日以來上下動の強弱震頻發し大噴煙の兆あり四日、大島警察署員郡役所員等汽船白河丸にて調査の爲め急行したるに噴火口の周閉崩壊しそれより異様の鳴動と地震とを傳へ方に爆發せん模様なるより

島民は危険を慮りて在住するを好まず病氣の爲め殘留せる一戸四名を除く外島民全部二百三十九名白河丸に搭じ五日瀨港に避難せしが幸に大爆發をなすに至らずして鎮靜し何れも歸島したりと云ふ

●本年の初霜

本冬季の初霜は九月十五日滿洲の
 長春にありしものを最早とし全二十五日より二十七日に
 涉り樺太及北海道にありしことは既に前號に於て報せし
 が爾後漸次南下し十月十五日より十六日には信州高原及
 本州北部に全二十八日より二十九日に涉りては本洲中部

即ち本府管内攝津北部、河内東部、和泉北部に初霜あり
 而して本府管内の初霜は平年に比するに攝津北部は等し
 きも河内東部は二日和泉北部は十四日早し今各測候所に
 於て觀測したる初霜月日を記すれば左の如し

地名	本年	平年	昨年	地名	本年	平年	昨年
札幌	九月廿六日	早三日	晚一日	岐阜	早五日	早九日	晚五日
那珂	九月廿八日	全七日	早十七日	名古屋	早二日	全六日	早五日
岡	十月十日	晚七日	晚五日	石巻	全三日	全七日	晚三日
眞岡	十月十二日	早二日	早九日	石巻	全十五日	早十日	早三日
磐城	十月十四日	晚九日	全八日	佐賀	全三日	晚十七日	全十日
雄勝	十月十四日	晚九日	全八日	山形	全十九日	全七日	晚七日
中江	十月十五日	早一日	全三日	小名濱	全十三日	全六日	早六日
松本	十月十五日	早一日	全三日	筑波	全十六日	全七日	全一日
長野	十月十六日	晚一日	全三日	山形	全十一日	全一日	全十一日
岡	十月十六日	全七日	早八日	京都	全十七日	早八日	晚十九日
青森	十月十七日	早四日	全七日	根	全八日	全十四日	全八日
福嶋	十月十八日	全十日	晚三日	津	全二日	全十日	全二日
釧路	十月廿一日	晚八日	早晚ナシ	浦	全八日	早晚ナシ	晚五日
龍崎	十月廿二日	全十三日	晚一日	山	全十一日	晚八日	早八日
根室	十月廿四日	全十九日	全廿五日	谷	全六日	全六日	早十日

全	午後九時	七〇、九	東	七、四	〇、三	雨	九月九日	午前二時	七五、五	三七、八	南南西	八、四	晴
全	全十時	七四、二	南東	六、九	〇、〇	雨	全	全三時	七四、三	三六、〇	南	三、〇	晴
全	全十一時	七四、〇	東	五、五	四、〇	晴	全	全四時	七四、〇	三七、二	南	八、九	晴
全	夜半	七四、三	南東	二、四	一、一	晴	全	全五時	七四、九	三七、〇	南	三、九	晴
全	午前一時	七三、四	南東	九、〇	一、一	晴	全	全六時	七四、七	三六、六	南南西	九、七	晴

●大阪府管内の初雪季節 本府管内の初雪期日

を調査するに北部の山間地方最も早くして例年十一月下旬には初雪を見るも其他の地方は十二月中旬より下旬の間にあり而して管内観測所創始以來數年間の観測に就て見るに最も早かりしは北部一帯の十一月六日（明治三十

七年）にして之れに亞くは西部茨木東部富田林の十一月十一日（明治四十一年）及北部池田の十一月十三日（明治四十一年）にして其他は概ね十一月下旬より十二月中旬の始めに亘れり即ち次表に示すが如し

観測所	平年	昨年	年	最モ早キモノ	創立年	観測所	平年	昨年	年	最モ早キモノ	創立年
深日	一月三日	一月十五日	十一月廿七日	十一月廿七日	明治二十五年	東郷	十二月一日	十二月八日	十一月廿七日	十一月廿七日	明治二十五年
尾崎	十二月廿五日	一月十五日	十二月八日	十二月八日	全	天王	十一月廿七日	十一月廿八日	十一月廿七日	十一月廿七日	明治三十四年
岸和田	十二月廿三日	一月十三日	十二月四日	十二月四日	明治二十四年	英	十二月廿三日	一月八日	十一月廿七日	十一月廿七日	明治三十四年
長承寺	十二月十九日	十二月廿七日	十一月十六日	十一月十六日	全	水	十二月廿一日	一月八日	十一月廿七日	十一月廿七日	明治三十四年
堺	十二月廿三日	一月十三日	十一月廿七日	十一月廿七日	全	方	十二月廿三日	一月八日	十一月廿七日	十一月廿七日	明治三十四年
天王寺	十二月廿七日	一月十三日	十一月廿七日	十一月廿七日	全	原	十二月廿三日	十二月二十四日	十一月廿七日	十一月廿七日	明治三十一年
大阪	十二月廿二日	一月十三日	十二月四日	十二月四日	明治十五年	尾	十二月廿七日	一月十五日	十二月四日	十二月四日	明治三十四年
新庄	十二月廿五日	一月八日	十二月十一日	十二月十一日	明治三十六年	柏	十二月廿三日	一月十五日	十二月十一日	十二月十一日	明治三十四年
池田	十二月十八日	一月八日	十一月十三日	十一月十三日	明治二十四年	富田林	十二月廿日	一月十三日	十一月十一日	十一月十一日	明治三十四年
妙見山	十一月廿九日	十二月廿八日	十一月十六日	十一月十六日	明治三十五年						

し同夜九州東部を縦断して關門附近より日本海に入り北々西に進行して九日朝元山と城津との間より朝鮮北部に上陸し十日遂に滿州北部に去れり

此の颱風は頗る優勢なるものにして奄美大島の名瀬にては八日午前三時十分氣壓七百二十九耗六に下降し同六時二十分風速度毎秒三十五米七に達し宮崎にては、日午後七時四十分氣壓七百二十五耗九に降り最大風速度二十米三に達し石見の濱田にては九日午前零時三十分氣壓七百二十七耗三に降り最大風速度は二十二米五、朝鮮の城津にては九日午前十時二十分氣壓七百二十九耗一に降り最大風速度は二十二米〇又四阪島にては最大風速度四十九米九に及びりと云ふ之れを以て九州四國中國等にては非常なる暴風雨にて家屋の倒潰堤防の破壊、橋梁の流失

鐵道線路の破壊、人畜の死傷等枚擧に遑あらず海上にても漁舟船舶の遭難せるもの多かりし
大阪は颱風の進路を距ること遠かりしが故に數時間強風雨ありたるに過ぎず其概況を記すれば四日午前六時には氣壓七百六十耗二を示せしか颱風の接近するに伴ひ徐々下降し八日夜半最低七百四十一耗八に達し後稍急なる上昇をなせり風は八日朝來東の疾風なりしが九時より強風吹き起り午後一時最も強く毎秒速度十五米〇に達し九日午前五時まで吹き續きたり其總吹續時間は十一時間に於て内烈風一時間強風十時間なり天氣は八日朝來曇勝なりしが午後に至りて晴天となり時々驟雨ありしのみにして其水量は測るに足らず更に毎時觀測の結果を抄記すれば左の如し

月	日	時	氣壓	氣溫	風向	風速度	降水量	天氣
九月	八日	午前九時	七四五・九	三二・一	東	六七	—	晴
全		全 十時	七四五・四	三二・五	東南東	一〇・五	—	晴
全		全 十一時	七四八・八	三二・六	東南東	二二・二	—	晴
全		全 正午	七四四・三	三二・八	東	三三・九	—	晴
全		午後一時	七四八・八	三二・七	東南東	三三・七	—	晴
全		全 二時	七四二・一	三二・七	東南東	一五・〇	—	晴
九月	八日	午後三時	七四二・七	三二・六	東南東	一三・一	—	晴
全		全 四時	七四一・一	三二・四	東	一〇・八	—	雨
全		全 五時	七四二・一	三二・六	東	二二・六	—	雨
全		全 六時	七四一・八	三二・三	東北東	八・三	—	雨
全		全 七時	七四一・八	三二・四	東北東	六・九	—	晴
全		全 八時	七四二・七	三二・七	東	六・八	—	晴

一三三 九月八日午後九時十分二十八秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後九時十分四十四秒に於て十二「ミクロン」振動期一秒四南北動は午後九時十分四十三秒に於て十「ミクロン」振動期一秒二を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は四分三十四秒南北動は四分五十八秒なり

附記

此地震は紀伊水道に發したるものにして震域東方は駿河の沼津邊に四方は備前の岡山附近に達し北方は丹後の宮津附近に及びて長徑三十五里短徑二十五里を有し右感覺微震部は二千七百四十七方里にして和歌山、潮岬、徳嶋、多度津等にては微震を感じたり

一三四 九月十二日午前九時四分五十二秒の地震

此地震は緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分三十三秒にして主要動となり最大振幅(東西動)は午前九時十四分二十三秒に於て七十「ミクロン」振動期七秒二を現し後微となり静止せり全振動時間は二十八分十二秒なり

附記

此地震は濠洲の南東方に發したるものにして小笠原列島の父嶋にては人身に微震を感じ、幸南、石川嶋、名瀬にては人身に

一三五 九月十七日午後九時十八分四十八秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分零秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後九時二十分二十三秒に於て二十四「ミクロン」振動期一秒五、南北動は午後九時二十分二十秒に於て二十二「ミクロン」振動期一秒七を現し後微となり静止せり全振動時間は七分五秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記

此地震は豊後海峡に發したるものにして震域東方は岡山邊に西方は熊本附近に達し長徑四十五里短徑四十里を有し右震部は九百四十二方里有感覺微震部は五千六百五十二方里にして大分にては性質急なる前震を感じ下關、熊本にては微震を感じ、福岡、廣嶋、岡山等にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

● 九月八日九日の暴風雨概況

九月四日

リアナ」群島附近に顯はれたる颶風は北西に進み六日朝琉球大東島の南方海上に來り爲に琉球列島より南海岸に至る一帶に強風を起し爾後颶風は徐々北上し八日朝奄美大島の東方海上に來り著しく發達したるが故に九州より東北地方に至るまで暴風雨となれり而して颶風は尙北上

潮鳴の鳴動と地震の項参照

一三〇 九月四日午前七時五十二分二十八秒の地震

此地震は緩微なる波動を現し振動の各部判明ならざれども最大振幅(東西動)は午前八時十七分三十七秒に於て十「ミクロン」振動期十九秒を現し後微となり静止せり全振動時間は四十六分十九秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

大	阪	午前七時五二分二八秒
水	澤	全 七時五四分五六秒
函	館	全 七時五五分〇三秒

一三一 九月五日午後十時五十一分二十三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後十時五十二分四十五秒に於て二十四「ミクロン」振動期二秒四南北動は午後十時五十二分五十七秒に於て十七「ミクロン」振動期二秒を現し後微となり静止せり全振動時間は五分五十五秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記

此地震は甲信地方に發したるものにして甲府、長野、前橋に

ては人身に感覺なきも地震計に感じたり

一三二 九月七日午前十時四十分四十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は十六分十七秒第二は十四分二十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十一時二十八分四十八秒に於て百十二「ミクロン」振動期二十四秒〇南北動は午前十一時四十四分三十秒に於て八十「ミクロン」振動期二十四秒二を現し後漸次に微となり静止せり全振動時間は東西動は二時三十六分三十秒、南北動は二時三十六分九秒なり

附記

此地震は中央亞米利加に起りたる大震にして巴拿馬運河は全然閉塞せられ三十隻の船舶は運河内に封じ込まれたり云ふ(前號に詳記せり)

今各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

函	館	午前一〇時三九分四八秒
東	京	全 一〇時三九分五五秒
水	澤	全 一〇時四〇分〇一秒
大	阪	全 一〇時四〇分四三秒
福	岡	全 一〇時四一分四〇秒
シカウエー	(支那上海)	全 一〇時四〇分十五秒

●二十八日概ね曇天所々に雨降り●二十九日概ね雨断
續して翌日に亘る●三十日前日來の雨断續して翌日に亘
り深日に強風吹き上之郷、大阪、天王、八尾に雷鳴あり

大阪地震觀測概況

爰に記する所ものは主として大森式地動計(東西及南北動)を以て
觀測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他
の器械にて觀測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し
Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Lは長波即ち主
要部全上、Mは主要部の最大動、Cは終期の最大動、Fは振動の終
了又(+)は南北動にありては北、東西動にありては東、(-)は南北動にあ
りては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」に「千分一」を
以て記す

本月中に地震を觀測したる數は八回にして人身に感覺あ
りたるものは一回もなく人身に感覺なく普通地震計に感
したるものも亦た一回もなかりしか無感覺地震にして地
動計又は微動計に感じ其震源本邦内にありたるものは五
回即ち甲信地方、紀伊水道、豊後海峽、諏訪瀬島附近、
臺灣南東方各一回なり又遠距離地震は三回にして就中七
日午前十時四十分四十三秒中央亞米利加に發したるもの

は最も顯著なるものにして其他の二回は未だ震源詳なら
す今其觀測概況を列記すれば左の如し

一二八 九月一日午前五時四十五分十二秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續
時間は五分二秒第二は二分五十八秒にして主要動となり
最大振幅(東西動)は午前五時五十九分三十一秒に於て二
十「ミクロン」振動期十九秒二を現し後微となり靜止せり
全振動時間は五十二分四十五秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳なら
ざれども臺北の地動計も震波を描きたりと云ふ

一二九 九月三日午後八時八分四十九秒の地震

此地震は緩微なる波動を現し振動の各部判明ならざれど
も最大振幅は東西動は午後八時二十七分五十七秒に於て
三十七「ミクロン」振動期八秒六南北動は午後八時二十七
分十一秒に於て二十二「ミクロン」振動期十二秒〇を現し
後微となり靜止せり全振動時間は東西動は三十五分五十
二秒南北動は三十七分四十六秒なり

附記

此地震は大隅の諏訪瀬島に發したる火山性地震にして奄美大
島及鹿兒島にては人身に感覺なきも地動計に感じたり、諏訪

廿二日																					
廿三日																					
廿四日																					
廿五日																					
廿六日																					
廿七日																					
廿八日																					
廿九日																					
三十日																					
全月																					

管内天氣摘要

●一日概ね晴天 ●二日概ね曇天所々に雨降り ●三日未明より雨降り翌日に亘る深日に強風吹けり ●四日前日來の雨午後歇み深日に強風吹けり ●五日概ね晴天所々に雨降り大阪、枚方、柏原に強風吹けり ●六日晴曇相半し所々に雨降り ●七日概ね曇天所々に雨降り茨木、清水、枚方に強風吹けり ●八日概ね晴天なりしか一般に驟雨ありて強風を伴へり ●九日概ね曇天所々に雨降り強風吹けり ●十日概ね晴天 ●十一日概ね晴天 ●十二日概ね晴天 ●十三日概ね晴天 ●十四日概ね晴天所々に雨降り ●十五

日晴曇相伴し所々に雨降り ●十六日概ね晴天清水に雨降り ●十七日晴曇相半し大阪、新庄、枚方に雨降り ●十八日概ね晴天 ●十九日概ね曇天岸和田、長承寺に雨降り ●二十日晴曇相半し所々に雨降り ●二十一日概ね曇天所々に雨降り深日、大阪に強風吹けり ●二十二日概ね晴天深日、大阪に強風吹き妙見山、東郷、天王、田原に雨降り ●二十三日概ね晴天 ●二十四日概ね晴天大阪、新庄、田原に雨降り ●二十五日概ね晴天大阪、天王に雷鳴所々に雨降り ●二十六日概ね晴天長承寺、堺、天王に雨降り ●二十七日概ね晴天富田林に雨降り

第四表 管内降水日量

八	月	深日	上之	摩和	長承	濱寺	堺	天王	大阪	福島	新庄	池田	山	妙見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	富田	長野
廿	日	七																						
一	日	七																						
二	日	七																						
三	日	七																						
四	日	七																						
五	日	七																						
六	日	七																						
七	日	七																						
八	日	七																						
九	日	七																						
十	日	七																						
十一	日	七																						
十二	日	七																						
十三	日	七																						
十四	日	七																						
十五	日	七																						
十六	日	七																						
十七	日	七																						
十八	日	七																						
十九	日	七																						
二十	日	七																						
廿一	日	七																						
廿二	日	七																						

觀測所

深日 上之郷 岸和田 長承寺 濱寺 堺 天王寺 大畹 福島 新庄 池田 妙見山 東郷 天王 茨木 清水 枚方 田原 八尾 柏原 富田 長野

觀測所	最高最低		平均	本年平均	最高起日	最低起日	本年	半年比較	最多起日	氣溫	湿度	降雪量	風向	降水	雪	雹	霜	雷	地震	其他
	最高	最低																		
深日	29.7	2.1	12.5	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
上之郷	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
岸和田	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
長承寺	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
濱寺	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
堺	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
天王寺	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
大畹	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
福島	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
新庄	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
池田	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
妙見山	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
東郷	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
天王	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
茨木	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
清水	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
枚方	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
田原	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
八尾	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
柏原	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
富田	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0
長野	29.0	2.0	12.6	11.8	5.8	4.0	3.8	7.8	3.2	6.8	5.5	0	北東	0	0	0	0	0	0	0

降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は西部福島の二十五度六全枚方の二十五度五より北部妙見山の二十度四の間にありて之れを平年に比すれば一般に一度乃至二度の高温を呈せり而して最高は其起日區々なれども概ね上旬の末より中旬の始めに現はれ南部深日の三十五度二を高極とし北部池田の三十四度六南部岸和田の三十四度三西部枚方の三十四度二之れに亞き其他は三十四度〇より三十一度六の間を示し北部の山間は二十九度九乃至二十五度六に止まれり又最低は概ね下旬に現はれ北部天王の十度九を低極とし全妙見山の十一度九全東郷の十三度八之れに亞き東部の山間は十五度乃至十六度西部より沿海地方は十七度乃至十八度を示せり之れを要するに本月の氣温は最高三十五度二より最低十度九の間にありて其較差は二十四度二に達せり

降 水 總量は南部深日の二百十二耗八より西部

達せり

枚方の百十五耗九の間にありて之れを平年に比すれば南部の南端深日は稍々多きも其他は一般に少く所によりては平年の三分の二に達せざりき而して日量の最多は概ね三日及二十九日の降雨の際に現はれ其最も多きは深日の七十二耗二にして之れに亞くは天王の五十六耗三なり又日量の五十耗以上なりしは長承寺、大阪、妙見山、茨木の四ヶ所、四十耗以上なりしは上之郷、福島、新庄、池田、東郷、清水、富田林、長野の八ヶ所にして其他は三十八耗一より三十二耗〇の間にあり

雷 雨 二十五日攝津北部に雷鳴ありしも暫時にして丹波國境に經過し去れり

三十日 午後十時三十分頃大阪市の西方に雷鳴起り漸次強雷となり翌一日午前一時過府下西成郡今宮村大字木津に落雷し爾後次第に微となり全一時三十分頃收聲せり

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲印は高又は多)

十七日	三三、二	三五、四	二五、八	二六、四	二六、三	八、八	午前四時二十五分より五時三十分迄小雨
十八日	三五、七	三五、七	二五、九	二六、二	二六、〇	九、二	朝薄露あり、午前八時五分より八時三十分迄日曇午後六時三十分より七時十五分迄月曇現る
十九日	二四、四	二五、五	二六、〇	二六、三	二六、〇	七、六	朝薄露あり、午後十時五十分より十一時三十分迄月曇現る
二十日	三三、七	二四、六	二五、四	二六、〇	二六、〇	一七、二	午後零時五分より十一時四十分迄小雨曇現る
廿一日	二六、一	二五、五	二五、六	二六、八	二五、八	三、五	午前二時五分より四時十分迄微雨曇現る、午後二時強風吹び、午後六時四十五分より十一時五十分迄月曇現る
廿二日	三五、六	二五、五	二五、九	二六、一	二五、九	八、二	朝薄露あり、午前一時五分より一時四十五分迄月曇現る、午前十一時強風吹び、夜露あり
廿三日	二六、四	二五、四	二五、七	二六、〇	二五、七	二六、八	朝露あり
廿四日	二六、八	二六、三	二六、三	二五、七	二五、四	二〇、四	午前二時二十五分より六時十分迄小雨曇現る
廿五日	二六、五	二六、八	二六、六	二五、九	一九、〇	一〇、〇	朝薄露あり、午後六時二十分北方に電雷となり九時四十分収容す午後九時三十六分より十時十五分迄小雨曇現る
廿六日	二六、一	二六、五	二六、七	二六、八	二六、〇	一七、八	—
廿七日	二五、八	二五、五	二六、二	二六、六	二六、一	一七、〇	午後十一時五十分より月曇現れ翌曉に直る
廿八日	二〇、七	二二、八	二五、二	二六、〇	二五、九	一五、六	前夜来の月曇午前一時二十分消ぬ、午前九時五分より午後九時四十分迄小雨曇現る
廿九日	二〇、八	二二、八	二四、一	二五、〇	二五、三	一七、五	午前七時五十分より十時三十分迄微雨曇現る、午前十一時二十分より十一時四十分迄月曇現る
三十日	二二、二	二三、九	二四、四	二四、三	二四、九	一八、五	午後一時四十分より降雷時々大雨を降らし翌曉に直る
全月	三五、三	三五、七	二六、一	二六、四	二六、一	一八、六	前日來の降雨頗多し午後七時五分より翌曉に直る、午後九時八分より降雨曇現り翌曉に直る

大阪府管内氣象概況

前既に詳記せるか如く九月は暑候より寒候に遷らんとす
 る所謂氣候變遷期なるを以て月の上半は夏季の状態を呈
 し高温連日に亘れとも下半は漸次秋季の状態に遷り冷氣
 を催し降雨は前月に比すれば著しく増加するを常とす而
 して本年九月の氣候を調査するに上旬の始めは降雨多く

稍々冷氣なりしか全旬の半頃より天候漸次恢復し來りて

暑氣加り南部深日は最高三十五度二に達し爾後下旬の末
 迄時々降雨ありたれども概して晴燥の天氣を持續し從て
 氣温も高かりしか二十八日より降雨を催ふし陰冷となり
 以て翌月に入れり然れども月平均氣温は一般に一度乃至
 二度の高温を示し降水量は半年より少々なりき更に氣温

すれは一日多く其水量は百五十一耗四にして平年に比すれは二耗一少く一日中の最多量は三十日に於て四十耗三、一時間の最多量は同日午前六時乃至七時に於て十八耗三を示せり又蒸發總量は百六十三耗二にして平年に比すれは九耗二多く一日中の最多量は八日に於て九耗〇を示せり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は二十五

度二五にして平年に比すれは零度一五高く月中の最高は一日午後二時及二十五日正午に於て四十二度一を示し最低は二十八日午前四時に於て十八度一を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は正午にありて三十三度二九、最低は午前六時にありて二十一度〇六を示し其較差は十二度二三なり

地中十糧の溫度 平均は二十五度七四にして平年に比すれは零度六八高く月中の最高は一日午後四時乃至六時に於て二十九度三を示し最低は三十日午前七時乃至八時に於て二十一度五を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後五時にありて二十六度九五、最低は午前八時にありて二十四度

六四を示し其較差は二度三一なり

地中二十糧の溫度 平均は二十六度〇九にして平年に比すれは零度六〇高く月中の最高は一日午後七時乃至十一時に於て二十八度二を示し最低は三十日午前八時に於て二十二度六を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後八時にありて二十六度三九、最低は午前十一時にありて二十五度七三を示し其較差は零度六六なり

地中三十糧の溫度 平均は二十六度四四にして平年に比すれは零度七五高く月中の最高は一日午後十時乃至二日午前四時に於て二十八度一を示し最低は三十日午前八時乃至午後三時に於て二十三度九を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午前一時にありて二十六度六五、最低は午後三時にありて二十六度二七を示し其較差は零度三八なり

地中六十糧の溫度 平均は二十六度一三にして平年に比すれは零度七三高く月中の最高は一日午前一時乃至五時に於て二十七度一を示し最低は三十日午前九時乃至午後一時に於て二十四度六を示せり但し此

最高は午後二時にありて二十八度三一最低は午前五時にありて廿二度一〇を示し其較差は六度二一なり

水蒸氣張力、濕度及飽差 水蒸氣張力の平均は

十七耗三八にして平年に比すれば一耗一五高く月中の最高は三日午前三時に於て二十二耗七を示し最低は二十七日午前十時二十八日正午に於て十一耗〇を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後六時にありて十八耗一二、最低は午前七時にありて十六耗九〇を示し其較差は一耗二二なり

濕度の平均は七十四、九にして平年に比すれば〇、六少く月中の最少は十二日正午に於て三十九を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前六時にありて八十六、〇最少は午後一時にありて六十一、一を示し其較差は二十四、九なり飽差の平均は毎立方米中六瓦一^二にして平年に比すれば零瓦五三多く月中の最多は十二日正午より午後一時に於て十八瓦一を示し、最少は三十日午前七時に於て零瓦四を示せり、而して月平均に就きて一日中

の變化を看るに最多は午後二時にありて十一瓦〇〇最少は午前六時にありて二瓦七六を示し其較差は八瓦二四なり

風

平均速度は毎秒四米五五にして平年に比すれば零米二三強く月中の最大速度は八日午後二時に於て十五米〇（一間平方面を垂直に壓する力は二十三貫八百目）の東南東風なり、又強風以上の吹きたる日数は五日にして平年より二日其時数は十三時にして平年より六時孰れも少し又月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後五時にありて六米一五、最小は午前六時にありて三米二三を示し其較差は二米九二なり、風向は北東及北風最も多く南西風之れに亞き北西風最も少し之れを平年に比すれば北及南西風は多く北東、東及北西風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は六、五にして平年に比すれば〇、三多く日照時數は百八十二時三〇にして平年に比すれば四時八二少く一日中日照時間の最も長かりしは十三日の十一時〇〇なり

降水及蒸發量

降水日數は十五日にして平年に比

大阪測候所月報

大正四年 九月 大阪氣象概況

氣候の冷氣となるに従ひ亞細亞大陸も亦冷却し爲めに太氣漸く濃厚となり九月は亞細亞大陸内に氣壓増高し支那北部より西比利亞に亘り高くして南洋に低きか故に主として北方の風吹き漸次冷氣を催すに至る而して此月は尙所謂暴風季節にして往々猛烈なる颱風襲來し暴風豪雨を來たし風水の害を被むることありとす、然り而して本年九月の氣候を調査するに氣温は平年より高くして日照時數は少く降水日數は多きも水量は少く暴風雨は少かりし今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百五十八耗八八にして平年に比

すれば一耗一七低く日々の變化は氣象圖に示すか如く顯著なる昇降は一回にして稍々大なる昇降は二回ありて其他は微なる昇降なりき、而して月中の最高は二十八日午後八時乃至十時及夜半に於て七百六十

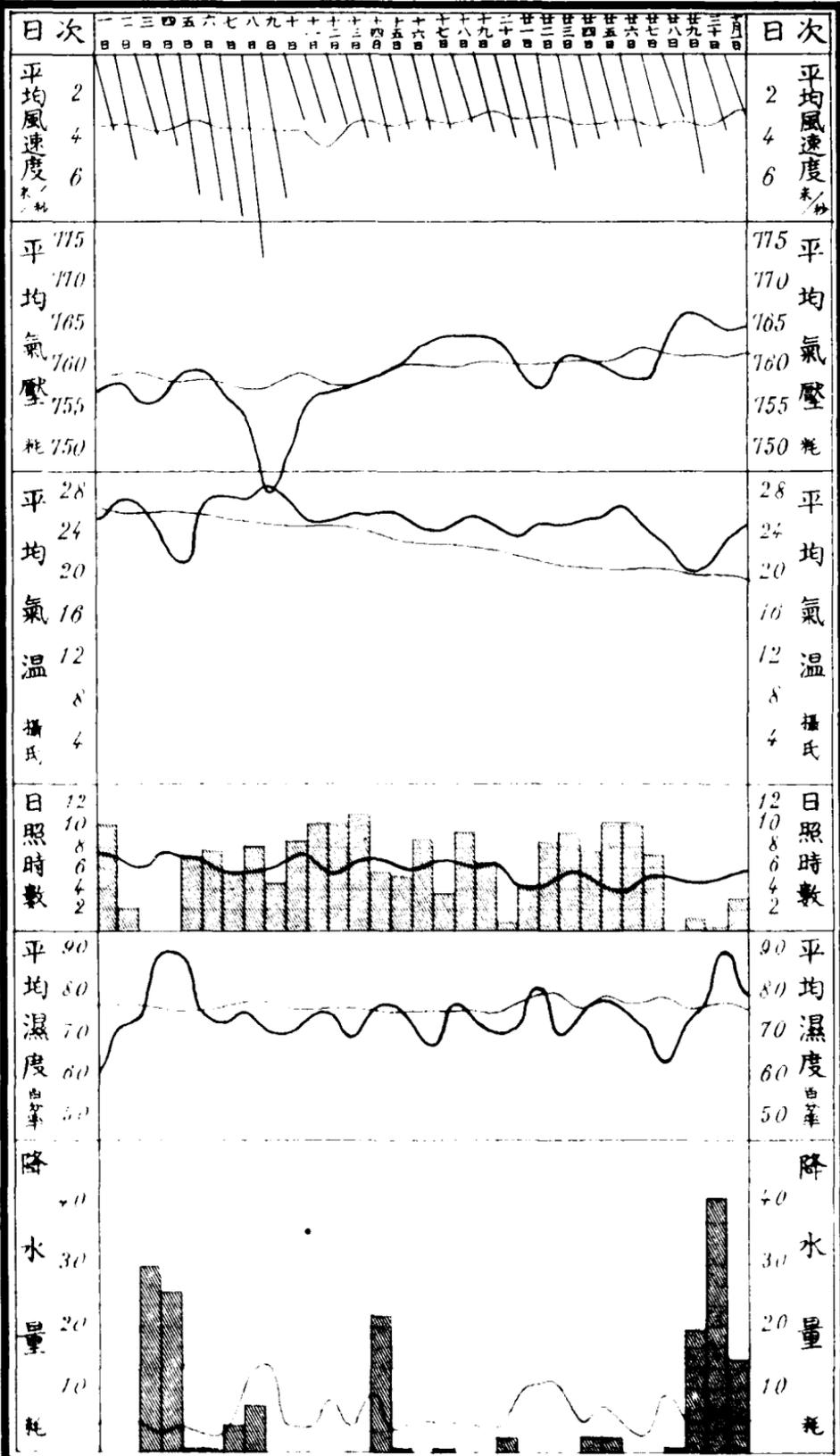
概況

七耗三を示し、最低は八日夜半に於て七百四十一耗八を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに第一の最高は午前九時にありて七百五十九耗五〇、第一の最低は午後四時にありて七百五十八耗一一を示し第二の最高は午後十時にありて七百五十九耗二七、第二の最低は午前三時乃至四時にありて七百五十八耗七〇を示せり而して其主なる最高低の較差は一耗三九なり

氣 温 平均は二十四度八八にして平年に比す

は一度三八高く平均氣温日々の變化は氣象圖に示すが如く上旬の初は著しく低くかりしも爾後上昇し本月を通して高温に經過したり而して月中の最高は八日正午頃に於て三十三度一を示し最低は二十八日午前七時頃に於て十八度〇を示せり又最高氣温の卅度以上に昇りし日數は十五日にして平年に比すれば七日多し而して月平均に就きて一日中の變化を見るに

本圖ハ日平均又ハ合計ノ依リ、調整ノ風速度、氣壓、氣温、湿度、本年——半年——日照時數、本年——半年——降水量、本年——



大阪府管内氣象觀測所位置

一本報は當測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者ぞす但し日々の觀測は當測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一 氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は乾(曲尺三厘三毛)を以て示す

一 湿度は凡て攝氏の度を用ゐる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふへし

一 最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものは之れを前日に繰上げて記入せり

一 飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(零忽二七)にて示す

一 湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す

一 降水量は乾を以て其深さを測り之を乾す、但し一乾は一面に水量一升八合三勺を散布したるに相當す

一 露量は十分率を以て示す

一 風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり

一 風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かざるもの一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は暴風にして樹を抜き家を倒すものなり

一 風向は北北東、東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す

一 天氣日數中雨とは雨聲響の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは露量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

氣象觀測所	國	郡	市	町	村	緯度	東經	北緯	緯	觀測主任
深日	和泉	泉南	郡	深日	村	三五度〇九分	三四度一九分			上出
岸和田	泉南	郡	岸和田	町	村	三五度一八分	三四度二三分			馬場
長承寺	泉北	郡	高石	村	三五度二七分	三四度二七分				森内
瀨寺	泉北	郡	高石	村	三五度二六分	三四度三二分				川由
天王寺	大阪	市	天王寺	一丁目	三五度二九分	三四度三五分				今井
大坂	大阪	市	大坂	一丁目	三五度二六分	三四度三九分				吉村
福島	大阪	市	福島	一丁目	三五度二九分	三四度三九分				加藤
新庄	大阪	市	新庄	一丁目	三五度二九分	三四度三九分				府立
池田	大阪	市	池田	一丁目	三五度二六分	三四度五〇分				笠谷
妙見	豊能	郡	東郷	村	三五度二八分	三四度五六分				笠谷
東郷	豊能	郡	東郷	村	三五度二九分	三四度五七分				笠谷
天王	豊能	郡	東郷	村	三五度二三分	三四度五七分				笠谷
茨木	三島	郡	茨木	町	三五度三三分	三四度〇二分				大原
清水	三島	郡	清水	町	三五度三三分	三四度〇二分				高橋
方河内	北河内	郡	方河内	町	三五度三三分	三四度四九分				高橋
八尾	北河内	郡	八尾	町	三五度三三分	三四度四九分				高橋
柏原	中河内	郡	柏原	町	三五度三三分	三四度四九分				高橋
富田	南河内	郡	富田	町	三五度三三分	三四度四九分				高橋
長野	南河内	郡	長野	町	三五度三三分	三四度四九分				高橋

Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory.

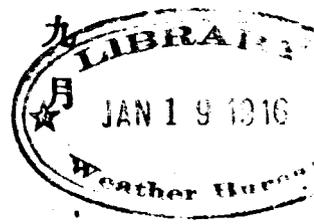
September

1915

大阪測候所月報

第拾六年第九號

大正四年九月



目次

- 本月大阪氣象概況 附圖
- 本月大阪府管内氣象概況
- 本月大阪地震觀測概況
- 九月八日九日の暴風雨概況
- 大阪府管内の初雪季節
- 本冬季の初雪
- 諏訪瀬島の鳴動と地震
- 常所の出品
- 大阪港の潮沙觀測
- 淀川の水位
- 地方天氣豫報暴風警報通告

大正四年十月十日印刷
全 年十月十五日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江戸堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社 三交堂

(電話土佐堀二三四一番)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

暴風警報	天氣豫報 風向	溫度	種	類	發布數	正中	偏中	不中	正中百 分比例
			三	〇	三二	二七	二五	一	〇
三	〇	三二	二	一	四	六	〇	〇	八三

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市	町村	緯度	經度	北緯	東經	取扱官衙
谷川	和泉國泉南郡	多奈川村	百三十五度	九分	三十四度十九分		安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所
尾崎	和泉國泉南郡	尾崎村	百三十五度	十六分	三十四度二十二分		岸和田警察署尾崎分署
佐野	和泉國泉南郡	佐野町	百三十五度	十九分	三十四度二十五分		泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡	岸和田町	百三十五度	二十一分	三十四度二十七分		安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺川	和泉國堺市	香妻橋通	百三十五度	二十七分	三十四度三十五分		安治川水上警察署堺水上巡查派出所
木津川	攝津國大阪府	西區南堀江	百三十五度	二十九分	三十四度四十分		安治川水上警察署木津川分署
北加賀屋	攝津國東成郡	數津村	百三十五度	二十八分	三十四度三十七分		全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
離波島	攝津國大阪府	西區中口町	百三十五度	二十九分	三十四度三十九分		全木津川分署離波島水上巡查派出所
安治川	攝津國大阪府	北區安治川通	百三十五度	二十八分	三十四度四十一分		安治川水上警察署
天保町	攝津國大阪府	西區天保町	百三十五度	二十六分	三十四度三十九分		安治川水上警察署天保町分署
大阪	攝津國大阪府	西區一條通	百三十五度	二十六分	三十四度三十九分		府立大阪一等測候所
大坂	攝津國西成郡	東傳法町	百三十五度	二十七分	三十四度四十一分		十三橋警察署傳法分署
東傳法	攝津國豐能郡	東傳法村	百三十五度	二十九分	三十四度五十七分		豐能郡東傳法村役場



地名	本年	平年	昨年	地名	本年	平年	昨年
長春	九月十五日	早	七日	旭川	九月二十七日	早	五日
數香	九月二十五日	晚	四日	走網	全	早	十一日
落合	全	晚	九日	廣	全	晚	二日
大泊	九月二十六日	晚	一日				晚
			晚				二日
			晚				三日

○淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 三尺零寸三分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 二尺九寸五分

八月	廣瀬		大日		八月	廣瀬		大日	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
一日	一九〇	一六〇	六一〇	五〇〇	二十一日	二〇〇	一八〇	二〇〇	一八〇
二日	一五五	一四五	四四五	三九五	二十二日	三〇〇	二八〇	三〇〇	二八〇
三日	一五〇	一三〇	三六五	三四五	二十三日	三〇〇	二八〇	三〇〇	二八〇
四日	一五五	一四〇	三〇〇	二八〇	二十四日	三〇〇	二八〇	三〇〇	二八〇
五日	八二〇	二六〇	三二〇	二九五	二十五日	二七〇	二六〇	二七〇	二六〇
六日	六七五	五〇五	二九五	二八五	二十六日	二四五	二四五	二四五	二四五
七日	四一五	二六五	二八〇	二七〇	二十七日	二九五	二九五	二九五	二九五
八日	三七〇	二五〇	二六五	二四八	二十八日	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
九日	二九五	二〇〇	二五〇	二三五	二十九日	二一五	二一五	二一五	二一五
十日	六〇五	八二〇	二〇〇	二二〇	三十日	二一五	二一五	二一五	二一五
			二〇〇	二〇五	三十一日	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇

平均水位 廣瀬三尺二寸七分
 最高水位 廣瀬十二尺八寸
 (五日午後二時)

大日 三尺一寸五分
 (五日午後六時)

るも其他平坦部地方は十一月上旬乃至中旬、和泉の沿海部は最も遅く十一月下旬に至れり又管内各観測所設置以來數年間に就きて最も早きものを調査するに北部天王に於て十月八日(大正元年)全東部に於て十月十二日(明治三十七年)東部田原に於て十月十三日(明治四十一年)に

初霜ありたるを管内の最早とし之れに亞くは東部富田林の十月十八日(明治二十四年)南部長承寺の十月二十日(明治二十四年)にして其他は十月二十七日より十一月十一日の間にあり即ち次表に示すか如し

観測所	平年	昨年	年	最も早キモノ	創立年	観測所	平年	昨年	年	最も早キモノ	創立年
深日	十一月三十日	十二月三十日	十二月三十日	三十九年十一月七日	明治二十五年	東郷	十月二十九日	十一月二十二日	十一月二十二日	三十七年十一月十二日	明治二十五年
尾崎	十一月二十一日	十一月二十九日	十一月二十九日	三十六年十一月三日	全	天王	十月二十九日	十一月二十三日	十一月二十三日	大正元年十月八日	明治三十四年
岸和田	十一月十二日	十一月二十二日	十一月二十二日	三十四年十一月三十一日	明治二十四年	茨木	十一月八日	十一月二十三日	十一月二十三日	三十四年十一月二十四日	明治二十四年
長承寺	十一月十二日	十一月二十二日	十一月二十二日	三十四年十一月二十日	全	清水	十一月六日	十一月二十三日	十一月二十三日	大正二年十月二十七日	明治三十四年
堺	十一月十四日	十一月二十三日	十一月二十三日	大正二年十月二十七日	全	枚方	十一月十三日	十一月二十三日	十一月二十三日	二十四年十月二十八日	明治二十四年
天王寺	十一月十三日	十一月二十三日	十一月二十三日	三十二年十月二十四日	全	田原	十月三十一日	十一月二十二日	十一月二十二日	四十一年十一月三日	明治三十一年
大阪	十一月十日	十一月二十三日	十一月二十三日	三十一年十月二三日	明治十五年	八尾	十一月十一日	十一月二十三日	十一月二十三日	三十七年十一月二十八日	明治二十四年
新庄	十一月十日	十一月二十二日	十一月二十二日	大正二年十月二十七日	明治三十六年	柏原	十一月十二日	十一月二十三日	十一月二十三日	三十四年十一月二十九日	明治三十四年
池田	十一月八日	十一月二十二日	十一月二十二日	全	明治二十四年	富田	十一月七日	十一月二十三日	十一月二十三日	三十四年十一月十八日	明治二十四年
妙見山	十一月九日	十一月二十日	十一月二十日	全	明治三十五年	長野	十一月九日	十一月二十三日	十一月二十三日	大正二年十月二十七日	明治四十三年

● 本年の初霜

本冬季の初霜は九月十五日満洲の

々遅かりしか全二十七日には尙南下し北海道の網走より

長春にありしものを最早とし平年より七日昨年より八日

旭川附近に亘りて初霜あり之れを平年に比すれば五日乃

孰れも早く越えて九月二十五日には樺太の敷香及落合に

至十一日早く又昨年に比するも十五日内外の早現なり今

翌二十六日には全島の南部大泊に來り平年及昨年より稍

之れを列記すれば左の如し

前表第一初期微動の繼續時間に依りて震央地までの距離を計算するに約一萬五千三百杆(約三千八百里)にして恰も中央亞米利加までの距離に符合し又震央地より大阪まで震波を傳達するに要したる時間は約十九分なれば震央地に於ける發震時刻は日本中央標準時の午前十時二十二分頃にして中央亞米利加の午前三時二十二分頃となれり

元來亞米利加の太平洋岸には地震帶ありて數々大震を發せり當所にて大森式の地動計を設置して以來拾餘年間に此地帶に發したる大震を觀測したるは左に記するか如く十回以上に達せり就中明治三十五年四月十九日及全三十九年二月一日に發したるものは今回の震源に稍々近く特に明治三十九年二月一日に發したる大震は巴奈馬連河の兩岸築堤數ヶ所に欠陥を生し尠からず損害を醸したりと云ふ

今此地帶に發したる大震の年月日を記すれば左の如し

- 明治三十五年四月十九日 中央亞米利加「グアテマラ」國
 全 三十九年二月一日 南米エクアドル及「パナマ」
 全 三十九年四月十八日 北 米 加 州 桑 港
 全 三十九年八月十七日 南 米 智 利

全 四十年四月十五日 墨 西 哥
 全 四十一年三月二十七日 全
 全 四十三年一月一日 全
 全 四十三年一月二十四日 西印度「キエボ」附近
 全 四十四年六月七日 墨 西 哥
 全 四十四年九月十五日 南 米 智 利
 全 四十四年十二月十七日 中 央 亞 米 利 加
 大正二年八月七日 南 米「秘 露」

又東京大阪福岡及支那ジカウエー(上海)等にて觀測したる發震時等を抄記すれば左の如し

發 震 時 震央地マテノ距離(杆)

東 京 七日午前一〇時三九分五五秒 一四八三四
 大 阪 全上 一〇時四〇分四三秒 一五三四七
 福 岡 全上 一〇時四一分四〇秒 一五八七七
 シカウエー(支那上海)全上 一〇時四〇分一五秒

因に記す九月十四日發ロイタル電報に依れば一時閉鎖せる巴奈馬連河は今や水深二十九呎となり十七隻の船舶通過せり近々常態に復すへしと

●大阪府管内の初霜季節 本府管内に於ける初霜期日を調査するに攝津北部及河内東部の山間地方は最も早く例年十月下旬末より十一月上旬の初めに初霜を看

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全四時	全五時	全六時	全七時	全八時	全九時	全十時	全十時	全十時	全十時
七、六	二、〇	九、七	九、七	八、〇	二、五	二、四	二、四	二、四	二、四
西北西	西北西	西北西	西北西	北西	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西
〇、五									
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全四時	全五時	全六時	全七時	全八時	全九時	全十時	全十時	全十時	全十時
二、八	三、七	三、〇	三、九	三、四	三、八	三、四	三、四	三、四	三、四
北	北北西	西	西北西	北北西	西	北	北	北	北
〇、二									
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全四時	全五時	全六時	全七時	全八時	全九時	全十時	全十時	全十時	全十時
三、八	三、七	三、〇	三、九	三、四	三、八	三、四	三、四	三、四	三、四
北	北北西	西	西北西	北北西	西	北	北	北	北
〇、二									

●中央亞米利加の大震 技手 圓岡平太郎

華盛頓發電報に依れば中央亞米利加に大地震起り「巴奈馬」運河は全然閉塞せられ三十隻の船舶は運河内に封じ込まれたり是れと同時に中米の「サルグアドル、グアテマラ」兩國に激烈なる地震ありたりと

而して此地震は本邦及支那東部にも震波を傳達せり即ち當所の大森式地動計は九月七日午前十時四十分四十三秒

より此地震を感じ始め第一初期微動の繼續時間は十六分十七秒第二は十四分二十二秒にして主要動となり最大震幅は東西動は午前十一時二十八分四十八秒に於て百二十「ミクロン」振動期二十四秒、南北動は午前十一時四十四分三十秒に於て八十「ミクロン」振動期二十四秒二を現し後漸次に微となりしが總振動時間は二時三十五分に亘りたり即ち次表に示すか如し

發	現	時	最大振幅	振動期	發	現	時	最大振幅	振動期
東西動地動計觀測					南北動微動計觀測				

終	主	初	發	現	時	最大振幅	振動期	終	主	初	發	現	時	最大振幅	振動期	
期	要	期	動	動	動	動	動	期	要	期	動	動	動	動	動	
F	M	L	S	P	S	P	P	F	M	L	S	P	S	P	P	
一三時一五分四九秒	全	一二時一分二二秒	全	一〇時四〇分四三秒	全	五七分〇〇秒	二四、〇	一三時一五分二八秒	全	一二時一分二二秒	全	一〇時四〇分四三秒	全	五七分〇〇秒	八〇	二四、二
(-)	一二〇							(+)	八〇							

潮岬

大阪

月日	時	氣壓	氣温	風向	風速度	雨量	天氣	月日	時	氣壓	氣温	風向	風速度	雨量	天氣
八月三日	午前六時	七五九	二七九	南	九五	—	曇	八月三日	午前六時	七五九	二七九	東	七五	—	晴
全	全七時	—	—	南	一〇四	—	曇	全	全七時	七五七	二八六	東	六六	—	曇
全	全八時	—	—	南	一〇三	—	曇	全	全八時	七五四	二八四	東	六二	—	曇
全	全九時	—	—	南	一〇三	—	曇	全	全九時	七五四	二八四	東	六二	—	曇
全	全十時	—	—	南	一〇三	—	曇	全	全十時	七五三	二八三	北	六〇	—	曇
全	全十一時	—	—	南	一〇三	—	曇	全	全十一時	七五三	二八三	北	六〇	—	曇
全	正午	—	—	南	一〇三	〇.一	曇	全	正午	七五二	二八二	南	五九	—	曇
全	午後一時	—	—	南	一〇四	一.五	曇	全	午後一時	七四九	二八〇	南	五七	—	曇
全	全二時	七五〇	二八九	南	一〇〇	七.九	雨	全	全二時	七四九	二八〇	南	五九	—	曇
全	全三時	—	—	南	一〇〇	三.一	曇	全	全三時	七四九	二八〇	南	五九	—	曇
全	全四時	—	—	南	一〇〇	—	曇	全	全四時	七四九	二八〇	南	五九	—	曇
全	全五時	—	—	東	七五	〇.四	雨	全	全五時	七四八	二七九	東	六〇	—	曇
全	全六時	七六〇	二八三	東	八二	九.〇	雨	全	全六時	七四七	二七九	東	六〇	—	曇
全	全七時	七五〇	二八三	東	八二	三.六	雨	全	全七時	七四七	二七九	東	五九	—	曇
全	全八時	七四九	二八三	東	八二	二.〇	雨	全	全八時	七四七	二七九	東	五九	—	曇
全	全九時	七四九	二八三	東	八二	二.九	雨	全	全九時	七四七	二七九	東	五九	—	曇
全	全十時	七四九	二八三	東	八二	三.一	雨	全	全十時	七四七	二七九	東	五九	—	曇
全	全十一時	七四九	二八三	東	八二	三.一	雨	全	全十一時	七四七	二七九	東	五九	—	曇
全	夜半	七四九	二八三	北	七三	〇.〇	曇	全	夜半	七四八	二七九	北	七八	—	雨
全	午前一時	—	—	北	七三	〇.五	雨	全	午前一時	七四八	二七九	北	七八	—	雨
全	全二時	七四九	二八三	北	七三	〇.一	曇	全	全二時	七四八	二七九	北	七八	—	雨
全	全三時	七四九	二八三	北	七三	〇.〇	雨	全	全三時	七四八	二七九	北	七八	—	雨

八月四日	午後三時	七月八	二四	北東	二〇九	四九	雨	八月五日	午前二時半	七月五	二五七	東北東	一八〇	×	曇
全	全四時	七四八、二	二四六	北東	九八	二〇	雨	全	全四時	七四八、〇	二五八	北東	一五九	〇	曇
全	全五時	七四七、九	二四六	北東	一七七	〇九	雨	全	全四時半	七四九、九	二五五	北東	一七〇	×	雨
全	全六時	七四七、三	二五二	北東	一四〇	〇九	曇	全	全五時	七四九、八	二五八	北東	一六一	〇	雨
全	全七時	七四七、二	二五四	北東	一四三	〇〇	雨	全	全六時	七四〇、〇	二六一	北東	一三〇	〇	雨
全	全八時	七四六、七	二五一	北東	一五六	〇三	雨	全	全七時	七四〇、一	二六三	東	一三三	一五	雨
全	全九時	七四六、六	二五四	北東	一五三	〇七	雨	全	全八時	七四〇、八	二六三	東	一三三	一五	雨
全	全十時	七四六、三	二五四	北東	一三八	一六	雨	全	全九時	七四三、六	二七二	東南東	一四七	〇	曇
全	全十一時	七四五、二	二五六	北東	一五七	一八	雨	全	全十時	七四三、四	二七九	南中	一五九	一	曇
全	夜半	七四四、〇	二五六	北東	一七五	二五	雨	全	全十一時	七四四、〇	二七九	南南西	一七三	〇	曇
全	午前一時	七四三、九	二五〇	東北東	一七四	三一	雨	全	止午	七四四、四	二七六	南南西	一七八	一	曇
全	午前二時	七四三、七	二四九	北東	一九六	三二	雨	全	午後一時	七四四、四	二七六	南南西	一七八	一	曇
全	全一時半	七四二、七	二四九	北東	一九六	三二	雨	全	午後二時	七四四、六	二七三	南南西	一七〇	〇	曇
全	全二時	七四二、〇	二四九	東北東	一七四	四一	雨	全	全二時	七四四、九	二七〇	南南西	一七二	〇	曇
全	全二時半	七四一、四	二五六	東北東	一六四	×	雨	全	全三時	七四五、〇	二六六	南	一七七	〇	曇
全	全三時	七四一、二	二五七	東北東	一八九	〇二	雨								

(二) 沖繩島の南方洋上より來りし颱風は二十六日朝屋久島附近を殺到し九州より四國地方に暴風雨を起し同夜紀州半島を掠めて東北東に進み二十七日朝伊豆七島に到り房總及豆相地方は暴風雨となれり

而して當大阪にては大したる影響なかりしか二十六日午後二時四十五分より雨となり俄然風向南東より南西に轉し急風吹き起り雷鳴之に加はり一時は物凄き有様

にして風力十五米五に達したりしか暫時にして衰へ雨も亦午後四時三十八分止み又午後九時五分より北東の風雨となり二十七日午前一時五十五分止み風も亦減力せり

此の颱風の経路に當りし潮の岬と大阪との氣壓風向風速度氣温雨量等を對照して參考に供せん

風は三日朝來疾風なりしか午前十時より強風吹き起り
 四日午後八時より烈風となり五日午前二時三十分最大
 風速度毎秒二十米四に達し午後二時まで強烈風吹けり
 其總吹續時間は四十三時にして内烈風十四時強風二十
 九時なり天氣は三日朝來晴勝なりしか午後三時より

曇天となり颯風の四國に接近するに從ひ時々驟雨を來
 し四日午前九時二十分より微雨を催ふし五日午後二時
 五十五分まで斷續せり其總雨量は四十四耗三なり詳細
 は次表に記するか如し

月	日	時	氣壓	氣温	風向	風速度	雨量	天氣	月	日	時	氣壓	氣温	風向	風速度	雨量	天氣
全	八月三日	午前七時	七五、〇	二八、〇	東北東	八、五	—	晴	八月三日	午後十一時	七五、八	二六、〇	東北東	一〇、三	—	雨	晴
全		八時	七五、八	二九、四	東	九、〇	—	快晴	八月三日	夜半	七五、六	二八、〇	東北東	一〇、七	—	—	雨
全		九時	七五、〇	二九、四	東北東	九、三	—	快晴	八月四日	午前一時	七五、五	二七、八	東北東	一〇、〇	—	—	曇
全		十時	七五、〇	二九、四	東北東	一〇、八	—	快晴	八月四日	二時	七五、〇	二七、八	東北東	一〇、〇	—	—	曇
全		十一時	七五、八	二九、〇	東北東	一〇、六	—	晴	八月四日	三時	七五、七	二七、八	東北東	一〇、〇	—	—	曇
全		正午	七五、六	二九、三	東北東	一一、〇	—	晴	八月四日	四時	七五、八	二七、三	東北東	一〇、九	—	—	曇
全		午後一時	七五、五	二九、五	東北東	一〇、八	—	晴	八月四日	五時	七五、八	二七、二	東北東	一〇、九	—	—	曇
全		二時	七五、五	二九、九	東	一〇、七	—	晴	八月四日	六時	七五、八	二七、二	東北東	一〇、九	—	—	曇
全		三時	七五、五	三〇、六	東北東	一〇、七	〇、〇	雨	八月四日	七時	七五、八	二七、六	東北東	一〇、九	—	—	曇
全		四時	七五、〇	三〇、四	東北東	一〇、七	〇、〇	曇	八月四日	八時	七五、六	二七、七	東北東	一〇、六	—	—	曇
全		五時	七五、一	三〇、一	東北東	一〇、八	—	曇	八月四日	九時	七五、五	二七、九	東北東	一〇、四	—	—	曇
全		六時	七五、五	二九、三	東北東	一〇、六	—	曇	八月四日	十時	七五、六	二七、七	東北東	一〇、四	—	—	曇
全		七時	七五、七	二八、五	東北東	一〇、一	—	曇	八月四日	十一時	七五、三	二七、七	東北東	一〇、三	—	—	曇
全		八時	七五、七	二八、三	東北東	九、三	—	曇	八月四日	正午	七五、三	二七、五	東北東	一〇、三	—	—	雨
全		九時	七五、九	二七、九	東北東	八、八	—	快晴	八月四日	午後一時	七五、二	二七、二	東北東	一〇、七	—	—	雨
全		十時	七五、〇	二七、九	東北東	八、八	—	晴	八月四日	二時	七五、四	二七、五	東北東	一〇、八	—	—	雨

んに風雨のありし八月五日後数日と全月二十七日後数日間は稍々低温なりしか其他は平年より零度一乃至四度八高く昨年より稍々冷氣なりしか彼岸に入りては高温を示し二十四日(秋分)には平年より四度八昨年より四度五の過高を示せり而して降水量は平年及昨年より多く日照

時数は昨年より少きも平年より稍々多し而して畿内附近は著しき暴風雨なく静穩に經過せり
 今年立秋より秋分に至る日々の氣温及日照時數を平年及昨年比し且昨今兩年の降水量を並記し其詳細を示さんとす
 (表中▲印ハ高又ハ多無印ハ低又ハ少ヲ示ス)

月 日	空 氣 温 度				日 照 時 數		降 水 量
	平 均	最 高	最 低	最 度	本 年	昨 年	
立 秋 八 月 九 日	二六・〇	二六・二	二二・一	一七・四	二七・七	二七・〇	六・八
全 十 日	二七・一	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・六	二七・〇	六・八
全 十 一 日	二七・四	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・五	二七・〇	六・八
全 十 二 日	二七・五	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・五	二七・〇	六・八
全 十 三 日	二七・七	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
全 十 四 日	二七・六	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・七	二七・〇	六・八
全 十 五 日	二七・九	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・五	二七・〇	六・八
全 十 六 日	二七・八	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
全 十 七 日	二七・九	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
全 十 八 日	二七・九	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
全 十 九 日	二七・九	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
全 二 十 日	二七・九	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
全 二 十 一 日	二七・九	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
全 二 十 二 日	二七・九	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・九	二七・〇	六・八
處 分 全 二 十 三 日	二七・六	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・七	二七・〇	六・八
全 二 十 四 日	二七・〇	二七・〇	二二・〇	一七・四	二七・七	二七・〇	六・八

沼津にては人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

一二四 八月二十五日午前四時十一分三十七秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分十七秒にして主要動となり最大振幅は午前四時十四分十五秒に於て三十一「ミクロン」振動期三秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は十一分二十秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は安房沖に發したるものにして震域北方は岩代の福島邊に北西方は信州長野邊より遠州濱松附近に及びり而して横須賀、布瓦にては弱震を感じ東京、熊谷、水戸、筑波にては微震を感じ微動は畿内附近に達したり

一二五 八月二十六日午後五時二十九分四十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分六秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後五時三十一分十七秒に於て五十八「ミクロン」振動期二秒四、南北動は午後五時三十一分四十四秒に於て百五「ミクロン」振動期二秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は九分三秒なり（簡單微動計六十倍の観測）

附記

此地震は九州南方に發したるものにして鹿兒島及宮崎にては

人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

一二六 八月三十日午後四時二十分五秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならされども最大振幅は午後四時二十二分三十七秒に於て五「ミクロン」振動期四秒三を現し後微となり静止せり全振動時間は九分二十八秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は沖縄群島附近に發したるものにして那覇にては人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

一二七 八月三十一日午後六時四十分二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分四十一秒にして主要動となり最大振幅（東西動）は午後六時四十三分十九秒に於て十五「ミクロン」振動期七秒二を現し後微となり静止せり全振動時間は十六分零秒なり

附記

此地震は九州の南方に發したるものにして宮崎にては微震を感じ大分にては人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

●本年土用後の氣象概況 本年は土用前より土

用に掛けて降雨少く晴天多くして近年になき暑氣酷烈なりしことは前號に記せるが更に土用後即ち立秋（八月九日）より秋分（九月二十四日）に至る期間の氣候を概叙せ

水戸附近に達し北西方は甲駿地方に及べり而して横濱にては弱震を感じ筑波にては微震を感じたり

一二〇 八月十七日午前十一時三十四分二十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分一秒にして主要動となり最大振幅は午前十一時三十六分十六秒に於て四十三「ミクロン」振動期二秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は十三分五秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は東京灣附近に發したるものにして震域北方は羽後の秋田附近に達し北西方は信州長野邊より遠州濱松附近に及べり而して横濱にては性質急なる弱震を感じ東京、熊谷、水戸筑波等にては微震を感じ微動は畿内附近に達したり

一二一 八月十七日午後零時五十四分三十三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分四十九秒にして主要動となり最大振幅は午後零時五十六分零秒に於て六「ミクロン」振動期四秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は五分五十九秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は東京灣附近に發したるものにして横濱、筑波にては

微震を感じ東京、水戸にては人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

一二二 八月二十四日午前三時六分四十四秒の地震

此地震は振幅極めて微にして振動の各部判明ならされども最大振幅は午前三時七分十四秒に於て四「ミクロン」振動期一秒六を現し全振動時間は三分五十六秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は攝津の北部に發したるものにして當府管内豊能郡東郷村にては西方に當り著しき音響を聞くと同時に約三秒時に漆る強き上下振動を感じ後約十六七秒時を経て微弱なる震動を感じたり

一二三 八月二十五日午前零時四十一分三十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分四十五秒にして主要動となり最大振幅は午後零時四十二分三十二秒に於て五「ミクロン」振動期二秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は四分八秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域北方は岩代の福島邊に達し南西方は駿河の沼津附近に及べり而して東京、福島

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は八分二十七秒、第二は七分十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後六時五十一分三十秒に於て十七「ミクロン」振動期十七秒三南北動は午後六時四十七分四十八秒に於て二十七「ミクロン」振動期十八秒二を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は一時四分十五秒、南北動は一時五分二十八秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならず、ざれども東北の地動計も震波を描きたり云ふ

一一七 八月十六日午前十時三分四十七秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は五分四十一秒、第二は四分六秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十時十七分三十五秒に於て十五「ミクロン」振動期十九秒二、南北動は午前十時十八分四十八秒に於て二十七「ミクロン」振動期十九秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は一時九分十秒南北動は一時五分十五秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならず、ざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記す

左の如し

函 館	午前一〇時〇二分四一秒
大 阪	全 一〇時〇三分四七秒
福 岡	全 一〇時〇四分一九秒
シカウエー(支那上海)	全 一〇時〇五分一六秒

一一八 八月十七日午前三時二十一分十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は五分五十三秒にして主要動となり最大振幅は午前三時二十二分四十六秒に於て七「ミクロン」振動期二秒九を現し後微となり靜止せり全振動時間は六分五十七秒なり (南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は東京灣附近に發したるものにして東京にては人身に感覺なきも普通地震計に感したり

一一九 八月十七日午前九時三十九分四十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分四十八秒にして主要動となり最大振幅は午前九時四十分三十七秒に於て二十「ミクロン」振動期三秒四を現し後微となり靜止せり全振動時間は八分十二秒なり (南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は東京灣附近に發したるものにして震域北方は常陸の

現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は一時四十分四十七秒、南北動は一時四十二分五十六秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

水	澤	午前〇時一六分五四秒
大	阪	全 〇時一七分一五秒
福	岡	?全 〇時二七分〇三秒
仁	川	?全 〇時二六分一一秒
ウカウエー(支那上海)	全	〇時二五分三七秒

一一四 八月十二日午前四時十三分八秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分八秒にして主要動となり最大振幅は午前四時十四分五
十五秒に於て四十一「ミクロン」振動期三秒一を現し後微
となり静止せり全振動時間は十四分四秒なり(南北動微
動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は本州の南東部に發したるものにして震域北方は陸前
石巻附近に達し北西方は信州飯田邊より伊勢の津附近に及べ
り而して横濱、横須賀、宇都宮、熊谷、筑波にては性質急な
る弱震を感じ家屋動搖し又微震を感じたるは東京、水戸、甲

府、前橋、石巻等にして微動に北海道の南部及畿内附近に達
したり

一一五 八月十二日午後四時四十四分八秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一期微動の繼續
時間は九分十二秒、第二は七分二十二秒にして主要動と
なり最大振幅は東西動は午後五時八分四十四秒に於て十
「ミクロン」振動期十六秒八南北動は午後五時九分二十五
秒に於て十二「ミクロン」振動期十四秒四を現し後微とな
り静止せり全振動時間は東西動は一時十五分十秒、南北
動は一時十二分五十八秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

臺	北	午後四時四一分三九秒
ウカウエー(支那上海)	全	四時四三分一〇秒
仁	川	全 四時四四分〇八秒
大	阪	全 四時四四分〇八秒
水	澤	全 四時四四分五一秒
福	岡	全 四時四五分〇一秒

一一六 八月十二日午後六時二十五分五十三秒の地震

●二十八日概ね晴天西部地方に雷雨あり●二十九日概ね晴天池田に雷鳴あり●三十日概ね晴天●三十一日晴曇相半し大阪、柏原に雨降り

大阪地震観測概況

覺に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て観測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の器械にて観測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し

Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Lは長波即ち主要部全上、Mは主要部の最大動、Cは終期の最大動、Fは振動の終了又(+)は南北動にありては北、東西動にありては東、(-)は南北動にありては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」毫ノ千分一を以て記す

本月中に地震を観測したる數は二十一回にして人身に感覺ありたるものは一回もなく人身に感覺なく普通地震計に感したるものも亦た一回もなかりしか無感覺地震にして地動計又は微動計に感し其震源本邦内にありたるものは十六回にして就中東京灣附近に發したるものは四回、安房沖、鹿島洋、九州の南方各二回、紀伊水道、三陸の東方遠洋、日向洋、本州の南東部、攝津北部、沖繩群島

附近各一回なり又遠距離地震は五回にして未だ震源は詳ならず今其観測概況を列記すれば左の如し

一〇七 八月三日午前三時四十九分三十二秒の地震

此地震は性質稍々急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分二十六秒にして主要動となり最大振幅は午前三時五十分五十五秒に於て十九「ミクロン」振動期二秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は六分五十八秒なり(南北動微動計百二十倍の観測)

附記

此地震は紀伊水道に發したるものにして潮岬、關山、福井等に於ては人身に感覺なきも普通地震計に感したり

一〇八 八月三日午後二時四十四分五十二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分二十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後
二時四十八分五秒に於て三十七「ミクロン」振動期五秒八
南北動は午後二時四十八分三十秒に於て三十五「ミクロ
ン」振動期六秒二を現し後微となり靜止せり全振動時間
は東西動は十三分五十五秒南北動は十四分五十九秒なり

附記

此地震は安房沖に發したるものにして豊城北方は岩代の福島邊に南方は小笠原列島に達せり

附記

此地震は三陸の東方遠洋に發したるものにして震域北方は北海道の根室邊に南西方は駿河の沼津附近に達し西方は日本海沿岸に及べり而して函館、根室、青森、福島、水戸にては人身に緩なる微震を感じ微動は遠く朝鮮、支那及臺灣等に及びたり其發震時を列記すれば左の如し

函	館	午後一〇時一三分二九秒
水	澤	全一〇時一四分〇三秒
大	阪	全一〇時一五分四二秒
福	岡	全一〇時一六分一九秒
仁	川	全一〇時一六分二四秒
シカウ	エー	全一〇時一七分四五秒
臺	北	全一〇時一八分二〇秒

一一一 八月七日午前十時四十六分二十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十時四十七分四十四秒に於て四十「ミクロン」振動期三秒四、南北動は午前十時四十七分三十六秒に於て五十五「ミクロン」振動期三秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は十三分三秒、南北動は十五分五秒なり

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域廣く北方は羽後の

秋田附近に南方は駿河の沼津邊に達し西方は流尾地方より伊勢の津附近に及べり而して水戸、筑波、宇都宮、横濱、横浜、賀等にては性質急なる弱震を感じ家屋動搖せり

一一二 八月七日午後一時三十三分三秒の地震

此地震は性質微なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分四十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後一時三十六分二十七秒に於て五十「ミクロン」振動期四秒八南北動は午後一時三十六分一秒に於て六十二「ミクロン」振動期三秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は二十九分八秒南北動は二十八分四十七秒なり

附記

此地震は日向洋に發したるものにして宮時にては性質急なる微震を感じ鹿兒島にては人身に微震を感じ名瀬、大分にては人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

一一三 八月八日午前零時十七分十五秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は十七分六秒、第二は十三分五十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前零時五十八分六秒に於て五十五「ミクロン」振動期十八秒二、南北動は午前零時五十八分十七秒に於て六十五「ミクロン」振動期十五秒八を

一〇九 八月三日午後十時十二分十六秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は五分四十九秒、第二は五分二十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後十時二十五分四十八秒に於て六十五「ミクロン」振動期十七秒三、南北動は午後十時二十四分五十二秒に於て八百五十「ミクロン」振動期二十秒六を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は一時三分四十九秒南北動は一時五分十五秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し但し時刻は日本中央標準時に據る以下皆全じ

臺 北 午後一〇時〇八分五六秒
ツカウエー 全 一〇時一二分一一秒

東西動地動計觀測

發	現時		最大振幅	振動期
	初 期 微 動	主 要 動		
	P	二二時一五分四二秒		
	S			
	L	二二時一八分二四秒		
	M ₁	二〇分〇五秒	一五〇	一四、四
	M ₂	全 二三分四一秒	二二二	一四、四
終 期	F	二四時二七分三六秒		

大 阪 全 一〇時一二分一六秒

福 岡 全 一〇時一二分三三秒

仁 川 全 一〇時一二分四五秒

水 澤 全 一〇時一二分五八秒

函 館 全 一〇時一三分〇一秒

大 連 全 一〇時一三分〇六秒

一一〇 八月六日午後十時十五分四十二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は二分四十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後十時二十三分四十一秒に於て二百二十二「ミクロン」振動期十四秒四、南北動は午後十時十九分四十四秒に於て四百七十五「ミクロン」振動期二十三秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は二時十一分五十四秒南北動は二時十分二十八秒なり即ち次表に示すか如し

南北動地動計觀測

發	現時		最大振幅	振動期
	初 期 微 動	主 要 動		
	P	二二時一五分四二秒		
	S			
	L	二二時一八分二四秒		
	M ₁	一九分四四秒	四七五	二二、〇
	M ₂	全 二二分三〇秒	三一七	一九、二
終 期	F	二四時二六分一〇秒		

第四表 管内降水日量

八	月	深井	上之	田	岸和	長承	濱寺	堺	天王	大阪	福島	新庄	池田	山	妙見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	富田	長野
廿	日																								
二	日																								
三	日																								
四	日																								
五	日																								
六	日																								
七	日																								
八	日																								
九	日																								
十	日																								
十一	日																								
十二	日																								
十三	日																								
十四	日																								
十五	日																								
十六	日																								
十七	日																								
十八	日																								
十九	日																								
二十	日																								
廿一	日																								
廿二	日																								

觀測所

深日 上之郷 岸和田 長承寺 濱寺 堺寺 天王寺 大阪 福島 新庄 池田 妙見山 東郷 天王 茨木 清水 枚方 田原 八尾 柏原 富田 長野

平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低

平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低

平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低

平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低 平均 最高 最低

Table with 12 columns and 12 rows of numerical data for each station. The data includes values for temperature, precipitation, and other meteorological metrics.

多きは東郷の百三十二耗〇、南部深日の百三十一耗

一にして池田の百一耗二之れに亞けり又日量の八十

耗以上なりしは大坂、新庄の二ヶ所六十耗以上なり

しは上之郷、濱寺、天王寺、福島、妙見山、茨木、

清水、枚方、柏原の九ヶ所五十耗以上なりしは富田

林長野の二ヶ所にして其他は四十九耗より三十耗の

間にあり

雷 雨

本月中に雷雨を観測したるは八、九、十

十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十六、二

十八、二十九日の十一回にして其内顯著なるものを

詳記すれば左の如し

十日 午後三時頃大阪灣の南西方より來り漸次接近

し大阪市附近より上陸して尙北上し丹波國境に經過

せり此の雷雨の通過に際し中心附近は強雷となり且

つ大雨之れに伴ひ新庄の如きは一時三十五分間に四

十二耗一を豪注し其他と雖も二時間以内に二十五耗

内外の降雨あり

十九日 午後八時頃丹波方面より來り尙南下し新庄

附近迄は強雷なりしか夫れより進路を北東に轉し稍

々微弱となり山城國境に經過し去れり

二十一日 午後二時過攝津國豊能郡の南部に發生し

北進して丹波國境に去れり此の雷雨は大坂附近にて

は微雷にして降雨もなかりしか池田地方は雷鳴強烈

にして降雨甚しく落雷九ヶ所に達し其内六ヶ所は孰

れも箕面有馬電氣鐵道線なりしか全郡萱野村に落雷

したる三ヶ所の内一ヶ所は大字西宿字千里山、山番

小屋に落雷し四名の震死者を出せりと云ふ

二十二日 午後五時頃攝津國北端に強雷あり東郷附

近最も烈しく且つ豪雨之れに伴ひ約一時間に二十五

耗を降下し漸次北東方に經過し去れり

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲印は高又は多)

し日射強烈なるの結果雷雨の發生を促し爲めに豪雨を注下すること往々あり然り而して本年八月の氣候を調査するに上旬の始めは前月末の氣象を享け頗る高温にして二日には一般に最高の極に達し西部茨木及枚方にては三十八度○東部柏原にては三十七度九に昇り其他も概して三十五度以上を示し暑氣酷烈を極めたりしか四日及五日に亘りて連續的降雨あり之れか爲めに暑氣大に減殺し兩日は最高氣温三十度に昇らず冷氣を感せしも降雨の霽るゝや忽ち恢復して日々三十度以上を持續し屢々雷雨を發生せり然りと雖も到底月初の暑氣には及はざりき又降水は上旬に多く就中九日の如きは頗多量にして北部東郷は百三十二耗○南部深日は百三十一耗一を量れり之れ元より驟雨性豪雨なるを以て近距離の所にては山岳の向背により其差著しく天王は僅か五十七耗五に過ぎざりき要するに本月は驟雨多く從て其量も過多なりしか天氣は晴天の日多く且つ氣温は平年より高く先づ順當に經過せしものなり更に氣温、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は西部天王寺、東部八尾の二十八度

降

二より北部妙見山の二十二度八の間にありて之れを平年に比すれば概して高き方にあり而して最高は一般に二日に現はれ西部茨木全枚方の三十八度○を極とし東部柏原の三十七度九、西部天王寺の三十七度五之れに亞き沿海及平川部は三十七度乃至三十五度、山間部は三十四度乃至三十一度なりしか獨り妙見山は三十度に及はざること一度四なりき又最低は三十日に現はれ北部天王の九度九を低極とし今妙見山の十一度九全東郷の十二度四之れに亞き其他の山間部は十三度乃至十四度を示し沿海部より平川部の一帯は十五度乃至十八度を示せり要するに本月の氣温は最高三十八度()より最低九度九の間にありて其較差は二十八度一に達せり

水

總量は北部東郷の三百○耗六より東部田原の百七耗四の間にありて之れを平年に比すれば田原及天王は稍々少かりしも其他は一般に多く深日、新庄、池田の如きは平年の二倍以上に達せり而して日量の最多は四日及九日の降雨の際にありて其最も

三十日	七五、〇	二四、三	三、三	三〇、四	一七、二	一三、二	一四、六	六、一	二、九	四、二	北東	五、一	二、〇	〇、八	六、二
三十一日	七五、六	二五、七	〇、八	三〇、五	一七、五	九、〇	一六、八	六、九	三、三	六、七	西南西	七、二	五、九	〇、〇	六、二
全月	七五、八	二七、四	〇、三	三〇、三	一七、八	八、〇	一六、八	七、四	三、二	四、四	東北東	六、四	三、三	二、九	三、四、八

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

八月 地皮十種二十種三十種六十種 最低 諸現象の摘要

日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
地皮十種	三五、一	三四、五	三四、一	三四、七	三四、四	二八、二	二六、六	二六、六	二五、七	二九、一	二八、一	二七、七	二八、一	二八、一	二九、二
二十種	二九、六	二九、一	二九、八	二九、一	二七、〇	二七、五	二六、七	二六、八	二七、五	二七、九	二六、八	二六、四	二六、一	二六、三	二六、九
三十種	二九、四	二九、六	二九、八	二九、一	二七、〇	二七、三	二六、九	二六、五	二七、九	二七、五	二六、三	二六、四	二六、三	二六、三	二六、五
六十種	二九、三	二九、三	二九、三	二九、一	二七、五	二七、二	二六、九	二六、七	二七、九	二七、〇	二六、九	二六、〇	二六、三	二六、三	二六、二
最低	二七、〇	二七、四	二七、四	二七、三	二七、五	二六、六	二六、六	二六、七	二六、九	二七、〇	二六、八	二六、五	二六、三	二六、三	二六、六
諸現象の摘要	午前零時三十分より一時二十分迄月象現はれ午前十時五分より午後二時三十分迄日象現る	午前十時より午後七時迄及十一時より夜半迄強風吹けり、午後二時五十分より三時八分迄雷雨	午前二時より四時迄全八時より正午迄及午後三時より強風吹き翌日に至る、午前九時二十分より降雨翌日に至る	前日來の強風吹き續き午前七時に至る正午より午後二時迄又強風吹けり前日來の雨斷續して翌日に至る	前日來の雨斷續して午前六時四十二分歇む、夜薄露あり	朝薄露あり、午前五時より六時迄烟霧あり、夜露あり	朝霧あり、午前三時五十分より五時四十分迄薄霧あり、午後二時五分より小雨斷續して全六時三十分歇む午後七時四十五分より八時五十分迄北西方に電光あり、午後十一時五十分より小雨翌日に至る	前日來の小雨午前零時三十五分一旦歇む、午前零時二十五分より西方に電雷起り一時二十分電光のみとなり一時四十分南西に廻り二時二十分に至る、午前七時廿五分より降雨時々大雨を交へて斷續し翌日に至る	前日來の小雨午前零時三十分迄午後四時十五分迄歇む午後三時十五分より南西方に電雷起り三時廿一分頃天に來り強雷となり三時五十分北方に廻り稍々良へ四時四十分北西に廻り四時五十分歇む午後十一時十八分より小雨翌日に至る	前日來の小雨午前一時廿五分歇む、午前十一時強風吹けり、午後零時五十分より一時十九分迄及夜薄露あり	朝薄露あり	朝薄露あり、午前七時卅五分より午後四時十分迄時々日象現る、午後十一時四十分より雷雨翌日に至る	前日來の小雨斷續して午後九時十分歇む	前日來の小雨斷續して午後九時十分歇む	

平	夜	後										正	十一時	十時	
		午													
		十一時	十時	九時	八時	七時	六時	五時	四時	三時	二時				一時
均	半	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
七五、七	七五、九														
七五、七	七五、九														
七五、七	七五、九														
七五、七	七五、九														
七五、七	七五、九														
七五、七	七五、九														
七五、七	七五、九														
七五、七	七五、九														

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の一 (表中▲印は滿又は多)

八 月 氣壓 平均 極高 極低 平均 湿度 飽和差 平均 風 平均 日照時數 降水 量 發見

一	七五、七	元、二	二、一	四、六	七、〇	六、五	美	一、四	六、九	八、八	北東	北東	六、〇	二、六	▲	一、三	六、六
二	七五、八	元、〇	二、九	三、三	二、二	一、八	空	三、〇	六、〇	九、九	北東	東北東	六、〇	二、二	▲	一、一	六、一
三	七五、一	元、〇	▲	一、九	三、三	二、五	八	一、三	九、八	二、六	東北東	東北東	四、七	一、五	▲	二、六	〇、〇
四	七五、四	元、三	▲	〇、五	元、	三、八	四、四	一、九	六	五、五	北東	北東	〇、〇	一	▲	五、〇	三、五

午前六時乃至午後七時に於て二十六度五を示せり但し此深さにありては殆ど一日中の變化を認め難し以上列記する地中溫度を通觀するに最高は地皮にありては午後一時、地中十糶にありて午後五時、同二十糶にありては午後八時、同三十糶にありては午前一時に生し最低は地皮にありては午前五時、地中十糶にありては午前八時、同二十糶にありては午前十時、同三十糶にありては午後二時乃至三時に生せり之れに依りて地皮より地中に熱の傳達する梗概を知

第一表 大阪毎時氣象觀測成績表

前	午									八
	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	月
七、四、三	七、四、五	七、四、九	七、四、一〇	七、五、八、四	七、五、八、四	七、五、六、九	七、五、六、六	七、五、六、三	七、五、六、一	平氣壓
二六、二五	二七、〇、八	二五、八、〇	二四、五、五	二四、四、〇	二四、五、七	二四、五、七	二四、八、九	二四、八、九	二五、二、〇	平均溫度
一九、四、八	一九、六、三	一九、七、二	一九、六、五	一九、六、三	一九、七、七	一九、七、七	一九、八、二	一九、八、六	一九、八、九	水蒸氣 平均
六、四	七、五、六	七、九、五	八、五、七	八、六、一	八、五、八	八、四、九	八、四、九	八、五、二	八、三、八	平均濕度
八、七、五	六、八、三	四、九、三	三、三、三	三、〇、七	三、一、五	三、四、二	三、四、二	三、四、一	三、七、二	平均飽差
三、五、三	三、五、三	三、六、一	三、七、七	三、七、四	三、七、七	三、七、五	三、七、五	三、七、三	三、六、五	風速度 平均
六、六	六、五	七、六	六、六	六、八	五、三	六、五	六、三	六、三	五、九	平均雲量
一九、〇	一六、〇	九、五	一、三	—	—	—	—	—	—	日照 時數
一、三	一、九	三、三	二、九	三、九	一、八	四、〇	一、〇、八	一、〇、八	二、二	降水量
七、七、七	六、九、七	六、〇、〇	五、七、四	五、六、三	五、七、六	五、九、五	六、一、七	六、一、二	六、三、三	地皮溫度
七、七、七	七、七、三	七、二、五	七、〇、四	七、〇、六	七、〇、七	七、〇、七	七、〇、七	七、〇、七	七、〇、七	十糶
六、二、二	六、九、九	六、四、四	六、三、三	六、四、四	六、五、五	六、六、一	六、七、七	六、七、七	六、七、七	二十糶
六、二、二	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	三十糶
六、二、二	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六、六、六	六十糶

るを得へし
最低地温 平均は二十一度一三にして平年に比す
れは零度一七高く月中の最低は三十日午前五時に於
て十四度六を示せり

天氣日數 快晴は二日にして平年より三日少く曇

天は十日にして平年より五日多く電雷は六日にして
平年より三日多し

尙詳細は左に掲ぐる成績表を参照すへし

に比すれば一、四多く日照時数は二百三十三時六五にして平年に比すれば三十三時八六少く一日中日照時間の最も長かりしは十六日の十二時三〇なり

降水及蒸發量 降水日数は十三日にして平年に比

すれば二日其水量は百九十耗二にして平年に比すれば六十七耗三孰れも多し又一日中の最多量は十日の六十三耗〇、一時間の最多量は同日午前四時乃至五時の二十二耗五なり、又蒸發總量は二百十四耗八にして平年に比すれば十一耗二少く一日中の最多量は二日の十三耗一なり

地中溫度及最低地溫 地皮溫度の平均は二十八

度八一にして平年に比すれば零度八三低く月中の最高は二日正午に於て五十二度九を示し最低は三十日午前五時に於て十七度六を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後一時にありて三十七度八九、最低は午前五時にありて二十三度六二を示し其較差は十四度二七なり

地中十糶の溫度 平均は二十八度五五にして平年に等しく月中の最高は二十日午後五時に於て三十二度三を示し最低は三十日午前八時に於て二十四度二を

示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後五時にありて三十度〇〇、最低は午前八時にありて二十七度二一を示し其較差は二度七九なり
地中二十糶の溫度 平均は二十八度五五にして平年に比すれば零度一三高く月中の最高は二十日午後八時に於て三十度七を示し最低は三十日午前十一時に於て二十六度三を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後八時にありて二十八度九七、最低は午前十時にありて二十八度一〇を示し其較差は零度八七なり

地中三十糶の溫度 平均は二十八度六一にして平年に比すれば零度三四高く月中の最高は二十一日午前一時にありて三十度一を示し最低は六日午前二時より午後三時に於て二十七度〇を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午前一時にありて二十八度八一、最低は午後二時乃至三時にありて二十八度四五を示し其較差は零度三六なり

地中六十糶の溫度 平均は二十七度三六にして平年に比すれば零度二一低く月中の最高は二十二日午前七時乃至夜半に於て二十八度〇を示し最低は七日

示せり之れを既往三十三年間の観測に徴するに斯る現象は明治三十年八月十四日、同三十六年八月十四日同四十二年八月二日の三回のみなりき、又最高氣温の三十度以上に昇りし日數は二十九日にして平年に比すれば二日多し而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後二時にありて三十度九一、最低は午前五時にありて二十四度四〇を示し其較差は六度五一なり

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

十九耗八三にして平年に比すれば零耗三三高く月中の最高は十日午後四時及夜半に於て二十四耗三を示し、最低は二十九日午後三時乃至四時に於て十二耗〇を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後七時にありて二十耗四二、最低は午前十時にありて十九耗一六を示し其較差は一耗二六なり

濕度の平均は七十四、〇にして平年に等しく月中の最少は二日午後三時に於て三十五を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前五時にありて八十六、一、最少は午後二時にありて五

風

十九、八を示し其較差は二十六、三なり
飽差の平均は毎立方米中七瓦二五にして平年に比すれば零瓦〇七多く月中の最多は二日午後三時に於て二十六瓦七、最少は九日夜半乃至十日午前一時に於て零瓦七を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午後二時にありて十三瓦一〇、最少は午前五時にありて三瓦〇七を示し其較差は十瓦〇三なり

平均速度は毎秒四米四四にして平年に比すれば零米四一弱く月中の最大速度は五日午前二時三十分に於て毎秒二十米四（一間平方面を垂直に壓する力は四十四貫目）の東北東風なり、又強風以上の吹きたる日數は六日にして平年より五日少く強風以上の總時數は四十二時にして平年より二時多し又月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後五時にありて六米三三、最小は午前六時にありて三米三七を示し其較差は二米九六なり、風向は北乃至北東風最も多く南西風之れに亞き南東風は最も少し之れを平年に比すれば北及東風は多く其他の風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は六、四にして平年

大阪測候所月報

大正四年 八月 大阪氣象概況

八月は一年中に於て暑氣最も烈しき時期にして風は晝間は南西風吹き夜間は北東風となり好晴の天氣多く雨量は最も少き時期なりしも時々雷雨發生し大雨を豪注し又は颪風襲來して暴風雨を起すことあり、然り而して本年八月の氣候を調査するに氣温は半年より高く最高は二日に於て三十六度のを示し同日に於ける累年の最高平均に比すれば三度八高く日照時數は少くして降雨多く風は四日五日は強かりしも強烈なる暴風雨は少かりし今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の半年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百五十三耗七七にして半年に比

すれば二耗四九低く日々の變化は氣象圖に示すか如く稍々著しき昇降を呈せしは三河にして其他は微なる昇降なりき、而して月中の最高は二十一日午前八時に於て七百六十耗〇〇を示し、最低は五日午前

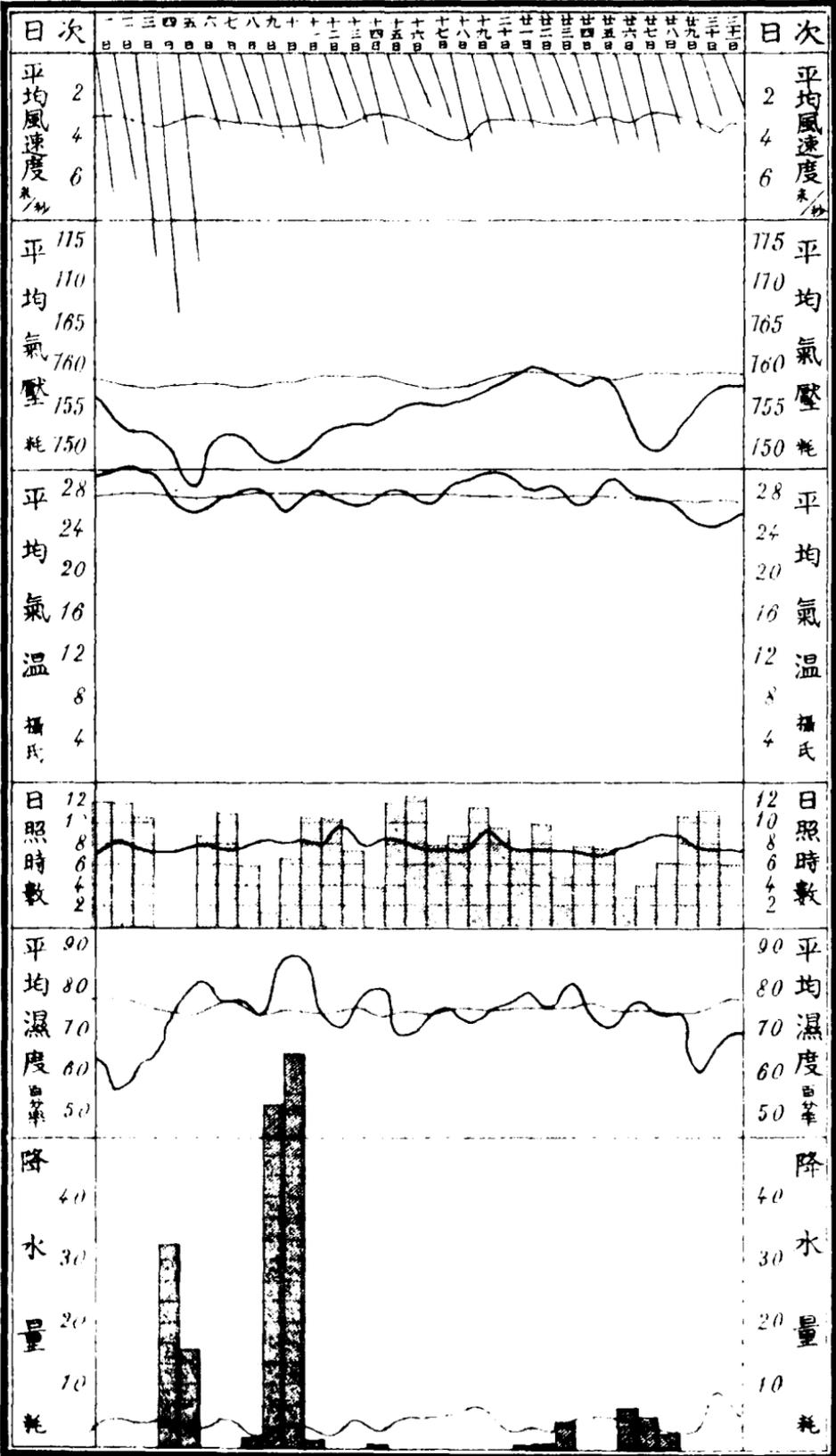
氣 温 平均は二十七度三九にして半年に比すれば

五時に於て七百四十耗〇三を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに第一の最高は午前十時にありて七百五十四耗三三、第一の最低は午後五時にありて七百五十三耗一四を示し第二の最高は午後九時にありて七百五十四耗〇一、第二の最低は午前三時にありて七百五十三耗六三を示せり而して其較差は一耗一九なり

は零度二八高く平均氣温日々の變化は一日より四日までは著しく高かりしか五日より十六日までは一高一低不定にして十七日より二十七日までは稍々高く二十八日以後は低し而して月中の最高は二日午後三時に於て三十六度のを示し、半年より一度九高く最低は三十日午前六時頃に於て十七度を示せり而して夏季にありても平均氣温の三十度以上を示すことは甚た稀なるに本年八月二日は平均氣温三十度のを

大 阪 氣 象 圖

本圖ハ日平均又ハ合計ニ依リテ調製シ、風速度、氣壓、氣温、濕度ハ本年——平年——日照時數、水量ハ本年——平年——



例言

一 本報は常測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者なり但し日々の觀測は常測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一 氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は乾(曲尺三厘毫)を以て示す
 一 湿度は凡て攝氏の度を用ゐる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふへし

一 最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものは之れを前日に繰上げて記入せり

一 飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(ギラム 忽二七)にて示す

一 湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す

一 降水量は乾を以て其深さを測り之を記す、但し一乾は一步面に水壹升八合三勺を撒布したるに相當す

一 雲量は十分率を以て示す

一 風速度は一秒時間の米(曲尺三三寸)數なり

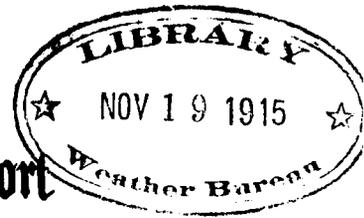
一 風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は標全く直立し又は樹葉動かさるもの一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一 風向は北北東東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す

一 天氣日數中雨とは雨雪霰雹の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

大阪府管内氣象觀測所位置

觀測所	國	郡市	町	村	緯	經	北	緯	觀測主任
深日	和泉國	泉南郡	深日村	三三度〇九分三四度一九分					上出源助
上之郷	和泉國	泉南郡	上之郷村	三三度一八分三四度二三分					島場留藏
岸和田	和泉國	泉南郡	岸和田町	三三度二三分三四度二七分					森内清次
長承寺	和泉國	泉北郡	長承寺村	三三度二七分三四度三三分					前川由太郎
瀨寺	和泉國	泉北郡	瀨寺村	三三度二六分三四度三二分					今井富次
堺	全國	堺市	堺町	三三度二九分三四度三五分					吉村正輔
天王寺	大阪國	大阪市	天王寺	三三度三一分三四度三九分					加藤昭純
大坂	大阪國	大阪市	大坂	三三度二六分三四度三九分					府立大阪一等測候所
福島	大阪國	大阪市	福島	三三度二九分三四度四二分					笠谷正三郎
新庄	大阪國	成田郡	新庄村	三三度三一分三四度四五分					植田隆照
池田	大阪國	豐能郡	池田町	三三度二六分三四度五〇分					笹部利作
妙見山	大阪國	豐能郡	妙見山村	三三度二八分三四度五六分					阪部文二郎
東郷	大阪國	豐能郡	東郷村	三三度二九分三四度五七分					大原仁之助
天王	大阪國	豐能郡	天王村	三三度二三分三四度〇二分					高橋政次郎
茨木	大阪國	三島郡	茨木町	三三度三四分三四度四九分					高橋菊之助
清水	大阪國	三島郡	清水村	三三度三六分三四度五三分					山本義一
枚方	大阪國	北河内郡	枚方町	三三度三九分三四度四九分					家村八五郎
田原	大阪國	北河内郡	田原村	三三度四二分三四度四三分					東尾重藏
八尾	大阪國	中河内郡	八尾町	三三度三六分三四度三八分					水谷芳松
柏原	大阪國	南河内郡	柏原村	三三度三七分三四度三五分					畿内農事試験支場
富田	大阪國	南河内郡	富田町	三三度三七分三四度三〇分					塔本幸太郎
長野	大阪國	南河内郡	長野町	三三度三五分三四度二七分					松本達水



Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory

August

1915

大阪測候所月報

大正四年八月

第拾六年第八號

目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 本年大阪地震觀測概況
- 本年土用後の氣象概況
- 本年八月中の暴風雨概況
- 中央亞米利加の大震
- 大阪府管内の初霜季節
- 本冬季の初霜
- 淀川の水位
- 地方天氣觀報暴風警報通否

大正四年九月二十五日印刷
全 年九月三十日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江戶堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

(電話土佐編二三四二番)

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市	町村	緯度東經	北緯	取扱官衙
谷川崎	和泉國泉南郡	多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所
尾崎	和泉國泉南郡	尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署
佐野	和泉國泉南郡	佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡	岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺	和泉國堺市	吾妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署堺港水上巡查派出所
木津川	攝津國大阪府	西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	安治川水上警察署木津川分署
北加賀屋	攝津國東成郡	數津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
蹴波島	攝津國大阪府	西區中口町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全木津川分署蹴波島水上巡查派出所
安治川	攝津國大阪府	北區安治川通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安治川水上警察署
天保町	攝津國大阪府	西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署
大阪	攝津國大阪府	西區一條通	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等測候所
大津	攝津國西成郡	西區一條通	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署
傳法	攝津國西成郡	傳法町	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	豐能郡東郷村役場
東郷	攝津國豐能郡	東郷村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	

○淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 四尺零寸
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 三尺八寸六分

日	廣瀬		大日	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
七月 一日	五、五	五、五	四、一	四、二
二日	四、八	四、六	八、六	五、一
三日	四、五	四、四	七、五	七、三
四日	四、四	四、三	六、三	六、一
五日	四、三	四、二	五、五	五、四
六日	四、七	四、七	四、五	四、五
七日	六、五	五、二	四、五	四、一
八日	四、五	四、五	三、九	三、八
九日	四、五	四、五	三、九	三、七
十日	四、五	四、一	三、七	三、五
七月 十一日	四、八	四、八	三、六	三、五
十二日	四、五	四、五	三、六	三、五
十三日	四、三	四、三	三、五	三、四
十四日	四、二	四、二	三、五	三、四
十五日	四、七	四、七	三、五	三、四
十六日	五、四	五、四	三、五	三、四
十七日	五、〇	五、〇	三、五	三、四
十八日	四、四	四、四	三、五	三、四
十九日	四、五	四、五	三、五	三、四
二十日	三、六	三、六	三、五	三、四
七月 二十一日	四、一	四、一	三、五	三、四
二十二日	六、一	五、一	三、五	三、四
二十三日	七、五	七、五	三、五	三、四
二十四日	五、六	五、五	三、五	三、四
二十五日	四、五	四、五	三、五	三、四
二十六日	四、五	四、五	三、五	三、四
二十七日	四、五	四、五	三、五	三、四
二十八日	四、五	四、五	三、五	三、四
二十九日	三、九	三、八	三、五	三、四
三十日	三、七	三、六	三、五	三、四
三十一日	三、七	三、五	三、五	三、四

地方天氣豫報暴風警報適否調査

種	類	發布數	正中百			
			正中	偏中	不中	分比例
暴風警報	天氣豫報	風向	三二	二八	〇	九五
			三二	二九	〇	九五
暴風警報	溫度	風向	〇	一	〇	九七
			一	一	〇	九七

平均水位 廣瀬 四尺零寸七分
 最高水位 廣瀬 八尺六寸
 (十二日午後六時)

大日 三尺九寸一分
 三尺二寸五分
 (十三日午前六時)



ものは明治三十九年八月十七日午前九時過「アリウシア
ン」群島の南西方海底即ち東經百七十五度北緯五十度邊
に發したる大震にして今回の地震と相伯仲せり（地震觀
測概況の項參照）

●當所の出品 技手 圓岡平太郎

本年六月二十五日より九月六日迄天王寺公園に於て衛生
大博覽會を開催せらるゝに方り同會より氣象と衛生とは
最も密接なる關係を有するか故に何か參考品を出品せら
たき旨依頼し來たりたり依て例の美術館前の天氣堂（本
年四月々報參照）に左の出品をなしたり

一 天氣圖、天氣圖記號の解、天氣概況、

二 風速度一日中及一年中の變化圖、各風向に對する速度
及回数一年中の變化圖、風信器、風力計及電氣盤、

三 雨量及雨天日數一年中の配布圖、濕度中一日及一年中
の變化圖、濕度計、

四 氣壓及氣温一日中及一年中の變化圖、「リシヤール」形

自記晴雨計及自記寒暖計、

五 自記雨量計但し水を入れ不斷運轉せしむ

六 東京、大阪の二大都市に於ける人の死亡と氣温との關
係圖及大阪市内の煤煙配布圖、清水と煤煙水との二瓶
對照

八月一日	二元三	▲	二〇〇	〇・四	三四六	▲	二六	一三	二四六	▲	一一	二四	二六	▲	三五	〇	一
全 二日	二〇〇	▲	二八	▲	〇・三	三六〇	▲	三八	二四	二四	▲	〇・九	一三	二四	▲	四	〇
全 三日	一九〇	▲	一七	〇・五	三三〇	▲	〇・八	〇・五	二五	八	▲	〇・四	一〇・五	▲	三	〇	一
全 四日	二六二	▲	〇・九	三・五	二八二	▲	三・六	四・五	二八	八	▲	〇・三	三・八	▲	七	〇	一
全 五日	二五〇	▲	一四	三・九	二八一	▲	三・六	五・五	三三	八	▲	〇・八	一・九	▲	七	〇	一
全 六日	二七〇	▲	〇・一	二・四	二七〇	▲	〇・六	三・三	三三	八	▲	〇・四	〇・五	▲	一〇	〇	一
全 七日	二七八	▲	〇・二	一・五	二九九	▲	〇・一	一・二	二四	三	▲	〇・四	〇・八	▲	三	〇	一
全 八日	二六〇	▲	〇・二	一・二	二五六	▲	一・〇	〇・六	二四	四	▲	〇・七	五・七	▲	二	〇	一
平均又ハ合計	二六二	▲	一・一	一・〇	二三四	▲	〇・七	〇・八	二四	五	▲	一・二	一・九	▲	一	〇	一

●七月中の暴風雨概況 本年七月は著しき暴風

雨なく平穩に經過したるか就中風の稍々強かりしものを記すれば左の一回なり

七月一日楊子江の上流域に低氣壓現はれ長江に沿ふて東行し二日の朝杭州灣を経て支那東海に入り四日午後九州の南端を横切り六日紀伊沖を通過し七日八丈島の南方を経て太平洋に入れり

此の低氣壓は四日には九州地方に五日には東海道に風雨を起せしか大阪地方は五日午前一時四十二分より小雨降り始め夜に入り雨勢加はり六日午前^{三十分}止む此雨量は四十耗七なり又風は三日朝來北乃至北東の和風なりしか

午前九時頃より疾風となり午後二時乃至三時は強風に達

し毎秒速度十一米四を示し爾後風力衰へ六日までは北乃至北東の疾風乃至和風吹き曇天なりしか七日に至り天候恢復し晴天となり南西の風吹けり

●「アリウシアン」群島沖の大震 七月三十

一日午前十時過「アリウシアン」群島の南西方海底に發したる大震は頗る顯著なるものにして本州及九州にては人身に感覺なきもの普通地震計に感じ各所の地動計は孰れも著しき振幅を現し爲に描計圓筒外に逸出し最大振幅を測る能はざる所多かりし元來全地方は亞米利加地震帶に屬する地域にして數々地震を發せるか其最も顯著なる

梅雨期を過くれは忽ち夏の土用となり俄然気温上昇し盛夏の状態に遷るを常とす然り而して本年は降雨少く七月十四日より八月三日に至る二十二日間は殆んど旱天打續き爲に非常に暑氣加はり八月二日には最高三十六度〇(華氏九十六度八)に達し實に築港に於ては稀なる高温を呈せり之れを詳記すれば左の如し

本年土用(七月二十一日より八月八日)に至る十九日間)の氣象を見るに平均気温は風雨ありし八月四、五、六日の外は日々半年より零度四乃至二度八高く最高気温も亦た

日々殆んど三十二度以上を示し二日の如きは築港にて觀測開始以來の高度なりしか土用中を平均すれば昨年より稍低度なりき而して雨天日數は僅に三日に過ぎさりしも八月四日には深厚なる颱風の襲ひ來りし爲の多量の降雨ありたれば日數の少き割合に雨量は多かりしも昨年及平年より稍々少し而して日照時數は半年より多し

今本年土用中日々の気温日照時數を平年及昨年に比し昨今兩年の降水量を表記すれば左の如し

表中▲印は高又は多無印は低又は少

月	種	平均		最高		最低		日照	時數	降	水量
		今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年				
七月	二十一日	六・六▲	一・七	三二・一▲	二四・四	一五・五	三三・三▲	四・一	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十一日	六・六▲	一・七	三二・一▲	二四・四	一五・五	三三・三▲	四・一	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十三日	六・三▲	一・六	三二・五▲	二四・一	一五・八	三三・五▲	五・一	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十四日	六・四▲	一・五	三二・三▲	二四・〇	一五・五	三三・四▲	四・八	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十五日	六・七▲	一・六	三二・四▲	二四・一	一五・七	三三・七▲	四・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十六日	六・七▲	一・九	三二・三▲	二四・一	一五・九	三三・九▲	四・九	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十七日	六・六▲	一・八	三二・七▲	二四・〇	一五・八	三三・七▲	四・九	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十八日	六・三▲	一・三	三二・三▲	二四・〇	一五・八	三三・七▲	四・八	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	二十九日	六・三▲	一・〇	三二・三▲	二四・〇	一五・八	三三・七▲	四・八	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	三十日	六・一▲	〇・八	三二・八▲	二四・〇	一五・八	三三・八▲	四・八	〇・〇	〇・〇	〇・〇
全	三十一日	六・九▲	一・七	三二・〇▲	二四・五	一五・八	三三・八▲	四・八	〇・〇	〇・〇	〇・〇

東西動地動計觀測

終期	主要動	初期微動		最大振幅	振動期
		S	P		
F	M ₂ M ₁	全	一〇時三十七分一四秒		
		全	四一分五四秒		
		全	四四分二八秒		
		全	四六分三八秒		
		全	四八〇〇以上		
		全	五五二		
		全	二六〇		
		全	一八、七		

南北動地動計觀測

終期	主要動	初期微動		最大振幅	振動期
		S	P		
F	M ₂ M ₁	全	一〇時三十七分一四秒		
		全	四一分五四秒		
		全	四四分三八秒		
		全	四八分三四秒		
		全	二五〇以上		
		全	五五二		
		全	二四〇		
		全	一九、二		

附記

此地震は「アリウシアン」群島の南西方海底に發したるものにして風波にては人身に微震を感じ青森、秋田、福島、前橋、東京、金澤、大分等にては人身に感覺なきも地震計に感じたり今各所の地動計觀測に依りて震央地までの距離を計算するに函館より約三千料、大阪より約三千六百料、大連より約四千料、臺北より約五千料にして恰も「アリウシアン」群島の南西方に當れり今各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し但し時刻は日本中央標準時に據る

函館	午前二〇時三十四分四七秒
水澤	全 一〇時三六分〇九秒
大阪	全 一〇時三十七分一四秒
福岡	全 一〇時三十七分四六秒
仁川	全 一〇時三十七分三六秒

大連 全 一〇時三十八分四二秒
 シカウエー 全 一〇時三十八分五二秒
 臺北 全 一〇時三十九分一八秒
 一〇六 七月三十一日午後十時三十一分七秒の地震
 此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
 分二秒にして主要動となり最大振幅は午後十時三十三分
 二秒に於て十七「ミクロン」振動期三秒四を現し後微とな
 り静止せり全振動時間は七分四十四秒なり（南北動微動
 計百二十倍の觀測）

附記 此地震は鹿兒島洋に發したる微震なるへし

● 本年土用中の氣象概況 例年梅雨期は陰鬱の

天氣多く爲に氣温の上昇遅緩となり比較的冷氣なりしも

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十四秒にして主要動となり最大振幅は午後十一時十九分二十四秒に於て二十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は五分三十六秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域北方は岩代の福島に南方は東京灣に達し水戸及筑波にては性質急なる微震を感じたり

一〇三 七月二十六日午後二時二十五分四十秒の地震
此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後二時二十七分五十二秒に於て四十七「ミクロン」振動期四秒三、南北動は午後二時二十七分十一秒に於て六十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は十分十二秒、南北動は十分四十八秒なり

附記

此地震は磐城沖に發したるものにして震域北方は青森邊に南方は八丈島に達し南西方は駿河の沼津附近に及べり而して筑波、福島にては人身に微震を感じたり

一〇四 七月二十八日午前十一時三十三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一

分二十七秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十一時五分四十五秒に於て八十「ミクロン」振動期四秒八南北動は午前十一時五分四十八秒に於て五十五「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は二十二分零秒、南北動は二十一分四十八秒なり

附記

此地震は鹿島洋に發したる微震なるべし

一〇五 七月三十一日午前十時三十七分十四秒の地震
此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は四分四十秒、第二は二分四十四秒にして主要動に移ると同時に大震波の來たりたるか故に描針圓筒外に逸出し最大振幅を測ること能はさりしか之れを推測するに東西動は午前十時四十六分三十八秒に於て千八百「ミクロン」以上振動期二十六秒、南北動は午前十時四十八分三十四秒に於て二千百五十「ミクロン」以上振動期二十四秒なるべく爾後漸次に微となり静止せり全振動時間は東西動は三時四分二十七秒、南北動は三時八分十七秒なり即ち左表に示すか如し

なる微震を感じ有感覺微震部は一千八百八十四方里にして微動は畿内附近に達したり

九八 七月二十日午前七時二十七分五十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分三秒にして主要動となり最大振幅は午前七時三十分五
十八秒に於て五「ミクロン」振動期三秒〇を現し後微とな
り静止せり全振動時間は八分二十一秒なり（南北動微動
計百二十倍の観測）

附記 此地震は鹿島洋に發したる微震なるべし

九九 七月二十一日午後七時五十四分二十四秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分三十秒にして主要動となり最大振幅は午後七時五十五
分十二秒に於て二十六「ミクロン」振動期四秒八を現し後
微となり静止せり全振動時間は五分四十五秒なり（南北
動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は伊勢海に發したるものにして震域東方は遠州濱松附
近に北方は飛騨の高山附近に達し西方は大阪附近より紀伊の
南部に及べり而して津、濱松にては性質急なる微震を感じ津
にては地鳴あり

一〇〇 七月二十四日午前三時二十四分四十八秒の

地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五十三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前
三時二十七分三十一秒に於て七十一「ミクロン」振動期七秒
二南北動は午前三時二十七分十五秒に於て六十二「ミク
ロン」振動期六秒二を現し後微となり静止せり全振動時
間は東西動は十五分五秒、南北動は十六分三十二秒なり

附記

此地震は九州の南方に發したるものにして鹿兒島にては微震
を感じ宮崎にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

一〇一 七月二十四日午後五時五十分三十六秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後五
時八分四秒に於て四十七「ミクロン」振動期五秒八南北動
は午後五時七分五十七秒に於て五十二「ミクロン」振動期
六秒二を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は
十三分五十五秒、南北動は十四分二秒なり

附記

此地震は九州の南方に發したるものにして鹿兒島にては性質
急なる微震を感じたり

一〇二 七月二十五日午後十一時十八分十五秒の地震

終期	主要動	初期微動		秒
		S	P	
F	M ₂ M ₁ L	七時二三分一〇秒	七時二一分四一秒	
	全二七分一〇秒	全二四分〇六秒		
	(+)(+)	五八二		
	三二五	五、三		
	五、八			

附記

此地震は磐城沖に發したるものにして震域廣く北方は青森邊に南方は八丈島に達し四方は越前の福井邊に及びて東北地方一帯に微震を感じ微動は遠く支那上海に達したり

九五 七月九日午後十一時十五分七秒の地震

此地震は性質稍々急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分二十六秒にして主要動となり最大振幅は午後十一時十五分五十秒に於て十二「ミクロン」振動期一秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は五分三十六秒なり

(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は濃尾地方に發したるものにして震域東方は信州飯田邊より遠州須松附近に北方は越前の福井邊に南方は紀伊南部に達し名古屋、岐阜、彦根、飯田にては性質急なる微震を感じし名古屋にて地鳴ありたり

九六 七月十四日午後十時十九分六秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一

終期	主要動	初期微動		秒
		S	P	
F	M ₂ M ₁ L	七時二三分一〇秒	七時二一分四一秒	
	全二六分三七秒	全二四分三七秒		
	(+)(-)	七二五		
	三四七	六、七		
	五、八			

分零秒にして主要動となり最大振幅は午後十時二十二分二十六秒に於て六十「ミクロン」振動期五秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は十三分十三秒なり(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は西島洋に發したる微震なるべし

九七 七月十五日午後七時二十九分二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分三秒にして主要動となり最大振幅は午後七時三十分四十六秒に於て十八「ミクロン」振動期二秒七を現し後微となり靜止せり全振動時間は十分五十四秒なり(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は霞ヶ浦附近に發したるものにして震域北方は羽後(秋田附近)に南方は駿河の沼津及信州松本に達し長徑三十里短徑二十里を有し水戸、筑波、宇都宮、熊谷等にては性質急

附記

此地震は甲斐國北部留都谷村附近に發したるものにして震域頗る廣く北方は青森附近に南方は八丈島邊に達し西方は畿内附近に及びて長徑八十里短徑六十里を有し強震部は九百四十二方里弱震部は六千九百〇八方里有感覺微震部は一萬五千〇七十二方里なり而して沼津・横濱・熊谷にては強震を感じ沼津にては地鳴を伴ひ熊谷にては振子時計の運轉を停止せり又東京、横須賀、前橋、甲府、飯田、濱松、長野等にては性質急なる弱震を感じたり

九二 七月五日午前八時四十二分三秒の地震

此地震は性質稍々急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分二十三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前八時四十二分四十秒に於て二十五「ミクロン」振動期二秒〇、南北動は午前八時四十三分九秒に於て四十「ミクロン」振動期二秒四を現し後微となり靜止せり全振動時間は五分四十秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記

此地震は紀伊水道に發したるものにして徳島にては微震を感じ潮岬にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

九三 七月八日午後九時五十七分二十四秒の地震

此地震は振幅極微にして測るに足らざれども全振動時間は五分三十二秒なり(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は紀伊水道に發したるものにして和歌山にては性質急なる微震を感じ潮岬にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

九四 七月九日午前七時二十一分四十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分三十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前七時二十四分六秒に於て五百八十二「ミクロン」振動期五秒三、南北動は午前七時二十四分三十七秒に於て七百二十五「ミクロン」振動期六秒七を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は一時二十二分三十秒、南北動は一時十八分二十三秒なり即ち次表に示すか如し

東西動地動計觀測

南北動地動計觀測

發現時最大振幅振動期

發現時最大振幅振動期

れり●三十一日概ね晴天

大阪地震観測概況

爰に記する所のものは主として大森式地動計（東西及南北動）を以て観測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の器械にて観測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し
Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Lは長波即ち主要部全上、Mは主要部の最大動、Oは終期の最大動、Fは振動の終了又（+）は南北動にありては北、東西動にありては東、（-）は南北動にありては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」（毫ノ千分一）を以て記す

本月中に地震を観測したる數は十七回にして人身に感覺ありたるものは一回もなく人身に感覺なく普通地震計に感したるものは二日午後十時三十八分十秒山梨縣谷村附近及二十一日午後七時五十四分二十四秒伊勢海に發したるもの各一回なり無感覺地震にして地動計又は微動計に感し其震源本邦内にありたるもの十四回即ち鹿島洋五回紀伊水道、九州の南方、磐城沖各二回濃尾地方、臺灣の南方霞ヶ浦附近各一回なり又遠距離地震は一回にして即ち三十一日午前十時三十七分十四秒「アリウシアン」群

島の南西方海底に發したるものなり今其観測概況を列記すれば左の如し

九〇 七月二日午後十時二十七分五十二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は三十分四十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後十時三十三分六秒に於て三十五「ミクロン」振動期六秒二、南北動は午後十時三十三分四十六秒に於て二十七「ミクロン」振動期五秒八を現し後續震ありて全振動時間を測ること能はさりし

附記

此地震は臺灣の南方に發したるものにして全島にては人身に覺感なきも一帯に地震を感じたり

九一 七月二日午後十時三十八分十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分三十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後十時三十九分三十一秒に於て百九十七「ミクロン」振動期四秒三南北動は午後十時三十九分十七秒に於て三百七十七「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は二十八分九秒南北動は二十七分二十八秒なり

全	三十一	三十	廿九	廿八	廿七	廿六	廿五	廿四	廿三	廿二
月	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										
九										
八										
七										
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										
九										
八										
七										
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										
九										
八										
七										
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										
九										
八										
七										
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										
九										
八										
七										
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										
九										
八										
七										
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										
九										
八										
七										
六										
五										
四										
三										
二										
一										
〇										

管内天氣摘要

● 一日概ね晴天 ● 二日概ね晴天 ● 三日概ね曇天一般に雨降り大阪に強風吹けり ● 四日概ね曇天所々に雨降り天王に濃霧あり ● 五日一般に雨降り翌日に互る天王に濃霧あり ● 六日前日來の雨概ね午前歇む ● 七日概ね晴天 ● 八日概ね晴天 ● 九日晴曇相半す ● 十日概ね晴天なりしか午後に至り所々に雨降り ● 十一日概ね雨天夜に入り所々に電雷あり ● 十二日未明大雷雨と共に所々に強風吹けり ● 十三日概ね曇天深日、大阪、天王に雨降り天王は雷鳴を伴へり ● 十四日概ね晴天大阪、天王に雷鳴あり ● 十五日概

ね晴天 ● 十六日概ね晴天 ● 十七日概ね晴天 ● 十八日概ね晴天 ● 妙見山に濃霧東郷に雷鳴あり ● 十九日概ね晴天 ● 二十日概ね晴天東郷に電光あり ● 二十一日概ね晴天大阪に強風吹けり ● 二十二日概ね晴天大阪に強風吹けり ● 二十三日概ね晴天大阪に強風吹けり ● 二十四日概ね晴天茨木富田林、長野に雨降り堺に雷鳴、大阪に強風吹けり ● 二十五日概ね晴天 ● 二十六日概ね晴天岸和田、長野に雷鳴あり ● 二十七日概ね晴天大阪、八尾に雨降り ● 二十八日概ね晴天 ● 二十九日概ね晴天天王寺、天王、田原に雨降り天王に雷鳴あり ● 三十日概ね晴天清水、田原に雨降

第四表 管内降水日量

七	月	深日	郷上之	岸和田	長承寺	濱寺	堺	天王寺	大阪	福島	新庄	池田	山見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	富田	長野
一	日																						
二	日																						
三	日																						
四	日																						
五	日																						
六	日																						
七	日																						
八	日																						
九	日																						
十	日																						
十一	日																						
十二	日																						
十三	日																						
十四	日																						
十五	日																						
十六	日																						
十七	日																						
十八	日																						
十九	日																						
二十	日																						
廿一	日																						
廿二	日																						
廿三	日																						
廿四	日																						
廿五	日																						
廿六	日																						
廿七	日																						
廿八	日																						
廿九	日																						
三十	日																						

觀測所

觀測所	平均	最高	最低	平均	最高	最低	總	量	最多	氣溫	濕度	雨量	風向	降水	雪	霰	霜	雷	電	地	天	氣	日	數	天	氣
深之日	三九	三九	三〇	三〇	三九	二八	七八	四	四	七〇	三〇	〇	北	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
上之郷	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	七八	一	一	七〇	三〇	〇	北	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
岸和田	二九	二九	二二	二二	二九	二二	八四	三	三	六四	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
長承寺	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	五八	三	三	九〇	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
濱寺	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	五七	一	一	三六	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
堺	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	七〇	三	三	六六	三〇	〇	北西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
天王寺	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	九一	一	一	六五	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
大畷	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	七〇	一	一	八九	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
羅島	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	七三	一	一	八七	三〇	〇	北東	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
新庄	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	六二	二	二	八七	三〇	〇	東	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
池田	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	七四	五	五	八二	三〇	〇	東	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
妙見山	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	九一	一	一	八九	三〇	〇	西南	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
東郷	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	九三	〇	〇	八六	三〇	〇	南	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
天王	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八五	〇	〇	九二	三〇	〇	西南	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
茨木	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八三	〇	〇	九二	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
清水	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八二	〇	〇	九二	三〇	〇	南	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
枚方	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八二	〇	〇	九二	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
田原	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八二	〇	〇	九二	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
八尾	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八二	〇	〇	九二	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
柏原	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八二	〇	〇	九二	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
富田	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八二	〇	〇	九二	三〇	〇	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
長野	三〇	三〇	二二	二二	三〇	二二	八二	〇	〇	九二	三〇	〇	北	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		

平均 最高 最低 平均 最高 最低 總量 最多 氣溫 濕度 雨量 風向 降水 雪 霰 霜 雷 電 地 快晴 曇 天 氣

なく所謂盛夏の状態を現示したるものなり更に氣温、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣

温

平均は西部天王寺の二十七度一南部深日の二十七度○より北部妙見山の二十二度三の間にありて之れを平年に比すれば一般に高き方にあり而して最高は其起日一定せされとも概して中旬乃至下旬西郷等に現はれ南部深日の三十六度二を高極とし全濱寺西部福島、新庄、茨木東部八尾、柏原の三十六度○之れに亞き其他は三十五度乃至三十三度を示し妙見山は三十度一に止まれり又最低は一般に一日に現はれ北部妙見山の七度八天王の七度九を低極とし東郷の九度九之れに亞き其他の山間は十二度乃至十三度平坦及沿海地方は十五度乃至十六度を示せり之れを要するに本年七月の氣温は最高三十六度度より最低七度八の間にありて其較差は二十六度度に達せり

降

水

總量は北部妙見山の百三十八耗九より南部濱寺の五十七耗八の間にありて之れを平年に比す

第三表

管内全月氣象觀測成績

(表中○は高又は多)

れは一般に少なく孰れも平年の二分の一に過ぎりき而して日量の最多は五日及十二日の大雨の際にありて北部妙見山の五十九耗○を最多とせり又日量の四十耗以上なりしは深日、岸和田、天王寺、福島、天王、茨木、枚方、田原、八尾の九ヶ所三十耗以上なりしは長承寺、堺、大阪、新庄、池田、東郷、清水、柏原、長野の九ヶ所にして其他は二十八耗七より二十三耗○の間にあり

雷

雨

本月中に雷雨を觀測したるは十一、十二、十三、十四、十八、二十六、二十九日の八回にして其内十一日より十二日に亘りしものは頗る顯著(前號)七月十二日の雷雨に就ての項參照)なりしか其他は孰れも小局部の雷鳴にして著しきものはなかりき

十八日	三、四	元七	六、九	六、三	五、八	三、九	朝露あり、夜薄露あり
十九日	三、二	元〇	六、三	六、六	六、一	三、三	朝夜薄露あり
二十日	三、一	元二	六、五	六、八	六、四	三、〇	朝露あり、夜薄露あり
廿一日	三、〇	元三	六、六	六、〇	六、五	三、三	朝薄露あり、午後五時より七時迄強風吹けり
廿二日	三、三	元四	六、七	六、七	六、七	三、〇	朝薄露あり、午後四時より六時迄強風吹けり
廿三日	三、六	元〇	六、五	六、一	六、九	三、二	朝露あり、午後六時より八時迄強風吹けり
廿四日	三、五	元三	六、六	六、一	七、〇	三、四	朝薄露あり、午前十時五分より十時二十分迄及午後五時五十分より七時十分迄強風吹けり、午後六時強風吹けり
廿五日	三、四	元四	六、八	六、四	七、一	三、四	朝薄露あり
廿六日	三、三	元四	六、九	六、四	七、三	三、三	朝薄露あり、午後七時五十分より八時五分迄北方に電光あり
廿七日	三、二	元六	六、〇	六、六	七、三	三、五	午前一時四十三分より二時五十三分迄微雨、午後九時二十分より三時四十分迄日曇現る
廿八日	三、九	元四	六、〇	六、五	七、四	三、〇	朝薄露あり、午後九時五十八分より十時二十五分迄月曇現る
廿九日	三、二	元三	六、〇	六、五	七、五	三、九	午前一時八分より一時五十二分迄月曇現る
三十日	三、三	元二	六、七	六、四	七、五	三、四	朝薄露あり、午前九時より十時迄烟霧あり
三十一日	三、七	元三	六、七	六、四	七、五	三、三	朝薄露あり、午後五時より六時迄烟霧あり
全月	元〇	元七	六、七	六、七	六、二	元八	

大阪府管内氣象概況

前既に詳記せるか如く七月上旬は尙梅雨中に屬し降雨多くして暑氣の加はること遅緩となるも中旬に入り梅雨露ると同時に暑氣激増し盛夏の状態を呈し南西風卓越して吹き晴燥の天氣を持續するを常とす而して本年七月の氣候を調査するに上旬より中旬の初即ち十二日頃迄は降雨

多かりしも十三日以後は山間部に於て區々たる驟雨を齎らせしか其他は殆んど一滴の降雨もなく連日晴天に經過せり爲めに氣温は遂日上昇を促し其最も高きは西部枚方の三十七度〇、之れに亞くは南部深日の三十六度二回濱寺及大阪市北部福島の三十六度〇にして又新庄、茨木、八尾、柏原の如き攝河平野に散在せる地方も一帯に三十六度〇を示せり要するに本月の氣候は氣温高く降水量少

三十日	五八、六	一八、一▲	〇六	五八	二四、一	八七	七、五	三、三	七、一	西南西	北西	四、八▲	〇三	一	七、一
三十一日	五八、五	一八、九▲	一八	四〇、〇	三〇、〇	一〇、〇	六、二	三、八	六、九	東	市	三、一▲	三、六	一	一、五
全月	五七、七	一八、七▲	〇、七	三三、六	三三、五	八、一	七、〇	四、一	二、七	南西	西南西	五、一▲	二七、五▲	一八、三	七、五

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

七月 地中溫度(平均) 最低 諸現象の摘要

日	地中溫度(平均)	最低	諸現象
一	三三、八	二四、一	朝薄露あり
二	三三、五	二四、一	朝薄露あり、午後零時四十五分より二時五分迄日曇現る、夜薄露あり
三	三三、七	二四、一	朝薄露あり、午前十時十五分より十一時十分迄微雨、午後三時強風吹びり、午後二時十分より十時二十五分迄微雨斷續せり
四	三三、五	二四、一	一
五	三三、七	二四、一	午前一時四十二分より小雨斷續して翌曉に直る
六	三三、三	二四、一	前日來の小雨斷續して午前九時三十分歇む
七	三三、七	二四、一	朝薄露あり
八	三三、一	二四、一	朝露あり、午後一時三十分より今四時三十分迄時々日曇現る、
九	三三、五	二四、一	朝薄露あり、午前四時四十五分より六時四十五分迄薄霧あり、夜薄露あり
十	三三、九	二四、一	朝露あり、午前六時四十分より十一時五十分迄午後零時三十五分より一時四十分迄日曇現る午後六時十五分より十一時五十分迄雨斷續す
十一	三三、〇	二四、一	午後八時十二分より八時二十分迄小雨、午後八時五分より北西方に電光起り北及北東を経て東に廻り翌日に直る
十二	三三、八	二四、一	前日來の電光は南東に廻り遂に午前一時三十五分より電雷となり西を経て天頂を経て強雷となり爾後南東は西、北東方にて轟き五時四十分に至り漸く収聲す、雨は午前一時四十分より斷續して時々大雨を交へ十時四十分迄雨斷續す、午後零時四十五分より三時四十分迄日曇現る
十三	三三、二	二四、一	朝薄露あり、午後二時十五分より三時五十分迄北方に雷鳴あり、夜薄露あり
十四	三三、四	二四、一	朝薄露あり
十五	三三、八	二四、一	朝薄露あり
十六	三三、一	二四、一	朝夜薄露あり
十七	三三、四	二四、一	朝薄露あり

平	夜	後										正	十	
		十	十	九	八	七	六	五	四	三	二			一
均	半	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	午	時
七五、六	七五、七	七五、八	七五、七	七五、七	七五、七	七五、六								
二六、四	二六、五													
一八、八	一八、九													
七、六	七、七													
四、四	四、五													
五、一	五、二													
七五、五	七五、六													
二六、四	二六、五													
一八、八	一八、九													
七、六	七、七													
四、四	四、五													
五、一	五、二													
七五、五	七五、六													
二六、四	二六、五													
一八、八	一八、九													
七、六	七、七													
四、四	四、五													
五、一	五、二													

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の一 (表中▲印は高又は多)

七	月	氣壓		空		溫		水蒸氣		濕		風		雲	日照	時數	降水	量
		平均	平	均	均	最高	最低	差	平均	平均	平均	平均	最大					
一	日	七五、七	七五、七	一三、一	一三、一	二六、八	二六、八	二、六	二、六	五、九	五、九	三、三	四	北	一四、三	▲	三、三	一八、九
二	日	七五、七	七五、七	一三、一	一三、一	二六、八	二六、八	二、六	二、六	五、九	五、九	三、三	四	北	一四、三	▲	三、三	一八、九
三	日	七五、七	七五、七	一三、一	一三、一	二六、八	二六、八	二、六	二、六	五、九	五、九	三、三	四	北	一四、三	▲	三、三	一八、九
四	日	七五、七	七五、七	一三、一	一三、一	二六、八	二六、八	二、六	二、六	五、九	五、九	三、三	四	北	一四、三	▲	三、三	一八、九

此深さにおいては殆ど一日中の變化を認め難し

以上列記する地中溫度を通観するに最高は地皮にありては午後一時、地中十糎にありて午後五時同二十糎にありては午後八時乃至九時同三十糎にありては

夜半に生し最低は地皮にありては午前五時、地中十糎にありては午前八時、同二十糎にありては午前十時、同三十糎にありては午後一時乃至二時に生せり之れに依りて地皮より地中に熱の傳達する梗概を知

るを得へし

最低地温 平均は十九度七七にして半年に比すれば零度四九低く月中の最低は一日午前五時に於て十度九を示せり

天氣日數 快晴は七日にして半年より三日多く曇天は六日にして半年より四日少く雷雨は二日にして半年に等し

尙詳細は左に掲ぐる氣象觀測成績表を参照すへし

第一表 大阪毎時氣象觀測成績表

前	午									七	氣壓	氣温	水蒸氣力	濕度	飽差	風速度	雲量	日照	降水量	地中溫度 (平均)						
	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月										平	平	平	平	平	平	平
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七五、六	一四、三	一八、六	八二、九	三、六	三、六	四、四	—	二、七	三〇、九	二〇、九	七、三	六、八	六、九	六、九	六、九
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七五、七	一三、四	一八、七	八四、七	三、四	三、四	四、九	—	四、三	三三、九	二五、九	七、五	六、八	六、八	六、八	六、八
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七五、八	一三、五	一八、七	八五、八	二、九	二、九	五、〇	—	三、二	三二、五	二五、九	七、五	六、八	六、八	六、八	六、八
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七五、九	一三、六	一八、七	八六、九	二、八	二、八	五、〇	—	三、三	三二、五	二五、九	七、五	六、八	六、八	六、八	六、八
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七六、〇	一三、七	一八、七	八七、〇	二、七	二、七	五、〇	—	三、三	三二、五	二五、九	七、五	六、八	六、八	六、八	六、八
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七六、一	一三、七	一八、七	八七、一	二、七	二、七	五、〇	—	三、三	三二、五	二五、九	七、五	六、八	六、八	六、八	六、八
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七六、二	一三、八	一八、七	八七、二	二、七	二、七	五、〇	—	三、三	三二、五	二五、九	七、五	六、八	六、八	六、八	六、八
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	七六、三	一三、八	一八、七	八七、三	二、七	二、七	五、〇	—	三、三	三二、五	二五、九	七、五	六、八	六、八	六、八	六、八

日少く其水量は七十二耗五にして半年より五十一耗七少く又一日中の最多量は六日の二十六耗八、一時間の最多量は十二日午前二時乃至三時の十二耗四なり、又蒸發總量は二百三十五耗五にして半年に比すれば十八耗八多く一日中の最多量は三十一日の十一耗五なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は二十九度〇一にして半年に略ほ等しく月中の最高は二十五日正午に於て五十三度六を示し、最低は一日午前五時に於て十五度九を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後一時にありて四十度六四、最低は午前五時にありて二十二度一五を示し其較差は十八度四九なり

地中十糶の溫度 平均は二十七度四五にして半年に略ほ等しく月中の最高は二十五日午後四時に於て三十二度四を示し最低は六日午前七時乃至九時に於て二十五度〇を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後五時にありて二十九度一八、最低は午前八時にありて二十五度八二を示し其較差

は三度三六なり

地中二十糶の溫度

平均は二十七度〇五にして半年に比すれば零度一二高く月中の最高は二十七日午後七時に於て三十度六を示し、最低は六日午前九時に於て二十一度五を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後八時及九時にありて二十七度六一、最低は午前十時にありて二十六度四八を示し其較差は一度一三なり

地中三十糶の溫度

平均は二十六度七三にして半年に比すれば零度二三高く月中の最高は二十八日午後九時乃至夜半に於て二十九度八を示し、最低は六日正午乃至午後五時に於て二十二度四を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は夜半にありて二十七度〇〇、最低は午後一時乃至二時にありて二十六度五五を示し其較差は零度四五なり

地中六十糶の溫度 平均は二十五度一〇にして半年に比すれば零度七一高く月中の最高は三十一日午前一時乃至夜半に於て二十七度五を示し、最低は七日午前五時乃至夜半に於て二十二度五を示せり但し

に就きて一日中の變化を看るに最高は午後三時にありて三十度〇二、最低は午前五時にありて二十二度七九を示し其較差は七度二三なり

水蒸氣張力、濕度及飽差 水蒸氣張力の平均は

十八耗八六にして平年に比すれば零耗三三低く月中の最高は十八日午後一時に於て二十五耗〇を示し、最低は一日午前十時に於て八耗三を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後七時にありて十九耗六四、最低は午前十時にありて十八耗二〇を示し其較差は一耗四四なり

濕度の平均は七十三、六にして平年に比すれば三、〇少く月中の最少は一日午前十時に於て三十三を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前五時にありて八十九、六、最少は午後三時にありて五十九、〇を示し其較差は三十、六なり

飽差の平均は毎立方米中七瓦〇五にして平年に比すれば零瓦九九多く、月中の最多は三十一日午後三時に於て二十瓦一、最少は五日午前五時に於て零瓦四を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を看る

風

に最多は午後三時にありて十二瓦六三、最少は午前五時にありて二瓦〇六を示し其較差は十九瓦七なり

平均速度は毎秒四米一四にして平年に比すれば零米五九弱く月中の最大速度は二十一日午後四時乃至五時にありて毎秒速度十一米七（一間平方面を垂直に壓する力は十四貫五百目に當る）の南西風なり又強風以上の吹きたる日數は五日にして平年に比すれば六日少く其吹續時間は一十一にして平年に比すれば二十四時少し、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後四時にありて六米一七、最小は午前四時にありて二米一二を示し其較差は四米〇五なり、風向は南西風最も多く西風之れに亞き南東風は最も少し之れを平年に比すれば北及北東風は多くして南及西の風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は五、一にして平年に比すれば〇、八少く日照時數は二百七十五時一五にして平年に比すれば十九時二四多く一日中日照時

間の最も長かりしは一日の十三時〇〇なり

降水及蒸發量

降水日數は六日にして平年より三

大阪測候所月報

大正四年 七月 大阪氣象概況

七月は前月より引續き梅雨期中にあるを以て上旬は陰鬱なる天氣多く中旬より漸次天候恢復し晴天となり頗る暑氣加り盛夏の状態に遷るを常とす、然り而して本年は梅雨期の來ること平年より早かりしか故に去ることも亦た早くして本月に入りては梅雨的の降雨は殆ど之れなく爲めに暑氣早來し中旬の初めより夏の状態に移り最高氣温は日々三十度以上に昇り平年より比較的高温なりし而して降雨は少く日照時數は多く又強風以上の吹きたる日數及其吹續時數は少し

今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百五十七耗六六にして平年に比

すれば零耗四五高く日々の變化は氣象圖に示すか如く顯著なる昇降は約二回ありて他は微少なり、而して月中の最高は十六日午前八時乃至九時に於て七百

六十三耗九、最低は三日午後五時乃至六時に於て七百五十二耗〇を示せり、又月平均に就きて一日中の

變化を看るに第一の最高は午前八時にありて七百五十八耗三五、第一の最低は午後五時にありて七百五十六耗八六を示し第二の最高は午後十一時にありて七百五十七耗八五、第二の最低は午前二時にありて七百五十七耗四八を示せり而して其主なる最高低の較差は一耗四九なり

氣 温 平均は二十六度四五にして平年に比すれば零度三八高く平均氣温日々の變化は上旬は平年より低く中旬以後は平年より高し而して月中の最高は

十六日午後四時頃と三十一日午後三時頃に於て三十四度〇を示し、最低は一日午前五時頃に於て十五度七を示せり而して最高氣温の三十度以上に昇りたる日數は二十一日にして平年より三日多し、又月平均

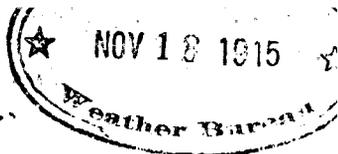
大阪府管内氣象觀測所位置

一本報は當測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者なり但し日々の觀測は當測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は乾曲尺(風壓毛)を以て示す
 一湿度は凡て攝氏の度を用ゐる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんに九を乘じ五にて除し三十二度を加ふべし
 一最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものは之れを前日に繰上げて記入せり
 一飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(グラム)二七)にて示す
 一湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す
 一降水量は乾を以て其深さを測り之を記す、但し一乾は一步面に水盆一升八合三勺を撒布したるに相當す
 一雲量は十分率を以て示す
 一風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり
 一風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は標全く直立し又は樹葉動かさるもの、一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一風向は北、北東、東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す
 一天氣日數中雨とは兩晝夜露の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

氣象觀測所	國郡市	町	村	緯度東經	北緯	觀測主任
深日	和泉國	泉南郡	深日村	一三五度〇九分	三四度一九分	上出源助
上之郷	和泉國	泉南郡	上之郷村	一三五度一八分	三四度二三分	島田留藏
岸和田	和泉國	泉南郡	岸和田町	一三五度二三分	三四度二七分	森内清次
長承寺	和泉國	北郡	高石村	一三五度二七分	三四度三二分	前川山太郎
瀨寺	和泉國	北郡	高石村	一三五度二六分	三四度三二分	今井富次
堺	全	國堺	市車ノ町	一三五度二九分	三四度三五分	吉村正輔
天王寺	攝津國	大阪府	市南區天王寺	一三五度三一分	三四度三九分	加藤昭純
大阪	大阪國	大阪府	西區一條通	一三五度二六分	三四度三九分	府立大阪一等測候所
福島	大阪國	大阪府	北區上福島	一三五度二九分	三四度四二分	笠谷正三郎
新庄	和歌山國	和歌山縣	新庄村	一三五度三一分	三四度四五分	植田靈藏
池田	和歌山國	和歌山縣	池田町	一三五度二六分	三四度五〇分	笹部利作
妙見山	和歌山國	和歌山縣	東郷村	一三五度二八分	三四度五六分	阪部文二郎
東郷	和歌山國	和歌山縣	東郷村	一三五度二九分	三四度五七分	大原仁之助
天	和歌山國	和歌山縣	能登郡根根村	一三五度二三分	三五度〇二分	高橋政次郎
茨木	和歌山國	和歌山縣	能登郡茨木町	一三五度三三分	三四度四九分	高橋菊之助
清水	和歌山國	和歌山縣	能登郡清水村	一三五度三六分	三四度五三分	山本義一
枚方	和歌山國	和歌山縣	能登郡枚方町	一三五度三九分	三四度四九分	家村八五郎
田原	和歌山國	和歌山縣	能登郡田原村	一三五度四二分	三四度四三分	東尾重藏
八尾	和歌山國	和歌山縣	能登郡八尾町	一三五度三六分	三四度三八分	水谷芳松
柏原	和歌山國	和歌山縣	能登郡柏原村	一三五度三七分	三四度三五分	畿内農事試験支場
富田	和歌山國	和歌山縣	能登郡富田町	一三五度三七分	三四度三〇分	塔本幸太郎
長野	和歌山國	和歌山縣	能登郡長野町	一三五度三五分	三四度二七分	松本達水



Monthly Report of The Osaka Meteorological Observatory.

July

1915

大阪測候所月報

大正四年七月

第拾六年第七號

目次

- 七本 月 大阪氣象概況 附圖
- 七本 月 大阪府管内氣象概況
- 七本 月 大阪地震觀測概況
- 本年土用中の氣象概況
- 本年七月中の暴風雨概況
- アモウシアン群島沖の大震
- 當所の出品
- 淀川の水位
- 地方天氣豫報暴風警報通告

大正四年七月二十七日印刷
全 年七月三十一日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江戶堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

(電話土佐堀二三四二番)

地方天氣豫報暴風警報適否調查

暴風警報	天氣豫報	風向	種	類	發布數	正中	偏中	不中	正比例 中比例
			溫	度	三〇	三〇	三〇	三〇	
			〇	〇	三	三	〇	〇	〇
			〇	〇	三	三	〇	〇	〇
			〇	〇	三	三	〇	〇	〇
			〇	〇	三	三	〇	〇	〇
			〇	〇	三	三	〇	〇	〇
			〇	〇	三	三	〇	〇	〇
			〇	〇	三	三	〇	〇	〇

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市	町村	緯度東經	北緯	取扱官衙
谷川	和泉國泉南郡	多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所
尾崎	和泉國泉南郡	尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署
佐和田	和泉國泉南郡	佐和田町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
岸和田	和泉國泉南郡	岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺川	和泉國堺市	香妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署木津川分署
木津川	和泉國堺市	西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
北加賀屋	和泉國東成郡	津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
難波	和泉國大阪府	西區中口町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全木津川分署難波島水上巡查派出所
安治川	和泉國大阪府	北區安治川通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安治川水上警察署天保町分署
天保町	和泉國大阪府	西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署
大阪	和泉國大阪府	西區一條通	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等測候所
大阪	和泉國大阪府	四區一條通	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署
傳法	和泉國豐能郡	東郷村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東郷村役場



平均千満ノ差
 満潮ノ極
 其日ノ時
 千満ノ極
 其日ノ時
 千満最大差
 其日
 千満最小差
 其日

一〇八、二糶	一〇三、三糶	一〇四、〇糶
一八四糶	一九五糶	二二七糶
二十九日午前七時	三十日午後十一時	二十五日午後八時
四〇糶	四〇糶	四四糶
一日午後二時五分	十五日午後三時三十分	二十六日午後零時三十分
二日午後四時十分	一五一糶	一六六糶
一三五糶	三十一日	二五五糶
二十九日	五五糶	五二糶
八一糶	九日	二一一日
二十五日		

淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 三尺四寸四分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 三尺〇寸七分

六 月	廣 瀬		大 日		六 月	廣 瀬		大 日	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
一 日	三、一〇	二、九〇	四、〇七	四、〇九	二 一 日	三、五五	三、七五	三、五五	三、五五
二 日	三、〇〇	二、八〇	三、九〇	三、九〇	二 二 日	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
三 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	二 三 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
四 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	二 四 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
五 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	二 五 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
六 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	二 六 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
七 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	二 七 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
八 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	二 八 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
九 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	二 九 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
十 日	三、〇〇	二、八〇	四、〇七	四、〇七	三 〇 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七
					三 一 日	四、〇七	四、〇七	四、〇七	四、〇七

平均水位 廣瀬 四尺四寸〇分
 最高水位 廣瀬 十尺七寸〇分
 (廿六日正午)

大日 四尺二寸九分
 九尺二寸五分
 (廿六日午後六時)

礁島は燒津港を距る東南二百三十哩なる笠島との中間に

あり二十日午前一時頃突如として大鳴動を聞くと同時に

海嘯の如きもの起り「ハローズ」礁島より爆發噴煙を始

め火柱天に沖して光景凄愴云はん方なく燒石燒砂雨の如

く海中に落ちて其様雨の如く危険云ふ可らず同船は此際

恰も「ハローズ」礁島を距る約五哩の海上にあり鯉漁に

従事しむたるか此の光景を目撃するや極力本土に向て進

行せるか其際同船と共に附近にありて鯉漁に従事せる汽

船七隻あり何れも海嘯の如き大波に揺られて頗る困難せ

る模様なりき同礁島は周圍約一里許にして満潮の際には

潮の爲めに姿を没する程なれば別に住民とても無く勿論

農作物などは有る筈なく従て人畜の被害等は皆無なるへ

からんも噴火は容易に歇まず火柱は十里を距て好く之を

望むことを得たるのみならず附近數海里の間は海潮沸い

て熱湯の如くなりたれば魚類の爲めに死せるもの多大

なるへし而して噴火の結果同礁島は常に海面以上にある

島と化すやも知れず

又大森博士の談に依れば只今迄の諸情報を綜合して見る

に今度噴火したる所は八丈島より南方約三十五里「ハ

ローズ」礁より東方約三里なる「ペヨネーズ」礁附近の海

中と推せらる此處は去る明治三十九年四月中にも噴火し

た場所て先年南鳥島噴火視察の通過つたことがあるが此

「ペヨネーズ」礁は海中から三十尺許突出した小島である

今度の噴火は富士火山帯の活動に依つたもので二十日午

前東京地方の震災とも關係がある一休霧島火山帯と富士

山火帯とは交互に活動をなし先年燒ヶ岳、淺間山、大島

などが非常の大活動をした事があつたがそれと想むと直

ぐ櫻島の大爆發を見、霧島火山帯の大活動を起したか今

度は富士火山帯の活動を見るに至つたのである昨年五月

の南硫黄島の噴出も大島の噴火も今年の燒ヶ岳の噴火も

亦今度の噴火も二十日互相方面の強震も皆此の結果であ

●大阪港潮汐観測

種	日	月	次	四	日	五	月	六	月
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

平均潮位 一一三、九釐 一一三、三釐 一一三、七釐

來りて頂天に達せし頃は電光間斷なく恰も白中を欺くか
如く且つ雷鳴は激烈を極め加之強烈なる急風吹き起り降
雨は沛然として車軸を流すか如くゲインズ式自記風壓計
の示す所に依れば午前二時二十分より三十分に至る間に
毎秒十五米八、雨は午前二時三十分に於て一分時間に約
一耗、午前二時より三時に至る一時間に十二耗四に達し
暫時愴然たりしか十數分にして次第に衰へ五時四十分
頃沈靜せり此の雷雨の通過に際し落雷非常に多く市内に
ては東區北國分町辻川硝子製造所の煙筒に同區餌赤町巡
査派出所前の二ヶ所に落雷せしも人畜に被害なし又郡部
にありては西成郡北中島村尋常小學校構内、同郡豊崎町
東海道線鐵橋、北河内郡山田村字中宮松尾松次郎方にて
は屋根を全焼し、堺市綾の町南海電車運輸倉庫横、南河
内郡富田林町大字毛人谷奥野卯一郎方納家、中河内郡八
尾町關西線停車場北東約二丁の電柱に落雷ありたり
前記の如く此雷雨は未明のことなるを以て落雷數全部を
知るを得ざりしと雖も既に確かなるもの八ヶ所あり如斯
區域廣く且つ多數の落雷を出せしことは稀に見る所のも
のなり

● 燒嶽大噴火現況 大森理學博士の一行に加はり

燒嶽噴火の實地調査をなし十二日松本に歸來せる某氏の
語る所に依れば一行は九、十兩日に亘り新噴火口の實地
調査を遂げたるが其噴火口は舊噴火口に接給し中堀澤と
下堀澤との中腹に向け幅三十間長さ二十町の大龜裂を生
したるものにて六月六日大噴火の際其龜裂の凹地の岩石
は悉く中腹に噴出し附近の數百年を経たる立木は悉く根
こぎとなつて今尚ほ横はり噴火口には据風呂位の無數の
孔あり轟々たる音響を發して噴煙し水蒸氣は熱うして手
を觸るゝべからず硫黃の臭氣鼻を衝き咽返らんばかりな
り

● 八丈島南方「ハローズ」礁附近の噴火

六月二十日夜八丈島司より東京府廳に達したる電報に只
今石油發動汽船大黒丸船長よりの情報に依れば十九日午
前八時半頃より青ヶ島南東方約三十海里「ハローズ」附
近にて噴火噴煙盛にして大岩石其附近に落下しつゝあり
と又本島にては烏島噴火當時の如く二、三日前より數回
の海嘯ありとあり而して二十日夕刻靜岡縣焼津に歸着せ
る石油發動汽船高根丸乗船員の談に據れば「ハローズ」

之れを要するに山岳は平地に比すれば降雨多くして風も亦た強く冷氣なり而して山岳に昇るに従ひ氣壓の減少す

るは大約左に記するか如し

高さ	海面	五百米	千	米	千五百米	二千	二千	二千五百米	三千	米	三千五百米	四	千	米
氣壓	七六〇	七二七	六七六	六三七	五九九	五六五	五三一	五〇〇	四六九					

又山岳に昇るに従ひ沸騰點も亦た低下せり即ち左に記するか如し

高さ	海面	五百米	千	米	千五百米	二千	二千	二千五百米	三千	米	三千五百米	四	千	米
沸騰度	一〇〇、〇	九八、四	九六、八	九五、一	九三、五	九一、九	九〇、三	八八、七	八七、〇					

但し以上二表は海面の氣温二十度として算せり

稍々多きか如し今露國にて「ウヰル」氏の實驗したる毎

然り而てし山岳に昇るに従ひ氣温の低下する割合は季節

百米に付氣温の遞減する割合は左の如し

に依り多少差異あり又低き所は高き所より氣温の遞減率

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
〇、三六	〇、四三	〇、四八	〇、五六	〇、五八	〇、六一	〇、五九	〇、六〇	〇、五三	〇、四六	〇、三〇	〇、三五	〇、四七

●七月十二日の雷雨に就て

七月上旬は未だ

温三十度二に急昇し十一日には稍一層高く三十二度〇に

梅雨季に屬するを以て陰濕の天氣多く爲めに氣温は上昇

速し愈よ夏季の特徴を發揮し全日午後八時頃北西方即ち

遅緩となり最高氣温廿三度乃至二十七度を往來せしか梅

六甲山附近に雷雨を發生し電光頻りに輝き漸次接近し來

雨一度霽るゝや頗かに盛夏の状態を呈し十日には最高氣

りて翌十二日午前一時三十五分より電雷となり尙は進み

全 三十一日	二六六	二九、二	二五、〇	壹、九	二五、六	二六、二	—	—	六、七	三、三	二三、〇	八、二
九月 一日	一五、一	三六、六	一九、六	壹、一	二二、八	二二、六	—	五、八	九、五	五、三	三、九	九、四
全 二日	二四、五	二四、六	二七、四	二七、八	二二、八	三三、二	—	八、八	五、三	二、六	八、三	四、三
全 三日	二五、一	二二、七	二七、六	二四、六	二二、〇	一八、九	七、〇	四、七	四、八	四、八	二、三	二、三
全 四日	二五、〇	二四、八	一九、四	二九、七	二二、九	二〇、四	〇、〇	〇、〇	二、七	二、七	二、三	四、四
全 五日	二四、三	二六、四	二七、八	三〇、一	二二、七	三三、〇	〇、七	—	—	—	—	—
全 六日	二四、九	二五、七	二〇、四	三〇、四	二二、六	二二、〇	一八、九	四、四	二、五	二、五	二、五	五、三
全 七日	二四、一	二五、八	一八、九	三〇、一	二二、二	三三、二	二九、一	—	—	—	—	—
全 八日	二三、六	二五、四	二六、六	二八、五	二二、五	三三、二	二二、八	—	—	—	—	—
全 九日	二三、八	二五、八	二四、五	三三、〇	二〇、九	三三、一	七、八	—	—	—	—	—
全 十日	二四、六	二四、四	二五、三	二六、八	二二、三	三三、六	二〇、七	—	—	—	—	—
全 十一日	二三、五	二五、八	二五、七	二九、六	二二、〇	二二、六	二四、三、八	〇、四	—	—	—	—
全 十二日	八、四	三三、九	九、七	二七、一	六、六	一九、三	〇、四	—	—	—	—	—
全 十三日	八、六	三三、〇	一五、七	二七、四	五、九	二六、九	〇、三	—	—	—	—	—
全 十四日	一一、〇	三三、二	一五、五	二八、八	六、四	二六、五	—	—	—	—	—	—
全 十五日	一一、二	三二、七	一六、九	二六、七	七、九	二七、六	—	—	—	—	—	—
全 十六日	一一、〇	三二、八	一六、一	二九、九	八、六	二六、四	—	—	—	—	—	—
全 十七日	一一、二	三二、八	一四、一	二九、三	八、九	二八、五	二、五	—	—	—	—	—
全 十八日	一一、二	三二、八	一七、九	二九、〇	二、九	三三、七	〇、四	—	—	—	—	—
全 十九日	一〇、一	三二、二	一七、三	三〇、九	一、七	一九、九	二、二	—	—	—	—	—
全 二十日	七、七	三二、七	一七、三	二九、一	七、一	一八、七	〇、〇	—	—	—	—	—
全 二十一日	六、七	三二、七	一〇、一	二七、六	四、七	一七、五	〇、〇	〇、〇	—	—	—	—
全 二十二日	六、七	三二、七	八、八	二七、七	三、八	一四、八	〇、〇	—	—	—	—	—
平均又は最強	二四、七	二六、七	一九、一	三二、六	二二、九	三三、七	二六、七、三	—	—	—	—	—

全 六 日	全 七 日	全 八 日	全 九 日	全 十 日	全 十 一 日	全 十 二 日	全 十 三 日	全 十 四 日	全 十 五 日	全 十 六 日	全 十 七 日	全 十 八 日	全 十 九 日	全 二 十 日	全 二 十 一 日	全 二 十 二 日	全 二 十 三 日	全 二 十 四 日	全 二 十 五 日	全 二 十 六 日	全 二 十 七 日	全 二 十 八 日	全 二 十 九 日	全 三 十 日
一七二	一六四	一六八	一六四	一五二	一四二	一三五	一五七	一五〇	一五六	一六〇	一六三	一六九	一六二	一五八	一四八	一五八	一五七	一七五	一六〇	一五八	一六二	一七五	一七四	一六七
二六、八	二六、九	二九、九	二九、五	二五、五	二七、三	二七、七	二六、三	二七、七	二七、六	二七、七	二六、三	二六、二	二七、三	二六、四	二六、五	二六、二	二六、四	二六、〇	二六、九	二六、一	二六、四	二六、三	二九、三	二九、五
三三、〇	三三、四	三三、九	三二、八	二五、三	二七、三	二四、七	二〇、八	二八、九	三二、一	三二、四	三三、二	三三、三	三二、〇	一九、四	二六、四	二六、三	二六、四	三三、七	二八、〇	一七、〇	一八、六	二四、四	三三、六	三三、六
三三、三	三三、二	三六、四	三五、〇	二八、八	三三、九	三三、一	三三、〇	三三、九	三三、四	三三、四	三三、四	三三、九	三三、九	三三、六	三三、五	三三、五	三三、八	三三、九	三三、〇	三三、七	三三、〇	三三、八	三三、五	三三、〇
一四、六	一三、六	一三、六	一三、四	一〇、七	一三、三	一三、三	一三、六	一三、二	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一四、〇	一四、〇	一四、三	一三、五	一三、〇	一四、九	一四、〇	一四、七	一四、七	一四、七	一四、五	一四、五	一四、六
二五、三	二五、〇	二五、八	二五、四	二五、三	二四、三	二四、三	二四、九	二四、八	二四、八	二四、六	二四、六	二五、一	二五、一	二六、一	二五、八	二五、八	二五、八	二六、〇	二六、四	二六、一	二六、四	二五、二	二五、二	二四、九
—	—	〇、九	〇、〇	〇、〇	—	—	一〇、八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一、三	二、一	二、九	三、四	三、九	一四、八	五、〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三、五	三、二	五、四	七、九	四、一	二四、八	二、四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三、四	二、二	一〇、三	七、六	二八、五	一〇、八	二四、六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七、五	五、五	九、六	二〇、八	七、三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

全七	九四	二六三	二六、一	二九、九	五、七	三、三	〇、〇	二、九	三、二
全八	六八	二六〇	九、〇	三、四	四、八	二、〇	四、四	三、九	三、七
全九	八九	二七〇	一〇、一	三、〇	三、四	一、四	一、七	三、九	二、九
全十	八一	二八〇	一〇、四	三、八	四、〇	一、四	〇、八	二、八	三、三
全十一	八六	二八、一	一一、〇	三、五	五、九	三、六	六、五	二、四	二、九
全十二	九二	二九、四	一二、〇	三、四	五、六	二、八	〇、六	二、四	二、九
平均又は最強	八九	二八、八	一四、七	三、五	五、一	三、八	六、三	二、四	三、〇

石鍬山頂と大阪との氣象比較

七月二十九日より九月二十二に至る五十八日間の観測に係る石鍬山頂の平均氣温は十四度八にして大阪に比すれば十一度九低く最高氣温は八月五日に於て二十五度四に達し最低氣温は九月二十二日に於て三度八を示せり雨は

此期間に三百五十七耗七を測れり之れを大阪に比すれば二倍強に當り風速度の平均は毎秒六米一にして強風以上の吹きたるは三十三日即ち此期間の半以上は強風にして最も強かりしは八月二十五日の二十四米四なり即ち次表に示すか如し

月 日	氣 温		雨 量		風 速 度		全 上 最 強
	平 均	最 高	山 頂	大 阪	山 頂	大 阪	
七月二十九日	二六、二	三、七	一三、一	二、六	一、七	三、三	五、一
全三十日	二六、二	三、〇	一三、一	二、四	四、八	三、四	三、七
全三十一日	二五、九	三、六	一三、九	二、八	八、〇	三、四	一、五、〇
八月一日	二四、九	二、八	一二、九	二、五	二、〇	三、八	一、六、七
全二日	二五、四	二、八	一三、一	二、五	七、〇	三、九	七、三
全三日	二六、八	三、六	一三、五	二、四	六、四	二、九	七、四
全四日	二七、二	三、一	一四、〇	二、四	三、四	三、三	五、一
全五日	二八、二	三、四	一四、一	二、五	五、三	三、〇	九、〇

全 大 日	全 五 日	全 四 日	全 三 日	全 二 日	九 月 一 日	全 三 十 一 日	全 三 十 日	全 二 十 九 日	全 二 十 八 日	全 二 十 七 日	全 二 十 六 日	全 二 十 五 日	全 二 十 四 日	全 二 十 三 日	全 二 十 二 日	全 二 十 一 日	全 十 九 日	全 十 八 日	全 十 七 日	全 十 六 日	全 十 五 日	全 十 四 日	全 十 三 日
二 七 〇	一 〇 一	二 〇 二	二 〇 三	二 〇 四	二 〇 五	二 〇 六	二 〇 七	二 〇 八	二 〇 九	二 一 〇	二 一 一	二 一 二	二 一 三	二 一 四	二 一 五	二 一 六	二 一 七	二 一 八	二 一 九	二 二 〇	二 二 一	二 二 二	二 二 三
三 六 四	三 七 五	三 八 六	三 九 七	四 〇 八	四 一 九	四 二 〇	四 二 一	四 二 二	四 二 三	四 二 四	四 二 五	四 二 六	四 二 七	四 二 八	四 二 九	四 三 〇	四 三 一	四 三 二	四 三 三	四 三 四	四 三 五	四 三 六	四 三 七
〇 三 三	一 〇 四	一 七 五	二 四 六	三 一 七	三 八 八	四 五 九	五 二 〇	五 九 一	六 六 二	七 三 三	八 〇 四	八 七 五	九 四 六	一 〇 一 七	一 〇 八 八	一 一 五 九	一 二 二 〇	一 二 九 一	一 三 六 二	一 四 三 三	一 五 〇 四	一 五 七 五	一 六 四 六
二 三 九	三 〇 〇	三 六 一	四 二 二	四 八 三	五 四 四	六 一 五	六 八 六	七 五 七	八 二 八	八 九 九	九 七 〇	一 〇 四 一	一 一 一 二	一 一 八 三	一 二 五 四	一 三 二 五	一 三 九 六	一 四 六 七	一 五 三 八	一 六 〇 九	一 六 七 〇	一 七 四 一	一 八 一 二
三 三 三	三 四 四	三 五 五	三 六 六	三 七 七	三 八 八	三 九 九	四 〇 〇	四 〇 一	四 〇 二	四 〇 三	四 〇 四	四 〇 五	四 〇 六	四 〇 七	四 〇 八	四 〇 九	四 一 〇	四 一 一	四 一 二	四 一 三	四 一 四	四 一 五	四 一 六
—	—	—	〇 〇	〇 〇	—	—	—	—	—	—	—	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	〇 〇	〇 〇	—	—	—	—	—	—	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	—	—	—	—	—	—	—	—
二 三 三	二 四 四	二 五 五	二 六 六	二 七 七	二 八 八	二 九 九	三 〇 〇	三 〇 一	三 〇 二	三 〇 三	三 〇 四	三 〇 五	三 〇 六	三 〇 七	三 〇 八	三 〇 九	三 一 〇	三 一 一	三 一 二	三 一 三	三 一 四	三 一 五	三 一 六
二 三 八	二 四 九	二 五 〇	二 六 一	二 七 二	二 八 三	二 九 四	三 〇 五	三 〇 六	三 〇 七	三 〇 八	三 〇 九	三 一 〇	三 一 一	三 一 二	三 一 三	三 一 四	三 一 五	三 一 六	三 一 七	三 一 八	三 一 九	三 二 〇	三 二 一
一 〇 一	一 〇 二	一 〇 三	一 〇 四	一 〇 五	一 〇 六	一 〇 七	一 〇 八	一 〇 九	一 一 〇	一 一 一	一 一 二	一 一 三	一 一 四	一 一 五	一 一 六	一 一 七	一 一 八	一 一 九	一 二 〇	一 二 一	一 二 二	一 二 三	一 二 四
一 〇 一	一 〇 二	一 〇 三	一 〇 四	一 〇 五	一 〇 六	一 〇 七	一 〇 八	一 〇 九	一 一 〇	一 一 一	一 一 二	一 一 三	一 一 四	一 一 五	一 一 六	一 一 七	一 一 八	一 一 九	一 二 〇	一 二 一	一 二 二	一 二 三	一 二 四

全 七 日	六三	六九	六六	六三	六〇	一四	一九	一〇	一〇	一〇	一〇
平均又は最強	七一	六六	三三	三三	二六	三三	三三	一〇	一〇	一〇	一〇

御嶽山頂と大阪との氣象比較

八月一日より九月十二日に至る四十三日間の觀測に係る御嶽山頂の平均氣温は八度九にして大阪より十七度八低く最高氣温は九月六日に於て二十二度〇に昇りたることあれども其他は概ね二十度以下なり最低氣温は八月十九日に於て零度八に降りたれども零下に降りたることなく

八月十日に霰降り、雨は此期間に七百六十八耗二を測れり之れを大阪に比すれば五倍強に當り風も亦た強く平均風速度は十一米四にして日々之の最大速度は殆ど強烈風の程度にありて最も強かりしは八月三日の毎秒三十七米三なり即ち次表に示すか如し

月 日	氣 均		最 高		最 低		雨 量	風 速 度	全 上 最 強	
	山 頂	大 阪	山 頂	大 阪	山 頂	大 阪				
八月 一 日	九.九	二七.〇	一八.八	三三.五	四.四	三.二	〇.七	一	二〇.一	三九
全 二 日	八.四	二四.〇	一〇.七	二六.四	六.三	三.九	〇.七	三.八	二四.〇	二六
全 三 日	八.一	二七.九	九.六	三三.五	五.八	三.七	一〇.九	二.五	三三.一	二七
全 四 日	八.三	二七.五	一〇.九	三三.一	五.三	三.一	五.八	〇.二	二五.一	二四
全 五 日	九.二	二六.四	一四.四	三三.一	七.五	三.八	二四.五	〇.六	二四.五	二五
全 六 日	八.九	二七.三	一三.八	三三.三	七.三	三.四	一六.九	一.四	二五.〇	二六
全 七 日	一〇.九	二七.三	一八.一	三三.七	六.五	三.二	二.九	一	二七.三	二七
全 八 日	一〇.五	二七.五	一七.〇	三三.一	六.一	三.七	一	一	二四.二	二八
全 九 日	一〇.六	二六.三	一六.四	三三.七	七.三	三.三	一	一	二七.七	二五
全 十 日	八.八	二六.一	一三.八	三三.七	六.三	三.三	一	一	二六.六	二六
全 十 一 日	八.〇	二六.〇	一〇.三	三三.〇	四.七	三.六	三.〇	一	二四.六	二五
全 十 二 日	九.七	二八.四	一七.五	三三.七	五.〇	三.四	〇.七	一	二四.四	二六

全 六 日	全 五 日	全 四 日	全 三 日	全 二 日	九 月 一 日	全 三 十 一 日	全 三 十 日	全 二 十 九 日	全 二 十 八 日	全 二 十 七 日	全 二 十 六 日	全 二 十 五 日	全 二 十 四 日	全 二 十 三 日	全 二 十 二 日	全 二 十 一 日	全 十 九 日	全 十 八 日	全 十 七 日	全 十 六 日	全 十 五 日	全 十 四 日	全 十 三 日
四九	三七	四九	五〇	五三	三九	四八	四九	七二	七六	八〇	五九	六四	六九	八一	七九	七三	六四	五六	五〇	九一	九四	八六	六四
二四六	二四六	二五二	二四二	二二九	一六七	二五二	二四四	二四〇	二四〇	二五二	二八四	二八二	二八二	二七八	二七五	二六三	二六九	二五二	二六九	二八六	二七四	二七〇	二七二
七九	六六	〇三	八五	七四	三三	一一	八四	〇三	〇三	三六	七五	一四	一六	一六	九六	七四	八〇	六九	一八	一九	一八	一六	一四
二九〇	二六四	二八〇	二〇五	二七〇	二六六	二九五	三〇三	二九四	二九五	三〇四	二七一	二九四	三二六	三〇〇	三〇〇	二七〇	三〇〇	三五一	一八〇	三五一	三二八	三三九	三三九
()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
三四	二二	一六	一四	二九	〇九	〇五	〇〇	五三	五三	三二	二〇	三二	二八	四三	三六	四六	三六	三六	二七	二七	三三	一八	二七
二三八	二〇八	二八三	一九三	二二七	一九九	二七九	一九三	二二四	二二三	二二三	二二九	二四六	二二九	二四六	二二七	二二四	二二〇	二四一	二四四	二二九	二二〇	二二五	二二六
四四	五六	八五	—	四七	二九	—	〇四	一九	四四	二四	—	三六	三六	九一	—	—	三九	一六	—	—	〇一	—	一五
〇七	二〇	—	—	四四	〇〇	七九	—	〇〇	〇五	四七	—	—	—	—	—	—	〇九	一五	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	三九	—	—	—	—	三九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二七	二四	二八	二二	二二	五四	三三	二四	四七	二二	三三	二六	二二	二二	三三	三三	三六	一〇	二四	七五	六六	五二	三三	三一
—	三六	二四	二二	二四	六六	二二	八八	八八	二八	二八	二八	五五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八〇	四八	五二	五九	五二	三九	四四	六六	七八	四七	六三	七五	七二	七二	七六	八一	—	—	—	—	—	—	—	—

富士山頂と大阪との氣象比較

山頂と山下との氣象を比較するが至當ならんも爰に記するは大阪地方より登山するものゝ便に供せんが爲め特に大阪と比較したるものなり

八月一日より九月七日に至る三十八日間の觀測に係る富士山頂の平均氣温は七度一にして大阪より十九度五低く最高氣温は八月二日に於て二十一度四に昇りたることありれども其他は概ね二十度以下にあり最低氣温は九月六日

に於て零下三度四を示し其他客下に降りたるは八月十五日二十一日及九月一日にして八月十日十三日及九月二日に霰降り八月十五日に霜ありたり雨は甚だ多く此期間に一千〇七十三耗四を測れり之れを大阪に比すれば殆ど四倍に及び風も亦極めて強く爲めに器械を破壊せられ最強風速度を測る能はさりしか九月五日の最大風速度は毎秒三十六米七に達し其他颯風(毎秒二十九米以上)に達したること尠からず即ち次表に示すか如し

月 日	氣 温		雨 量		風 速 度		全 上 最 強
	山 頂	大 阪	山 頂	大 阪	山 頂	大 阪	
八月一日	九.三	二六.三	—	—	四.六	二.九	八.三
全 二 日	二〇.七	二九.〇	—	—	三.五	二.一	八.二
全 三 日	八.八	二九.五	—	—	六.〇	二.六	九.五
全 四 日	九.五	二八.二	—	—	四.〇	三.〇	九.四
全 五 日	一〇.八	二六.〇	—	—	六.二	二.二	八.八
全 六 日	九.五	二七.八	—	—	一〇.一	三.七	八.二
全 七 日	八.〇	二六.一	—	—	三.三	三.五	七.九
全 八 日	七.四	二六.九	—	—	二.九	二.二	七.四
全 九 日	八.〇	二六.九	—	—	七.四	二.一	六.九
全 十 日	八.八	二六.四	—	—	六.七	二.五	二.七
全 十 一 日	八.〇	二六.五	—	—	一〇.六	二.〇	三.七
全 十 二 日	七.九	二八.八	—	—	二.六	三.〇	四.九

全二日	三、六	〇、四	二、八	七、五	六、四	一、〇	五、三	六、三	北東	四
全三日	三、〇	一、五	三、七	七、〇	八、三	—	四、四	二、四	北東	北東
全四日	三、〇	一、七	三、九	七、五	二、一	—	六、三	七、〇	北東	北
全五日	三、〇	四、〇	三、三	九、四	三、九	一、三	六、六	七、九	北	北
全六日	三、〇	四、一	三、〇	八、七	四、〇	—	五、六	八、〇	北	北
全七日	三、〇	二、五	二、六	六、六	〇、五	—	五、六	四、六	北	北
全八日	三、一	二、四	二、七	七、九	九、六	—	五、九	四、六	北	北
全九日	三、九	〇、七	二、七	七、〇	二、〇	—	三、一	九、六	北	北
全十日	二、五	〇、五	三、〇	七、二	六、八	—	二、六	五、三	北	北
全十一日	二、七	五、九	三、〇	七、八	二、五	〇、四	六、三	四、三	北	北
平均合計又は極	二、三	〇、六	三、〇	七、〇	二、四	一、〇	五、四	三、九	北	北

●山岳と氣象

同 技 手 山 岡 平 太 郎
田 顯 吉

日本山岳會にては曩に東京又は京都等に於て大會を催ふしたることあれども大阪にては未だ之れなかりしか故に山岳趣味の鼓吹に資せんか爲め今回大阪にて關西大會を開催することとなり六月十八日より二十日まで三日間府立大阪博物場美術館に山岳に關する諸種の參考品を陳列し又十九日には幻燈大講演等ありたり是れより先き該會より當測候所へ山岳に關する參考品等の出品を依頼し來りたるか故に予等其任に當り所長の指導を受け嘗て中央

氣象臺に於て夏季富士山頂其他諸山頂にて氣象觀測をなしたる成績竝寫眞、筑波山頂測候所寫眞竝報告、臺灣新高山の研究報告、其他山岳に昇るに從ひ氣壓、沸騰點、氣溫等の低下する模様を知るに足る略表竝模圖、山岳用晴雨計、沸騰點觀測用寒暖計、旅行用最高最低寒暖計竝乾濕球寒暖計等を出たせり 其内夏季に於ける富士山頂(三千七百三十三米)信州御嶽山頂(三千〇五十一米)及四國の石鎚山頂(一千九百七十七米)の氣象と大阪との氣象とを比較したるものは左の如し但し山頂に於ける氣象觀測は各其年度を異にせるを以て各別に表記せり

期は高くして下半期は低く七月五日、六日は著しく低溫

なりしが十日より俄然暑氣加わり十一日の最高は三十二

度〇を示せり 今年梅雨期間の氣象を表記すれば左の如し

(表中▲印は平年より高又は多無印に平年より低又は少を示す)

月日	空氣の溫度				降水量	日照	風	
	平均	最高	最低	平均			最多風向	最大速度
六月十二日	三三・六▲	三六・七	二〇・五	八八・八▲	五・二	二・六	西南	八・八
全十三日	三二・七▲	三四・〇	一九・八	八八・三▲	—	—	西南	六・六
全十四日	三三・五▲	二六・〇	一九・六	八二・四▲	〇・〇	三・四	北北東	六・九
全十五日	三三・四▲	二七・八	二二・〇	八三・六▲	〇・〇	二・七	西	二〇・六
全十六日	三三・六▲	二七・五	二三・五	七九・六▲	—	七・〇	西	一・八
全十七日	三三・七▲	二六・六	二三・三	八三・三▲	〇・三	四・八	西	一・七
全十八日	三五・八▲	二八・七	二三・九	八二・五▲	—	二・九	南	九・八
全十九日	三五・六▲	二九・一	二三・九	七九・四▲	〇・〇	一〇・三	西	四・九
全二十日	三三・七▲	二六・六	二二・〇	八〇・八▲	二・六	六・六	西	〇・四
全二十一日	三三・三▲	二六・二	二〇・五	八二・九▲	七・八	〇・五	西	四・五
全二十二日	三三・六▲	二六・四	二二・五	八二・七▲	—	—	南	一・三
全二十三日	三三・九▲	二七・七	二三・六	七九・七▲	三・〇	—	南	二・九
全二十四日	三三・五▲	二六・三	二〇・四	八四・四▲	四・五	一・七	南	一・三
全二十五日	三三・三▲	二四・七	二〇・〇	九三・三▲	六・九	—	南	一・三
全二十七日	三三・六▲	二九・一	一九・五	八七・三▲	—	一〇・五	西	五・三
全二十八日	三三・一▲	二七・八	二〇・〇	八七・七▲	二・七	一・〇	北	四・四
全二十九日	三三・三▲	二六・〇	二〇・二	八六・四▲	—	〇・七	西南	四・七
全三十日	三三・四▲	二六・七	一九・八	八八・〇▲	—	九・五	北	三・五
七月一日	三三・九▲	二八・九	二五・七	八五・三▲	—	一三・〇	東北	五・一

風向南に轉し疾風となり正午より強風吹き起り午後十時最も強く風速度毎秒十四米一に達し二十四日午前一時まで強風吹き續き雨も亦二十日より二十四日まで降り續けり

(三)六月二十四日朝楊子江流域に顯はれたる低氣壓は北東に進み同夜支那海に入り朝鮮を横きり二十五日朝日本海中部を経て二十六日朝日本海の北部に經過し去れり此低氣壓の通過に際し九州より東北地方に至る一帯に風雨を起せり

大阪にては二十五日朝來北東の軟風吹しか午後一時風向南に轉し午後二時俄然強風吹き起り全九時最も強く風速度毎秒十三米九に達し午後十時まで強風吹き續きしか前日來降り續きたる雨は廿五日の夜に入り倍々増勢し午後七時より八時に至る一時間に十三糎九を豪注し氣壓は全七時最低七百四十九糎に達し同時恰も大阪灣滿潮時に會したるを以て海水著しく昇騰し午後八時最高二百二十七糎に達せり之れを平均潮位に比すれば百〇四糎以上高く二十六日午前六時過より漸次に下降し二十六日午後零時三十分最低四十四糎に降り平常に

復せり因に記す二十五日の雨量は七十八糎九にして本年六月中に於ける最大を示せり(前號)六月二十五日の大雨に就ての項参照)

●本年の梅雨實況 梅雨は年に依り多少早晚あれ

ども曆面に載する所の入梅は六月十二日にして梅雨期間は約三十日とせり今本年梅雨期間(六月十二日より七月十一日まで卅日間とす)の降雨を見るに其日數は十五日にして平年に等しく其量は二百〇四糎九にして平年より六糎九少し而して本年は梅雨現象の來ること稍々早く六月五日より十二日まで殆ど日々降雨ありたると同時に六月三十日以降は降雨少く梅雨期を脱したるの觀ありき依りて仮に六月五日に梅雨に入りたるものとし雨天日數を算するに十七日にして雨量は二百五十七糎一となれり之れを平年に比すれば日數二日雨量四十五糎三多し但し本年の雨天日數中には日中は晴天にして夜間一糎内外の降雨ありたる十七日、二十二日、二十六日、の三日を算入し雨量の内には梅雨期に稀なる廿五日の大雨(雨量七十八糎九)あり之れを要するに本年の梅雨は平年と大差なきか如し(本年三月本報梅雨概況参照)又氣温は梅雨上半

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は三分三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前零時三十四分五十二秒に於て六十二「ミクロン」振動期五秒八南北動は午前零時三十四分五十一秒に於て四十五「ミクロン」振動期五秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間には東西動は二十二分三十七秒、南北動は二十五分四十一秒なり

附記

此地震は北海道の東方沖に發したるものにして釧路、青森、水戸にては微震を感じ函館、秋田、石巻、東京にては人身に感覺なきも地動計に感じたり又微動は畿内附近に達したり

八九

六月二十九日午後十時四十五分四十三秒の地震此地震は振幅微にして振動の各部判明ならされども最大振幅（南北動）は午後十時五十三分五十七秒に於て二十「ミクロン」振動期七秒五を現し後微となり静止せり全振動時間は三十八分十秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源詳ならず

●六月中の暴風概況

六月の中旬以後は所謂梅雨期にして楊子江流域より低氣壓の襲來頗る多りしも其進行遅々にして前低氣壓の去らざるに新低氣壓の來ると數

々あり然れども此期間に來る低氣壓は多くは淺薄にして降雨を伴ふも風力は比較的強からず今本月中に觀測したるもの、内稍々顯著なりしもの三回を擧げんに(一)は六月十九日(二)は六月二十三日にして(三)は六月二十五日の暴風なり其概況を記すれば左の如し

(一)六月十六日朝楊子江下流に顯はれたる低氣壓は北東に進み朝鮮を横切り十八日朝滿洲に經過し去りしか此低氣壓の通過に際し九州より東北地方に亘りて風雨を起せり

大阪にては十九日未明は軟乃至和風吹きしか次第に増力し午前八時より疾風となり午後二時より強風吹き起り午後六時最も強く風速度毎秒十三米二に達し午後七時まで強風吹き弱きしも雨量は極めて少かりし

(二)六月二十日午後楊子江流域に顯はれたる低氣壓は江に沿ひて東進し二十二日夜黃海南部に來り朝鮮南部を横きり二十三日朝日本海に入り二十四日日本海北部に經過し去れり此低氣壓通過に際し九州より東北地方に至る一帯は風雨を起せり

大阪にては二十三日朝來北東の和風吹きしか午前十時

濱、布真にては強震を感じ甲府、松本、熊谷、東京、横須賀
濱松、伏木等にては弱震を感じ家屋動揺せりと云ふ而して微

動は北海道の南部及九州北部に達したり(八丈島の南方「ハ
ローズ」嶽附近の噴火の項参照)

八四 六月二十日午後四時三十一分十八秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分七秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後四時
三十三分二秒に於て八十二「ミクロン」振動期三秒四、南
北動は午後四時三十三分二十六秒に於て五十五「ミクロ
ン」振動期三秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間
は東西動は二十一分十五秒、南北動は十九分四秒なり

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域頗る廣く北方は羽
後秋田邊に南方は小笠原島に南西方は四國及九州に達し水戸
筑波、石巻、和歌山にては微震を感じたり

八五 六月二十一日午後四時十九分十八秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分三十八秒にして主要動となり最大振幅は午後四時二十
二分四十六秒に於て十二「ミクロン」振動期四秒二を現し
後微となりて靜止せり全振動時間は十一分十一秒なり

(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は陸奥沖に發したるものにして青森、函館、秋田にて
は人身に感覺なきも地震計に感じたり

八六 六月二十三日午前六時三十二分三十五秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間
は四分二十一秒にして主要動となり最大振幅は午前六時
二十九分二十秒に於て十五「ミクロン」振動期五秒五を現
し後微となり靜止せり全振動時間は十七分三十七秒なり

(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は遠距離の所に發したる微震にして未だ震源は詳なら
ず

八七 六月二十七日午後十時十七分四十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分零秒にして主要動となり最大振幅は午後十時十九分二
十七秒に於て十七「ミクロン」振動期五秒五を現し後微と
なり靜止せり全振動時間は八分七秒なり(南北動微動計
百二十倍の觀測)

附記

此地震は相模灘に發したるものにして震域北方は常陸に南方
は八丈島に西方は駿河の南部に達し東京、八丈島にては性質
急なる微震を感じたり

八八 六月二十八日午前零時二十九分十八秒の地震

ざれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれば左の如し

臺 北 午前八時三六分一二秒
 シカウエー(支那上海) 全 八時三七分三四秒
 大 阪 全 八時三八分五三秒

八二 六月二十日午前零時三十八分三十三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十八秒にして主要動となり最大振幅は午前零時四十分十九秒にして二十「ミクロン」振動期四秒二を現し後微となり靜止せり全振動時間は七分零秒なり(南北動微動計百二十倍の観測)

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして實城南方は東京灣に四方は信州松本附近に達し水戸、筑波、東京、横浜にては微震を感じ微動は畿内附近に達したり

八三 六月二十日午前一時一分三十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動繼續時間は零分三十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前一時二分四十八秒に於て三百五十二「ミクロン」振動期三秒四、南北動は全時刻に於て三百七十「ミクロン」振動期四秒三を現はし後微となり靜止せり全振動時間は東西動は二十四分四十四秒、南北動は二十五分二十八秒なり即ち次表に示すか如し

東西動地動計観測

發 現 時	最大振幅		振動期
	(+)	(-)	
初期微動	P 一時一分三九秒		秒
	S		
主要動	L 一時二分一七秒		
	M 一時二分四八秒	三五二	
終 期	F 一時二分五三秒		三、四

南北動地動計観測

發 現 時	最大振幅		振動期
	(+)	(-)	
初期微動	P 一時一分三九秒		秒
	S		
主要動	L 一時二分一七秒		
	M 一時二分四八秒	三七〇	
終 期	F 一時二分七〇秒		四、三

附記

此地震は八丈島南方海底に發したるものにして實城頗る廣く

北方は羽後の秋田邊に西方は畿内附近に達し前橋、沼津、横

壺北	午前六時四八分一二秒
仁川	全 六時四八分三四秒
函館	全 六時四八分三七秒
大阪	全 六時四九分二七秒
福岡	全 六時四九分四〇秒

七九 六月八日午前七時三分四秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は三分零秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前七時七分三十秒に於て四十「ミクロン」振動期八秒六南北動は午前七時七分三十四秒に於て三十五「ミクロン」振動期五秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は二十七分十一秒、南北動は三十分二十秒なり

附記

此地震は北海道の東方沖に發したるものにして秒那、釧路、函館にては微震を感じ青森、秋田、福島にては人身に感覺なきも地震計に感じたり今各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

函館	午前七時〇一分一〇秒
大阪	全 七時〇三分〇四秒
福岡	全 七時〇三分四四秒
シカウエー(支那上海)	全 七時〇五分〇四秒

八〇 六月十八日午前二時五十六分三十九秒の地震
 此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
 分十九秒にして主要動となり最大振幅は午前二時五十八
 分四十七秒に於て二十六「ミクロン」振動期二秒二を現し
 後微となり静止せり全振動時間は十二分三十七秒なり
 (南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は陸前沖に發したるものにして震域北方は北海道の南
 部に南方は八丈島に達し石巻、金華山、金山、福島等にては
 性質急なる揺蕩を感じ石巻にては棚上の物落下せし所あり、
 水戸、熊谷、宇都宮、東京、八丈島にては微震を感じ微動は
 畿内附近に達したり

八一 六月十八日午前八時三十八分五十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續
 時間は五分十六秒、第二は五分三十八秒にして主要動と
 なり最大振幅は東西動は午前八時五十二分六秒に於て十
 二「ミクロン」振動期十五秒八、南北動は午前八時五十分
 四十九秒に於て十五「ミクロン」振動期十六秒八を現し後
 微となり静止せり全振動時間は東西動は三十四分五十五
 秒、南北動は三十一分四十八秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳なら

七五 六月五日午前七時零分十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分五十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前
七時三分二十三秒に於て三百四十七「ミクロン」振動期八
秒六 南北動は午前七時三分二十五秒に於て四百三十七
「ミクロン」振動期六秒四を現し後微となり靜止せり全振
動時間は東西動は四十八分二十秒、南北動は四十六分五
十五秒なり

附記

此地震は陸奥沖に發したるものにして震域南方は東京灣に南
西方は駿河の沼津附近に達し青森、函館、秋田等にては弱震
を感じ微動は遠く朝鮮及臺灣に達したり

七六 六月五日午後五時十四分五十三秒の地震

此地震は極微なる波動を呈し初期の微動は零分三十八秒
にして主要動となり最大振幅は午後五時十五分五十五秒
に於て十一「ミクロン」振動期二秒〇を現し後微となり靜
止せり全振動時間は五分三十一秒なり(南北動微動計百
二十倍の觀測)

附記

此地震は燒嶽大噴火に關するものなるべし

七七 六月六日午前七時三十三分六秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分三十八秒にして主要動となり最大振幅は午前七時三十
五分三秒に於て三十「ミクロン」振動期四秒一を現し後微
となり靜止せり全振動時間は十三分二十一秒なり(南北
動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は燒嶽大噴火に關するものにして信州松本にては微震
を感じ甲府、濱松、彦根、福井等にては人身に感覺なきし地
震計に感じたり(燒嶽大噴火概況参照)

七八 六月七日午前六時四十九分二十七秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續
時間は十二分二十七秒、第二は十分三十秒にして主要動
となり最大振幅は東西動は午前七時四十五分八秒に於て
八十「ミクロン」振動期二十四秒〇、南北動は午前七時十
九分四十秒に於て八十七「ミクロン」振動期二十秒二を現
し後漸次微となり靜止せり全振動時間は東西動は二時八
分二十八秒、南北動は二時七分三十八秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳なら
ざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれ
ば左の如し

大阪に雷鳴及強風吹けり●二十五日前日來の雨斷續して翌日に亘る所々に強風吹けり●二十六日前日來の雨未明歎み後概ね晴天となり岸和田、長承寺に強風吹けり●二十七日概ね晴天●二十八日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る●二十九日前日來の雨午前は午後歎む●三十日晴曇相半す

大阪地震觀測概況

爰に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て觀測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の器械にて觀測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し
 Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Lは長波即ち主要部全上、Mは主要部の最大動、Cは終期の最大動、Fは振動の終了又(+)は南北動にありては北、東西動にありては東、(-)は南北動にありては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」(毫の千分一)を以て記す

本月中に地震を觀測したる數は十六回にして人身に感覺ありたるものは一回もなく人身に感覺なく普通地震計に感したるものは二十日午前一時一分三十九秒八丈島の南方海底及全日午後四時三十一分十七秒鹿島洋に發したる

もの各一回なり無感覺地震にして地動計又は微動計に感し其震源本邦内にありたるものは八回即ち北海道の東方海底、陸奥沖、燒嶽附近各二回陸前沖、鹿島洋、相模灘各一回なり又遠距離地震は五回にして未だ震源詳ならず今其觀測概況を列記すれば左の如し

七四 六月一日午後十一時五十四分一秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間九分十七秒第二は七分八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は二日午前零時二十分三秒に於て三十五「ミクロン」振動期二十四秒〇、南北動は全午前零時二十一分零秒に於て二十五「ミクロン」振動期二十三秒を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は一時四分四十七秒、南北動は一時四分四十四秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記せば左の如し但し時刻は日本中央標準時に據る以下皆然し

區	館	午後一時五十三秒
大	阪	全 一一時五四分〇一秒
仁	川	全 一一時五四分〇八秒
福	岡	全 一一時五四分三九秒

廿二日	七四	五五	四四	四四	三四	二九	二九	一〇〇	一〇〇	一四〇	九三	二二	二〇	一六	〇	〇	〇
廿三日	二五	五五	三九	九〇	〇八	五八	一五	〇六	一〇	五三	一〇	四八	五〇	一九	二八	五三	一
廿四日	三〇	三三	四一	一九	二五	一七	三四	三三	一九	一四	一五	九七	三三	一九	三〇	六	八
廿五日	五九	六六	七〇	八〇	六〇	三三	三七	三〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
廿六日																	
廿七日																	
廿八日	一七	一三	一三	一三	一六	三三	三七	三七	三三	四三	六〇	七五	六〇	五三	六	三	九
廿九日																	
三十日																	
全月	三〇	三五	三六	三七	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五

管内天氣摘要

●一日晴曇相半し所々に雨降り大阪に強風吹けり●二日概ね晴天●三日概ね晴天●四日晴曇相半し大阪に強風吹けり●五日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る●六日前日來の雨一旦歇みしか午後より雨降り翌日に亘る深日、富田林、長野に雷鳴あり●七日前日來の雨午前歇む●八日晴曇相半し午後より雨降り翌日に亘る●九日前日來の雨概ね午後歇む●十日一般に雨降り断續して翌日に亘る●十一日前日來の雨断續して翌日に亘る大阪に強風吹けり●十二日前日來の雨概ね午前歇む●十三日概ね曇天●

十四日晴曇相半し所々に雨降り●十五日晴曇相半し所々に雨降り●十六日晴曇相半し新庄、妙見山、天王に雨降り●十七日概ね晴天●十八日概ね晴天●十九日概ね晴天大阪、妙見山、天王に雨降り大阪に強風吹けり●二十日概ね晴天なりしか午後より雨降り雷鳴、強風之れに伴ひたり●二十一日前日來の雨一旦歇みしか午後より復々雨降り翌日に亘る●二十二日前日來の雨未明歇みしか午後より雨降り翌日に亘る大阪に強風吹けり●二十三日前日來の雨断續して翌日に亘る長承寺、堺、大阪に強風吹けり●二十四日前日來の雨断續して翌日に亘る

第四表 管内降水日量

六	月	深日	上之	岸和	長承	濱寺	堺	天王	大阪	福島	新庄	池田	妙見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	富田	長野
一	日	四六		四八	四三	四四	六八	九三	四八	五九	五〇	一一	五五	一三	三〇	?	六三	七七	五八	三〇	二七		
二	日								〇〇														
三	日																						
四	日																						
五	日	二七八		三〇〇	二八〇	二四八	三三三	一〇〇	八三	九一	八三	一〇〇	二五〇	二三三	二五二	?	三七	三〇	四四	?	?		
六	日	三五七		三三七	三二二	二八八	二六三	一七八	八五	二二	八三	三三	七〇	七三	四二	?	三七	三六	四五	?	?		
七	日			〇五〇	一	一	三〇	〇〇	四〇	〇〇	〇〇	一	八八	一五〇	七	一	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		
八	日	三三		九八	二四	五六	九八	七三	七〇	八五	八七	二一〇	八八	二五〇	〇五	八七	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		
九	日	四〇		三三	二四	二六	二四	五三	三五	三三	三九	二二	三三	三八	二九	四二	八三	二二	四一	四二	六		
十	日	一七〇		二六	二四	二五	二五	六三	四四	三三	八〇	二二	二四	一	二八	二二	五五	四八	三三	二二	三		
十一	日	七六		一四	二九	三三	二六	五九	二四	四五	九三	三三	四三	二五	二九	二二	七四	六〇	五三	二六	〇		
十二	日																						
十三	日																						
十四	日																						
十五	日																						
十六	日																						
十七	日																						
十八	日																						
十九	日	〇八																					
二十	日	三九																					
廿一	日																						
廿二	日																						

季としては先づ良好のものなるへし更に氣温、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は西部福島東部八尾の二十三度九より北部妙見山の十八度七の間にありて之れを平年に比すれば一度乃至二度の高温を呈し最高は概ね十八十九の兩日に現はれ東部柏原の三十六度を高極とし西部福島の三十四度六東部八尾の三十四度五之れに亞き其他は三十四度一より三十度〇の間を示し獨り妙見山は二十七度六に止まれり又最低は一般に三日に現はれ北部天王の三度四を低極とし全妙見山の三度九之れに亞き其他は五度四より十度七の間にあり之を要するに本年六月の氣温は最高三十六度二より最低三度四の間にありて其較差は實に三十二度八に及へり

降 水 總量は北部妙見山の四百五耗九より南部岸和田の二百十五耗五の間にありて之れを平年に比すれば一般に多く妙見山の如きは平年の二倍以上に

達せり而して日量の最多は二十五日の豪雨の際にありて北部妙見山の百四十耗〇南部堺の百二十耗三東部八尾の百〇二耗〇を最多とし之れに亞くは東部柏原の九十一耗五なり又日量の八十耗以上なりしは長承寺、茨木の二ヶ所、七十耗以上なりしは大阪、濱寺、清水、枚方、田原の五ヶ所、六十耗以上なりしは上之郷、福島、東郷、富田林の四ヶ所、五十耗以上なりしは深日、岸和田、天王寺、新庄、池田の五ヶ所にして其他は四十六耗内外なりき

雷 雨 六日二十日二十四日の三回にして六日及二十四日に起しものは孰れも遠雷なりしか二十日に起りしものは最も強かりし（前號六月二十日の雷雨に就ての項参照）

第三表 管内全月氣象觀測成績

（表中△印は高又は多）

十八日	六九	六六	五五	四六	三二	二四
十九日	六一	五九	六二	五三	三六	一九
二十日	六七	六七	六三	五五	三二	一八
廿一日	六〇	五二	五五	四八	三二	一八
廿二日	六九	五八	五三	四九	三三	一九
廿三日	六五	五五	五三	四四	三三	一九
廿四日	六四	五五	五三	四四	三三	一九
廿五日	六三	五三	四四	三五	三七	二七
廿六日	五八	四八	四三	三五	二二	一八
廿七日	五五	五二	四七	四五	三二	一六
廿八日	三九	三三	四六	三三	二四	一七
廿九日	三四	三三	四三	三三	二四	一八
三十日	三四	三六	三三	三三	三三	一五
全月	三二	三七	三三	三三	三三	一六

大阪府管内氣象概況

朝薄露あり、午後八時五十分より九時三十分迄北東方に電光あり、夜薄露あり、朝露あり、午後二時より九時迄強風吹けり、午後五時四十分より十一時十五分迄微雨斷續す、朝薄露あり、午前九時四十二分より午後五時三十分迄、朝露あり、午後七時八分西方に電光ありしが七時五十分北西方に遠き電雷起り八時四十九分東に電光あり八時五十分より北に八時五十八分北東に廻り九時十八分收聲す、午後八時七分より降雨時々大雨を交へ翌日に亘る、午後九時強風吹けり、前日來の雨時々大雨を交へて斷續し翌日に亘る、前日來の雨午前二時四十分歇む、午前十時五十八分より十一時三十分迄日曇現る、午後四時強風吹けり、午後八時五十分より十一時三十分迄小雨、前日來の雨午前二時四十分歇む、正午より強風吹き翌日に亘る、午前八時三十分より午後九時迄強風吹き翌日に亘る、午後九時四十分より午後九時五十分迄強風吹き翌日に亘る、前日來の雨は斷續して午後三時五分迄午後九時四十分より又降雨翌日に亘る午前十一時六分より十一時三十分迄午後二時五分より二時三十分迄、南方に雷鳴あり午後三時乃至四時強風吹けり、前日來の雨時々大雨を交へ斷續し翌日に亘る、前日來の雨午前零時四十五分歇む、夜薄露あり、朝薄露あり、午前六時三十分より午後四時二十五分迄時々日曇現る、午後十時五十五分より月朝現れ翌日に亘る、夜薄露あり、前夜來の月暈時々現れ午前一時四十五分消ゆ、朝薄露あり午前十一時五十四分より降雨斷續して翌日に亘る、前日來の雨斷續して午前九時三分歇む、午後零時五十分より一時二十分迄日曇現る、朝薄露あり、

前既に述べたるか如く六月は夏季の状態に移らんとし氣温逐日上昇を告ぐるも中旬より梅雨季に入るを以て陰鬱の天氣となり爲めに氣温は稍々上昇を中止し降水量は劇増して一年中に於ける最多量を示すを常とす而して本年六月の氣候を調査するに五日頃より梅雨の状態を呈し霖

雨連日に亘りしか十二日頃より晴天となり暑氣稍々加はり十四日には最高氣温所々に三十度以上に昇り十八日及十九日は最も烈しく一般に最高の極を現し其最も高きは東部柏原の三十六度二にして六月中に如斯高温を呈せしは本府管内觀測所創始以來未だ嘗て看さる所のものなり而して二十日には午後より雷雨となり爾後復々降雨連續し廿五日には大雨を豪注せり要するに本月の氣候は梅雨

三十日	七五、四	三、四	〇、五	二八、七	一八、八	九、九	三、五	六	八、九	三、二	北	八、一	九、五	二、二	一	七、九
全月	七五、六	三、七	〇、九	二六、六	一九、五	七、〇	六、五	八、〇	四、二	四、七	一、四	南	七、九	〇、〇	二、九	二、五

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

六月 地中溫度(平均) 最低 諸現象の摘要

日	地皮十層	二十層	三十層	六十層	最低	諸現象の摘要
一	三三、四	三三、〇	三三、八	三三、三	三、四	午後九時強風吹けり、午後九時三十五分より小雨翌日に亘る。
二	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	九、三	前日來の雨午前二時十分歇む、夜薄露あり。
三	三三、三	三三、〇	三三、〇	三三、〇	七、四	朝露あり、夜薄露あり。
四	三三、六	三三、〇	三三、六	三三、三	三、四	朝露あり、午前八時五十分より九時十五分迄微雨、午後零時十三分より十五分迄日光環現る
五	三三、一	三三、〇	三三、七	三三、〇	四、五	午後零時二十分より一時三十分迄日環現る、午後二時強風吹けり、夜薄露あり。
六	三三、八	三三、八	三三、八	三三、五	八、七	朝露あり、午後零時四十分より小雨斷續して翌日に亘る。
七	三三、八	三三、九	三三、四	三三、二	六、二	前日來の小雨斷續して翌日に亘る。
八	三三、九	三三、七	三三、四	三三、九	四、八	朝露あり、午後十時三十分より小雨翌日に亘る
九	三三、〇	三三、七	三三、七	三三、六	六、〇	前日來の小雨斷續して午後六時五十分歇む。
十	三三、二	三三、七	三三、〇	三三、五	四、九	午前十一時五十八分より午後零時三十分迄日環現る、午後六時五十分より七時三十分迄微雨
十一	三三、二	三三、七	三三、五	三三、五	七、九	午前一時十五分より降雨時々大雨を交へ斷續し翌日に亘る、午後一時より四時迄十時より夜半迄強風吹けり。
十二	三三、七	三三、八	三三、〇	三三、七	八、九	前日來の降雨斷續して午前八時十五分歇む。
十三	三三、三	三三、七	三三、四	三三、七	六、五	朝露あり、午前三時二十分より六時四十分迄薄霧あり、夜薄露あり。
十四	三三、四	三三、〇	三三、四	三三、二	七、〇	午前六時四十分より午後一時四十二分迄日環現る、午後七時二十分より七時三十分迄微雨。
十五	三三、五	三三、六	三三、五	三三、七	六、三	朝露あり、午前六時十六分より九時十五分迄微雨、午後三時乃至四時強風吹けり。
十六	三三、三	三三、三	三三、三	三三、四	二、〇	朝露あり。
十七	三三、六	三三、五	三三、八	三三、五	三、五	朝露あり、午前三時五十六分より四時三十二分迄微雨、夜薄露あり。

すれは三日其水量は二百五十七耗一にして平年に比すれは五十九耗二孰れも多し又一日中の最多量は二十五日の七十八耗九、一時間の最多量の二十日午後八時乃至九時の十四耗一なり又蒸發總量は百四十三耗三にして平年に比すれは二耗六少く一日中の最多量は十八日の八耗五なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は二十四度一四にして平年に比すれは零度二四高く月中の最高は二十日午後一時に於て四十四度一を示し最低は三日午前五時に於て十一度四を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後一時にありて三十一度九九、最低は午前五時にありて十九度五七を示し其較差は十二度四二なり

地中十糶の溫度 平均は二十三度七五にして平年に比すれは零度九三高く月中の最高は十八日午後五時に於て二十九度一を示し最低は三日午前八時に於て十八度二を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後五時にありて二十五度一四、最低は午前七時乃至八時にありて二十二度五〇を示し

其較差は二度六四なり

地中二十糶の溫度 平均は二十三度四二にして平年に比すれは零度九一高く月中の最高は二十日午後七時乃至八時に於て二十六度八を示し最低は三日午前八時乃至正午に於て二十度一を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後八時乃至九時にありて二十三度八六、最低は午前十時にありて二十二度九九を示し其較差は零度八七なり

地中三十糶の溫度 平均は二十三度一〇にして平年に比すれは零度八九高く月中の最高は二十日午後十時乃至夜半に於て二十六度〇を示し最低は三日午後一時乃至三時に於て二十度五を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は夜半にありて二十三度三一、最低は正午乃至午後二時にありて二度九五を示し其較差は零度二六なり

地中六十糶の溫度 平均は二十一度六一にして平年に比すれは一度〇〇高く月中の最高は二十四日夜半に於て二十三度七を示し最低は一日前一時乃至四時に於て十九度三を示せり但し此深にありては殆

二、最低は午前五時にありて二十度二四を示し其較差は五度三八なり又最高氣温の三十度以上に昇りし日數は一日にして平年に等し

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

十六耗五三にして平年に比すれば零耗三四低く月中の最大は十八日正午に於て二十一耗三を示し最小は二日午後六時に於て七耗七を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後二時にありて十六耗九一、最小は午前四時にありて十六耗一八を示し其較差は零耗七三なり

濕度の平均は八十、三にして平年に比すれば一、九少く月中の最少は三十日午後一時に於て三十六を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前五時にありて九十、八、最少は午後二時にありて六十九、二を示し其較差は二十一、六なり飽差の平均は毎立方米中四瓦一八にして平年に比すれば零瓦一八少く月中の最多は三十日午後一時に於て十七瓦七を示し最少は二十五日午後十一時に於て零瓦四を示せり、而して月平均に就きて一日中の變

風

化を看るに最多は午後二時にありて七瓦四二、最少は午前五時にありて一瓦五八を示し其較差は五瓦八四なり

平均速度は毎秒四米六七にして平年に比すれば零米一二強く月中の最大速度は二十三日午後十時に於て毎秒十四米一（一間平方面を垂直に壓する力は二十一貫目に當る）の南風なり又強風以上の吹きたる日數は十日にして平年より三日其吹續時間は四十三時にして平年より十二時孰れも多し又月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後三時乃至四時にありて七米一八、最小は午前五時乃至六時にありて二米七三を示し其較差は四米四五なり、風向は西風最も多く南西風之れに亞き南東風は最も少し之れを平年に比すれば西風は多くして東風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は七、九にして平年

に比すれば〇、四多く日照時數は百五十一時〇〇にして平年に比すれば二十九時八七少く一日中日照時間的最も長かりしは二日の十二時六〇なり

降水及蒸發量

降水日數は十九日にして平年に比

大阪測候所月報

大正四年
六月 大阪氣象概況

前月來氣溫は漸次上昇し風は南西となり夏季の状態を呈すれども本月中旬頃より梅雨季に入り陰鬱濕潤の天氣持續し爲めに氣溫の上昇稍々遅緩となり暖冷常ならずして往々不時の冷氣を催ふすことあり然れども偶々天氣好晴となる時は俄かに暑氣加り蒸熱甚しく不快を感ずることあるを此月の常とす、然り而して本年六月の氣候を調査するに本年は梅雨の來ること稍々早く五日より雨天となり引續き陰鬱の天氣多かりしを以て雨量は平年より多く日照時數少く氣溫は平年より高き方にありたり

今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百五十八耗五五にして平年に比

すれば一耗七〇高く日々の變化は氣象圖に示すか如

く顯著なる昇降は三回微なる昇降は五回ありたり、

而して月中の最高は三日午前七時に於て七百六十六

耗四を示し最低は二十五日午後七時に於て七百四十九耗三を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看

るに第一の最高は午前八時にあつて七百五十九耗一

七第一の最低は午後五時にありて七百五十七耗七四

を示し第二の最高は午後十時乃至十一時にありて七

百五十八耗八三、第二の最低は午前三時にありて七

百五十八耗五五を示せり而して其主なる最高低の較

差は一耗四三なり

氣 溫 平均は二十二度七五にして平年に比すれば

は零度九四高く平均氣溫日々の變化は上旬は平年に

比し高低相半し中旬より下旬の初に至る間は概ね高

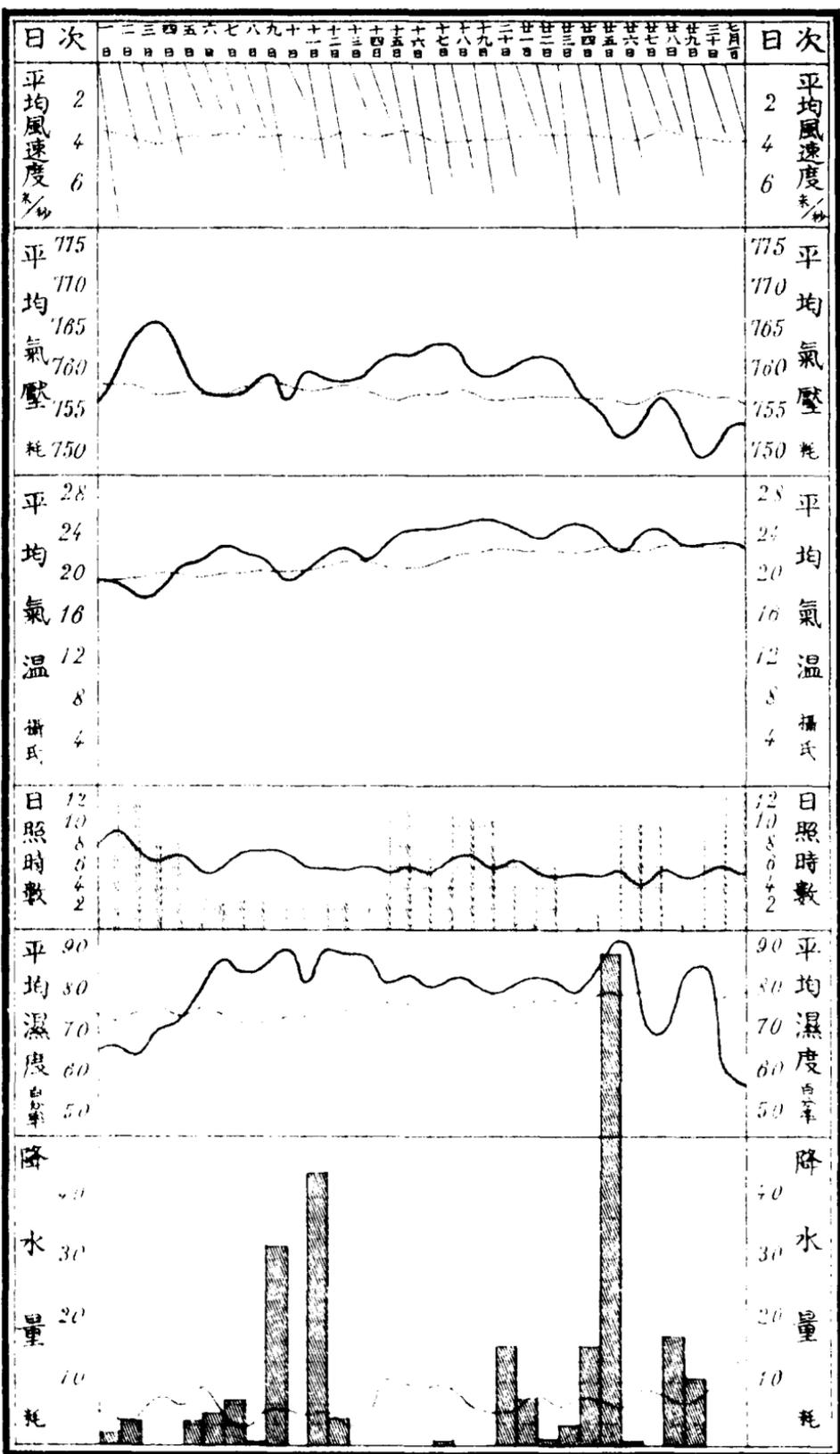
く下旬の末は高低相半せり而して月中の最高は十八

日午後二時に於て三十度七を示し、最低は三日午前

六時に於て十度二を示せり又月平均に就きて一日中

の變化を看るに最高は午後二時にありて二十五度六

本圖、日平均又ハ合計ニ依リテ調製ス。風速度、氣壓、氣温、湿度ハ本年——乎年——日照時數ハ本年——乎年——降水量ハ本年——乎年——



例言

大阪府管内氣象觀測所位置

一本報は常測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者す但し日々の觀測は常測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一 氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は乾(曲尺三厘三毛)を以て示す
 一 温度は凡て攝氏の度を用ゐる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふべし

一 最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものは之れを前日に繰上げて記入せり
 一 飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(零忽二七)にて示す

一 湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す
 一 降水量は乾を以て其深さを測り之を記す、但し一乾は一步面に水量一升八合三勺を散布したるに相當す
 一 露量は十分率を以て示す

一 風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり
 一 風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かさるもの一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風に於て樹を抜き家を倒すものなり

一 風向は北北東、東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す
 一 天氣日數中雨とは雨雲霰の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日な云ふ

氣象觀測所	國	郡市	町	村	緯度	東經	北緯	觀測主任
深日	和泉	南郡	深日	村	一三五度〇九分	三四度一九分		上出源助
岸和田	和泉	南郡	岸和田	町	一三五度二三分	三四度二七分		島留藏
長承寺	和泉	北郡	長承寺	村	一三五度二七分	三四度三二分		森内清次
濱寺	和泉	北郡	濱寺	村	一三五度二六分	三四度三二分		前川由太郎
天王寺	大阪	南區	天王寺	町	一三五度二九分	三四度三五分		今井富次
大坂	大阪	市	大坂	市	一三五度二六分	三四度三九分		加藤昭純
福島	大阪	市	福島	町	一三五度二九分	三四度四二分		府立大阪一等測候所
新庄	大阪	市	新庄	町	一三五度三一分	三四度四五分		笠谷正三郎
池田	大阪	市	池田	町	一三五度二六分	三四度五〇分		植田靈藏
妙見山	大阪	市	妙見山	町	一三五度二八分	三四度五六分		笹部利作
東郷	大阪	市	東郷	町	一三五度二九分	三四度五七分		阪部文二郎
天王	大阪	市	天王	町	一三五度二三分	三四度〇二分		大原仁之助
茨木	大阪	市	茨木	町	一三五度三四分	三四度四九分		高橋政次郎
清水	大阪	市	清水	町	一三五度三六分	三四度五三分		高橋政次郎
枚方	大阪	市	枚方	町	一三五度三九分	三四度四九分		山本義一
田原	大阪	市	田原	町	一三五度四二分	三四度四三分		家村八五郎
八尾	大阪	市	八尾	町	一三五度四六分	三四度三八分		東尾重藏
柏原	大阪	市	柏原	町	一三五度三七分	三四度三五分		水谷芳松
富田	大阪	市	富田	町	一三五度三七分	三四度三〇分		畿内農事試験支場
長野	大阪	市	長野	町	一三五度三五分	三四度二七分		塔本幸太郎
長野	大阪	市	長野	町	一三五度三五分	三四度二七分		松本速水

Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory.

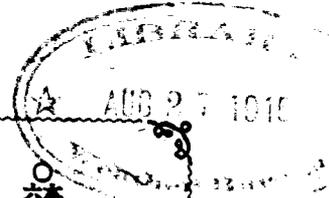
June

1915

大阪測候所月報

大正四年六月

第拾六年第六號



目次

- 本年大坂氣象概況 附圖
- 本年大坂府管内氣象概況
- 六月中大坂地質觀測概況
- 六月中の暴風概況
- 本年の梅雨實況
- 山岳の氣象
- 七月十二日の雷雨に就て
- 燒嶽大噴火概況
- 八丈島の南方「ハローズ」嶺附近の噴火
- 大坂港の潮汐觀測
- 淀川ノ水位
- 地方天氣豫報暴風警報通告

大正四年七月十五日印刷
全 年七月二十日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江戸堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社 三交堂

(電話土佐堀三三四一番)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

暴風警報	天氣豫報 風天風 濕	種類	類		發布數	正		中		偏		中		不		中		正 中 白 分 比 例
			報	度		氣	向	二	一	〇	一	五	〇	九	二			

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市町村	緯度	經度	取扱	官衙
谷川	和泉國泉南郡多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡査派出所	
尾崎	和泉國泉南郡尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署	
佐野	和泉國泉南郡佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場	
岸和田	和泉國泉南郡岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡査派出所	
堺	和泉國堺市香妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署堺港水上巡査派出所	
水津川	攝津國大阪府西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	安治川水上警察署水津川分署	
北加賀屋	攝津國大阪府西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度三十七分	全津川分署北加賀屋水上巡査派出所	
難波	攝津國大阪府西區中目町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全津川分署難波島水上巡査派出所	
安治川	攝津國大阪府西區安治川通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安治川水上警察署水上警察署	
天保町	攝津國大阪府西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署	
大阪	攝津國大阪府西區一條通	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等測候所	
傳法	攝津國西成郡傳法町	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署	
東郷	攝津國豐能郡東郷村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東郷村役場	



れのみにては損害約二萬圓に達し又東彼杵郡大村町の郡川も堤防潰壊せり

佐賀通信

二十四日夜來の降雨にて佐賀縣下各河川氾濫し殊に藤津郡方面甚しく家屋田園浸水の箇所夥からず警戒に全力を盡せり

福岡通信

二十五日朝よりの雨歇ます縣下各河川氾濫して田畑家屋の浸水多く殊に筑後川、遠賀川等の沿岸地方に甚しく田川郡香春町の浸水家屋は五十戸砂手郡直方町は浸水家屋二百二十九戸を出し各地にて堤防の決潰橋梁の流失等あり

近畿地方

奈良通信

二十五日夜の降雨量は一坪面に一石七斗四升六合に達せしが縣下各河川共非常に増水し生駒、添上、山邊の各郡平坦部にては浸水家屋數百戸浸水田園數百町歩を出し奈良市にては市内小川の氾濫溜池の決潰等にて一時浸水家屋百戸内外に達せしも被害少く縣下各地にて堤防道路の破壊、橋梁の流失少からず

近江通信

二十五日午後五時頃暴雨の爲め姉川堤防約四十間程北郷里地先にて破壊し濁流は全村及び神照村を経て長濱町へ浸水し町中到處川の如き激流となり浸水家屋約二千戸に及びたるも幸に人畜に異狀なかりしこ

紀伊通信

連日の降雨にて熊野川増水一丈餘に達し三重縣との渡船は二十五日夜以來停止したり

● 勘察加沖の大震

五月一日午後二時過勘察加の

南西方海底に發したる大震は顯著なる震波を傳へ千島紗那より本州の南東部に至る一帶に緩なる微震を感じ八丈島及九州南部にては人身には感覺なきも普通地震計に感じ長崎「ジカウエー」臺北等の地動計は振幅大なりし爲めに描針は圓筒外に逸出し最大振幅を測る能はざりしか濠州「シドニー」の地震計も亦た大なる振幅を描きたる由特報あり(地震觀測概況の頂參照)

● 本府管内氣象觀測所の開廢

大阪府泉南郡

に於ては深日、尾崎、岸和田の三ヶ所にて氣象觀測を施行せしが、其位置は何れも海岸にして從來の觀測に徴するに近似の氣象狀態を呈せるが故に三ヶ所並置するの必要なきを以て其中央なる尾崎は本年五月限り氣象觀測を廢し更に同郡上の郷村に於て本年六月より氣象觀測を開始せり、元來和泉地方は柑橘類の栽培地にして泉南郡は泉北郡に亞きて産額多く全管内の約三分の一を占めり、而して上の郷村は同郡内に於て柑橘と氣象との關係を調査するに最も適當の位置なるを以て爰に氣象觀測所を設くるに至りたり、

今最近五年間の本府全管内及泉北、泉南の二郡に於ける

柑橘類産額(大阪府統計書に依り密柑、夏橙、柑橘類を合計す)を擧ぐれば左の如し

年	明治四十一年	全	四十二年	全	四十三年	全	四十四年	全	四十五年	平均
管内	三九五、四一一	四	三四五、二〇三	四	五一七、二五五	四	五二五、四八三	四	五五七、八〇一	四
北郡	一七七、五一一		一五〇、五二一		二一一、二五一		二三一、五一〇		二三四、一八七	
南郡	一一九、七七二		一〇四、五二二		一八九、六七〇		一七〇、二二八		一九八、九七五	

淀川の水 位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 三尺四寸八分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 三尺二寸三分

五月	廣瀬		大日		五月	廣瀬		大日		五月	廣瀬		大日	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
一	四、〇	四、一〇	四、一五	四、二五	十一	三、五五	六、九〇	三、四〇	五、八五	二十一	三、五〇	三、七五	三、六〇	三、六〇
二	四、一〇	四、二〇	四、二五	四、三五	十二	六、二五	六、七〇	七、〇〇	五、九〇	二十二	三、五〇	三、七五	三、六〇	三、六〇
三	四、二〇	四、三〇	四、三五	四、四五	十三	五、五〇	五、一〇	五、四〇	四、九五	二十三	三、五五	三、八〇	三、六五	三、六五
四	四、三〇	四、四〇	四、四五	四、五五	十四	四、七〇	四、三〇	四、八〇	四、六〇	二十四	四、〇〇	四、二五	四、一〇	四、一〇
五	四、四〇	四、五〇	四、五五	四、六五	十五	四、一〇	三、九〇	四、〇〇	四、〇五	二十五	四、一五	四、四〇	四、二五	四、二五
六	四、五〇	四、六〇	四、六五	四、七五	十六	三、八五	三、六五	三、七〇	三、八五	二十六	四、〇〇	四、二五	四、一〇	四、一〇
七	四、六〇	四、七〇	四、七五	四、八五	十七	四、〇〇	三、八〇	三、八五	三、九〇	二十七	四、一〇	四、三五	四、二〇	四、二〇
八	四、七〇	四、八〇	四、八五	四、九五	十八	三、九〇	三、七〇	三、七五	三、八〇	二十八	四、一五	四、四〇	四、二五	四、二五
九	四、八〇	四、九〇	四、九五	五、〇五	十九	三、八〇	三、六〇	三、六五	三、七〇	二十九	四、二〇	四、四五	四、三〇	四、三〇
十	四、九〇	五、〇〇	五、〇五	五、一五	二十	三、七〇	三、五〇	三、五五	三、六〇	三十	四、二五	四、五〇	四、三五	四、三五
十一	五、〇〇	五、一〇	五、一五	五、二五	二十一	三、六〇	三、四〇	三、四五	三、五〇	三十一	四、三〇	四、五五	四、四〇	四、四〇

平均水位廣瀬 三尺九寸〇分
 最高水位廣瀬 六尺九寸〇分 (十二日午後六時)

大日 四尺〇寸一分
 七尺〇寸〇分 (十二日午前六時)

加島町舊樋は危険の状態となり午後八時頃には危険の度を増し遂に太鼓を亂打し非常を報したるを以て附近の住民二百餘名應援して防禦に努め漸くにして事なきを得た

りと云ふ又郡部にても堤防の決潰、道路の破壊等ありしも幸に大なる被害はなかりき左に本府管内に於ける降水量及其當時の模様を摘記すべし

地名	降水量	雜	象
深井	五九、一	二十五日午後二時より暴風雨となり夜半歇む	
岸和田	五七、四	二十五日午前十時より降雨二十六日午前二時三十分歇む	
上の郷	六八、二	二十五日午前十一時頃より暴風雨となり二十六日午前三時頃歇む概半川約六尺増水し堤防決潰一ヶ所あり	
大塚	九〇、三	二十五日午前より降雨し午後五時頃より暴風雨となり十時頃迄は風雨共に甚かりしが夫れより次第に減退し雨は	
新庄	五三、八	二十五日午前十時より二十六日午前十時迄の降水量なり	
池田	五四、〇	全上降水量にして池田川約四尺増水せり	
富田	六三、五	二十五日午前十時三十分より降雨となり二十六日午前四時頃歇む	
田原	九一、五	二十五日午前三時頃より降雨となり全九時一旦歇みしが午後零時二十分より復々降雨となり二十六日午前三時頃歇む其總雨量なり因に道路堤防等の被害あり	

更に九州地方及近畿地方に於ける最も被害の多かりし所の通信を左に掲げ後日の参考に供せんとす

九州地方

鹿兒島通信 二十四日夜鹿兒島縣下に百里豪雨あり鹿兒島市は甲突川

増水し濁流市街に氾濫し西山町にて二百三十戸、上の園町三十六戸、

徳師町百八十一戸、高麗町四十八戸、新照院町百戸、薬師町十戸の浸

水家屋を出し其他縣下各河川増水し被害大なる模様にして就中薩摩郡

川内川、肝屬郡肝原川、川邊郡萬の瀬川殊に被害多く國縣道交通杜絶の箇所多し又國鐵川内線列車は一時不通となりたるも漸く復舊し山崎鐵道は線路崩壞四五日間減車全通の見込なし鹿兒島電氣鐵道も發電所を破壊され電車の運轉をなす能はずと

長崎通信

引續ける豪雨は二十四日夜來北高來郡諫早町本明川増水となり危険に就き消防夫を召集警戒し且つ浸水家屋は七十一戸、二百名に對する救出をなすつあり午後二時頃全町酒造家の酒倉倒壊し六百石流

出し残り二百石の酒は消防用ポンプを以て他の酒桶に移送したるが之

八	田	清	水	木	類
尼	原	水	木	木	木
全 八時五十分	全 八時四十五分	全 八時四十分	全 八時三十分	全 八時二十分	全 八時十分
四	南四	北四	全	四	四
全 八時二十五分	全 九時十五分	全 十一時二十分	全 九時二十分	全 九時二十分	全 九時二十分
南	南四	南四	全	東	強
強	強	強	全 八時二十五分	全 八時二十分	強
全 八時二十五分	全 八時四十分	全 八時五十分	全 八時二十五分	全 八時五十分	全 八時五十分
強	強	強	強	強	強
不詳	一九、一	三一、〇	三六、五	三六、五	三六、五

前記の如く此の雷雨は九州附近より來りたるものにして本府を襲ひたる當時も優勢なりしか瀬戸内海を駛走する際は尙ほ一層強烈のものなりし今丸龜の通信を抄録し參考に供せんとす

二十日午後一時過霞岐丸龜附近に大降雹を齎りしたる大雷雨は懸灘方面より來りしものにして海上にて二個に分れ多度津町附近より南に向ひたるものは仲多度郡一圓にて約十八箇所に落雷し數人の即死者、數人の一時氣絶者を出し一方丸龜市方面に來りしものには頗る大粒の雹を含み居り海岸に沿ふて綾歌郡宇津町、坂出町及其東に進みたるものと如く坂井町にては一吋七八分のものを見たり又綾歌郡土器村宇新開にては直徑水蜜大のものを交り居たりと云ふ稀有の出來事にて果實殊に桃、梨、野菜、茄子、瓜類に被害甚だしく降雹の形は多く落下の際碎かれ居たるも完全なるものは形扁平にして内に雪片を含み透明なる環狀の筋一若くに二あり又は等の二個連鎖したるものもありたり

●六月二十五日の大雨に就て 六月二十四日

午前楊子江流域に現はれたる低氣壓は東に進み全日午後

上海沖に來りて稍々發達し進路を北東に轉し朝鮮海峽を通過し二十五日朝日本海中部に到り二十六日阿哥克海に去れり此の低氣壓の通過に際し九州地方に大雨を豪注し被害甚だ多く近畿地方に於ても河川氾濫し堤防の決潰家屋の浸水等多かりき大阪にては二十四日午後九時四十分より降雨となり二十五日午後より暴風雨となり全日午後六時頃より全十時迄頃の間最も烈しく恰も篠を衝くか如き豪雨なりしか十時過ぎより漸く衰へ二十六日午前零時四十五分、全く歇む此總雨量は九十耗二にして一坪の地面に一石六斗五升余の水を撒布したるに相當する多量なるを以て西大阪の如き下水道改良工事中なりし地方は排水設備充分ならざりしたため下水道氾濫し九條通、同北通一、二丁目にて床下浸水家屋八百五十戸、本田にて二百二十三戸其他泉尾、三軒家にも五六十戸宛の浸水家屋を出し且つ尻無川は改修工事中なりしに逆潮のため北恩

●六月二十日の雷雨に就て

二十日九州附

近に發生したる雷雨は漸次東進し來りて全日午後七時過大阪灣に入り尙ほ進んで淀川を遡上し山城國境に經過せしものゝ如く其中心附近は雷鳴頗る強烈にして電光閃々として輝き且つ急風之れに伴ひ加之雨は覆盆の勢を以て降下し一時は中々悽愴の状態を呈せしか暫時にして雷の北東方に移動すると共に風雨衰へ次第に鎮靜せり今大阪に於ける氣象の變化を概記すれば氣壓は午後五時最も低く七百五十九耗一を示し後漸次上昇を告げ雷の頂上を通過するに際し約一耗の急昇を呈し午後十時頃最も高く七百六十一耗五に昇りしか後徐々として微降せり風速十日

中は毎秒七米内外の西風なりしか夕陽より稍々減力せしに雷鳴の起ると同時に風力俄に増勢し強風となり八時四十分頃には烈風に達し後風向南に回りて風力減衰し疾風乃至和風となり夜半には風速毎秒二米五となれり降雨は午後八時七分より微降せしか全八時二十分頃より雨勢加り全三十分より全三十五分に至る間最も強く此の五分時間間に約七耗五（一坪の地面に一斗四升二合余の水を撒布したるに相當す）豪注し爾後八時五十分頃迄強雨繼續し夫れより次第に衰へ微雨となり以て翌日に亘れり又本府管内に於て觀測したる雷雨概報は左の如し

地名	始めて聞きたる時	全方 向上	最終雷鳴の時	全方 向上 雷の強弱	雨の降り始めの時	雨の強弱	降水量
深日	午後八時四十分	南四	午後九時三十分	北東 強	午後八時四十五分	強	二一、九
岸和田	全 八時三十分	西	全 八時四十五分	北 強	全 八時二十五分	強	二二、四
長承寺	全 五時二十分	四	全 九時三十分	南四 強	全 八時〇分	強	二八、〇
堺	全 七時三十分	南	全 八時四十五分	南東 強	全 八時三十分	強	二二、四
天王寺	全 八時三十分	東	全 八時三十八分	東 強	全 八時二十分	強	二〇、九
大阪	全 七時五十分	北西	全 九時十八分	北東 強	全 八時〇七分	強	二四、二
新庄	全 八時十分	北四	全 八時五十分	北 強	全 八時二十分	強	二一、三
天王	全 七時四十分	南四	全 九時〇五分	南東 強	全 七時三十五分	強	二五、二

十耗以内	十五耗以内	二十耗以内	二十五耗以内	三十耗以内	三十五耗以内	四十耗以内	四十五耗以内	五十耗以内	六十耗以内	七十耗以内	合計
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一二
一	二	二	一	一	二	一	一	一	一	一	一三
三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一五
二	三	二	一	一	一	一	一	一	二	一	一六
二	一	一	三	二	一	一	一	一	一	一	一九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五
一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三三

上表の如くにして一耗以内のもの最も多く三十七日を數へ三耗未滿及十耗未滿のもの十九日、十五耗未滿は十五日五耗未滿は十三日にして三十耗未滿のものは五日に減じ最も多かりしは六十八耗即ち九月三十日の降雨の際にあり而して一時間に五耗以上の降水ありしは四十八回にして其内最も多きは二十二耗に達せり

要するに降水なるものは斷續極りなく且つ其量に於ても多少不同にして降雨時間長きも其水量極めて少なきことあり又一時間に三十耗以上を注下することも往々あり依

て此の雨天日數を諸種の事業に應用せんとするには或は時間の長短によりて定むる方効果を來すものあらんも農業等を營む上に於ては其水量を以て定むる方便利ならん今假りに一日の降水時間三時間以上に亘りしものを雨天日とせば九十六日となり水量の三耗以上のものを以てせば七十七日となれり即ち三耗とは其深さ約一分にして一坪の地面に五升五合程の水を撒布したるに相當するものなり

七時四十二分月の總時數に對する百分率は僅かに四に過きずして最長なる六月の約七分の一に相當せり而して其水量は如何と看るに降水時間の最も長かりし六月は二百二十一耗五なりしに時間の第二位なる五月は水量二百五十耗五にして六月より約三十耗の多量となり時間に於て

は四十二時三十分少なかりき又降水のありたる日數は矢張六月最多にして二十一日、五月は十九日、二月三月は十八日を數む四月之れに亞き十六日、一月は十五日にして最も少なきは十一月の十日なり今降水の時間全水量及其日數を月別として表記すれば左の如し

種目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
降水時間	七〇、四三												
降水量	二五、五												
降水日數	一五	一八	一八	一六	一五	一三	二	二	三	三	三	三	一七

上表の日數及時間は量るに足らざりしもの即ち一耗の十分の一に達せざるものをも加算したるものなれば斯業に於て云ふ雨天日數とは多少の差異あり通常氣象界に於て雨天日數として計上するものは降水の深さ一耗の十分の一に達したる日を數ふるにあり依て其水量一耗の十分の一に滿さりし日數を見るに四十四日にして一月最も多く八月を數へ普通降水日數より一日多く二月は六日、三月、十一月は五日にして四月は最も少なく一日なり而して此の一耗の十分の一に達せざりし平均一日の降水時間は四月最も長く二時二十分、十一月は一時二十分、九月は一

時十八分を示し七月は最も短く三分に過ぎざり然りと雖も九月二十四日及十一月十日の如きは四時間以上に及りての降雨なりし又一耗の十分の一以上ありし日數は百三十三日にして六月最も多く十九日、五月は十六日、四月は十五日なりしか一月は七日に減し十一月は最も少なく五日を出す其一日に對する平均時間の最も長きは六月五月、三月、十月、二月の順序にして九時二十九分より七時十六分の間を示し最も短かゝりしは一月にして三時十三分なり之れを表記すれば次の如し

又前記驗風襲來に際し大阪に於て觀測したる最低氣壓最大風速度及雨量を記すれば左の如し

番號	最低氣壓	最大速度	風	其方向	合	雨量	番號	最低氣壓	最大速度	風	其方向	合	雨量
六四	七五七、四	一〇、三		北北東	一	一	七三	七五七、三	一六、四		西	一	一、六
六五	七四六、四	一二、六		北	〇、〇	一	七四	七五〇、二	一六、四		西	一	二、八
六六	七六〇、七	四、六		北東	三三、一	一	七五	七五〇、四	一二、七		南	一	二、四
六七	七五五、四	三四、二		西南西	一四七、四	一	七六	七四九、〇	一九、四		西南西	一	二、八
六八	七五一、三	一四、四		東北東	一〇、二	一	七七	七六〇、八	九、七		南西	一	一、一
六九	七四五、八	一二、四		西南西	〇、五	一	七八	七五八、九	九、四		南西	一	一、一
七〇	七四四、二	三四、〇		北北東	五六七	一	七九	七五一、〇	一四、三		西南西	一	三、一
七一	七五六、二	五、七		北	二八、二	一	八〇	七四三、九	一五、五		北北西	一	九、六
七二	七五七、四	六、四		西南西	四六、三	一	八一	七五九、九	一六、七		西南西	一	九、三

● 降水の時間と水量を調査し

雨天日數に及ぶ 技手 芝野 彌

抑も降水は其關係する所最も多く或は農業に或は建築土功等擧げて數ふべからず就中其時間の長短は一般の殖産業より建築等に及ぼす影響や大なるべく又農業の如きは時期により滲水量の多寡に依り豊凶を左右する一原因ともならんか依て以て爰に大正三年中當所に於て觀測したる降水のありたる日の時間及水量を調査し當業者の參考に供せんとす

但し大正三年一ケ年とせし理由は降水量なるものは頗る複雑にして時としては僅か一時間に數十耗を彙注するとあり又十數時間に亘りて降雨するも其量四、五耗に過ぎざることあるを以て最も記憶に新らしき昨年の結果を調査したるものなり

大正三年中に於て降水のありたる延滞間は九百五十二時間にして其最も長きは六月の百八十一時二十三分即ち月の總時數に對する百分率は二十五に相當し之れに亞くは五月の百三十八時五十三分にして最も短きは一月の二十

十六年より四十四年に至る二十九年間に襲來したる六十
 三回の顯著颱風に就ては本報明治四十五年六月號に詳記
 したれば爰に大正元年より三年に至る三ヶ年間に本邦近
 海を襲ひし颱風を記せんに其數十八回（最低氣壓七百四

十耗以下に降りたるものに依る）にして元年には五回二
 年には二回三年には十一回あり今其年月日と颱風遺路の
 概略並に最低氣壓を列記すれば左の如し
 但し年月日は最低氣壓を現はしたる時を示す

番號	年	月	日	氣壓	地名
高	大正元年	八月	二十九日	七三・八	基隆
壹	全	八月	三十一日	七三・四	父島
叁	全	九月	十六日	七三・四	壺東
肆	全	九月	二十三日	七二・五	和歌山
六	全	十月	二日	七二・八	鹿兒島
九	大正二年	八月	二十七日	七四・〇	小名濱
七	全	十月	三日	七〇・八	湖岬
七	大正三年	七月	七日	七〇・一	壺中
三	全	七月	十二日	七六・七	石垣島
壹	全	八月	十三日	七三・六	恒春
壹	全	八月	十三日	七三・四	長津呂
壹	全	八月	二十五日	七〇・六	長崎
壹	全	八月	二十九日	七〇・五	濱松
壹	全	九月	五日	七二・五	石垣島
犬	全	九月	九日	七〇・九	那霸
亥	全	九月	十四日	七四・八	新居濱
合	全	九月	二十九日	七三・六	石垣島
ハ	全	十月	二十日	七六・七	宗谷

カロン群島の北方海上より襲來し琉球の南方海上を経て石垣島と宮古島との間を通過し壺海北部を経て
 福州附近に去れり
 マリアナ群島洋上より小笠原、父島を襲ひ八丈島に殺倒し房總海岸の沖合を経て北海道南東海上に去れり
 八重山群島の南方遙かなる洋上より來り石垣島を襲ひ壺海を横り福州と廈門との間に經過し去れり
 亞比島附近より來り宮古島の南西方海上を経て近畿地方を横り能登半島に通過し去れり
 亞比島の西方洋上より來り八重山群島の南方洋上を掠め琉球南部に通過し去れり
 亞比島の北方洋上より來り八丈島を通過し房總半島を横断し鹿島洋に入り津輕海峡を横り黒龍江に去れり
 「クアム」島附近より來り小笠原列島と沖繩島の中間を通り紀州田邊附近より上陸し津岐阜を経て千島の南
 方海上に去れり
 馬利亞那群島附近より來り石垣島の南方海上を経て壺海南部を横断し支那大陸に入れり
 馬利亞那群島附近より來り石垣島を通過し壺海北部を掠め福州附近より支那大陸に入れり
 呂宋の東方海上より來り壺海島の南端に接近し汕頭附近より支那大陸に入れり
 小笠原列島の南方洋上より來り父島の西方を通過し駿河灣を殺倒して沼津附近より上陸し金澤山東方洋上
 に出で根室沖に去れり
 馬利亞那群島附近に起り北西に進行し奄美大島と沖繩島の間を通過し九州北部關門海峡を掠め日本海に入
 り北海道北部を横りオコック海に入れり
 小笠原列島の南東方洋上より來り八丈島の南西方を経て濱松附近より上陸し奥羽地方を通過して根室沖に
 去れり
 亞比島の北西方洋上より來り石垣島の西方を通過し壺海北部を掠め福州附近より支那大陸に入れり
 馬利亞那群島の北西方洋上より來り沖繩島を横り支那東海に入り朝鮮を横り浦鹽の北方を経て「オコック」
 海に去れり
 馬利亞那群島の北方洋上より來り小笠原列島の南方洋上を経て四國に上陸し松山附近より中國を斜に横り
 り北海道東部に去れり
 亞比島の北西方洋上より來り石垣島の南方洋上を過ぎ紀伊半島を横り東海道を經て鹿島灘に出で千島南方
 洋上に去れり
 支那四川省より來り黃海に入り朝鮮を横り日本海を通過し樺太南部を横断してオコック海に去れり

十五分五十五秒に此地震を観測したり

七一 五月二十七日午前六時三十四分二十三秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の継続時間は零分十五秒にして主要動となり最大振幅は午前六時三十五分十五秒に於て十五「ミクロン」振動期一秒二を現し後微となり静止せり全振動時間は六分十二秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は江濃地方に發したるものにして震域東方は甲府附近に北方は越前の福井に南方は伊勢の津及大阪附近に達し彦根、岐阜にては性質急なる微震を感じたり

七二 五月二十八日午前二時二十七分三十五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の継続時間は一分十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前二時二十九分四十六秒に於て百三十七「ミクロン」振動期五秒三、南北動は午前二時二十九分二十一秒に於て二百三十七「ミクロン」振動期七秒五を現し後微となり

静止せり全振動時間は東西動は二分五十二秒、南北動は二十二分二秒なり

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域北方は青森邊に南方は八丈島に西方は遠州濱松附近に達し長徑五十里、短徑四十里を有し有感覺微震部は六千二百八十里に亘り微動は遠く九州及仁川等に達したり

七三 五月二十九日午前一時十六分四十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の継続時間は一分七秒にして主要動となり最大振幅は午前一時十七分十八秒に於て九「ミクロン」振動期二秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は九分三十八秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は安房沖に發したるものにして八丈島にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

●暴風季節

技手 大橋龍太郎

毎年二百十日前後には暴風多く農家漁夫の最も恐るゝ時なるが毎年七月より十月までは所謂暴風季節にして此期間には南洋の「マリアナ」、^ニ「マルシャル」群島の近傍に颱風發生し西又は北西に進み緯度二十度乃至三十度位の所より進路を北又は北東に轉して本邦に襲來するものにして其進行速度は一時間十里乃至二十里位なり而して明治

里短徑三十五里に亘り横濱、布真にては性質急なる強感ハ震
じ東京、横須賀等にては弱震を感じ有感覺微震部は六千五百
九十四方里にして微動は畿内附近に達したり

六七 五月十九日午前六時四分五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分四十六秒にして主要動となり最大振幅は午前六時六分
十九秒に於て十七「ミクロン」振動期四秒四を現はし後微
となり靜止せり全振動時間は十分十二秒なり（南北動微
動計百二十倍の觀測）

附記

前記地震の餘震にして震域北方は岩代の福島附近に四方は遠
州濱松邊に達し長徑六十里、短徑三十里に亘り横濱、布真に
ては弱震を感じ有感覺微震部は五千六百五十二方里にして微
動は畿内附近に達したり

六八 五月二十一日午前零時五十五分九秒の地震

此地震は性質稍々急なる波動を呈し初期微動の繼續時間
は零分十九秒にして主要動となり最大振幅は午前零時五
十六分二秒に於て二十五「ミクロン」振動期二秒〇を現は
し後微となり靜止せり全振動時間は五分四十秒なり（南
北動微動計百二十倍の觀測）

附記

此地震は伊勢海に發したるものにして震域東方は遠州濱松附

近に北方は越前の福井邊に四方は大坂附近に達し長徑三十里
、短徑三十里を有し有感覺微震部は二千八百二十六方里に亘
り

六九 五月二十一日午前一時二十三分四十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零
分五十六秒にして主要動となり最大振幅は午前一時二十
五分三十三秒に於て二十七「ミクロン」振動期四秒三を現
はし後微となり靜止せり全振動時間は九分三十六秒なり
（南北動微動計百二十倍の觀測）

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域北方は羽後の秋田
邊に南方は東京灣に南西方は駿河の沼津邊に達し長徑四十里
短徑四十里に亘り水戸にては弱震を感じ有感覺微震部は五千
二十四方里にして微動は遠く北海道の南部及畿内附近に達し
たり

七〇 五月二十四日午前五時十六分十一秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大
振幅は午前五時十八分三十三秒に於て五「ミクロン」振動
期三秒七を現はし後微となり靜止せり全振動時間は七分
二十八秒なり（南北動微動計百二十倍の觀測）

附記

此地震は江濃地方に發したるものにして岐阜にては午前五時

は畿内附近に及びたり

六四 五月十四日午後三時四十五分三十七秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一期微動の繼續時間は六分四十四秒第二は五分十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後四時四分一秒に於て二十二「ミクロン」振動期十六秒八、南北動は午後四時九分五十五秒に於て二十五「ミクロン」振動期十四秒〇を現はし後微となり静止せり全振動時間は東西動は一時二十九分二十五秒南北動は一時二十七分〇秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

函	館	午後三時四三分四四秒
水	澤	全 三時四四分一二秒
大	阪	全 三時四五分三七秒
仁	川	全 三時四六分〇六秒
福	岡	全 三時四六分一一秒
大	連	全 三時四九分三四秒

六五 五月十四日午後十一時二十八分五秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大

振幅は東西動は午後十一時四十一分四十五秒に於て七

「ミクロン」振動期十二秒〇、南北動は午後十一時四十分五十四秒に於て十二「ミクロン」振動期九秒六を現はし後微となり静止せり全振動時間は東西動は三十八分五十七秒南北動は三十七分五十九秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

函	館	全後一一時二五分四四秒
水	澤	全 一一時二六分四〇秒
大	阪	全 一一時二八分〇五秒
大	連	全 一一時三六分一八秒

六六 五月十九日午前五時四十六分二十六秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分四十八秒にして主要動となり最大振幅は午後五時四十八分十六秒に於て二十六「ミクロン」振動期四秒〇を現はし後微となり静止せり全振動時間は十一分二十秒なり

(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は浦賀水道附近に發したるものにして震域北方は岩代の福島及越後の新潟邊に西方は遠州濱松附近に達し長徑六十

ば左の如し

仁 川 午後九時三十八分一七秒

福 岡 全 九時四二分四一秒

シカウエー(支那上海) 全 九時四三分二六秒

大 阪 全 九時四三分二六秒

六一 六月十二日午後八時四十一分十秒の地震

此地震は緩なる波動を呈し振動の各部判明ならざれども

最大振幅は東西動は午後九時一分四十二秒に於て三十

「ミクロン」振動期十七秒八、南北動は午後八時五十八分

三十四秒に於て二十五「ミクロン」振動期十七秒二を現は

し後微となり静止せり全振動時間は東西動は四十一分三

十八秒南北動は四十五分九秒なり

附記 此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳なら

す

六二 五月十三日午前一時二十九分五十七秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續

時間は四分五十五秒第二は四分零秒にして主要動となり

最大振幅は東西動は午前一時四十一分三十二秒に於て二

十五「ミクロン」振動期十秒〇、南北動は午前一時四十一

分四十四秒に於て二十「ミクロン」振動期十四秒四を現は

し後微となり静止せり全振動時間は東西動は一時二十九分三十七秒、南北動は一時二十二分六秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて増動計を以て觀測したる發震時を列記すれ

ば左の如し

大 阪 午後一時二十九分五七秒

仁 川 全 一時三〇分二九秒

水 澤 全 一時三二分〇五秒

六三 五月十三日午前十時五十四分四秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一

分五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十時

五十五分三十八秒に於て三十二「ミクロン」振動期三秒〇

南北動は午前十時五十五分五十六秒に於て四十七「ミク

ロン」振動期三秒六を現はし後微となり静止せり全振動

時間は東西動は十二分二十八秒南北動は十二分五十六秒

なり

附記

此地震は警成沖に發したるものにして震域は高森附近の南方は東京灣の南西方は遠州濱松邊より名古屋岡田に達し長徑七

十里幅は五十五里に亘り金山、福島、水戸等にては性質急な

不弱震を感じ有感覺震源は一萬二千八百九方里にして微動

動は三十九分五十秒南北動は四十分五秒なり

附記

此地震は一日午後二時過勘察加の南西方海底に發したる大震の餘震なるべし

五八 五月五日午後八時十六分四十九秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は六分零秒第二は四分五十二秒にして主要動となり

最大振幅は東西動は午後八時三十五分五十秒に於て十二

「ミクロン」振動期十二秒〇、南北動は午後八時三十分四

十一秒に於て八「ミクロン」振動期十七秒三を現はし後

微となり靜止せり全振動時間は東西動は五十五分五秒南

北動は五十九分二十五秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

ツカウエー(支那上海) 午後八時一六分三一秒

大阪 全 八時一六分四九秒

シドニー(濠洲) 全 八時一七分一〇秒

大連 全 八時一七分一四秒

水滸 全 八時一七分三三秒

仁川 全 八時一七分三九秒

五九 五月六日午前零時二十分十九秒の地震

此地震は極めて緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は

八分十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前

零時三十四分三秒に於て四十二「ミクロン」振動期十秒六

南北動は午前零時三十分十五秒に於て五十五「ミクロン」

振動期十八秒七を現はし後微となり靜止せり全振動時間

は東西動は四十九分四十五秒、南北動は四十八分五十五

秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

ツカウエー(支那上海) 午前〇時一七分〇五秒

仁川 全 〇時一七分三八秒

大阪 全 〇時二〇分一九秒

六〇 五月六日午後九時四十三分二十六秒の地震

此地震は極めて緩微なる波動を呈し振動の各部判明なら

ざれども最大振幅は午後九時五十二分三十三秒に於て五

「ミクロン」振動期八秒七を現はし全振動時間は三十分四

十秒なり(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記す

大 阪	午後〇時一九分〇四秒
仁 川	全 〇時一九分〇六秒
大 連	全 〇時一九分二三秒
福 岡	全 〇時一九分三七秒
長 崎	全 〇時一九分四七秒
シカウエー(支那上海)	全 〇時二三分一〇秒
畫 北	全 〇時二八分五〇秒

五五 五月三日午後一時九分四十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一期微動の繼續時間は四分三十秒第二は三分五十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後一時十八分四十九秒に於て九十七「ミクロン」振動期十九秒八、南北動は午後一時二十三分五十九秒に於て百二十二「ミクロン」振動期十九秒二、を現はし後微となり靜止せり全振動時間は東西動は一時二十九分十七秒南北動は一時二十三分三十五秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したるものを列記すれば左の如し

シドニー(濠洲)	午後一時〇八分四三秒
大 連	全 一時〇九分〇二秒
シカウエー(支那上海)	全 一時〇九分四〇秒

大 阪	午後一時〇九分四三秒
水 澤	全 一時一〇分一二秒
函 館	全 一時一一分四一秒
臺 北	全 一時一二分三九秒
福 岡	全 一時一四分一四秒

五六 五月三日午後二時五十七分二十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後三時六分二十七秒に於て七「ミクロン」振動期十二秒〇南北動は午後三時三分二十七秒に於て十「ミクロン」振動期八秒六を現はし後微となり靜止せり全振動時間は東西動は三十三分四十秒南北動は三十分五秒なり

附記

此地震は一日午後二時滿刺那の南西方海底に發したる地震の餘震なるべし

五七 五月三日午後三時五十分五十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分零秒にして主要動となり最大振幅は午後三時五十八分五十五秒に於て六「ミクロン」振動期十三秒四、南北動は午後三時五十八分五十五秒に於て十「ミクロン」振動期十秒六を現はし後微となり靜止せり全振動時間は東西

五二 五月一日午後六時四十一分四十七秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分三秒にして主要動となり最大振幅は午後六時四十六分二十四秒に於て十七「ミクロン」振動期四秒三を現はし後微となり静止せり全振動時間は十四分四十七秒なり
(南北動微動計百二十倍の観測)

附記 以上四回の地震は一日午後二時過勸察加の南西方海底に發したる大震の餘震なり

五三 五月二日午後一時三分五十二秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は六分四十二秒第二は五分五十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後一時二十分三十秒に於て二十二「ミクロン」振動期十三秒九、南北動は午後一時二十分五十九秒に於て二十「ミクロン」振動期十六秒八を現はし後微となり静止せり全振動時間は東西動は一時二十五分二十四秒南北動は一時二十四分八秒なり

附記 此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれば左の如し

ば左の如し

函 館 午後一時二分二秒

水 澤 全 一時二分二秒

大 取 全 一時三分五二秒

大 連 全 一時三分五六秒

仁 川 全 一時四分一七秒

福 岡 全 一時四分二一秒

シカウエー(支那上海) 全 一時五分三一秒

五四 五月三日午後零時十九分四秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は三分五十四秒、第二は三分十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後零時二十八分三秒に於て百二十五「ミクロン」振動期十九秒二南北動は午後零時二十八分三十五秒に於て百七十七「ミクロン」振動期十八秒二を現はし後續震ありたるか故に全振動時間を知る能はざりし

附記 此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれば左の如し

ば左の如し

水 澤 午後〇時一七分三九秒

函 館 全 〇時一八分二二秒

百五十五度邊の所に當れり此地震は振幅著しく大にして「ジ
カウエー」にては南北動は一千七十四「ミクロン」以上東西動
は八百三十五「ミクロン」以上を示し總震動時間は約二時五十
四分又「シドニー」にては南北動は六百二十六「ミクロン」東西
動は四百三十五「ミクロン」を示し總震動時間は約四時四十三
分に亘れりと云ふ

因に配す觀察加附近には地震帯ありて時々大震を發せり當所
にて觀測したる最も顯著なるものは明治三十七年六月二十四
日より二十七日に至る間に五回の強震にして就中六月二十六
日午前六時過の地震は最も強かりし

今各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の
如し但時刻は日本中央標準時に據る以下皆全し

函館	午後二時〇三分〇六秒
水澤	全二時〇三分一七秒
蛟車	全二時〇四分二四秒
大板	全二時〇四分三九秒
福岡	全二時〇五分〇四秒
長崎	全二時〇五分二五秒
仁川	全二時〇五分一五秒
大連	全二時〇五分二一秒
ツカウエー(支那上海)	全二時〇六分二一秒
臺北	全二時〇七分〇六秒

シドニー(澳洲) 午後二時二二分〇三秒
四九 五月一日午後三時二十六分九秒の地震

此の地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時
間は四分十五秒にして主要動となり最大振幅は午後三時
三十分四十六秒に於て十二「ミクロン」振動期五秒七を現
はし後微となり靜止せり全振動時間は十四分二十八秒な
り(南北動微動計百二十倍の觀測)

五〇 五月一日午後三時五十五分十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間
は四分十秒にして主要動となり最大振幅は午後三時五十
九分四十一秒に於て十六「ミクロン」振動期四秒〇を現は
し後微となり靜止せり全振動時間は十二分五十秒なり

(南北動微動計百二十倍の觀測)

五一 五月一日午後四時五十四分四十二秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間
は四分十八秒にして主要動となり最大振幅は午後四時五
十九分三十四秒に於て九十七「ミクロン」振動期五秒五を
現はし後微となり靜止せり全振動時間は二十八分三十秒
なり(南北動微動計百二十倍の觀測)

西動は十八分二十一秒、南北動は十八分二十三秒なり

附記

此地震は臨前洋に發したるものにして石巻、青森にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

四八 五月一日午後二時四分三十九秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は四分二十六秒にして主要動に移ると同時に大震波の來りたるか故に描針は圓筒外に逸出し最大振幅を測ること

東西動 地震計觀測

終期 F	主要動				初期微動		最大振幅 (マイクロ)	振動期 秒
	M ₃	M ₂	M ₁	L	S	P		
?	?	?	?	?	一四時〇四分三十九秒	一四時〇九分〇五秒	?	?
					四二五〇以上	二四、〇		

附記

此地震は勸察加の南西方海底に發したるものにして千島の砂那、北海道の根室、函館、本州の青森、秋田より熊谷、横濱等に至る地方にては人身に微震を感じ其他伊豆八丈島及九州鹿兒島等にては人身に感覺なきも地震計に感じ微動は遠く深

能はざりしが之れを推測するに東西動は四千二百五十

「ミクロン」以上振動期二十四秒、南北動は四千五百「ミクロン」以上振動期二十八秒八なるべく爾後漸次に微となりしか引續き餘震四回ありたるか故總振動時間を知る能はざりし即ち次表に示すが如し

南北動 地震計觀測

終期 F	主要動				初期微動		最大振幅 (マイクロ)	振動期 秒
	M ₃	M ₂	M ₁	L	S	P		
?	全	二二分二三秒	?	?	一四時〇四分三十九秒	一四時〇九分〇五秒	?	?
					四五〇〇以上	二八、八		
		三三二〇	一八、二	一八、七				

洲「シドニー」に及びたり又各所の地動計觀測に依りて震央地

までの距離を計算するに函館よりは千三百三十軒、大阪より二千四百六十軒、「シカウエー」より三千二百軒、豪洲「シドニー」より九千百軒にして恰も勸察加の南西方北緯四十七度東經

天●二十七日概ね晴天●二十八日概ね晴天●二十九日概
ね晴天大阪に強風吹けり●三十日概ね晴天大阪に強風吹
けり●三十一日概ね晴天北部の山間に雷雨富田林に雨降
れり

大阪地震観測概況

爰に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て観
測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の
器械にて観測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し

Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Lは長波即ち主要
部全上、Mは主要部の最大動、Cは終期の最大動、Dは振動の終了す
又(+)は南北動にありては北、東西動にありては東、(一)は南北動にあり
ては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」(毫の千分一)を以
て記す

本月中に地震を観測したる數は二十八回にして人身に感
覺ありたるものは二十一日午前零時五十五分九秒伊勢海
に發したるもの一回、人身に感覺なく普通地震計に感じ
たるものは二十七日午前六時三十四分二十三秒江濃地方
に發したるもの一回なり無感覺地震にして地動計又は微
動計に感じ其震源本邦内にありたるものは九回即ち鹿島

洋三回、浦賀水道二回陸前沖、磐城沖、安房沖、江濃地
方各一回なり又遠距離地震は十七回にして就中震度の最
も強かりしは一日午後二時過勘察加の南西方海底に發し
たるものにして余震六回あり而して其他の十回は未だ震
源詳ならず今其観測概況を列記すれば左の如し

四六 五月一日午前五時三十六分五十五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は客
分五十二秒にして主要動となり最大振幅は午前五時三十
七分四十九秒に於て十二「ミクロン」振動期三秒四を現し
後微となり靜止せり全振動時間は六分二十六秒なり(南
北動微動計百二十倍の観測)

附記 此地震は鹿島洋に發したるものにして水戸、福島、東京にて
は人身に感覺なきも地震計に感じたり

四七 五月一日午前八時四十七分三十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分四十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前八
時五十一分十二秒に於て五十二「ミクロン」振動期六秒二
南北動は午前八時五十一分卅一秒に於て四十「ミクロン」
振動期五秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は東

廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十	卅一	全
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	月
一六七	一七〇	一七三	一七六	一七九	一八二	一八五	一八八	一九一	一九四	一九七
一九〇	一九三	一九六	一九九	二〇二	二〇五	二〇八	二一一	二一四	二一七	二二〇
二二三	二二六	二三〇	二三三	二三六	二三九	二四二	二四五	二四八	二五一	二五四
二五七	二六〇	二六三	二六六	二六九	二七二	二七五	二七八	二八一	二八四	二八七
二九〇	二九三	二九六	二九九	三〇二	三〇五	三〇八	三一	三一四	三一七	三二〇
三二三	三二六	三三〇	三三三	三三六	三三九	三四二	三四五	三四八	三五	三五七
三六〇	三六三	三六六	三六九	三七二	三七五	三七八	三八一	三八四	三八七	三九〇
三九三	三九六	三九九	四〇二	四〇五	四〇八	四一一	四一四	四一七	四二〇	四二三
四二六	四二九	四三二	四三五	四三八	四四一	四四四	四四七	四五〇	四五三	四五六
四五九	四六二	四六五	四六八	四七一	四七四	四七七	四八〇	四八三	四八六	四八九
四九二	四九五	四九八	五〇一	五〇四	五〇七	五一〇	五一三	五一六	五一九	五二二
五二五	五二八	五三	五三六	五三九	五四二	五四五	五四八	五五一	五五四	五五七
五六〇	五六三	五六六	五六九	五七二	五七五	五七八	五八一	五八四	五八七	五九〇
五九三	五九六	五九九	六〇二	六〇五	六〇八	六一	六一四	六一七	六二〇	六二三
六二六	六二九	六三二	六三五	六三八	六四一	六四四	六四七	六五〇	六五三	六五六
六五九	六六二	六六五	六六八	六七						
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										
六七										

管内天氣摘要

●一日晴曇相半す ●二日概ね雨天夜に入り歎む ●三日概ね晴天 ●四日概ね晴天 ●五日概ね晴天 ●六日概ね晴天 ●七日概ね晴天 ●八日概ね晴天堺、天王寺、大阪に驟雨あり ●九日概ね晴天天王、富田林に驟雨あり ●十日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る新庄に強風吹けり ●十一日前日來の雨午後に至り歎み所々に強風吹けり ●十二日概ね晴天なりしか午後より雨降り所々に雷鳴あり深日には雹降り尾崎、堺、大阪に強風吹けり ●十三日晴曇相半

し所々に驟雨雷鳴あり ●十四日概ね晴天 ●十五日概ね晴天 ●十六日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る尾崎、大阪に強風吹けり ●十七日前日來の雨漸續して概ね午後歎み尾崎、大阪に強風吹けり ●十八日概ね晴天 ●十九日未明より雨降り所々に雷鳴起り妙見山、茨木、枚方には雹を伴ひたり ●二十日晴曇相半し大阪、天王に雨降り尾崎大阪に強風吹けり ●二十一日晴曇相半し妙見山、天王に雨降り ●二十二日概ね曇天午後より雨降り翌日に亘る ●二十三日前日來の雨概ね午後歎み天王に濃霧あり ●二十四日概ね晴天 ●二十五日晴曇相半す ●二十六日概ね晴

第四表 管内降水日量

五	月	深日	尾崎	岸和	長承	濱寺	堺	天王	大阪	福島	新庄	池田	妙見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	宮田	長野
一	日	一、九	〇、五	六、〇	五、五	五、二	〇、一	三、八	〇、〇	三、六	〇、一	三、八	二、八	六、〇	二、八	四、三	五、三	三、五	五、二	〇、一	五、六	五、〇	一、〇
二	日	六、五	六、三	六、〇	五、五	五、二	四、三	三、八	四、〇	三、六	四、〇	三、八	二、八	六、〇	四、三	四、三	五、三	三、五	五、二	五、六	四、九	五、〇	六、〇
三	日																						
四	日																						
五	日																						
六	日	二、五	二、四	二、九	二、三	二、二	四、九	五、七	六、七	六、四	七、八	六、八	四、三	二、六	二、〇	二、〇	一、〇	八、〇	六、九	四、九	一、八	一、六	三、七
七	日																						
八	日																						
九	日																						
十	日	五、五	五、三	五、〇	四、三	四、二	五、九	六、七	六、四	六、八	七、八	六、八	四、三	二、六	二、〇	二、〇	一、〇	八、〇	六、九	四、九	一、八	一、六	三、七
十一	日	〇、六	〇、四	二、八	五、五	四、二	六、三	五、五	五、〇	四、六	七、九	九、二	二、八	二、〇	二、四	二、五	二、七	三、九	四、三	一、八	一、六	三、七	三、七
十二	日																						
十三	日																						
十四	日																						
十五	日																						
十六	日	二、五	二、四	二、九	二、三	二、二	四、九	五、七	六、七	六、四	七、八	六、八	四、三	二、六	二、〇	二、〇	一、〇	八、〇	六、九	四、九	一、八	一、六	三、七
十七	日																						
十八	日																						
十九	日																						
二十	日																						
廿一	日																						
廿二	日																						

大差なかりき而して最高は三十日乃至三十一日に現はれ東部長野の廿九度九を高極とし之れに亞くは南部深日及尾崎の二十九度五東部富田林の二十九度四にして其他は二十九度より二十四度の間にあり又最低は其起日區々なりと雖も一般に上旬に現はれ北部妙見山の一度四を低極とし全天王の二度五、東郷の二度九之れに亞き其他の山間部は五度乃至六度にして平坦部及沿海部地方は七度乃至九度を示せり之れを要するに本年五月の氣温は最高二十九度九より最低一度四の間にありて其較差は二十八度五に達せり

水 總量は北部清水の百九十六耗七より南部岸和田の九十二耗九の間にありて之れを平年に比すれば南部より南東部は稍々少なりしも其他は一般に多量を示せり而して日量の最多は十日午後より十一日に亘りし大雨の際にありて西部枚方の八十五耗〇を最多とし北部天王全清水の八十三耗〇西部茨木の八十耗〇之れに亞けり又日量の七十耗以上なりしは

天王寺、新庄、池田の三ヶ所全六十耗以上なりは大阪、福島、田原の三ヶ所全五十耗以上は深日、堺の二ヶ所にして他は四十五耗〇より二十九耗〇の間にあり

雷

雨、總回数は四回にして其中稍々顯著なりしは

十二日及十九日に起たるもの即左に記するか如し
十二日午後二時頃内海附近に雷雨發生し漸次東進し來り午後五時過大阪灣に入り尙ほ東方に進行せり此の雷雨の通過に際し和泉の南部は稍々強く深日には小豆大の降雹を伴ひしも經過急なりしを以て幸に被害を認めざりき

十九日低氣壓の敦賀灣附近を通過するに際し所々に雷雨發生し本府管内も之れが影響を受け午後二時過北部より大阪市附近に迄雷鳴を感じ山間部は稍々強く妙見山、茨木、枚方には小豆大の降雹を伴ひしも僅か二三分間にて歇みたるを以て孰れも被害を認めず雷も亦漸次北東方に經過し去れり

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲は高又は多)

廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	卅一日	全月
一八七	一八〇	一八三	三〇〇	一八八	二〇一	三〇三	二〇七	二〇七	二〇八	二〇八	一八七
一八〇	一八五	一八三	二〇二	一九〇	一九三	二〇四	一九九	一九九	二〇〇	二〇〇	一八四
一七九	一七九	一八三	一九一	一九〇	一九〇	一九四	一九七	一九七	一九八	一九八	一八一
一七九	一七五	一七六	一七七	一七九	一八〇	一八二	一八四	一八六	一八八	一九〇	一七九
一〇五	一〇一	一〇二	九七	七三	二〇四	二〇七	八二	一〇一	三〇三	三〇三	九三
午後零時四十二分より二時十二分迄及三時二十五分より四時二十分迄日量現る、	朝露あり、午後零時十五分より小雨斷續して翌日に亘る、	前日來の降雨斷續して午後九前二十五分歇む、	夜薄露あり、	朝露あり、午前九時五十分より午後二時十分迄日量現る、午後九時十五分より十一時二十三	分迄月量現る、夜露あり	朝露あり、午前七時五十分より十一時三十分迄及午後四時三十八分より五時四十四分迄日量現	る、午後七時五十分より月量現れ翌日に亘る、夜薄露あり、	前夜來の月量午前零時四十分迄ぬ、朝露あり、午前七時二十分より午後零時三十二分迄日量現	る、	朝露あり、夜薄露あり、	朝露あり、午前六時四十分より午後五時十分迄日量現る、午後八時四十分より月量現れ翌日に
亘る、午後四時強風吹けり、夜露あり、	朝露あり、午前一時三十五分より三時三十四分迄月量現る、午前八時烟霧あり、午前十一時三十	分より十一時五分迄及午後零時三十分より一時五分迄日量現る、午後五時強風吹けり、	朝露あり、午前二時四十五分より三時三十五分迄月量現る、午前三時二十分より六時五十分	迄薄露あり							

大阪府管内氣象概況

前既に詳記せるか如く五月は氣温上昇を促し漸次夏季の
 状態に遷らんとする即ち氣候變遷期なるを以て低氣壓の
 來去頗る頻繁となり天氣の變化亦之れに伴ひ著しく複雑
 となれども四月に比すれば稍々晴燥の天氣多く從て降水
 量は前月より減少するを常とす今本年五月の氣候を調査
 するに上旬は冷氣にして一般に最低の極を現はし中旬も
 亦陰冷に經過し下旬に入り漸く氣候順に復し月末に於て

最高の極を示せり又降水量は上旬及下旬は晴燥の日多か
 りしを以て其量少なりしも中旬は雨天多く十日午後よ
 り十一日午後に亘りし降雨は頗る強く其量多きは百耗近
 くに達せり要するに本年五月の氣候は上旬は稍々冷氣に
 して中旬は多雨となり下旬に至り順調となれり更に氣温
 、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は西部福島の十八度二天王寺の十八度
 ○より北部妙見山の十二度八の間にありて之れを平
 年に比すれば北部は一度内外の過低なりしか其他は

全月 七九七 一七九 〇〇 二二〇 二三八 九三 一〇六 七 四三 四一 二〇 南南四 四 六二 二〇一 七六 二四三 一三二八

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

五月 地中溫度(平均) 最低 諸現象の摘要

日	地中溫度(平均)	最低	諸現象の摘要
一	一五、九	一四、八	朝露あり、 午前八時二十五分より午後六時十分迄小雨、夜薄露あり、午後十一時三十五分より霧を生じ翌 曉に亘る
二	一三、一	一四、九	六、四
三	一七、二	一五、一	七、〇 前夜來の霧午前六時十分消散す、夜露あり、
四	一七、二	一五、一	六、六 朝露あり、午前五時二十分より七時二十分迄霧あり、午前十時五十八分より午後四時二十分迄 時々日曇現る、夜薄露あり、
五	一七、三	一五、三	七、八 朝薄露あり、午前二時三十八分より四時二十分迄月曇午前十時五分より午後零時三十五分迄日 曇現る、夜露あり、
六	一八、一	一五、三	五、三 朝夜露あり、
七	一八、〇	一五、八	七、二 朝露あり、午後四時三十分より五時二十八分迄日曇現る、
八	一〇、一	一七、四	八、三 午後八時三十分より九時十分迄降雨、
九	一八、四	一六、四	三、八 夜薄露あり、
十	一八、六	一六、七	三、二 朝薄露あり、午前五時四十分より八時三十分迄薄霧あり、午前六時六分より小雨斷續して翌曉 に亘る
十一	一八、九	一六、一	三、三 前日來の降雨時々大雨を交へて斷續し午後五時二十八分歇む、午前七時より十時及午後四時強 風吹けり、
十二	一七、八	一七、七	二、三 午前十時及午後二時強風吹けり、午後零時五十八分より七時三十分迄降雨斷續す、午後五時五 十分より五時五十八分迄南西方に雷響あり、
十三	一七、七	一六、九	〇、五 朝薄露あり、午後五時十五分より九時三十三分迄小雨斷續す、午後五時三十五分より五時五十 分迄南方に雷響あり、
十四	一七、七	一六、九	七、一 朝薄露あり、午後二時四十分より五時三十八分迄日曇現る、
十五	一八、五	一七、八	七、九 朝薄露あり、
十六	一八、三	一七、一	二、五 午前九時より十時迄午後一時より三時迄及十時強風吹けり、午後三時四分より小雨斷續して翌 曉に亘る
十七	一七、一	一七、三	九、二 前日來の小雨午前零時五十分歇む九時五十二分より午後五時四十七分迄小雨斷續す、午前一 時及午後四時強風吹けり、
十八	一八、四	一七、三	八、三 朝露あり、午前一時四十分より十一時四十五分迄及午後一時四十分より三時三十分迄日曇現る 夜露あり、
十九	一八、七	一七、二	八、八 朝露あり、午前五時二分より午後零時五分迄小雨斷續す、午後二時四十分北方に雷鳴起り二時 五十五分北東に颯り三時三十分歇聲す、夜露あり、
二十	一八、七	一七、五	六、二 朝露あり、午後一時より三時強風吹けり、午後四時三分より四時十分迄微雨、

正	午											夜	平
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一		
午	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	均
七五九.一〇	七五八.八〇	七五八.四〇	七五八.二〇	七五八.一〇	七五八.〇〇	七五七.九〇	七五七.八〇	七五七.七〇	七五七.六〇	七五七.五〇	七五七.四〇	七五七.三〇	七五九.三〇
二〇.四七	二〇.六七	二〇.八六	二〇.九六	二〇.九八	二〇.九七	二〇.九六	二〇.九五	二〇.九四	二〇.九三	二〇.九二	二〇.九一	二〇.九〇	二一.七〇
一〇.七七	一〇.八七	一〇.九〇											
六〇.四	六〇.四	六〇.一	六〇.四	六〇.三	六〇.五	六〇.六	六〇.六	六〇.五	六〇.四	六〇.三	六〇.二	六〇.一	六〇.七
七.一八	七.一七	七.二二	七.三三										
四七.〇	五.六八	五.九九	五.六七	五.七五	五.三三	四.六三	四.〇五	三.九二	三.九二	三.九二	三.九二	三.九二	四.〇七
五.八	六.一	六.一	六.一	六.八	七.五	六.二							
三.三五	三.七〇	三.四〇	三.三〇	三.一〇	二.八五	三.三三							
〇.五													
二六.一七	二七.六六	二七.七五	二七.九〇	二八.一〇	二八.一四	二八.二五							
一七.七四	一七.七三												
一七.七四	一七.七三												
一六.六六													
一六.六六													

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の一 (表中▲印ハ高又ハ多)

五	月	氣壓		空氣		溫度		水蒸氣		風		雲量		日照時數	降水量	蒸發量
		平均	本年	平均	本年	最高	最低	平均	本年	平均	本年	平均	本年			
一	日	七五八.八〇	一四.四〇	一五.九〇	一〇.一〇	七.二	八.八	六.八	三.三	三.三	北東	六.〇	八.九	—	—	—
二	日	七五八.八〇	一四.四〇	一五.九〇	一〇.一〇	七.二	八.八	六.八	三.三	三.三	北東	六.〇	八.九	—	—	—
三	日	七五七.五〇	一四.三〇	一五.八〇	一〇.〇〇	七.二	八.八	六.八	三.三	三.三	北東	六.〇	八.九	—	—	—
四	日	七五七.五〇	一四.三〇	一五.八〇	一〇.〇〇	七.二	八.八	六.八	三.三	三.三	北東	六.〇	八.九	—	—	—
五	日	七五七.五〇	一四.三〇	一五.八〇	一〇.〇〇	七.二	八.八	六.八	三.三	三.三	北東	六.〇	八.九	—	—	—
六	日	七五七.五〇	一四.三〇	一五.八〇	一〇.〇〇	七.二	八.八	六.八	三.三	三.三	北東	六.〇	八.九	—	—	—

にありては午後九時及十時同三十糎にありては夜半に生し最低は地皮にありては午前五時、地中十糎にありては午前八時、同二十糎にありては午前十時、同三十糎にありては午後二時に生せり、之れに依りて地皮より地中に熱の傳達する梗概を知るを得べし
 最低地温 平均は九度三一にして平年に比すれば

零度四三低く月中の最低は六日午前二時に於て五度三を示せり

天氣日數 快晴は三日にして平年より二日、曇天は

十日にして平年より一日孰れも少し電雷は一日にして平年に等し

尙詳細は左に掲ぐる氣象觀測成績表を参照すべし

第一表 大阪毎時氣象觀測成績

前		午										五															
		一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	月	氣壓	氣温	水蒸氣力	濕度	飽差	風速度	雲量	日照數	降水量	地皮	地中十糎	地中二十糎	地中三十糎	地中六十糎
十一時	七五九、四四	七五九、三七	七五九、三三	七五九、三三	七五九、四七	七五九、六八	七五九、七九	七五九、八二	七五九、七五	七五九、七五	七五九、六六	七五九、五九	一四、五三	一四、四三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八	
十時	七五九、六七	七五九、七七	七五九、八三	七五九、八三	七五九、七五	七五九、六八	一四、四三	一四、三三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
九時	七五九、七五	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一四、三三	一四、二三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
八時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一四、二三	一四、一三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
七時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一四、一三	一四、〇三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
六時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一四、〇三	一三、九三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
五時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一三、九三	一三、八三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
四時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一三、八三	一三、七三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
三時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一三、七三	一三、六三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
二時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一三、六三	一三、五三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							
一時	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、八二	七五九、七五	七五九、六八	一三、五三	一三、四三	一〇、三六	八二、五	二、一九	三、〇三	五、〇	—	四、七	一三、八五	一六、〇一	一八、三三	一八、六	一六、八							

一時間の最多量は同日午前四時の十五耗四なり、又蒸發總量は百五十一耗八にして平年に比すれば零耗五多く一日中の最多量は三十一日の七耗九なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は十八度七

一にして平年に比すれば零度八四低く月中の最高は三十一日午後一時に於て三十七度三、最低は一日午前五時に於て九度四を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は正午にありて二十八度一七、最低は午前五時にありて十二度九四を示し其較差は十五度二三なり

地中十糶の溫度 平均は十八度三八にして平年に比すれば零度二一低く月中の最高は三十一日午後五時及六時に於て二十四度八、最低は三日午前七時及八時に於て十三度五を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後五時にありて二十度一五、最低は午前八時にありて十六度七一を示し其較差は三度四四なり

地中二十糶の溫度 平均は十八度一二にして平年に比すれば零度二三低く月中の最高は三十一日午後

九時及十時に於て二十二度六、最低は三日午前七時乃至十一時に於て十四度四を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後九時及十時にありて十八度七一、最低は午前十時にありて十七度五七を示し其較差は一度一四なり

地中三十糶の溫度 平均は十七度九三にして平年に比すれば零度二〇低く月中の最高は三十一日夜半に於て二十一度四、最低は三日午前九時乃至午後二時に於て十四度八を示せり、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は夜半にありて十八度二三、最低は午後二時にありて十七度七一を示し其較差は零度五二なり

地中六十糶の溫度 平均は十六度九六にして平年に比すれば零度二八高く月中の最高は三十一日午後十時乃至夜半に於て十九度三、最低は一日午前一時及二時に於て十四度六を示せり但し此深さにありては殆ど一日中の變化を認め難し

以上列記する地中溫度を通觀するに最高は地皮にありては正午、地中十糶にありては午後五時同二十糶

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

十耗五九にして平年に比すれば零耗二六低く月中の最高は三十日午前九時に於て十七耗二、最低は七日午後十時に於て六耗一を示せり、而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後四時にありて十一耗〇八、最低は午前五時にありて九耗九五を示し其較差は一耗一三なり

濕度の平均は七十二、七にして平年に比すれば一、三少く月中の最少は八日午後二時に於て二十八を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最多は午前五時にありて八十五、五、最少は正午にありて六十、三を示し其較差は二十五、二なり

飽差の平均は毎立方米中四瓦三一にして平年に比すれば零瓦二三多く、月中の最多は八日午後二時に於て十七瓦八、最少は二日夜半に於て零瓦一を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最多は午後一時にありて七瓦三七、最少は午前五時にありて一瓦六六を示し其較差は五瓦七一なり

風

平均速度は毎秒四米〇七にして平年に比すれ

は零米四七弱く月中の最大速度に十一日午前八時三十分より九時の間にありて毎秒速度二十米二（一間平方面を垂直に壓する力は四十三貫二百目に當る）の南々西風なり又強風以上の吹きたる日數は七日にして平年に比すれば四日少く其吹續時間は二十二時にして平年に比すれば十二時少し、又月平均に就きて一日中の變化を見るに最大は午後二時にありて五米九九、最小は午前三時にありて二米七二を示し其較差は三米二七なり、風向は西風最も多く北乃至北東風之れに亞き南乃至南東風は最も少し之れを平年に比すれば西乃至南西風は多くして北及南風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は六、二にして平年

に比すれば〇、二多く日照時數は二百二十二時一五にして平年に比すれば七時六四少く一日中日照時間のもも長かりしは十八日の十二時一〇なり

降水及蒸發量

降水日數は十一日にして平年より一

日少く其水量は百四十二耗三にして平年より十一耗一九少く又一日中の最多量は十一日の五十五耗七、

大阪測候所月報

大正四年 五月 大阪氣象概況

五月は前月來氣溫上昇し稍々夏季の狀態に移り主として
南西の風吹き降雨は前月より稍々減少すれども此月は尙
氣候變遷期にして高低氣壓の去來繁く爲めに天氣の變化
甚た多く同一の天氣を持續すること極めて少く且つ暖冷
の氣交々來りて不揃の氣候を呈せり、然り而して本年五
月の氣候を調査するに氣溫は平年に略は等しきも日照時
數は少く降水日數及量は平年より稍々少し而して強風以
上の吹きたる日數及其吹續時數は平年より少し

今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年よ
り本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百五十九耗二一にして平年に比

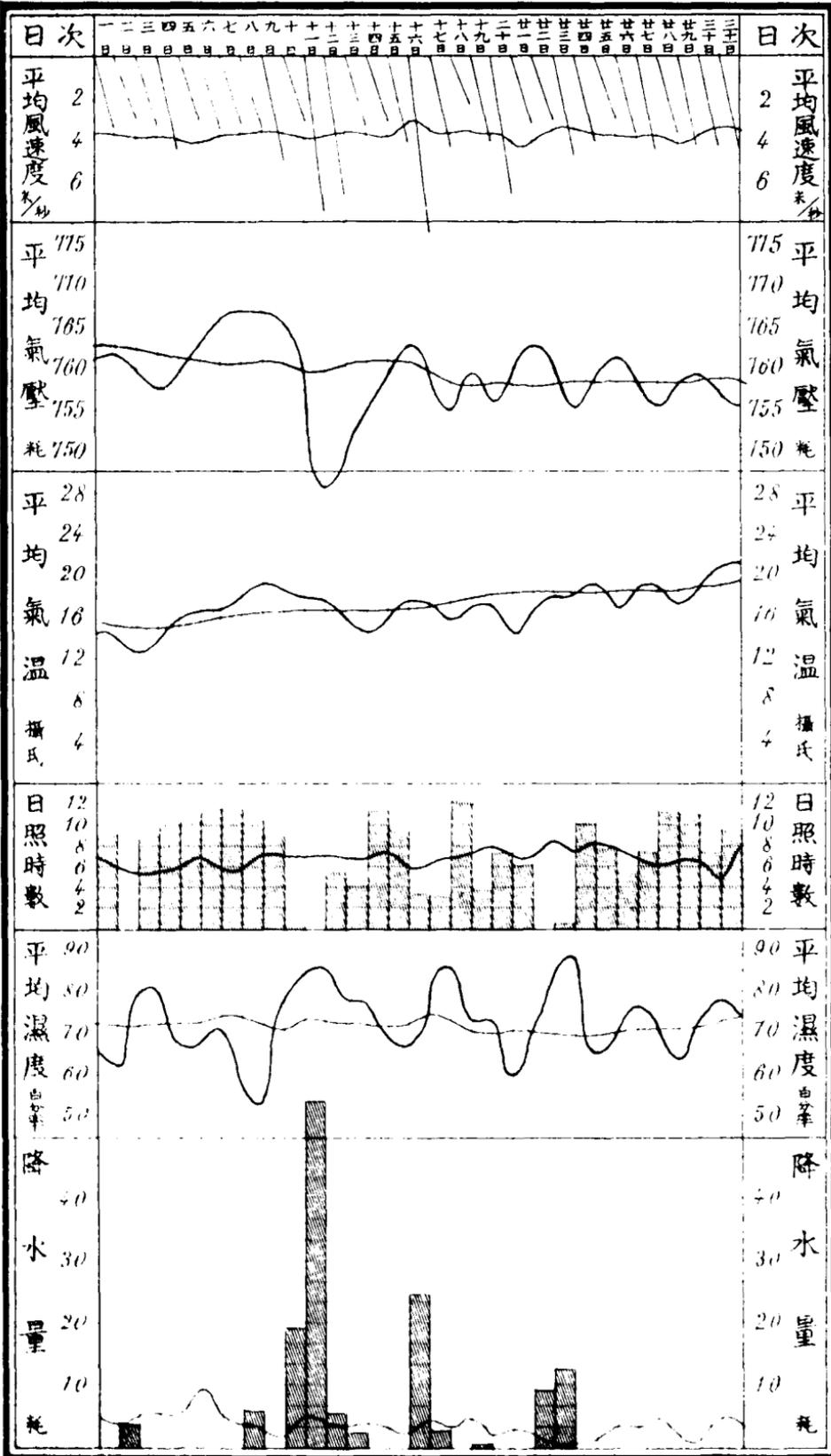
すれば零耗八〇低く、日々の變化は氣象圖に示すか
如く顯著なる昇降は一回にして微少なるもの五回あ
り、而して月中の最高は七日午前七時に於て七百六
十八耗四、最低は十一日午前九時及正午に於て七百

氣 溫 平均は十七度二五にして平年に比すれば

四十三耗一を示せり、又月平均に就きて一日中の變
化を看るに第一の最高は午前八時にありて七百五十
九耗八二第一の最低は午後四時にありて七百五十八
耗二一、第二の最高は午後十一時にありて七百五十
九耗七三、第二の最低は午前二時にありて七百五十
九耗二六を示し其主なる最高低の較差は一耗六一な
り
零度〇二低く平均氣溫日々の變化は上半月は平年に
比し高低相半し下半月は稍々低し而して月中の最高
は八日午後三時に於て二十七度一、最低は一日午前
三時に於て九度二を示せり、又月平均に就きて一日
中の變化を看るに最高は午後一時及三時にありて二
十度六七、最低は午前五時にありて十三度四五を示
し其較差は七度二二なり

大 阪 氣 象 圖

本圖ハ日平均又ハ合計ニ依リテ調製ス。風速度、氣壓、氣溫、濕度ハ本年——平年——日照時數ハ本年——平年——降水量ハ本年——



例 言

一 本報は常測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者とす但し日々の觀測は常測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一 氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は(曲尺三厘毫)を以て示す
 一 温度は凡て攝氏の度を用ゐる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘じ五にて除し三十二度を加ふへし

一 最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものほ之れを前日に繰上げて記入せり
 一 飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(グラム)にて示す

一 湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す
 一 降水量は乾を以て其深さを測り之を記す、但し一乾は一步面に水量一升八合三勺を散布したるに相當す
 一 雲量は十分率を以て示す

一 風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり
 一 風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かさるもの一は軟風にして人をなして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一 風向は北、北東、東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す
 一 天氣日數中雨とは雨雲霰雹の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日云ふ

大阪府管内氣象觀測所位置

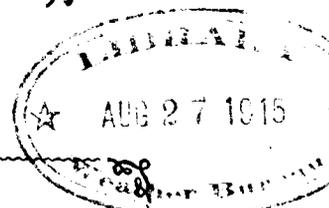
氣象觀測所		國郡市	町	村	緯度	東經	北緯	觀測主任
深	日	和泉國	泉南郡	深日村	一三五度〇九分	三四度一九分	北野	孝
尾	崎	國泉南郡	尾崎村	一三五度一六分	三四度二二分	高尾	章	
岸	和田	國泉南郡	岸和田町	一三五度二三分	三四度二七分	森内	清次	
長	承寺	國泉北郡	高石村	一三五度二七分	三四度三二分	前川	由太郎	
濱	寺	國泉北郡	高石村	一三五度二六分	三四度三二分	今井	富次	
堺	全	國堺市	市車ノ町	一三五度二九分	三四度三五分	吉村	正輔	
天	王	國播磨國	大阪府南區	天王寺	一三五度三一分	三四度三九分	加藤	昭純
大	阪	國大阪府	西區	一條通	一三五度二六分	三四度三九分	府立	大阪一等測候所
福	島	國大阪府	北區	上福島	一三五度二九分	三四度四二分	笠谷	正三郎
新	庄	國西成郡	新庄村	一三五度三一分	三四度四五分	植田	靈顯	
池	田	國豊能郡	池田町	一三五度二六分	三四度五〇分	笠部	文二郎	
妙	見	國豊能郡	東郷村	一三五度二八分	三四度五六分	阪部	文二郎	
東	郷	國豊能郡	東郷村	一三五度二九分	三四度五七分	大原	仁之助	
天	王	國豊能郡	根根村	一三五度二三分	三四度五〇分	高橋	政次郎	
茨	水	國三島郡	茨木町	一三五度三四分	三四度四九分	高橋	政次郎	
清	水	國三島郡	清水村	一三五度三六分	三四度五三分	山本	義一	
枝	方	國北河内郡	枝方町	一三五度三九分	三四度四九分	家村	八五郎	
田	原	國北河内郡	田原村	一三五度四二分	三四度四三分	東尾	重藏	
八	尾	國中河内郡	八尾町	一三五度三六分	三四度三八分	水谷	芳松	
柏	原	國中河内郡	柏原村	一三五度三七分	三四度三五分	畿内農事試験支場		
富	田	國中河内郡	富田町	一三五度三七分	三四度三〇分	塔本	幸太郎	
長	野	國中河内郡	長野町	一三五度三五分	三四度二七分	松本	遠水	

Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory.
May 1915

大阪測候所月報

大正四年五月

第拾六年第五號



目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 五月大阪地震觀測概況
- 暴風季節
- 降水の時間と水量を調査し雨天日數に及ぶ
- 六月二十日の雷雨に就て
- 六月二十五日の大雨に就て
- 袖摩加沖の大震
- 本府管内氣象觀測所の開廢
- 淀川ノ水位
- 地方天氣豫報暴風警報通否

大正四年六月一日印刷
全 年六月二日發行

府立大阪一等測候所

(電話四八九七番)

大阪市西區江戶堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

(電話土佐通三三四一號)

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市	町村	緯度東經	北緯	取扱官衙
谷川崎	和泉國泉南郡	多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所
尾崎	和泉國泉南郡	尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署
佐野	和泉國泉南郡	佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡	岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺	和泉國堺市	吾妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署木津川分署
木津川	攝津國大阪府	西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	安治川水上警察署
北加賀屋	攝津國東成郡	數津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
離波島	攝津國大阪府	西區中口町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全木津川分署離波島水上巡查派出所
安治川	攝津國大阪府	北區安治川通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安治川水上警察署
天保町	攝津國大阪府	西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署
大阪	攝津國大阪府	西區一條通	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等測候所
大津	攝津國豐能郡	傳法町	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署
東傳	攝津國豐能郡	東傳村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東傳村役場

これを以て見るも今回の戦役にて英國氣象局が氣象の報
を秘して發表せざるは最も機に適したるものなるを知る
べし

淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 三尺四寸七分
北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 三尺二寸六分

日	廣瀬		大日		日	廣瀬		大日	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
四月 一日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	四月 二十一日	二、七五	二、六四	二、七五	二、六五
二日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十二日	二、六六	二、五五	二、六六	二、五五
三日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十三日	二、六六	二、五五	二、六六	二、五五
四日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十四日	二、七〇	二、五五	二、七〇	二、五五
五日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十五日	二、六六	二、五五	二、六六	二、五五
六日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十六日	二、三五	二、二五	二、三五	二、二五
七日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十七日	二、三五	二、二五	二、三五	二、二五
八日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十八日	二、五五	二、二五	二、五五	二、二五
九日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	二十九日	二、八〇	二、五五	二、八〇	二、五五
十日	二、五五	二、四五	二、七〇	二、五五	三十日	二、六五	二、三五	二、六五	二、三五

平均水位廣瀬 三尺六寸三分
最高水位廣瀬 八尺八寸〇分
(二十八日午後十一時)

大日 三尺五寸八分
三尺七寸〇分
(二十九日午前六時)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

種	類	發布數	正中	偏中	不中	正中百分比例
暴風警報	天氣豫報 風向 風度 溫度	三〇	二二	七	〇	八八



に達せんとし冷氣は甚しく、東京は去る明治三十六年以來になき冷氣にして二十日の最低氣温は九度七に降り平均氣温は平年より三度八低かりしと云ふ、大阪にては五月八日は著しく温暖にして最高氣温は二十七度一（平年より高きこと五度六）を示し殆ど夏季の氣候なりしが爾來漸く冷氣となり二十日には最低氣温十一度一（平年より低きこと二度五）に降り近來珍らしき寒い氣候となり五月の末に冬が又來た様なる思をなせり

是れは北海道、千歳、阿哥斯克海邊に寒い空氣の堆積せる所謂高氣壓がありて北又は北東の風を起し寒い空氣を送り來る爲めにして、此高氣壓の發達せる間は冷氣持續せるも高氣壓衰へ又は移動すれば氣候順に復するを常とす
今冷氣なりし五月十六日より二十二日に至る一週間の氣温を表記すれば左の如し

五月十六日(日) 平均 一九・七 最高 二二・七 最低 〇・七

月	日	平均	平年ヨリ	最高	平年ヨリ	最低	平年ヨリ	記
五月	十六日	一九・七	〇・二	二二・七	〇・〇	一三・三 ▲	〇・七	時々強風吹き午後雨となる
全	十七日	一五・七	二・一	一九・八	二・八	一二・二	〇・八	終日雨斷續す
全	十八日	一七・〇	一・一	二二・四	一・八	一二・一	〇・九	晴天日實現はる
全	十九日	一七・二	〇・九	二二・六	一・〇	一四・〇 ▲	一・二	午前雨午後止む
全	二十日	一四・六	四・〇	一八・四	五・三	一一・一	二・五	午後強風吹き雨
全	二十一日	一六・四	二・三	二二・二	一・七	一一・二	一・五	曇大午後に至り日實現はる
全	二十二日	一八・〇	〇・四	二二・四	一・四	一五・二 ▲	一・九	午後から雨降り翌日に亘る

●獨國飛行船と氣象電報

去る二月に獨國の「ツエツパリン」式飛行船二隻丁抹國にて遭難したり、これ英國を襲撃せんとする途中非常なる風雪に會したるに

よるものなり、當時「コーペンハーゲン」の中央氣象臺の發表するところによれば此風雪は英國氣象局にて氣象電報を公にせざる結果全く豫測し得ざりしものなりと云ふ

氣象の部には好晴なる時の天氣圖、險惡なる時の天氣圖、梅雨頃の天氣圖、冬の季節風旺盛なる時の天氣圖、日本全國の溫度及雨量大圖、明治十八年及二十九年の大洪水圖、大正元年九月の暴風雨圖、氣象と米作との關係圖、氣象と死亡との關係圖、大阪に於ける一年中の雨量變化圖、自記雨量計、自記晴雨計、全寒暖計、全濕度計、旅行用水銀寒暖計、最高低寒暖計、乾球濕球寒暖計等にして一々説明を附し且つ自記器械等は孰れも運轉し其實況を示せり

高層氣象の部には 故山階宮殿下御建設の筑波山觀測所、御寫眞、雲級圖並説明、高層氣流觀測用經緯儀、氣球、浮力測定秤等の寫眞、測風氣球を飛揚したる所の概圖、飛揚したる測風氣球を水平面へ射影したる圖但氣流速度大なるもの一枚、全小なるもの一枚、渦を卷きたる氣流一枚、所澤大阪間陸軍飛行演習の時飛行將校より當所へ發せられたる飛行郵便繪はかき數葉、地震噴火の部には慶長元年閏七月十二日夜の伏見大地震、寛文二年五月一日及天保元年七月二日淀川流域に起りたる大地震、安政元年六月十五日大和伊賀の大地震の震域

圖、寶永四年十月四日及安政元年十一月五日の地震大津浪圖、大阪にて人身に感覺ありたる地震回數並地動計を以て觀測したる地震回數對照圖、世界地震帶の圖、日本火山脈圖、世界標準時の圖、自動地球儀、遠近地震觀測、氣象紙、大阪の地の脈動寫眞、伊太利大地震々害並同皇帝の震災地を見舞はれたる寫眞三葉、櫻島山大噴火の大寫眞數葉、熔岩、火山彈、輕石、降灰等數種、伊豆大島及淺間山の火山彈、熔岩數種、櫻島山大噴火の爲の鹿兒島市の土地低下と海水増昇の一覽圖、大森式地震器械寫眞數種等なり

●五月の冷氣に就て

技手 大橋龍太郎

例年四、五月頃は氣候變遷期にして高低氣壓の來去頻繁なるが故に天氣定らずして寒暖常なく、暖き日と冷き日とが交々來るは敢て珍らしき現象にはあらざれども、本年五月の冷氣は稍々異常の觀を呈せり、ト諏訪來電に依れば五月十九日朝より二十日朝まで信州八ヶ嶽一帶の山脈に大雪あり、積雪一尺餘に及び滿山の翠色俄に變し白皚々たる銀世界と化したりと、又樺太南部にては五月二十日朝氣溫氷點以下に降り、北海道にても始と氷點

全 四十二年	五	五	六	二	一〇	〇	九	四	二	五
全 四十三年	五	一	四	六	六	一	五	七	〇	四
全 四十四年	五	六	六	五	八	一	五	四	二	三
全 四十五年	二	四	七	二	四	〇	六	三	四	一
大 正元 年	二	一	三	二	六	一	四	七	二	四
全 二年	〇	三	五	三	七	二	二	三	一	三
全 三年	〇	三	五	三	七	二	二	三	一	三
平 均	三、三	二、七	四、七	五、〇	六、〇	三、五	四、七	三、四	二、五	四、五、九
全 月の日數に 對する百分率	一一	一〇	一五	一七	一三	二〇	一一	一四	一八	一三

●當所の出品 本年四月一日より五月三十一日迄

天王寺公園に於て本府知事總裁の下に産業博覽會を開催

せらる右に付同會より産業乃至教育に關するものを測候

所より出品せられたき旨を照會し來れり尤も當所は毎年

秋季に三日間正午より午後四時迄開放し公衆の觀覽に供

せしか來觀者頗る多く日々數千人に達せり依て學生等の

団体は開放日以外に隨意觀覽せしむることゝしたりき斯

の如く近年斯業に注意するもの非常に増加したるか故に

今回の博覽會にも斯業の普及且つ發展の爲め豫備器又は

參考品の一部を出品することゝせり其博覽會館は天王寺

公園の美術館、勸業館並に器械館等にして當所の出品は

美術館内の南部と美術館前の天氣堂ウエヂキヤウの二ヶ所なり其出

品は概要左の如し

天氣堂 堂は六角形にして外部の一邊は六尺の腰高硝子

障子とし内部に之と平行し一邊三尺の六角柱形のを

設け、第一邊には天氣圖、天氣概況、天氣圖記號の解、

第二邊には全圖並大阪地方の天氣豫報、天氣小屋（晴天

なれば女の人形か小屋より出て雨天なれば男が出る）、

第三邊には乾球濕球寒暖計、第四邊には最高最低寒暖計

第五邊には空盒晴雨計、第六邊には風力計自記器又屋上

には風信器並風力計等を据付け一々説明を附し且實際是

等の器械を運轉し氣象觀測の實況を示せり

美術館 本館には高さ九尺奥行二尺延長五間の陳列棚に

地上氣象、高層氣象及地震噴火に關するものを出陳せり

明治三十七年	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
全三十八年	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
全三十九年	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
全四十年	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
全四十一年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
全四十二年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
全四十三年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
全四十四年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
全四十五年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
大正元年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
全二年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
全三年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
平年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

更に一日中全く日照を享けざる日は一年中に於て幾日あるやと云ふに四十六日にして平均毎月約四日に當れり然れども月に依りて多少あり即ち其日數の最も多きは六月にして六日、之れに亞くは四月の五日、三月九月十月の

各約五日なり又最も少きは八月の約一日なりとす今最近十年間に於て一日中全く日照を享けざる日數を表記すれば左の如し

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治三十七年	二	三	五	七	三	七	二	二	五	七	四	四	四七
全三十八年	六	一	六	六	六	一	二	七	四	三	三	四	五九
全三十九年	五	五	二	四	四	六	四	一	七	六	二	四	五二
全四十年	四	二	五	三	三	四	二	二	三	六	六	三	五二
全四十一年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
全四十二年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
全四十三年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
全四十四年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
全四十五年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
大正元年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
全二年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
全三年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九
平年	二	〇	三	七	五	五	二	三	五	一	二	三	三九

少く百四十二時六にして晝間時數の百分率は四十六即ち晝間の四割六分は照り五割四分は曇れり又一年中に於て晝間時數の長き割合に日照時數の少きは六月にして其時數は百七十六時〇を算すれとも晝間時數に對する百分率

は四十一即ち晝間の約四割は照り六割は曇れり今最近十年間の日照時數と晝間時數に對する百分率を表記すれば左の如し

日照時數

時ヲ單位トス

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治三十七年	196.0	248.8	260.0	285.0	273.3	264.4	334.6	290.7	344.3	245.3	274.0	259.9	259.9
全 三十八年	133.6	150.8	152.6	182.9	197.9	226.8	233.3	275.8	251.1	263.3	276.6	266.1	258.8
全 三十九年	150.7	198.8	180.4	234.1	190.3	200.0	298.1	267.4	246.1	263.3	240.1	261.1	258.8
全 四十年	150.3	166.3	190.8	236.0	229.4	269.0	292.1	230.0	270.0	276.0	266.0	270.0	259.9
全 四十一年	230.6	240.3	200.4	280.3	220.4	280.6	300.3	230.8	240.3	280.3	260.3	260.3	259.9
全 四十二年	250.3	230.3	200.3	240.3	250.9	290.3	230.9	250.8	240.3	250.3	260.3	250.3	259.9
全 四十三年	130.0	140.5	150.4	190.3	190.6	220.5	240.0	230.8	240.3	240.3	260.3	240.3	259.9
全 四十四年	140.7	150.6	170.2	210.6	200.5	220.7	250.3	240.3	240.3	240.3	260.3	240.3	259.9
明治四十五年	170.7	180.6	190.7	230.0	220.0	230.0	250.0	240.0	240.0	240.0	260.0	240.0	259.9
大正元年	170.7	180.6	190.7	230.0	220.0	230.0	250.0	240.0	240.0	240.0	260.0	240.0	259.9
全 二年	150.3	160.1	150.9	180.9	170.0	180.0	210.0	190.0	200.0	210.0	220.0	210.0	209.9
全 三年	170.6	180.3	170.1	200.1	190.1	200.1	230.1	210.1	220.1	230.1	240.1	230.1	229.9
平 年	140.6	140.1	150.3	180.8	180.4	190.4	220.9	200.5	210.5	220.5	230.5	220.5	219.9

日照時數晝間時數に對する百分率

年次 一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 年

疾風吹きしが十二日午前五時風向東より北西に六時には南々西に逆轉し七時より強風吹き起り午後一時最も強く風速度毎秒十五米二に達し午後三時まで吹續き後稍衰へしも午後七時には又強風となれり其總吹續時間ハ七時にして内烈風一時間強風六時間なり天氣は十日午後晴勝なりしに十一日午前二時過より下層雲濃密となり二時四十二分より微雨を催ふし午後四時五十分一旦歇みしが又十二日午前零時二十分より降雨し時々大雨を交へて斷續し午後五時四分歇む就中十二日午前六時より七時に至る間は降雨激しく強風之に加はり一時は暴風雨となりしが暫時にして減殺せり、此低氣壓通過に際し雷雨發生せり即ち十二日午前三時二十五分南方に遠雷起り全七時二十八分全方向に午後二時十分南方に全二時五十八分西に經過し收聲せり

(二) 四月二十二日の暴風概況 四月二十一日九州南西方海上にありし低氣壓は東北東に進み二十二日朝遠江洋に達し二十三日朝北海道の東方海上に去れり又二十一日朝鮮北部にありし低氣壓は東に進み二個に分裂し二十一日朝一は日本海の北部に他の一つは陸中の東方海上

に到り二十三日千島列島に經過し去れり此の二低氣壓の襲來に際し本邦各地に風雨を起せり大阪にては二十一日夜來北東の軟風なりしが二十二日午前四時風向北より西南西に逆轉し風力増勢し午前七時より強風吹き起り午後五時最も強く風速度毎秒十四米五に達し午後七時まで吹き續けり其吹續時間は七時なり

●日照間時に就て 技手 山田顯吉

大阪にては明治二十四年以來日照計を備付けて日照を享けたる時間を觀測し居りしか此時間の多寡は衛生上にも亦農業上其他にも大に關係があれば其統計に基きて梗概を爰に記すべし

抑々日照時間は日の長短に依りて差異あるは言ふまでもなきことなるか先づ實際觀測したる日の照りたる時間を記すれば一ケ年中に於て二千百三十一時〇(二十四ケ年觀測の平均に依る以下之れに準ず)にして晝間時數に對する百分率は五十即ち晝間時數の五割は日照を享け五割は曇りたる譯となる而して各月の日照時間を看るに八月は最も多く二百四十四時五にして晝間時數の百分率は五十九即ち晝間の約六割は照り四割は曇れり●一月は最も

仁 川 全 四時一分二秒

シカウエー(支那上海) 全 四時一分二七秒

四五 四月三十日午前十時五十二分二十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は四分二秒、第二は三分二十二秒にして主要動となり最大振幅(東西動)は午前十一時三分六秒に於て五十六「ミクロン」振動期十二秒五を現し後微となり静止せり全振動時間は四十五分十三秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

肇 北	午前二〇時四五分〇〇秒
大 連	全 一〇時四八分四六秒
シカウエー(支那上海)	全 一〇時四九分三九秒
仁 川	全 一〇時四九分四八秒
大 阪	全 一〇時五二分二三秒
福 岡	全 一〇時五四分四八秒

● 四月中の暴風概況

冬季亞細亞大陸にありたる

高氣壓は溫暖なるに従ひ漸次に衰へ爲に西乃至北西風は殆んど其跡を絶ちて南西風となる氣候變遷期なるを

以て高低氣壓の來去頻繁にして天氣定らざるも暴風は前月に比すれば著しく減少せり而して本月中に觀測したる暴風の稍々顯著なりしもの二回あり(一)は四月十二日にして(二)は四月二十二日なり其概況を記すれば左の如し

(一) 四月十二日の暴風雨概況

四月十日四川省に顯はれたる低氣壓は揚子江流域に沿ふて北東に進み十一日朝鮮南部に來り全夜朝鮮南部を横切り日本海に入り十二日朝能登沖に來りて著しく發達し中心示度は七百四十八耗を示し一方の高氣壓はオホツク海及小笠原列島の東方海上に在りて孰れも七百六十六耗を示し氣壓の傾斜急となり本邦にては南乃至南西の強風を起し東北地方より九州まで概ね風雨となり京阪以西の海岸にては風力最も烈しかりしが十三日該低氣壓は日本海北部に到り遂に樺太南部を横斷して北東方海上に經過し去れり

大阪にては十日午後十一時より氣壓下降し十一日正午過より下降急となり午後五時より稍々緩となりしも十二日午後三時まで下降繼續し遂に最低七百五十二耗に達し爾後漸次に上昇せり風は十一日來北東の和乃至

時間は東西動は二十一分十秒、南北動は二十分零秒に及

べり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども水澤及函館の地動計にも感じたり

四二 四月二十七日午後二時三十四分四十六秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十秒にして主要動となり最大振幅は午後二時三十五分四十秒に於て十七「ミクロン」振動期四秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は四分三十秒なり(南北動微計百二十倍の観測)

附記

此地震は東京灣附近に發したるものにして震域北方は岩代の福島邊に西方は駿河の沼津附近に達し東京にては性質急なる微震を感じ水戸、甲府、福島、沼津にては人身に感覺なきも地震計に感じ微動は水澤及畿内附近に達したり

四三 四月二十八日午後零時三十一分十二秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し振動の各部判明ならずれども東西動は午後零時四十分八秒に於て五十五「ミクロン」振動期九秒二、南北動は午後零時三十七分五十七秒に於て七十「ミクロン」振動期十九秒二を現し全振動時間は東西動は三十二分二十二秒、南北動は三十七分五

十七秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれば左の如し

シカウエー(支那上海)	午後零時二十四分四三秒
仁川	全 零時二五分二一秒
大連	全 零時二八分四六秒
大北	全 零時二九分一二秒
福岡	全 零時三一分五二秒
大阪	全 零時三一分二二秒

四四 四月三十日午前四時九分七秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は三分三十八秒、第二は二分四十一秒にして主要動となり最大振幅(東西動)は午前四時十八分二秒に於て四十五「ミクロン」振動期十四秒四を現し後微となり靜止せり全振動時間は四十一分九秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源詳ならずれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれば左の如し

大阪	午前四時〇九分〇七秒
福岡	全 四時一三分〇三秒

動時間は東西動は三十二分五十四秒、南北動は三十四分一十八秒なり即ち左表に示すか如し

東西動地動計観測

發 現 時 時		最大振幅	振動期
初期微動	(P) 二時一分〇七秒	(メカロヒ)	秒
主要動	(L) 二時一分二四秒		
終 期	(M) 全 一三分二六秒	(+)	四八〇
	(F) 全 四四分〇一秒		五、二

南北動地動計観測

發 現 時 時		最大振幅	振動期
初期微動	(P) 二時一分〇七秒	(メカロヒ)	秒
主要動	(L) 二時一分二四秒		
終 期	(M) 全 一三分五三秒	(一)	一四、五
	(F) 全 四五分二五秒		七、二

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域頗く廣く北方は北海道の南部に南方は八丈島に西方は越前の福井邊より伊勢の津附近に亘り長徑七十里短徑五十里を有し強震部は二千八百二十六方里弱震部は一萬九百九十方里にして水戸、横濱、沼津にては性質急なる強震を感じ地鳴あり又東京、銚子前橋、宇都宮、横須賀、福島、金山等にては弱震を感じ八丈島、石巻、山形、秋田、青森等にては微震を感じ微動は遠く支那上海、シカウエー等に達したり

今重なる所の發震時を擧ぐれば左の如し但し時刻は日本中央標準時に據る以下皆全し

水 戸	午前二時〇九分四四秒
銚 子	全 二時〇九分五九秒
東 京	全 二時一〇分一〇秒

水 澤	午前二時一〇分二五秒
岐 阜	全 二時一〇分五五秒
函 館	全 二時一分〇五秒
大 阪	全 二時一分〇七秒
福 岡	全 二時一分五九秒
長 崎	全 二時二分三一秒
仁 川	全 二時二分三九秒
大 連	全 二時二分四八秒
シカウエー(支那上海)	全 二時二分四八秒
奉 天	全 二時二分五〇七秒

此地震は振幅極めて微にして測るに足らざれども全振動 四一 四月二十五日午前九時六分四十五秒の地震

附記

此地震は秋田附近に發したるものにして、震域北方は北海道の南部に南西方は駿河の沼津邊に達し秋田にては微震を感じ石巻・福島・函館・沼津等にては人身に感覺なきも地震計に感

じたり

三七 四月十七日午後八時四十四分四十六秒の地震

地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一、三十秒にして主要動となり最大振幅は午後八時四十七分十二秒に於て十一「ミクロン」振動期三秒二を現し後微となり靜止せり全振動時間は八分十秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は安房沖に發したるものにして八丈島にては性質急なる弱震を感じ筑波山にては微震を感じ沼津及福島にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

三八 四月二十二日午後二時二十七分三十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一、分二十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後二時二十九分三十五秒に於て五十二「ミクロン」振動期三秒八、南北動は午後二時二十九分四十秒に於て九十「ミクロン」振動期四秒三を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は十六分五十一秒、南北動は十七分三十四

秒なり

附記

此地震は磐城洋に發したるものにして震域廣く北方は青森邊に南方は東京灣に南西方は越前の福井より遠州濱松附近に達し長澤四十里短徑三十里を有し有感覺微震部は三千七百六十八方里に亘り微動は北海道の南部及畿内附近に達したり

三九 四月二十四日午前零時四十七分四十五の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は東西動は午前零時五十一分十秒に於て二十七「ミクロン」振動期四秒六、南北動は午前零時五十二分四十四秒に於て三十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は二十七分四十四秒、南北動は二十六分五十九秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源詳ならず

四〇 四月二十五日午前二時十一分七秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一、分十七秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前二時十三分二十六秒に於て四百八十「ミクロン」振動期五秒二、南北動は午前二時十二分五十三秒に於て千四百十五「ミクロン」振動期七秒二を現し後微となり靜止せり全振

十里短徑三十里有有し有感覺微震部は五千六百五十二方里に
より微動は北海道の南部及畿内附近に達したり

三三 四月八日午前四時零分三十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分十二秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前四
時一分五十四秒に於て三十一「ミクロン」振動期三秒三、
南北動は午前四時一分五十二秒に於て五十四「ミクロン」
振動期二秒九を現し後微となり静止せり全振動時間は九
分八秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記

此地震は磐城沖に發したるものにして震域北方は曹森附近に
而西方は信州より駿河の沼津邊に達し長徑六十里短徑四十五
里有し弱震部は三千二百九十七方里有感覺微震部は八千四
百五十八方里により微動は北海道の南部及畿内附近に達したり

三四 四月十三日午後七時四十六分三十三秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分零秒にして主要動となり最大振幅は午後七時四十八分
五秒に於て八「ミクロン」振動期二秒八を現し後漸次に微
となり續震ありたるため全振動時間を測ること能はざり
し(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は相模灘に發したるものにして震域北方は陸前の石巻
邊に西方は駿河の沼津邊に達し長徑五十里短徑四十里有し
弱震部は二千八百二十六方里有感覺微震部は六千二百八十方
里により微動は畿内附近に達したり

三五 四月十三日午後七時五十分十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分三秒にして主要動となり最大振幅は午後七時五十一分
五十二秒に於て二十七「ミクロン」振動期三秒一を現し後
微となり静止せり全振動時間は七分十五秒なり(南北動
微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は前記地震と同震源帯に發したるものにして震域北方
は陸前の石巻に西方は名古屋附近に達し東京にては性質急な
る弱震を感じ熊谷、宇都宮、鎌子、水戸等にては微震を感じ
微動は畿内附近に達したり

三六 四月十七日午前十一時五十一分四十一秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一
分三十四秒にして主要動となり最大振幅は午前十一時五
十四分四十秒に於て二十七「ミクロン」振動期五秒五を現
し後微となり静止せり全振動時間は十二分三十八秒なり
(南北動微動計百二十倍の觀測)

時五十八分二十二秒に於て二百五十四「ミクロン」振動期三秒〇、南北は午前十時五十七分四十四秒に於て百三十三「ミクロン」振動期二秒六を現し後微となり靜止せり全振動時間は十一分廿七秒なり（簡單微動計六十倍の觀測）

附記

此地震は磐城洋に發したるものにして震域北方は羽後の秋田邊に南方は東京灣附近に西方は信州松本附近に達し長徑四十五里、短徑三十五里を有し微震を感じたる總面積は四千九百四十六方に亘れり

三〇 四月六日午前三時三十二分四十秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分五十二秒にして主要動となり最大振幅は午前三時三十分四十三秒に於て二十四「ミクロン」振動期三秒四を現し後微となり靜止せり全振動時間は九分十四秒なり（南北動微動計百二十倍の觀測）

附記

此地震は東京灣附近に發したるものにして震域北方は岩代の福島邊に達し西方は信州松本邊より飛騨の高山附近に亘れり而して東京、横濱にては性質急なる弱震を感じ水戸、熊谷等にては微震を感じたり

三一 四月六日午後二時三十三分四十九秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一

分三十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後二時三十六分三十三秒に於て二百七十二「ミクロン」振動期四秒三、南北動は午後二時三十六分四十二秒に於て二百八十「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は三十七分七秒、南北動は三十七分十五秒なり

附記

此地震は鹿島洋に發したるものにして震域北方は青森邊に南方は東京、横濱附近に南西方は信濃より駿河の沼津に達し長徑六十里短徑五十里を有し有感震震部は九千四百二十方に亘れり而して微動は北海道の南部及支那上海、滿洲の大連等に達したり

三二 四月六日午後四時二十一分三十二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分三十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後四時二十三分十八秒に於て三十七「ミクロン」振動期三秒二、南北動は午後四時二十三分十四秒に於て三十四「ミクロン」振動期三秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は八分二秒なり（簡單微動計六十倍の觀測）

附記

此地震は磐城洋に發したるものにして震域北西方は羽後の秋田附近に南方は東京灣に南西方は遠州濱松附近に達し長徑六

大阪地震観測概況

爰に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て観測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の器械にて観測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し

Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Iは長波即ち主要部全上、Mは主要部の最大動、Cは終期の最大動、Dは振動の終了又(+)は南北動にありては北、東西動にありては東、(-)は南北動にありては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」(耗ノ千分一)を以て記す

本月中に地震を観測したる數は十九回にして本州東海岸沖より東京灣に至る一帯に發したるもの多く其數過半を占めり而して大阪にて人身に感覺ありたるものは一回もなく又人身に感覺なく普通地震計に感じたるものも一回もなかりしが無感覺地震にして地動計又は微動計に感じ其震源本邦内にありたるものは十三回即ち磐城洋四回、東京灣、鹿島洋各二回、秋田附近、安房沖、相模洋、浦賀水道、内海中部各一回なり又遠距離地震は六回にして未だ震源詳ならず今其観測概況を列記すれば左の如し

二七 四月一日午前五時二分五十二秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分十九秒にして主要動となり最大振幅は午前五時三分五十七秒に於て二十五「ミクロン」振動期三秒七を現し後微となり靜止せり全振動時間は九分三十三秒なり(南北動微動計百二十倍の観測)

附記

此地震は内海中部に發したるものにして多度津、高知にては弱震を感じ別子山及徳島にては微震を感じたり又大分、潮岬にては人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

二八 四月三日午前十時五十一分零秒の地震

此地震は緩微なる波動を呈し振動の各部明瞭ならざれども最大振幅は東西動は午前十一時十五分四十六秒に於て四十「ミクロン」振動期十四秒四、南北動は午前十一時十三分零秒に於て三十「ミクロン」振動期十四秒〇を示し全振動時間は東西動は四十三分四十七秒南北動は四十三分十秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならず

二九 四月四日午前十時五十六分二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分十六秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十

廿五日														
廿六日														
廿七日	八五七	七四三	六六一	四九九	四〇四	五〇〇	四七〇	六七五	四二〇	五〇〇	六六六	四二〇	四一〇	四八七
廿八日	四〇三	三二一	一六〇	二〇〇	五〇四	九八二	八二二	八二五	八三	九五	七八	一八	五〇	六六
廿九日														
三十日														
全月	三四、五三三、九一九、五五七、七三、六四九、二八八、二二三、七三六、九三九、三三四、〇七六、六三三、三二二、二二九、三九七、三二五、三二五、五九九、二九、七九、一七七、九二六、													

管内天氣摘要

●一日概ね晴天東郷、田原に霜あり●二日概ね晴天新庄
 天王に霜あり●三日概ね雨降り大阪に強風吹けり●四日
 概ね曇天所々に雨降り大阪に強風吹けり●五日概ね晴天
 ●六日概ね晴天●七日概ね雨降り天王に濃霧あり●八日
 晴曇相半し天王に雪降れり○九日概ね晴天新庄、東郷、
 田原に霜あり尾崎に強風吹けり●十日晴曇相半し所々に
 雨降れり●十一日概ね雨天●十二日概ね雨降り雷鳴を伴
 ひ所々に強風吹けり●十三日概ね晴天なりしか午後より
 雨降り翌日に亘りし所多く長承寺、大阪に強風吹けり●
 十四日前日來の雨未明歇み後概ね曇天●十五日概ね曇天
 ●十六日晴曇相半せり●十七日概ね曇天一般に雨降り翌

日に亘る大阪に強風吹き天王に濃霧あり●十八日前日來
 の雨午前歇み尾崎、大阪に強風吹けり○十九日一般に雨
 降り翌日に亘る天王に濃霧あり●二十日前日來の雨午前
 歇み大阪に強風吹き天王に濃霧あり●二十一日未明より
 雨降り翌日に亘りし所多し●二十二日前日來の雨午前歇
 み大阪に強風吹けり●二十三日晴曇相半す●二十四日概
 ね晴天●二十五日概ね晴天●二十六日晴曇相半す●二十
 七日晴曇相半し午後より雨降り翌日に亘る東郷に強風吹
 けり●二十八日前日來の雨午後に至り歇む●二十九日概
 ね曇天所々に雨降り大阪に強風吹き長承寺に濃霧あり●
 三十日概ね晴天

第四表 管内降水日量

長野	富田	柏原	八尾	田原	枚方	清水	茨木	天王	東郷	妙見	池田	新庄	福島	大阪	天王寺	堺	濱寺	長承寺	岸和田	尾崎	深日
一八、五	一九、三	一八、三	一九、一	一七、九	一九、〇	一八、一	一九、三	二四、六	一八、二	一五、五	一八、四	一八、八	一九、五	一七、八	一八、七	一八、四	一七、四	一八、一	一七、二	一八、七	一八、九
六、四	七、五	六、八	七、九	六、〇	八、一	七、二	七、六	五、〇	五、七	三、八	八、三	八、五	九、〇	九、四	九、〇	九、二	八、三	八、四	八、八	八、五	九、一
三、四	一三、四	一三、〇	一三、五	一一、九	一三、五	一三、六	一三、五	九、八	一一、九	八、七	一三、四	一三、七	一四、三	一四、三	一三、八	一三、八	一三、九	一三、三	一三、九	一三、六	一四、〇
〇、六	〇、〇	〇、四	〇、二	〇、三	〇、三	〇、五	〇、二	〇、一	〇、四	一、一	〇、一	〇、二	〇、二	〇、二	〇、二	〇、二	一	〇、二	〇、三	〇、四	〇、七
三、九	三、三	三、五	三、三	三、三	三、四	三、六	三、九	二、三	三、〇	一、八	三、六	三、九	三、五	三、七	三、〇	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三
二、七	一、二	〇、三	二、五	四、六	二、〇	〇、七	〇、〇	二、〇	一、〇	二、〇	〇、九	一、五	二、〇	二、五	二、五	二、六	一、九	二、一	二、七	三、六	三、四
二、六	一、七	一、九	一、二	三、一	二、五	三、三	三、七	二、〇	三、三	三、三	一、六	二、四	二、七	二、六	二、七	一、八	一、九	一、七	二、九	三、二	三、四
六、二	四、八	六、九	六、四	六、六	五、〇	九、七	八、五	四、〇	七、七	七、四	五、九	七、三	九、四	八、七	九、七	六、八	一	四、九	六、六	八、四	一〇、七
五、七	三、五	三、七	三、二	四、三	六、〇	八、八	六、〇	四、七	五、〇	五、六	六、二	六、九	七、四	七、七	五、四	四、七	四、〇	四、九	六、二	七、四	八、四
一四、八	一五、七	一四、一	一五、一	一四、一	一五、〇	一四、九	一五、五	一四、四	一五、二	一四、七	一五、一	一四、七	一五、一	一四、六	一五、六	一四、八	一四、五	一四、四	一四、一	一四、四	一四、八
七、六	六、七	七、五	七、四	七、六	七、七	七、六	七、一	六、八	七、七	七、七	六、七	六、七	七、一	六、七	六、六	六、九	六、三	六、二	六、六	七、五	七、〇
北	北	西	西	西	北西	北	東	西	北	東	市	東	北	北	西	北	西	西	西	北	北
四	五	七	六	五	五	六	六	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	四	七	二	五	八	五	四	四	九	九	七	六	七	五	六	七	六	八	七	八	八
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

氣 溫

平均は西部福島の十四度三より北部妙見山の八度七の間にありて平年に略ほ等しく其差多かりしは北部妙見山の低きこと一度三、南部深日の高きこと零度七東部長野の高きこと零度六等なり而して最高は十二日乃至十六日に現はれ東部富田林の二十六度五を高極とし南部堺東部八尾の二十五度五全柏原の二十五度四之れに亞き其他は二十五度より二十度の間を示し妙見山は十八度一に止まれり又最低は二日及九日に現はれしもの最も多く東部田原の零下四度六を低極とし全長野の零下二度七全八尾の零下二度五之れに亞ぎ北部の山間は割合に高く妙見山及天王に於て零下二度〇に降りしを低極とせり其他平坦及沿海地方は一般に零度以上にして一度より三度六の間を示せり要するに本月の氣溫は最高二十六度五より最低零下四度六の間にありて其較差三十三度一に達せり

降 水

總量は南部深日の二百四十四耗五より

全濱寺の百四十九耗二の間にありて之れを平年に比すれば一般に多く深日、天王寺は約八割其他は概ね六割内外の多量を示せり而して日量の最多は二十七日より二十八日午後に行りし降雨の際にありて其最も多きは深日の八十四耗五、清水の八十二耗八にして之れに亞くは大阪の七十四耗七、尾崎の七十四耗二なり又日量の六十耗以上なりしは岸和田、福島新庄、茨木、枚方の五ヶ所五十耗以上なりしは天王寺、妙見山、東郷、長野の四ヶ所にして其他は四十七耗より三十三耗の間にあり

雷 雨

十二日低氣壓の北西海岸を通過するに際し未明より降雨となり午前二時頃より全八時頃迄時々雷鳴起り大雨強烈風之れに伴ひたり後暫時にして雷鳴止みしが午後二時過又遠雷起り漸次西方に經過し午後五時頃收聲せり

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲印は高又は多)

觀測所

平均	平均	平均	平均	最高	起日	最低	起日	總	量	最多	日量	氣	濕	度	雲	量	風	向	降	水	雪	霰	霜	露	地	快	晴	曇	天	暴	風	
最高	最低	本年	平年	比較	極	日	最低	日	本年	平年	比較	日量	氣	濕	度	雲	量	風	向	降	水	雪	霰	霜	露	地	快	晴	曇	天	暴	風

十八日	14.1	15.0	15.0	14.0	9.6
十九日	11.5	12.2	12.0	12.1	8.0
二十日	15.1	15.9	15.7	15.0	8.6
廿一日	13.5	14.0	13.7	13.1	9.2
廿二日	13.8	14.3	14.1	13.0	6.3
廿三日	13.2	13.8	13.8	13.0	0.0
廿四日	13.0	13.7	13.6	13.8	0.7
廿五日	14.1	14.0	13.9	13.9	1.0
廿六日	13.6	13.7	13.7	13.0	0.0
廿七日	14.6	14.6	14.5	14.1	7.3
廿八日	14.6	14.7	14.6	14.3	1.7
廿九日	16.0	15.9	15.5	14.5	6.9
三十日	15.9	15.6	15.3	14.6	3.3
全月	13.8	13.9	13.7	13.1	5.4

前日來の降雨斷續して午前八時七分歇む、午後七時四十二分より八時十五分迄小雨、午後一時より三時及六時より七時迄強風吹けり

午前二時二十分より降雨時々大雨を交へ翌日に亘る

前日來の降雨午前二時四十分歇む、正午より午後二時迄及全六時より七時迄強風吹けり

午前四時四十五分より午後零時二十五分迄小雨斷續す

午前零時二十三分より降雨時々大雨を交へ全五時二十五分歇む、午前七時及午後五時より七時迄強風吹けり、午後七時四十分より十時二十五分迄月光環境現る

午後七時四十分より十時十五分迄微雨

午前十時五十分より十一時二十五分迄日量現れ午後七時五分より八時四十分迄日量現る

朝霧あり、午前十時五十分より十一時四十五分迄及午後一時十分より二時三十五分迄日量現る、午後七時五分より十一時四十分迄月量現る

六時一

午前六時五十八分より降雨斷續して翌日に亘る

前日來の降雨時々大雨を交へ斷續し午後三時五十七分歇む、午後七時五分より翌朝に亘る

前夜來の霧午前八時五分消散す、午前五時五分より小雨全十時十分歇む、午前十一時及午後二時強風吹けり、夜霧あり

朝霧あり、午後四時三分より四時二十分迄日量現る

大阪府管内氣象概況

前既に述べたるか如く四月は氣候變遷期にして高低氣壓の來去頻繁なるか故に天氣の變化甚しく一暖一冷交々來り不時の寒氣を催し桑葉、茶芽等の凍害を被るは概ね此の時期にあり而して本年四月の氣候を調査するに上旬は寒冷にして山間部は氣温零下に降り結霜を認め天王には降雪あり中旬に入りては温暖となり氣温最高の極に達し

下旬は暖冷定らざりしか概して冷氣の日多かりき又降雨は中旬最も多く七日を數へ下旬は少なかりし二十七日より二十八日に亘りて大雨あり其量多きは百耗に達せり而して總量は半年より一般に多く約六割の増量なりき要するに本年四月の氣候は上旬は冷氣なりしか中旬に入りては暖濕となり下旬は晴燥の日多く稍々冷氣に經過せり更に氣温、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

廿九日	七五八・七	一五六▲	〇・八	一九・三	一〇・五	八・八	一〇・三	六	三〇	七・七	北	七・一	五・五	一・八	〇・五	四・六
三十日	七六二・五	一六九	一・一	一九・四	八・一	一一・三	七・五	高	四・六	七・七	南西	四・二	三・三	一	五・六	三・六
全月	七三三・五	一三〇	〇・〇	一七・五	八・九	九・六	八・三	七	三・一	四・五	南西	北	七・二	一六・七▲	三・九	一六・九

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

四月	地中溫度 (平均)	最低地溫	諸現象の摘要
----	-----------	------	--------

日	地中溫度 (平均)	最低地溫	諸現象の摘要
一	一〇・六	一〇・一	朝薄露あり、午前零時四十分より一時二十五分まで及午後九時四十分より翌曉迄月曇現る
二	一〇・九	一〇・八	前夜來の月曇午前零時三十四分消ゆ、朝薄露あり、午前十時十分より十一時二十五分迄及午後一時二十五分より二時三十分迄月曇現る、午前十一時五十八分より午後零時三十分迄日光環現る
三	一〇・七	一〇・七	朝薄露あり、午前六時二十分より午後四時四十分迄及午後八時五十分より十一時五分迄小雨
四	一〇・五	一〇・九	午後六時強風吹けり
五	一〇・五	一〇・五	朝露あり、午前一時五十分より全四時二十五分迄月曇現る全八時三十五分より午後一時五十八分迄日曇現る
六	一〇・八	一〇・八	朝夜露あり
七	一〇・七	一〇・七	朝薄露あり、午前二時五十七分より午後七時二十三分迄小雨斷續せり
八	一〇・九	一〇・九	朝薄露あり、午前十時十分より十時二十五分迄日光環現る、夜露あり
九	一〇・七	一〇・四	朝露あり、午前十一時十五分より午後四時五分迄日曇現る
十	一〇・六	一〇・三	午前前三時七分より全一時三十分まで小雨斷續す、午後四時二十分より五時十五分迄日曇現る
十一	一〇・三	一〇・三	午前二時四十二分より午後四時五十分迄降雨
十二	一〇・九	一〇・八	午前零時廿分より降雨時大雨交へて斷續し全九時廿分歇む、午前七時廿五分南方雷鳴、七時廿八分南方に電雷あり、午後零時廿分より馬場降雨斷續し午後三時十分頃より南西方に雷鳴起り全時五十八分四に廻り三時三十分歇す、午前七時より午後七時三十分強風吹けり
十三	一〇・九	一〇・八	午後三時五分より三時五十分迄日曇現る、午後七時三十八分より小雨零日に亘る、午後十時強風吹けり
十四	一〇・四	一〇・五	前日來の小雨午前二時四十分歇む、午後零時四十分より一時四十分迄及三時より四時五分迄日曇現る、夜露あり
十五	一〇・八	一〇・七	夜薄露あり
十六	一〇・八	一〇・六	午前九時五分より五時十五分迄微雨、午後零時五十五分より三時十五分迄日曇現る
十七	一〇・七	一〇・四	午前零時二十分より降雨斷續して翌日に亘る、午後九時強風吹けり

と一日中の變化を認め難し

以上列記する地中溫度を通觀するに最高は地皮にありては午後一時、地中十糎にありては午後六時、同二十糎にありては午後十時、同三十糎にありては夜半に生し、最低は地皮にありては午前五時、地中十糎にありては午前八時、同二十糎にありては午前十時、同三十糎にありては午後二時に生せり、之れに依りて地皮より地中に熱の傳達する梗概を知るを得べし

最低地温 平均は五度四五にして平年に比すれば零度二五低く月中の最低は八日午前二時頃に於て零下零度九を示せり其零下に降りたる日数は三日にして平年に等し

天氣日數 快晴は例年は三日なりしも本年は一日もなく曇天は十三日にして平年より二日多く電雷は一日にして平年より一日少し

尙詳細は左に掲ぐる氣象觀測成績表を参照すべし

第一表 大阪毎時氣象觀測成績

午								四	月												
八時	七時	六時	五時	四時	三時	二時	一時	平氣 均壓	平氣 均温	水蒸氣 平風 均力	平温 均度	平飽 均差	平風 均度	平雲 均量	時日 數照	降水 量	地皮	地中 十糎	地中 二十糎	地中 三十糎	地中 六十糎
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二
七五、八	七五、〇	七五、六	七五、五	七五、四	七五、三	七五、二	七五、一	一〇、七	一〇、六	八、〇	八、〇	一、八	三、六	七、〇	一	八、七	一〇、八	一三、三	一三、八	一三、五	一三、二

降水及蒸發量

降水日數は十六日にして平年より

一日多く其水量は二百二十九耗九にして平年より八十六耗一多し又一日中の最多量は二十八日の六十一耗七、一時間の最多量は全日午前九時の十四耗四なり又蒸發總量は百六耗四にして平年に比すれば十耗〇八少く一日中の最多量は三十日の五耗六なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は十三度

八三にして平年に比すれば零度九八低く月中の最高は十三日午後一時に於て二十九度二、最低は二日午前六時に於て三度三を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後一時にありて二十一度二五、最低は午前五時にありて九度三九を示し其較差は十一度八六なり

地中十糶の溫度 平均は十三度九〇にして平年に比すれば零度一三低く月中の最高溫度は十三日午後六時乃至七時に於て十八度六、最低は一日午前八時に於て八度五を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後六時にありて十五度二六、最低は午前八時にありて十二度六三を示し其較差は二度

六三なり

地中二十糶の溫度 平均は十三度六八にして平年に比すれば零度一一低く月中の最高は十三日午後八時乃至夜半に於て十六度一、最低は一日午前八時乃至十時に於て九度五を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後十時にありて十四度一五最低は午前十時にありて十三度二四を示し其較差は零度九一なり

地中三十糶の溫度 平均は十三度五六にして平年に比すれば零度〇八低く月中の最高は三十日午後十一時乃至夜半に於て十五度六、最低は一日午前十時乃至午後三時に於て九度九を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は夜半にありて十三度八二、最低は午後二時にありて十三度三九を示し其較差は零度四三なり

地中六十糶の溫度 平均は十三度〇六にして平年に比すれば零度一八高く月中の最高は三十日午後二時乃至夜半に於て十四度六、最低は一日午前一時乃至五時に於て十度一を示せり但し此深さにありては殆

は午後二時にありて十六度一六最低は午前五時にありて十度一二を示し其較差は六度〇四なり

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

八耗二七にして平年に比すれば零耗〇五低く月中の最大は十二日正午に於て十四耗八、最小は八日午前一時に於て四耗三を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最大は午後三時にありて八耗六〇最小は午前六時にありて八耗〇二を示し其較差は零耗五八なり

濕度の平均は七十三、四にして平年に比すれば〇、六多く月中の最少は二日午前十一時に於て三十六を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最多は午前五時にありて八十四、八最少は午後二時にありて六十二、六を示し其較差は二十二、二なり

飽差の平均は毎立方米中三瓦一四にして平年に比すれば零瓦〇八少く月中の最多は二日午前十一時及午後二時に於て十瓦〇、最少は二十八日午後十時及夜半に於て零瓦〇を示せり而して月平均に就きて一日

中の變化を見るに最多は午後二時にありて五瓦二五最少は午前五時にありて一瓦三八を示し其較差は三瓦八七なり

風

平均速度は毎秒四米五五にして平年に比すれば零米八〇弱く月中の最大速度は十二日午後一時に於て毎秒十五米二（一間平方面を垂直に壓する力は二十七貫七百目に當る）の南西風なり又強風以上の吹きたる日數は十日にして平年より四日少く其吹給時間には三十二時にして平年より四十一時少し又月平均に就きて一日中の變化を見るに最大は午後二時にありて六米二五、最小は午前一時乃至二時にありて三米一〇を示し其較差は三米一五なり風向は北風最も多く北東風之れ亞ぎ南東風は最も少し之れを平年に比すれば北及南西風は多くして西風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は七、二にして平

年に比すれば〇、九多く日照時數は百六十二時七〇にして平年に比すれば三十一時一八少く一日中日照時間の最も長かりしは二十五日の十一時九〇なり

大阪測候所月報

大正四年
四月 大阪氣象概況

冬季より春季に移り氣候温暖となるに従ひ冬季亞細亞大陸にありたる高氣壓は漸次に衰へ四月には殆ど消散し爲めに西乃至北西風は其跡を絶ち南西風となり氣溫上昇し前年に比すれば五度内外の高溫を呈せり然れども此月は氣候變遷期なるを以て高低氣壓の去來頻繁にして天氣定らず全一の天氣を持續することは極めて少く氣溫も亦た一高一低定らず往々氣候順を失し不時の結霜を看ることあり然り而して本年四月の氣候を調査するに氣溫は平年と略ほ等しく日照時數は多く降水日數は多かりしも其水量は少く強風以上の吹きたる日數及其吹續時數は少し今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百六十二耗五三にして平年に比

すれば零耗四六高く日々の變化は氣象圖に示すが如

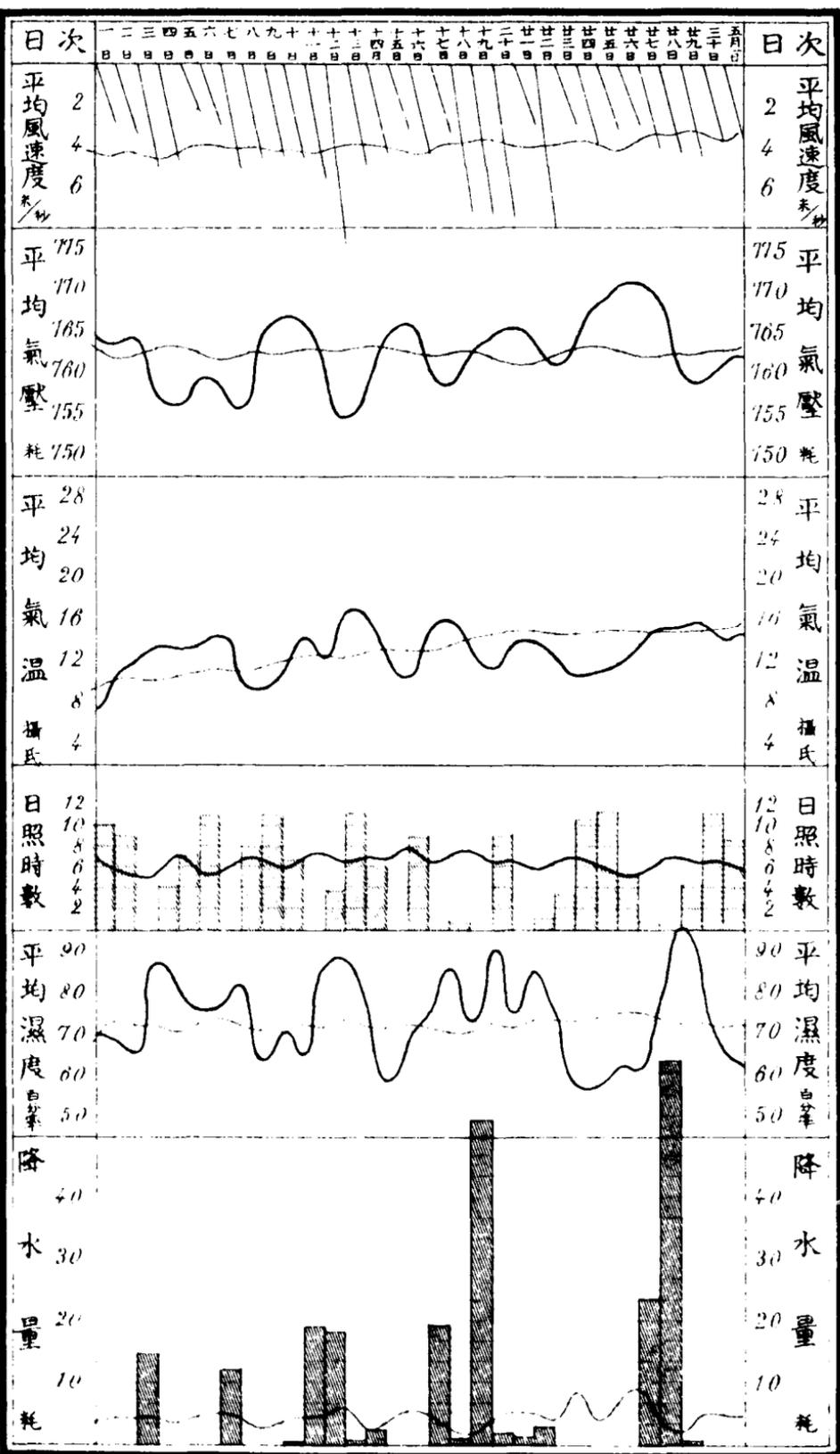
氣

く顯著なる昇降は五回あり、而して月中の最高は二十六日午前八時に於て七百七十一耗六、最低は三日午後五時乃至六時に於て七百五十一耗六を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに第一の最高は午前九時にありて七百六十三耗二、第一の最低は午後四時にありて七百六十一耗四八、第二の最高は午後十時にありて七百六十二耗九五、第二の最低は午前四時にありて七百六十二耗四二を示し其主なる最高低の較差は一耗七四なり

溫

平均は十三度〇五にして平年に比すれば零度〇一高く平均氣溫日々の變化は上中の二句は一高一低不定なりしも概して平年より高く下旬は平年より低し而して月中の最高は十三日午後三時に於て二十一度七、最低は九日午前六時に於て三度五を示せり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高

本圖ハ日平均又ハ合計ノ依リテ調製ス。風速度、氣壓、氣溫、濕度ハ本年——平年——日照時數ハ本年——平年——降水量ハ本年——中——



例言

一本報は當測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者す但し日々の觀測は當測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は飽(曲尺三厘七)を以て示す

一溫度は凡て攝氏の度を用ゐる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふべし

一最高溫度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものば之れを前日に繰上げて記入せり

一飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(ギラム)勿(二七)にて示す

一濕度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す

一降水量は飽を以て其深さを測り之を記す、但し一飽は一步面に水量一升八合三勺を散布したるに相當す

一雲量は十分率を以て示す

一風速度は一秒時間の米(曲尺三厘三寸)數なり

一風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かざるもの

一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一風向は北北東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す

一天氣日數中雨とは雨雪霰雹の何たるに拘らず降水量一飽の十分一以上ありたる且にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

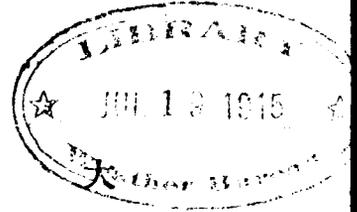
大阪府管内氣象觀測所位置

觀測所	國	郡市	町	村	緯度東經	北緯	觀測主任
深井	和泉	南郡	深井	村	三五度〇九分	三四度一九分	北野孝徳
尾崎	和泉	南郡	尾崎	村	三五度一六分	三四度二二分	高尾章
岸和田	和泉	南郡	岸和田	町	三五度二三分	三四度二七分	森内清次
長承寺	和泉	北郡	長承寺	村	三五度二七分	三四度三二分	前川由太郎
濱寺	和泉	北郡	濱寺	村	三五度二六分	三四度三二分	今井富次
堺	全	堺市	堺	町	三五度二九分	三四度三五分	吉村正輔
天王寺	攝津	大郡	天王寺	町	三五度三一分	三四度三九分	加藤昭純
大坂	大郡	大坂市	大坂	区	三五度二六分	三四度三九分	府立大阪一等測候所
福島	大郡	大坂市	福島	区	三五度二九分	三四度四二分	笠谷正三郎
新庄	河内	成郡	新庄	村	三五度三一分	三四度四五分	植田靈顯
池田	河内	能郡	池田	町	三五度二六分	三四度五〇分	笹部利作
妙見	河内	能郡	妙見	村	三五度二八分	三四度五六分	阪部文二郎
東郷	河内	能郡	東郷	村	三五度二九分	三四度五七分	大原仁之助
天守	河内	能郡	天守	村	三五度二三分	三四度〇二分	高橋政次郎
茨木	河内	能郡	茨木	町	三五度三四分	三四度四九分	高橋政之助
清水	河内	能郡	清水	村	三五度三六分	三四度五三分	山本義一
枚方	河内	能郡	枚方	町	三五度三九分	三四度四九分	家村八五郎
田原	河内	能郡	田原	村	三五度四二分	三四度四三分	東尾重藏
八尾	河内	能郡	八尾	町	三五度三六分	三四度三八分	水谷芳松
柏原	河内	能郡	柏原	村	三五度三七分	三四度三五分	畿内農事試験支働
富田	河内	能郡	富田	町	三五度三七分	三四度三〇分	塔本寺太郎
長野	河内	能郡	長野	町	三五度三五分	三四度二七分	松本速水

Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory.

April

1915



大阪測候所月報

第拾六年第四號

正四年四月

目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 四年大阪地震觀測概況
- 四月中ノ暴風概況
- 日照時間ニ就テ
- 當所ノ出品
- 五月ノ冷氣ニ就テ
- 獨逸飛行船之氣象電報
- 淀川ノ水位
- 地方天氣豫報暴風警報通否

大正四年五月十五日印刷
全 年五月十八日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江月堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社 三交堂

(電話土佐堀三三四一番)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

暴風警報	天氣豫報	風向	發布數	正中偏中不中	正比例
	溫度				
	三二	三二	一〇	一	〇
	二六	二五	一	〇	〇
	五	六	〇	〇	〇
	九三	九〇	一〇〇	〇	〇

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市町村	緯度	經度	取扱官衙
谷川崎	和泉國泉南郡多奈川村	三十四度二十九分	三十四度二十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所
尼崎	和泉國泉南郡尼崎村	三十四度二十二分	三十四度二十五分	岸和田警察署尼崎分署
佐野	和泉國泉南郡佐野町	三十四度二十七分	三十四度二十七分	泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡岸和田町	三十四度三十一分	三十四度三十五分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺	和泉國堺市香妻橋通	三十四度二十七分	三十四度四十分	安治川水上警察署木津川分署
木津川	攝津國大阪府西區南堀江	三十五度二十九分	三十四度三十七分	全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
北加賀屋	攝津國大阪府西區南堀江	三十五度二十八分	三十四度三十九分	全木津川分署難波島水上巡查派出所
難波島	攝津國大阪府西區中口町	三十五度二十九分	三十四度四十一分	安治川水上警察署
安治川	攝津國大阪府北區安治川通	三十五度二十八分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署
天保町	攝津國大阪府西區天保町	三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等測候所
大阪	攝津國大阪府西區一條通	三十五度二十六分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署
傳法	攝津國豐能郡東郷村	三十五度二十七分	三十四度五十七分	豐能郡東郷村役場

●大阪港潮汐観測

種目	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
築港方面	〇.二五	〇.二六	〇.二六	〇.二七	〇.二七	〇.二五	〇.二〇	一.一五	〇.三三	〇.四三	〇.六二	〇.九二	〇.五二	五.七一
四九條方面	〇.七五	一.二九	二.〇一	四.一五	二.三三	〇.五八	一.一六	二.二〇	二.二〇	停止ス	〇.七二	〇.七二	〇.五二	
船場方面	〇.三三	〇.二九	〇.二九	〇.二五	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.二九	〇.二七	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	三.四二
難波方面	〇.九二	一.三三	〇.九二	〇.八〇	〇.九二	一.一六	〇.七四	〇.六四	〇.六四	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	三.四二
天王寺方面	〇.二八	〇.三二	〇.一〇	〇.八〇	〇.九二	〇.九二	一.一六	〇.七四	〇.六四	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	三.四二
天満方面	一.〇三	一.一七	一.九二	一.九二	一.八六	一.八六	二.三三	停止ス	〇.六二	〇.六二	〇.六二	〇.六二	〇.六二	四.〇二
福島方面	一.四二	〇.八四	〇.八七	一.二五	〇.六五	〇.六五	〇.六五	〇.三三	〇.六二	〇.六二	〇.六二	〇.六二	〇.六二	八.九二

灰

量

築港方面	三.三三	一.八六	一.九二	一.四二	一.二五	一.三三	二.四二	三.三三	三.四二	三.六二	三.六二	三.六二	三.六二	二.五二
四九條方面	六.九	七.六九	三.八六	二.四九	八.二九	二.三三	五.一六	三.〇二	停止ス	停止ス	三.六二	三.六二	三.六二	二.四二
船場方面	五.〇七	一.四二	一.一六	四.〇二	一.八三	一.一六	二.一六							
難波方面	六.九五	四.五三	三.七四	四.三三	一.二五	三.〇〇	五.一六	三.七九	三.七九	三.七九	三.七九	三.七九	三.七九	二.一六
天王寺方面	三.六八	一.五二	一.〇二	二.二二	三.四二	一.三三	三.八八	三.二八	三.二八	三.二八	三.二八	三.二八	三.二八	二.一六
天満方面	七.三九	八.〇二	八.三三	八.四〇	六.六九	八.四二	停止ス	三.二八	三.二八	三.二八	三.二八	三.二八	三.二八	二.一六
福島方面	五.四七	三.七二	三.九四	四.八九	二.五九	二.二八	三.三三	四.二八	四.二八	四.二八	四.二八	四.二八	四.二八	二.一六

種目	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
平均満位	一.一〇.二概													一.〇九.四概
平均干満差	九四.九概													一.〇六.五概
滿潮ノノ幅	一七.四概													一.八七概

年二百三十一時○最も少かりしは全二十九年の九十二時
 五なり又平均氣温は二十三度○にして最高氣温の最も高
 かりしは明治四十三年七月九日の三十四度九之れに亞く
 は全三十七年七月七日の三十四度六最低氣温の最も低か

りしは全四十年六月十六日の十一度七なり
 今最近十年間に於ける梅雨中の氣温、湿度、風、降水量
 日照時數等を表記すれば左の如し

年次	空氣の温度		平均湿度	風			降水日數	日照時數
	平均	最高最低		平均速度	最多方向	最大速度		
明治三十八年	二三.〇	二八.三	八二.三	三.六	北東	一九.七	五五.九	三三.〇
全三十九年	二三.四	三三.六	七五.九	四.四	北東	二二.八	一九.四	二六.一
全四十年	二三.六	三六.八	六九.三	三.七	北東	二五.五	一九.〇	二五.六
全四十一年	二三.七	三三.五	七三.三	四.四	西	二二.七	一七.三	二二.五
全四十二年	二三.六	三八.二	八二.四	三.六	北東	二二.六	二八.六	三三.〇
全四十二年	二三.三	三三.九	八〇.六	二.三	南四	二二.〇	一八.三	二七.七
全四十二年	二三.三	三〇.九	八〇.六	二.三	南四	二二.〇	一八.三	二七.七
全四十四年	二三.四	三〇.一	八二.二	四.八	北	二二.一	三六.四	二五.八
全四十五年	二三.四	三〇.六	七五.一	四.五	北東	二二.七	二八.二	二九.六
大正元年	二三.四	三〇.六	七五.一	四.五	北東	二二.七	二八.二	二九.六
全二年	二三.五	二八.八	七五.六	四.九	北東	二七.八	九.三	二四.〇
全三年	二三.九	二七.三	八〇.三	四.四	南四	二三.六	一九.九	二九.九
全三年	二三.〇	二七.〇	七三.八	三.七	北東	二二.一	二二.八	二六.六

●大阪市の煤煙

當大阪は煙の都として其名高く
 數萬の煙筒より吐き出す煙は天に沖し恰も濃霧の如し此
 煤煙の有害なることは夙に専門學者に依て唱導せられ煤

煙防止會なるものを設立せらるゝに至りたり依て今同會
 の調査に係る大正三年中市内各所に於て觀測したる煤煙
 量を左に記し以て當大阪の煤煙降下の配布を示さんとす

炭

素

全	四十二年	九、七	二一、三	二五、〇	〇、八	二二	七二	五三、四	一一、四	三	五、〇
全	四十三年	七、四	一四、四	二四	〇、一	一九	六八	三九、三	四〇、八	四	六、七
全	四十四年	七、一	一五、八	二五	〇、五	二五	七五	二七、八	三七、〇	三	七、四
全	四十五年	七、〇	一三、八	二四	〇、四	二一	六七	四六、八	二、四	三	六、二
全	大正元	八、三	一八、一	二一	〇、五	二〇	六八	五四、〇	〇、五	二	三、四
全	二年	七、九	一七、三	二〇	二、六	二四	七三	二九、七	二五、三	六	七、六
全	三年	一、八	一八、一	二五	〇、七	二〇	七六	四八、八	二五、〇	二	四、九
全	四年	六、六	一三、九	一九	一、〇	二一	六七	四三、五	一七、〇	四	五、七
平	年	八、二	一三、一	一	三、五	一	七二	三九、一	二五、〇	三	六、二

●梅雨概況

本年も最早梅雨の時期に近きたれば既往の観測に依り其概況を記し參考に供せんとす

毎年六月中旬より七月上旬に至る間は梅雨季と唱へ降雨多かりしか是れは日射旺盛の爲め支那楊子江邊に屢次低氣壓發生し東に進み支那東海に入り本邦に襲來せしも其季節には本州東海岸の東方一帯に高氣壓擴張せるが故に低氣壓の進行頗る遅緩となり數日間停滞せるが爲め陰鬱なる天氣を持續し多雨となる尤も其梅雨の來るは年に依りて早晚あれども曆面に記載する所は太陽の黃道經度の八十度に達したる日を入梅とし此期間は約三十日許なり今當所創立以來三十二年間の観測に依り梅雨期間(六

月十一日より七月十日に至る三十日間とす)の雨天日數を看るに平均十五日にして即ち本期間の半は雨天なり而して其最も多かりしは明治三十八年及四十二年にして二十日に達し最も少かりしは全三十三年にして九日に過さず降水網量は平均二百十二耗八にして最も多かりしは明治十八年の五百七十四耗六之に亞くは全三十八年の五百三十五耗九最も少かりしは全二十六年の六十七耗九なり又最大日量の平均は五十五耗二にして最も多かりしは明治三十六年七月八日に於て百三十耗四に達し最も少かりしは全二十六年六月十二日の十五耗五なり而して日照時數は平均百六十六時六にして最も多かりしは明治三十

間)の氣象を調査するに氣溫の平均は六度六にして平年より一度六低く最高氣溫の平均は十一度四にして平年より一度七低く其高極は十九日の十三度九にして平年より一度五高く最低氣溫の平均は二度五にして平年より一度〇低く其低極は二十一日の一度〇にして平年より二度六低く日照時數は四十三時五にして平年より四時四多く平

均一日中に六時間余日照を受けたる割合に當れり、降水日數は四日にして平年より一日多く其總水量は十七耗五にして平年より七耗五少し之れを要するに本年春季彼岸中は平年に比すれば冷氣にして降雨日數は多かりしも其量は少く日照時數は多かりし即ち左に示すが如し
但し▲は平年より高又は多を示せり

日別	平均氣溫			最高氣溫			最低氣溫			湿度	日照時數	降水量	雲量
	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差				
三月十九日	六.九	七.七	-0.8	一三.九▲	一五.一	-1.2	一.三	一.三	七.一	七.九▲	一.八	一.一	四.五
全 二十日	四.八	三.〇	一.八	九.四	三.五	一.八	〇.九	〇.九	七.一	五.四	〇.一	一.一	四.五
全 二十一日	六.五	一.五	二.六	二.六	一.四	一.〇	二.六	二.六	六.二	九.六▲	三.六	一.一	五.五
全 二十二日	七.七	〇.〇	二.九	二.九	〇.八	二.七	〇.五	〇.五	六.九▲	三.三	二.四	一.一	〇.三
全 二十三日	八.一	〇.〇	二.六	二.六	一.八	四.七▲	一.一	一.一	七.一▲	二.四	三.九	一.一	〇.三
全 二十四日	五.九	二.九	二.九	九.九	三.五	三.三	一.四	一.四	五.五	六.一▲	三.四	一.一	七.六▲
全 二十五日	六.五	二.五	二.四	二.四	二.六	三.三	一.九	一.九	三.三	八.九▲	二.五	一.一	五.〇
平均又は合計	六.六	一.六	二.四	二.四	一.七	二.五	一.〇	一.〇	三.七	四.五▲	四.四	一.七	五.七

又最近十年間春季彼岸の氣象を對照すれば左の如し

年別	平均氣溫			最高氣溫			最低氣溫			湿度	日照時數	降水量	雲量
	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差				
明治三十九年	一〇.五	二〇.七	-10.2	二〇.〇	一.四	一.八	二.三	二.三	七.〇	三.九.六	一.七.七	三.三	五.八
全 四十年	七.四	一六.九	-9.5	二三.〇	一.〇	二.〇	七.二	七.二	三.五.〇	四.六.一	四.四	六.八	

明治四十五年	大正元年	二年	三年	全年計	平均	百分率
四	五	三	一	一五	三、七	二四
三	六	一	一	一三	三、二	二二
一	一	一	一	六	一、五	一〇
三	一	一	一	六	一、五	一〇
一	一	一	一	二	〇、五	三
一	一	一	一	三	〇、七	五
一	一	一	一	一	〇、三	二
一	一	一	一	二	〇、五	三
一	一	一	一	一	〇、三	二
一	一	一	一	三	〇、七	五
一	一	一	一	一	〇、三	二
一	一	一	一	八	二、〇	一三
一	一	一	一	六	一、五	二〇
一	一	一	一	五	一、〇	一〇

●所澤大阪間大飛行と天候通報並高層氣流

觀測 陸軍氣球隊にて本年二月二十三日より所澤大

阪間飛行機飛行を舉行せらるゝに依り中央氣象臺長中村博士並交通兵團長井上中將より天候通報及高層氣流觀測を委囑せらる依て本府長官へ上申の上大阪城東練兵場へ臨時觀測所を設置し二月二十二日より技手二名を出し専ら高層氣流の觀測に従事せしめ、本所にては午前六時の全國氣象通知電報の外に午後二時の全國通知電報其他必要に依り臨時電報電話等を各地より受け定時天候通報晝夜二回の外更に臨時通報を發せしか時恰も氣壓の變化多かりしか爲めに風雨多くして飛行中止の場合尠からず即ち二月二十三日所澤を發し名古屋着天候不良の爲め二日飛行中止の上二十六日名古屋發大阪に着せり爾後又天候悪しく四日間飛行中止し三月一日大阪を發し名古屋着翌

二日名古屋を發して所澤に着せり

此間臨時問合せに關し應答したるものゝ外當所より天候通報を發したるは十七回にして高層氣流觀測を施行したるは二十五回なり(天候通報文並高層氣流觀測表は略す)又井上中將より當所長への感謝狀は左の如し

肅啓過般來所澤大阪間野外飛行演習實施致候に就ては特別の御厚志を以て一方ならざる御援助を蒙り多大の便益を得以御蔭同演習も無事終了致候段感謝の至りに不堪茲に謹而御禮申上候

●春季彼岸の氣象概況

當季節は例年陰晴不定にして天氣定らず蓋し大阪地方にては冬の季節風なる西風衰へ未だ夏季の卓越風なる南西風吹き始めざる所謂定風なき時期にして高低氣壓の來去頻繁なるに依る

今本年春季彼岸中(三月十九日より二十五日)に至る七日

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
日數	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五

如し

にして一月は稍々多きも其他は少し
又荷役不可能の日に於ける風力及風向を調査すれば左の

月日	最大風速度		強風以上の吹	強風以上の時數	最多方向	記事
	速度	方向				
一月二日	三、一	西	午後五時	十一時間	午後一時より翌日に亘る	三
全 三日	三、八	西南西	午前十一時	二十四時間	前日より吹續翌日に亘る	三
全 七日	三、三	西	午後五時	十六時間	午前七時より翌日に亘る	三
三月 七日	三、八	西南西	午前九時	八時間	午前二時より正午迄	二
十月 二十日	二、七	西南西	午後二時	十六時間	午前六時より午後二時迄	一

前表に依れば低氣壓襲來し荷役不能となりしは五日の内
二日にして他の三日は冬季西の季節風増勢し強風以上に
達したる時にありたり要するに西方の風にして毎秒速度
十五米以上に達し數時間吹き續くときは荷役不可能とな
るべし

數は六十一日にして平均一ケ年十五日強となり十二月よ
り四月に至る間最も多く日數の八割は實に此期間にあり
而して夏秋の暴風季節に不可能なりしは僅々二割に過ぎ
す即ち次表に示すか如し

更に最近四年間に於ける不可能の日數を調査するに總日

最近四ケ年の荷役不可能の日數

年別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
明治四十四年	三	四	四	一	一	二	一	一	一	一	一	四	二〇

となり全時高氣壓は支那北部にありて七百七十耗以上を示し東方に擴張し來りたるか故に本邦中部以東は強烈風吹き起り北部は一帯に烈しき風雪あり根室にては二十日午後六時四十分氣壓七百三十一耗九に降り宗谷にては全日午前五時風速度毎秒四十二米二に及へり大阪にては十九日早朝は北東の和風なりしか午前九時頃より南を経て南西に轉し午後三時西に廻りて俄然風力増勢し強風となり全五時最も強く風速度毎秒十五米七に達し爾後稍々減力せしも二十日午後二時まで斷續

的に強風吹けり其時間は十四時にして内烈風一時間強風十三時間なり

●大阪港に於ける荷役不可能と天候 大正

三年中に於て荷役不可能なりしは合計五日にして冬季西の季節風旺盛なる期間に最も多しとす而して其他低氣壓の襲來したる時又は夏秋の候颯風襲來したる時は往々荷役不可能のことあるも是等は極めて少し今大阪市役所港灣部の調査に係る荷役不可能の日子を記すれば左の如し

月日	種日	不可能時	沖港	荷場	役所	岸	接	荷場	役所	時間
一月二日	全	自午後一時至全五時	内港	一、二區	三時間	全	部	四時間		四時間
全 三日	全	自午前七時至午後五時	全		十時間	全	部	十時間		十時間
全 七日	全		港内	全部	全	全	部	全		全
三月七日	全		全		五時間	全		全		全
十月二十日	全		内外港	一、二區	三時間	内港第一區岸	安治川右岸を除くの外全部	全		全

備考 外港とは大棧橋より西方両突堤内にして棧橋の

南邊を第一區北邊を第二區とす内港とは棧橋よ

り南東方陸地に接する所にして其中央より南方

を第一、北方を第二區とす

前表日子を各月に區別すれば

て高氣壓は支那北部に著しく發達し七百七十六耗以上を示し東方に擴張し來りしが故に本邦中部は一帯に西乃至北西の強烈風を起せり
 大阪にては十三日午後九時俄然西の強風吹き起り十四

日午前四時最も強く風速度毎秒二十九米一に達し午前十一時まで吹き續けり其強烈風の吹續時間は十三時にして内颯風一時間、烈風四時間、強風八時間なり
 今毎時觀測の結果を擧ぐれば左の如し

月	日	時	氣壓	氣温	風向	風速度	降水量	天氣	月	日	時	氣壓	氣温	風向	風速度	降水量	天氣
三月	十三日	止	七〇、四	六、三	北北西	二、三	〇、〇	晴	三月	十四日	午前一時	七〇、六	四、三	西	二、六	—	快晴
全	午後一時	七〇、七	六、九	西南西	二、八	—	曇	全	午後二時	七〇、六	三、三	西	二、七	—	—	快晴	
全	全二時	七〇、八	八、三	西南西	三、三	—	晴	全	全三時	七〇、六	二、五	西	二、五	—	—	晴	
全	全三時	七〇、〇	八、三	西南西	三、八	—	晴	全	全四時	七〇、九	一、五	西	二、七	—	—	快晴	
全	全四時	七〇、九	八、三	西南西	四、八	—	曇	全	全五時	七〇、九	〇、九	西	二、六	—	—	晴	
全	全五時	七〇、三	七、五	西南西	五、五	—	曇	全	全六時	七〇、九	〇、九	西	二、六	—	—	晴	
全	全六時	七〇、三	七、三	西南西	六、五	—	曇	全	全七時	七〇、九	〇、九	西	二、六	—	—	晴	
全	全七時	七〇、五	七、二	西南西	六、六	—	快晴	全	全八時	七〇、七	一、八	西	二、八	—	—	晴	
全	全八時	七〇、八	七、二	西南西	六、三	—	雨	全	全九時	七〇、一	二、八	西	二、二	—	—	快晴	
全	全九時	七〇、六	六、三	西南西	二、二	〇、三	雨	全	全十時	七〇、一	三、八	西南西	二、〇	—	—	快晴	
全	全十時	七〇、九	五、二	西南西	九、六	〇、一	曇	全	全十一時	七〇、二	五、二	西南西	一、八	—	—	晴	
全	全十一時	七〇、二	五、七	西南西	一、〇	—	曇	全	正午	七〇、五	六、三	西	七、四	—	—	曇	
全	夜半	七〇、五	四、九	西	一、五	—	晴										

(三) 三月十九日二十日の暴風概況 三月十八日滿州北部に

現はれたる低氣壓は南東に進み十九日日本海に入り進路を東方に轉し二十日北海道を横切り二十一日太平洋

に去れり 此低氣壓は最初勢力微弱なりしか進行するに従ひ著しく發達し北海道を横切るに及んで其深度約七百三十耗

く發達し北海道を横切るに及んで其深度約七百三十耗

●三月中の暴風概況

本月中に颱風又は大陸低

氣壓の當地附近を通過し暴風を起したるもの三回あり第

一は八日九日低氣壓の日本海と南海岸を通過したる時、

第二は十三日十四日南海岸を通過したる時第三は十九日

二十日日本海を通過したる時に就中第二は最も顯著

なるものにして風速度は颶風に達せり

今其進路及暴風概況を記すれば左の如し

(一)三月八日九日の暴風概況 三月六日午後楊子江流域に

顯はれたる低氣壓は東に進み七日朝支那東海に入り北

東に轉向し對馬海峽を経て八日朝能登半島の沖に達し

九日朝日本海北部に去れり

又七日の午後新低氣壓は日向灘に現はれ南海岸に沿ふ

て東北東に進み八日朝伊豆七島を通過し北東に轉向し

九日朝北海道南東方海上に去れり

此二低氣壓の襲來に際し本邦各地に風雨起り特に本州

北部より北海道に亘り著しき風雪あり根室にては九日

午後一時氣壓七百四十二耗八に降り秋田にては九日午

前八時前後に於て風速度毎秒三十三米〇に又八丈島に

ては八日午前五時風速度毎秒三十二米二に達したり

大阪にては七日午前八時より氣壓微降し全十一時より

下降急となり全夜十一時最低七百五十耗九に達し爾後

漸次に上昇せり風は七日朝來北東の和風吹しが午後三

時より疾風となり十時には強風に達せしも暫時にして

衰へ八日午前三時風向北より北西に又全四時西南西に

逆轉し正午より強風吹き起り時々衰へしも九日午前三

時まで強風吹けり其時間は十三時なり天氣は六日朝來

好晴なりしが午前十時過より卷層雲北西より流れ來り

正午には満天を蔽ひ午前十一時より午後一時十五分ま

で日暈現はれ爾後晴曇不定なりしが九時より曇天とな

り七日午前十一時三分より微雨を催し氣壓の最低に達

したる時は雨勢も亦強く一時間五耗一を注下せしが氣

壓上昇と共に雨勢衰へ八日午前六時十三分歇む其總雨

量は十七耗三なり

(二)三月十三日十四日の暴風概況 三月十一日午後楊子江

流域に顯はれたる低氣壓は東に進み十二日朝九州南西

方海上に來り爾後東北東に進み十三日朝紀州沖を経て

全日午後房總沖に經過し去りしが之が爲め九州以東關

東までは概ね風雨となり甲信地方は風雪となれり而し

附記

此地震は三陸沖に發したるものにして震域頗る廣く北方は北海道の北部に南方は八丈島に南西方は伊勢の津附近より加賀の金澤邊に達し長徑百九十里を有し強度を感じたる面積は六千二百七十七方里にして北海道及東北地方は一帯に弱震を感じ地鳴又は振子時計の運轉を停止したる所あり又微動は遠く岩瀨及支那上海等に達したり

二四 三月十八日午前十時二十四分二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は三分三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十時二十九分三十六秒に於て二十五「ミクロン」振動期十四秒四、南北動は午前十時三十分六秒に於て二十五「ミクロン」振動期十五秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間(東西動)は三十三分十二秒南北動は三十三分十五秒なり

附記

此地震は臺灣近海に發したる微震にして各所の發震時を擧ぐれば左の如し

臺 北	午前一〇時二一分四五秒
臺 南	全 一〇時二一分四七秒
シカウエー	全 一〇時二一分五一秒
大 阪	全 一〇時二四分〇二秒
福 岡	全 一〇時二四分一六秒

二五 三月二十一日午後二時三十四分二十三秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は五分二十六秒にして主要動となり最大振幅は午後二時四十一分八秒に於て十九「ミクロン」振動期四秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間は十七分三十四秒なり (南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにて未だ震源に訂ならず

二六 三月二十四日午前零時十九分二十三秒の地震

此地震は性質稍々急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前零時二十分三十八秒に於て九十七「ミクロン」振動期二秒〇、南北動は午前零時二十分零秒に於て百十五「ミクロン」振動期一秒八を現し後微となり靜止せり全振動時間(東西動)は七分四十五秒なり (簡單微動計六十倍の觀測)

附記

此地震は鹿尾地方に發したるものにして震域東方に甲斐地方に北方は該前の福井邊より信州長野附近に亘り南西方は紀伊の南端に及べり而して名古屋にては性質急なる弱震を感じ岐阜、濱松、津等にては微震を又近畿地方は人身に感覺なきも地震計に感じたり

二〇 三月十二日午前六時三十二分二十秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大

振幅は午前六時三十三分三十二秒に於て七「ミクロン」振

動期一秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は一

分五十秒なり(簡單微動計「東西動」六十倍の観測)

附記

此地震は前記地震の餘震なるべし

二一 三月十二日午後十一時五十三分五十八秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間

は四分三十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は

十三日午前零時零分七秒に於て二百四十二「ミクロン」振

動期十八秒二、南北動は午後十一時五十九分十一秒に於

て二百六十二「ミクロン」振動期十五秒八を現し後漸次に

微となり静止せり全振動時間は東西動は一時三十九分二

十三秒南北動は一時三十九分零秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳なら

ざれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれ

ば左の如し

臺 北 午後十一時五十二分五秒

シカウエー 全 一一時五十二分四四秒

大 速 全 一一時五十三分〇五秒

長 崎 全 一一時五十三分二五秒

福岡 全 一一時五十三分三二秒

大 阪 全 一一時五十三分五八秒

二二 三月十三日午前六時五十七分三十一秒の地震

此地震は性質稍々急なる波動を呈し初期微動の繼續時間

は零分二十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午

前六時五十七分五十二秒に於て三十八「ミクロン」振動期

二秒二、南北動は全時刻に於て五十二「ミクロン」振動期

二秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は五分四十

秒なり(簡單微動計六十倍の観測)

附記

此地震は畿内附近に發したる微震なるべし

二三 三月十八日午前三時四十七分十八秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は二

分十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前三

時五十分三十八秒に於て四百八十「ミクロン」振動期十九

秒二、南北動は午前三時五十分四十三秒に於て四百二十

二「ミクロン」振動期十四秒四を現し後微となり静止せり

全振動時間は東西動は五十八分五秒、南北動は五十八分

二秒なり

観測地名	震動時間	震動方向	震動強弱	震動性質	記
和泉國堺市車之町	七秒	西—東	稍々強	急	
全 泉北郡鳳村	四秒	北—南	弱	急	地鳴あり
全 泉南郡岸和田町	十五秒	北西—南東	弱	急	
河内國南河内郡長野町	四秒	東—西	弱	緩	
全 中河内郡八尾町	一分四十秒	南西—北東	弱	稍々急	地鳴あり
振津國大阪市南區天王寺	不詳	南東—北西	弱	不詳	
全 北區上福島	二分四十秒	南東—北西	弱	不詳	
全 西成郡新庄村	約三秒	南西—北東	弱	緩	
全 三島郡茨木町	二分五十秒	北西—南東	弱	緩	
全 豊能郡東郷村	四秒	南—北	強	不詳	地鳴あり
全 一妙見山	約二分間	不詳	弱	不詳	
全 池田町	二分	南東—北西	弱	不詳	
全 枳根莊村	三秒	南東—北西	微	不詳	
河内國北河内郡枚方町	約一分	南西—北東	微	緩	
全 田原村	不詳	不詳	微	不詳	
全 南河内郡富田林町	約三秒	南東—北西	微	不詳	
和泉國泉南郡尾崎村	一分五秒	南西—北東	微	不詳	

附記

此地震は阪神附近に發したるものにして震域東方は近江の彦根邊より伊勢の津附近に南方は紀伊の南端に達し北方は丹後の宮津邊に及べり而して大阪及神戸は性質急なる弱震を感じ京都及大和の八木にては微震を感じたり

附記

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は午前六時十八分十七秒に於て八「ミクロン」振動期一秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間是一分十七秒なり(簡單微動計「東西動」六十倍の観測)

一九 三月十二日午前六時十八分十五秒の地震

附記

此地震は前記地震の餘震なるべし

帶に弱震を感じ家屋動搖せり又微動は遠く支那上海等に達したり

一六 三月十日午前九時五十三分四十九秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は五分二十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十時二分十六秒に於て二十五「ミクロン」振動期五秒七、南北動は午前十時二分三十六秒に於て三十五「ミクロン」振動期五秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は三十三分二十五秒、南北動は三十五分九秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならずれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し但し時刻は日本中央標準時に據る以下皆全し

ウカウエー(支那上海) 午前九時五三分〇四秒
 大阪 全 九時五三分四九秒
 水澤 全 九時五四分二九秒

一七 三月十二日午前三時十六分二十五秒の地震

此地震は振幅極めて微にして測るに足らざれども全振動時間は四分五十三秒に及べり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源詳ならず

一八 三月十二日午前六時四分四十三秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は五分五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前六時四分四十九秒に於て三百三十「ミクロン」振動期一秒〇北動は午前六時四分五十秒に於て二百七十五「ミクロン」振動期一秒〇を現し後微となり靜止せり全振動時間は東西動は八分十九秒、南北動は八分十三秒なり更に普通地震計の觀測を記すれば左の如し

繼續時間 〔水平動 二分四十秒 上下動 一分十五秒〕

發震ヨリ最大動ニ至ル時間 〔水平動 零分一秒 上下動 零分二秒〕

最大振幅 〔水平動 全振幅 零分六四 振動期 零分五 上下動 全振幅 零分五〕 振動期 零分五

震動方向 南五十一度東、北五十二度西

震度 弱(震度計キ方)

性質 急

記 事 餘震二回ありたり

又管内觀測所の報告を列記すれば左の如し

震動時刻を列記すれば左の如し

*石	垣	島	午前三時五八分一〇秒
臺	中		全 三時五九分五八秒
臺	北		全 四時〇〇分二一秒
福	岡		全 四時〇一分〇四秒
仁	川		全 四時〇二分二七秒
大	連		全 四時〇二分三九秒
大	阪		全 四時〇二分五一秒
岐	阜		全 四時〇三分一五秒
水	戸		全 四時〇三分三三秒
太	泊		全 四時〇四分五九秒

*は普通地震計の観測

一三 三月三日午前十時三十六分二十三秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十時三十六分四十三秒に於て二十五「ミクロン」振動期一秒八、南北動は午前十時三十七分十一秒に於て二十二「ミクロン」振動期二秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は三分四十八秒なり(簡單微動計六十倍の観測)

附記

此地震は畿内附近に發したる微震にして彦根にては午前十時三十六分三十七秒に此地震を観測せり

一四 三月七日午後三時三十八分二十一秒の地震

此地震は振幅極めて緩微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は午後三時四十分三十八秒に於て十二「ミクロン」振動期四秒六を現し全振動時間は十三分十七秒なり(南北動微動計百二十倍の観測)

附記

此地震は極めて微にして未だ震源は詳ならず

一五 三月九日午前零時三十一分三十二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一分五十三秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前零時三十四分三十秒に於て七百四十七「ミクロン」振動期九秒六、南北動は午前零時三十三分五十九秒に於て八百七十五「ミクロン」振動期七秒二を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は四十二分三十四秒南北動は四十二分三十八秒なり

附記

此地震は陸前金華山沖に發したるものにして震域頗る廣く北方は北海道の南部に南方は東京灣に南西方は伊勢の津附近より越前の福井邊に達し長徑百里、短徑七十里有し強震を感ずる面積は千二百四十方里、弱震は七千四百四十方里にして有感震微震部は二萬千七百方里に亘れり而して仙臺地方は一般に強震を感ず金山、金華山にては地鳴あり東北地方は一

本月中に地震を観測したる数は十五回にして人身に感覺ありたるものは十二日午前六時四分四十三秒阪神附近に發したるもの一回、人身に感覺なく普通地震計に感じたるものは一回もなかりしが無感覺地震にして地動計又は微動計に感じ其震源本邦内にありたるものは十回即ち阪神附近、臺灣附近、畿内附近各二回三陸沖、金華山沖、濃尾地方各一回震源未詳一回なり又遠距離地震は四回にして未だ震源詳ならず今其觀測概況を列記すれば左の如

一二 三月一日午前四時二分五十一秒の地震
 此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は二分五十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前四時八分三十二秒に於て六百二十「ミクロン」振動期二十一秒一、南北動は午前四時九分十一秒に於て千五百七十「ミクロン」振動期二十二秒一を現し後漸次に微となり靜止せり全振動時間は東西動は五十分零秒南北動は四十九分二十五秒なり即ち次表に示すが如し

東西動地動計觀測

南北動地動計觀測

發	現	時	振		振	期
			幅	動		
初期微動	P	四時〇二分五一秒				
主要動	M ₂ M ₁ L	四時〇五分四九秒				
終	期	F	全	〇九分四四秒		

發	現	時	振		振	期
			幅	動		
初期微動	P	四時〇二分五一秒				
主要動	M ₂ M ₁ L	四時〇五分四九秒				
終	期	F	全	〇九分一一秒		

附記

此地震は臺灣の東方海底に發したるものにして石垣島にては性質急なる崩震を感じ家屋動搖し臺灣全島に亘りて微震を感

じ振り時計の運轉を停止したる所あり又微動は本州を越へて遠く樺太の太泊に達せり今各所にて地動計を以て觀測したる

林に霜あり尾崎、堺、大阪に強風吹けり●二日概ね曇天
 一般に雨(北部の山間は雪)降り尾崎、大阪、柏原に強風
 吹けり●三日概ね晴天大阪、新庄、池田、東郷に霜あり
 ●四日概ね晴天所々に霜あり長承寺、新庄、池田、天王
 茨木に雨降り●五日晴曇相半し所々に雨降り大阪に強
 風吹けり●六日概ね晴天東郷に霜あり●七日概ね曇天一
 般に雨降り翌日に互る尾崎、大阪、新庄、茨木に強風吹
 けり●八日前日來の雨未明歇み後概ね曇天尾崎、大阪、
 新庄に強風吹けり●九日晴曇相半し尾崎、大阪に強風吹
 けり●十日概ね晴天深日、長承寺、東郷、富田林に霜あ
 り●十一日概ね晴天所々に霜あり●十二日晴曇相半し午
 後より雨又は雪降り翌日に互る●十三日前日來の雨、雪
 概ね午前歇み尾崎、大阪に強風吹けり●十四日概ね晴天
 所々に雪降り大阪、新庄、池田に霜あり尾崎、大阪に強
 風吹けり●十五日晴曇相半し所々に雪降り大阪、新庄、
 池田、東郷に霜あり●十六日概ね晴天所々に霜あり●十
 七日概ね晴天大阪に強風吹けり●十八日概ね晴天所々に
 霜あり●十九日概ね晴天なりしか午後より雨(北部の山
 間は雪)降り大阪、新庄、池田に霜あり所々に強風吹け

り●二十日概ね晴天所々に雨又は雪降り大阪、東郷に霜
 あり●二十一日概ね晴天所々に霜あり●二十二日概ね曇
 天午後より雨降り翌日に互る●二十三日前日來の雨午前
 歇み尾崎、大阪に強風吹けり●二十四日晴曇相半し尾崎
 大阪に強風吹けり●二十五日概ね晴天東郷に霜あり●二
 十六日概ね曇天所々に雨降り大阪、東郷に霜あり尾崎、
 大阪に強風吹けり●二十七日概ね晴天尾崎、新庄、東郷
 長野に雨降り大阪、新庄に霜あり大阪に強風吹けり●二
 十八日概ね晴天大阪に強風吹けり●二十九日概ね曇天一
 般に雨東郷、天王は雪を交へ降り尾崎、長承寺、大阪
 に強風吹けり●三十日晴曇相半し長承寺に霜あり尾崎、
 大阪に強風吹けり●三十一日概ね晴天所々に霜あり

大阪地震観測概況

爰に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て観
 測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の地動計其他の
 器械にて観測したるものを記せり又振動の各部記録は左の如し

Iは第一初期微動の發震時、IIは第二初期微動全上、IIIは長波即ち主
 要部全上、IVは主要部の最大動、Vは終期の最大動、VIは振動の終と
 す又(1)は南北動にありては北、東西動にありては東、(2)は南北動にありて
 は南、東西動にありては西なり(3)幅は三センチに等しく(4)を以て

第四表 管内降水日量

妙見山	六〇、三〇	一一九	二二一	二、五一	三、六五	六〇、二六	五九、七	四二、八	二〇、一七	二、六	八四、五、二	北	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
東郷	一〇、九	〇、七	五、一	一、七	二、六	五、五	九六、五	一六、三	三〇、〇	三、八	六九、六、三	南	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
天王	八、五	一、四	三、四	〇、七	一、五	五、五	九、五	九、六	一四、〇	三、五	七、五、八	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
茨木	三、七	〇、六	六、九	一、一	三、〇	五、三	六九、九	三六、一	一九、五	七、七	七、六、一	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
清水	三、七	〇、五	六、三	一、一	三、〇	五、三	六二、九	四四、六	三三、八	九、〇	六、五、九	東	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
杖方	三、七	一、六	七、三	〇、八	二、〇	五、〇	五九、五	四四、八	二四、五	七、七	六、六、一	北	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
田原	二、四	〇、四	五、五	一、一	二、〇	五、五	八〇、九	三四、二	二四、五	七、七	六、六、三	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八尾	三、〇	〇、七	六、五	一、五	二、〇	五、五	七四、三	三三、一	二四、五	八、四	七、五、四	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
柏原	三、一	一、〇	六、五	一、五	二、〇	五、五	八三、八	二四、四	二五、六	七、〇	七、五、三	北	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
富田	三、一	〇、七	六、四	一、〇	二、〇	五、五	八五、〇	三三、九	二二、〇	八、〇	六、五、三	西	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
富野	二、五	〇、四	五、九	一、七	二、九	五、〇	六五、三	三〇、五	二五、三	七、六	七、六、七	北	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

三	深日	尾崎	岸和寺	長承	濱寺	堺	天王寺	大阪	福島	新庄	池田	妙見山	東郷	天王	茨木	清水	杖方	田原	八尾	柏原	富田	長野	
九																							
八																							
七																							
六																							
五																							
四																							
三																							
二																							
一																							
九																							

三等にして其他平均部は零下四度六より零下一度八沿海部は零下三度九より零下一度三を示せり之れを要するに本年三月の気温は最高二十一度〇より最低零下九度五の間にありて其較差三十度五に達せり

降水 總量は北部東郷の九十六耗五より西部福島

の四十九耗四の間にありて之れを平年に比すれば一般に少なく就中福島は平年の半に又其他は平年の三

分の二に達せざる所多し而して日量の最多は七日及十二日の降雨の際にありて其最も多きは東郷の三十耗〇之れに亞くは深日の二十七耗三にして日量の二十耗以上なりしは尾崎、岸和田、長承寺、堺、妙見山清水、枚方、田原、八尾、柏原、富田林、長野の十二ヶ所にして其他は十九耗九より十四耗〇の間にあり

第三表 管内全月氣象觀測成績

(表中▲印は高又は多)

觀測所	平均		平均	最高		最低		總量	最多	氣溫	湿度	風向	降水	雪	霜	雷	地震	新島大氣
	最高	最低		本年	平年	本年	平年											
深日	三、八	三、五	七、七	〇、四	三、五	一、六	六、九	三、五	七、三	三、〇	六、五	北	九	三	〇	〇	〇	〇
尾崎	三、二	一、七	七、四	一、〇	三、〇	二、四	六、三	三、七	六、三	三、八	五、四	西	三	〇	〇	〇	〇	〇
岸和田	二、〇	三、五	六、八	一、三	元九	五、〇	五、六	三、四	三、〇	三、八	五、四	西	九	〇	〇	〇	〇	〇
長承寺	三、〇	一、八	六、九	一、〇	三、六	五、三	三、九	三、九	三、九	三、九	五、四	西	四	〇	〇	〇	〇	〇
演寺	二、八	一、八	六、八	一、八	〇、五	六、七	六、四	一、〇	九、九	三、八	五、五	西	三	〇	〇	〇	〇	〇
堺	一、一	三、五	七、〇	〇、九	元一	五、〇	一、八	六、九	三、八	三、八	五、五	北	四	〇	〇	〇	〇	〇
天王寺	二、九	三、〇	六、九	一、八	七、五	四、〇	三、三	三、八	三、八	三、八	五、四	西	九	〇	〇	〇	〇	〇
大阪	二、三	三、六	六、九	〇、六	六、九	四、〇	一、八	三、〇	三、八	三、八	五、四	西	三	〇	〇	〇	〇	〇
福島	三、四	一、八	七、〇	〇、四	元九	四、〇	三、七	三、七	三、七	三、九	五、四	北	七	〇	〇	〇	〇	〇
新庄	二、八	一、六	六、七	〇、四	元九	四、〇	三、七	三、七	三、七	三、八	五、四	南	三	〇	〇	〇	〇	〇
池田	三、五	〇、九	六、八	一、〇	三、五	四、〇	三、七	三、七	三、七	三、八	五、四	北	四	〇	〇	〇	〇	〇

廿六日	七八	八八	九二	九三	九七	一七	朝微霜あり、午前七時五分より九時十分迄微雨、午後一時より六時迄強風吹けり、夜薄露あり
廿七日	八九	九三	九三	九五	九八	二五	朝微霜あり、午後一時より四時迄強風吹けり、夜薄露あり
廿八日	九八	九八	九七	九八	一〇〇	三〇	午前一時及正午強風吹けり、午後七時三十五分より午後十時迄時々月出現
廿九日	七二	九五	九八	一〇〇	一〇二	三三	午前七時四十分より午後五時三十分迄小雨、午後六時より十時迄夜半強風吹けり、夜薄露あり
三十日	八一	九〇	九三	九七	一〇三	一〇	朝薄露あり、午前一時より三時迄強風吹けり、夜薄露あり
卅一日	九四	九四	九四	九八	一〇二	三七	朝微霜あり、午前五時五十八分より六時三十分迄薄霧あり、午前八時五十分より午後二時四十分迄日曇現る、夜薄露あり
全月	七七	八五	八七	九〇	九四	五三	

大阪府管内氣象概況

前項に於て既に詳記したる如く三月は亞細亞大陸の高氣壓漸次低減し爲めに西乃至北西の寒風稍々衰へ氣温著しく上昇し漸く春季の狀態に遷らんとす故に月の初と終に於ける氣温の差異は甚だ大にして變化も亦た多く往々氣候順を失することあり而して降水量は前月に比すれば著しく増加するを常とす今本年三月の氣候を調査するに其變化極めて多く上旬の初は寒冷にして一日に最低の極を現せし所多く四日乃至五日には一般に最高の極に達し中旬に入りては復々寒冷となり十五、十六の兩日は氣温最低零度以下に降り所々に降雪ありて第二の最低を示せり爾後一高一低定らず以て翌月に入れり而して降水

量は前月より増加したれども平年に比すれば非常に少なく平年の三分の二に達せざる所多し之れを要するに本月は氣温の變化著しく降水量少なく稍々不順に經過せり今氣温、降水量等に就き詳記すれば左の如し

氣温 平均は南部深日の七度七より北部妙見山の二度一の間において之れを平年に比すれば一般に低く北部妙見山の如きは二度五の過低を示せり而して最高は概ね五日に現はれ南部尾崎西部茨木の二十一度〇を極高とし之れに亞くは東部田原全柏原の二十度九南部長承寺の二十度六にして其他は二十度二より十三度六の間に入り又最低は一日及十六日に現はれ北部天王の零下九度五を低極とし之れに亞くは妙見山の零下六度〇東郷の零下五度六茨木の零下五度

廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
八五	七三	七九	七二	八二	五六	八五	七四	八〇	七〇	五六	五七	七〇	七四	八四	八一	七八	九九	七八	九七	一一五	八九	七〇	四四	二六
八七	八四	九〇	八五	八三	八一	八八	八三	八四	七七	七二	七二	八二	九〇	九二	九〇	九三	九八	九三	九七	一〇三	七九	六七	五九	五三
八八	八八	九〇	八七	八三	八六	八八	八四	八七	七七	七八	八三	八七	九三	九二	九四	九六	九五	九五	九七	九三	七六	六八	六五	六六
九二	九二	九二	九二	八八	九二	九二	八八	八七	八三	八六	八九	九一	九六	九五	九六	九七	九五	九五	九五	八八	七八	七二	七一	七六
九六	九六	九六	九六	九五	九五	九五	九四	九四	九四	九五	九六	九七	九八	九八	九七	九七	九五	九五	八六	八三	八三	〇九	〇三	〇六
〇五	〇七	〇八	一五	三九	二九	一五	四四	二二	六二	四三	三七	〇三	一九	一六	二〇	〇七	三〇	三八	一〇	三二	二二	〇九	〇三	四六

前日來の霧は午前零時十分歇み全十一時五十分より午後零時十分迄小雪、午前一時より七時迄及全十一時より午後五時迄強風吹けり、午前五時五十分より十時三十分迄小雨斷續し午後零時五分より四時五十分迄小雨時々霧を交へ斷續す、午前七時より十時迄強風吹けり、朝微霜あり、夜薄露あり、午後七時五十分より月暈現れ翌曉に亘る。

前夜來の月暈午前零時二十分消ゆ、朝微霜あり、午前五時四十三分より午後二時十八分迄時々小雨降り、午後三時及八時強風吹けり、午前十一時四十五分より午後一時十五分迄日暈現る、午前十三時二十分より五時四十分迄月暈現る、午前十一時三分より降雨翌日に亘る、午後十時強風吹けり、

前日來の小雨午前六時十三分歇む、正午より午後七時迄及午後十一時より夜半迄強風吹けり、午前二時より三時迄強風吹けり、午後二時四十分より三時三十分迄日暈現る、朝夜露あり、朝微霜あり、午前七時三十分より九時三十分迄薄霧あり、

午前十時烟霧あり、午前十一時五十八分より小雨翌日に亘る、前日來の小雨時々雪又は霧を交へて斷續し午後九時三十分歇む、午後九時及夜半強風吹けり、午前一時より十時迄強風吹けり、午後一時三十七分より四時五十分迄小雪斷續す、夜微霜あり、朝微霜あり、夜微霜あり、

朝微霜あり、午後零時三十五分より五時三十五分迄時々日暈現る、朝薄露あり、午前五時五十分より七時五十分迄薄霧あり、午前八時四十分より午後二時十分迄日暈現る、午後五時及八時強風吹けり、夜露あり、朝霜あり、夜薄露あり、

朝霜あり、午前五時五十分より六時二十五分迄薄霧あり、午前八時烟霧あり、午後三時四十分より八時十分迄小雨斷續し午後四時より七時迄及十一時より夜半迄強風吹けり、午前一時より八時迄及午後二時強風吹けり、午後零時五十分より三時四十分迄小雨時々霧を交へ斷續す、夜露あり、朝霜あり、午前四時五十分より八時迄薄霧あり、午後四時五十分より五時十分迄日暈現る、夜露あり、

朝薄露あり、午前十時五十三分より午後二時五十八分迄雨、午前零時四十五分より午後三時四十二分迄降雨斷續す、午後九時強風吹けり、午前六時五十四分より六時五十八分迄微雨、午前十一時三分より午後零時三十分迄日暈現る、午後一時より六時迄強風吹けり、

十二日	七三・四	七〇	〇・四	二〇・九	三四	七・五	五・八	一・七	三・三	七・七	北北西	八九	六	六	七	七
十三日	七三・三	四八	三・三	九・二	一・五	七・七	五・二	一・三	四・八	五・四	西	八	八	六	八	七
十四日	七六・四	二九	三・五	七・九	〇・〇	七・九	三・三	二・五	八・八	元	西	四	四	六	八	六
十五日	七六・七	二九	三・五	六・〇	〇・八	七・四	三・五	三・三	四・九	九・八	西南西	三	三	七	七	七
十六日	七六・七	四・四	一・三	九・六	一・二	一〇・九	四・二	二・三	三・三	六・九	南	三	三	六	六	六
十七日	七六・七	六・一	一・三	一〇・九	三・六	八・三	四・四	三・七	四・七	二・九	北	六	六	七	七	七
十八日	七三・五	五・五	一・九	九・五	一・三	八・三	三・九	三・三	三・五	七・二	西南西	八	八	八	八	八
十九日	七五・三	六・九	〇・三	一三・九	一・五	三・四	五・二	二・五	七・三	五・七	西南西	四	四	七	七	七
二十日	七六・八	四・八	三・二	一三・九	一・八	七・六	四・一	二・四	七・二	三・三	西南西	三	三	五	五	五
廿一日	七六・〇	六・五	三・九	二・六	一・〇	一〇・六	四・八	三・六	三・四	五・五	西南西	五	五	六	六	六
廿二日	七三・五	七・七	一・五	二・九	二・七	九・三	六・三	一・八	三・九	六・〇	北	六	六	二	二	二
廿三日	七六・五	八・一	〇・七	二・六	四・七	六・九	五・八	二・四	五・四	三・三	西北西	八	八	二	二	二
廿四日	七七・四	五・九	二・四	九・九	三・三	六・七	三・七	三・四	六・三	三・一	北	七	七	六	六	六
廿五日	七三・四	六・五	二・二	二・四	二・五	八・九	四・五	三・三	三・六	四・六	西南西	五	五	八	八	八
廿六日	七五・八	六・八	一・三	二・三	二・〇	九・三	五・一	二・四	五・四	一・五	西南西	四	四	六	六	六
廿七日	七六・九	六・七	一・三	二・二	二・七	八・四	四・九	三・六	五・三	四・六	北	五	五	八	八	八
廿八日	七六・六	七・六	一・四	二・二	四・四	六・九	四・五	三・四	六・八	一・〇	西南西	七	七	九	九	九
廿九日	七六・九	七・四	二・三	二・四	四・九	六・五	五・九	一・八	六・七	九・八	西	七	七	九	九	九
三十日	七六・〇	六・七	三・五	〇・七	二・九	七・八	四・四	三・三	六・八	三・三	西	四	四	八	八	八
三十一日	七四・七	七・五	二・三	三・七	〇・八	三・九	五・二	二・八	三・四	六・八	西南	四	四	九	九	九
全月	七三・三	六・八	一・二	二・二	二・六	八・八	五・〇	二・六	五・一	元	西	五	五	三	三	三

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二一

三 月 地 中 温 度 (平均) 最 低 地 温 諸 現 象 の 摘 要

五日午後一時に於て二十三度二、最低は一日午前七時に於て零下一度二を示せり其零下に降りたる日數は四日にして平年より二日多し又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は正午にありて十五度九五最低は午前六時にありて三度〇一を示し其較差は十二度九四なり

地中十糶の溫度 平均は八度五三にして平年に比すれば零度六二低く月中の最高は五日午後五時乃至六時に於て十二度一、最低は一日午前九時乃至十時に於て四度四を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後六時にありて九度九一、最低は午前八時にありて七度一九を示し其較差は二度七二なり

地中二十糶の溫度 平均は八度七二にして平年に比すれば零度四三低く月中の最高は十日午後七時に於て十度五、最低は一日午前十一時乃至午後四時に於て六度三を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後九時にありて九度二六、最低は午後十時乃至十一時にありて八度二九を示し其較差は零度八七なり

地中三十糶の溫度 平均は九度〇四にして平年に

比すれば零度二八低く月中の最高は二十九日午前一時乃至七時に於て十度〇一、最低は三日午前九時乃至午後四時に於て七度〇を示せ又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は夜半にありて九度二二、最低は午後二時にありて八度八六を示し其較差は零度五六なり

地中六十糶の溫度 平均は九度四五にして平年に比すれば零度〇八低く月中の最高は二十九日午後二時乃至夜半に於て十度二、最低は四日午前一時乃至五時に於て八度二を示せり但し此深さにありては殆ど一日中の變化を認め難し

以上列記する地中溫度を通觀するに最高は地皮にありては正午地中十糶にありては午後五時乃至六時、同二十糶にありては午後九時、同三十糶にありては夜半に生し最低は地皮にありては午前六時、地中十糶にありては午前八時、同二十糶にありては午後十時乃至十一時、同三十糶にありては午後二時に生せり之れに依りて地皮より地中に熱の傳達する梗概を知るを得べし

最低地溫 平均は零下一度七にして平年に比すれば一度五三低く月中の最低は一日午前七時に於て

の最高は五日午後一時に於て十一耗〇、最低は十四日午前四時に於て二耗一を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後三時にありて五耗五三、最低は午前一時及二時にありて四耗六六を示し其較差は零耗八七なり

湿度の平均は六十七、五にして平年に比すれば三、三少く月中の最少は二十四日午後一時に於て三十九を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前五時にありて七十八、一、最少は正午にありて五十六、二を示し其較差は二十一、九なり
飽差の平均は每立方米中二瓦六一にして平年に比すれば零瓦一二多く月中の最多は四日午後三時に於て八瓦七、最少は十一日午前三時より六時に於て零瓦三を示せり而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は正午にありて四瓦一二、最少は午前六時にありて一瓦三五を示し其較差は二瓦七七なり

風

平均速度は毎秒五米一五にして平年に比すれば零米一九弱く月中の最大速度は十四日午前三時より四時に於て毎秒速度二十九米一（一間平方面を垂直に壓する力は八十九貫六百目）の西風なり又強風以

上の吹きたる日数は十八日にして平年より四日其時数は九十時にして平年より九時孰れも多し又月平均に就きて一日中の變化を看るに最大は午後四時にありて六米八〇、最小は午前六時にありて三米九二を示し其較差は二米八八なり風向は北乃至北東風最も多く南西乃至西風之れに亞き南東風最も少し之れを平年に比すれば南西乃至西風は多くして北風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は五、三にして平年に比すれば〇、三少く日照時數は二百の一時六〇にして平年に比すれば十九時七三多く一日中日照時間の最も長かりしは十八日の十時六〇なり

降水及蒸發量

降水日數は十二日にして平年に比すれば一日少く其水量は六十四耗七にして平年に比すれば三十五耗一少く、一日中の最多量は七日に於て十三耗六、一時間の最多量は全日午後十時乃至十一時に於て五耗一を示せり又蒸發總量は九十二耗三にして平年に比すれば三耗九多く一日中の最多量は二十七日に於て五耗一を示せり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は七度七

〇にして平年に比すれば一度六三低く月中の最高は

大阪測候所月報

大正四年三月大阪氣象概況

三月は亞細亞大陸の高氣壓漸く低減し爲めに西の寒風衰へ稍々溫暖なるも本月は氣候の變遷期にして高低氣壓の來去頻繁なるを以て天氣の變化極めて多く同一の天氣を持續すること甚だ稀なりとす、然り而して本月の氣候を調査するに平年に比し著しく冷氣にして日照時數多く降水日數及其量は少く風は概して弱かりし今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣壓 平均は七百六十三耗二四にして平年に比

すれば零耗二七低く日々の變化は氣象圖に示すか如く約八回の昇降を呈せり而して月中の最高は十五日午後十時にて七百七十一耗一、最低は七日午後十一時に於て七百五十一耗三を示せり又月平均に就きて一日中の變化を見るに第一の最高は午前九時にありて七百六十四耗二〇、第一の最低は午後三時乃至

氣溫 平均は六度七九にして平年に比すれば一

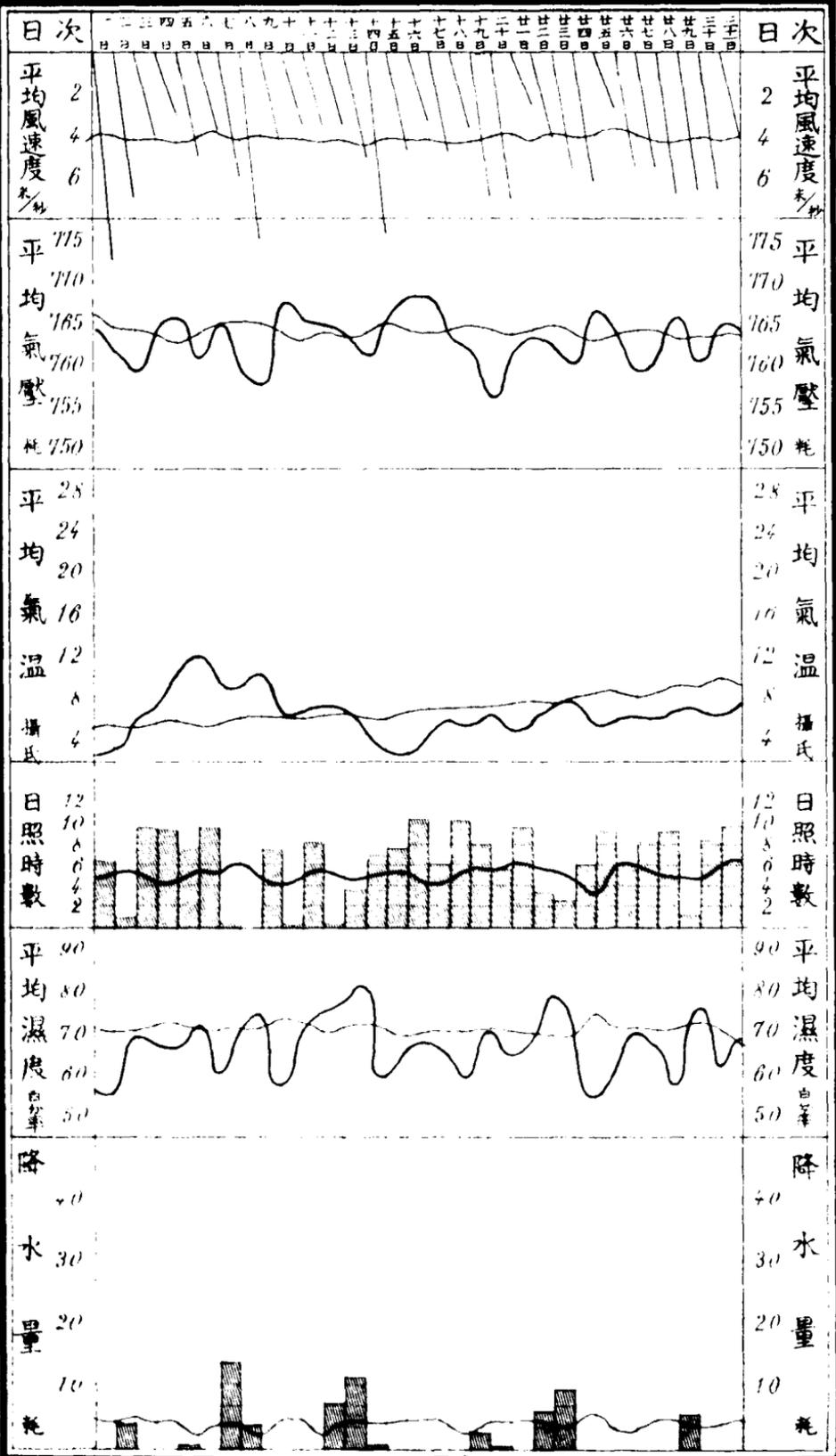
四時にありて七百六十二耗二五を示し第二の最高は午後十時にありて七百六十三耗七七、第二の最低は午前三時にありて七百六十三耗三六を示せり而して其主なる最高低の較差は一耗九五なり

度一三低く平均氣溫日々の變化は氣象圖に示すか如く上旬は平年より高かりしも中下の二旬は平年より低し而して最高の極は四日午後四時に於て十八度九最低の極は一日午前四時に於て零下一度八を示せり其零下に降りたる日數は三日にして平年より一日少く又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後三時にありて十度二五、最低は午前四時乃至五時にありて三度五九を示し其較差は六度六六なり

水蒸氣張力、濕度及飽差 水蒸氣張力の平均

は五耗〇にして平年に比すれば零耗七五低く月中

本圖は日平均又ハ合計ノ依リテ編輯ス。風速度、氣壓、氣温、湿度ハ本年——乎年——日照時數ハ本年——乎年——降水量ハ本年——乎年——



例言

一本報は當測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者す但し日々の觀測は當測候所に於て二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一氣壓、水蒸氣の張力及蒸發量は靴曲尺(三厘三毛)を以て示す一湿度は凡て攝氏の度を用る零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふへし

一最高温度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものば之れを前日に繰上げて記入せり一飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(ワ)零忽(二七)にて示す

一湿度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す一降水量は靴を以て其深さを測り之を記す、但し一靴は一面に水量一升八合三勺を撒布したるに相當す

一雲量は十分率を以て示す一風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり一風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜風にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かざるもの一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一風向は北、北東、東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す一天氣日數中雨とは雨雲霰の何たるに拘らず降水量一靴の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

大阪府管内氣象觀測所位置

觀測所	國	郡市	町	村	緯度	經度	北緯	東經	觀測主	任
深日	和泉	泉南郡	深日村	一三五度〇九分三四度一九分			北野	尾	幸	德
尾崎	泉南	郡	尾崎村	一三五度一六分三四度二二分			高	尾	清	次
岸和田	泉南	郡	岸和田町	一三五度二三分三四度二七分			森	川	由	太郎
長承寺	泉北	郡	石村	一三五度二七分三四度二二分			今	井	富	次
濱寺	泉北	郡	高石村	一三五度二六分三四度二二分			吉	村	正	輔
天王寺	攝津	大郡	天王寺町	一三五度二九分三四度三九分			加	藤	昭	純
大阪	大阪	市	西區一條通	一三五度二六分三四度三九分			府	立	大阪	一等測候所
福島	大阪	市	北區上福島	一三五度二九分三四度四二分			笠	谷	正	三郎
新庄	四成	郡	新庄村	一三五度三一分三四度四五分			植	田	靈	顯
池田	豐能	郡	池田町	一三五度二六分三四度五〇分			笹	部	利	作
妙見山	豐能	郡	東郷村	一三五度二八分三四度五六分			阪	部	文	二郎
東郷	豐能	郡	東郷村	一三五度二九分三四度五七分			大	原	仁	之助
天王	豐能	郡	榎森村	一三五度二三分三四度〇二分			高	橋	政	次郎
茨木	三島	郡	茨木町	一三五度三四分三四度四九分			高	橋	菊	之助
清水	三島	郡	清水村	一三五度三六分三四度五三分			山	本	義	一
枚方	北河内	郡	枚方町	一三五度三九分三四度四九分			家	村	八	五郎
田原	北河内	郡	田原村	一三五度四二分三四度四三分			東	尾	重	藏
八尾	中河内	郡	八尾町	一三五度三六分三四度三八分			水	谷	芳	松
柏原	南河内	郡	柏原村	一三五度三七分三四度三五分			畿	内	農事	試験支場
富田	南河内	郡	富田町	一三五度三七分三四度三〇分			塔	本	寺	太郎
長野	南河内	郡	長野町	一三五度三五分三四度二七分			松	本	速	水

Monthly Report of The Osaka Meteorological Observatory.

March

1915



大阪測候所月報

第拾六年 第參號

大正四年三月

目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 本年大阪地震觀測概況
- 三月中ノ暴風概況
- 大阪港ニ於ケル雷役不可測ト天氣
- 所澤大阪間ノ大塊行ト
- 天氣地線并高層氣流觀測
- 春季彼岸ノ氣象概況
- 梅雨概況
- 大阪市ノ霧煙
- 大阪港ノ潮沙觀測
- 淀川ノ水位
- 地方天氣情報暴風警報編否

大正四年四月十五日印刷
全 年四月十八日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江戸堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

(電話土佐堀三三四一番)

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所名	國郡市	町村	緯度東經	北緯	取扱官衙
谷川	和泉國泉南郡	多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分	安治川水上警察署谷川港水上巡查派出所
尾崎	和泉國泉南郡	尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分	岸和田警察署尾崎分署
佐野	和泉國泉南郡	佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分	泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡	岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分	安治川水上警察署岸和田港水上巡查派出所
堺	和泉國堺市	香妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分	安治川水上警察署木津川分署
木津川	攝津國大阪府	西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分	安治川水上警察署木津川分署
北加賀屋	攝津國東成郡	敷津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分	全木津川分署北加賀屋水上巡查派出所
難波島	攝津國大阪府	西區中口町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分	全木津川分署難波島水上巡查派出所
安治川	攝津國大阪府	北區安治川通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分	安治川水上警察署
天保町	攝津國大阪府	西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	安治川水上警察署天保町分署
大阪	攝津國大阪府	西區一條通	百三十五度二十六分	三十四度三十九分	府立大阪一等測候所
大坂	攝津國豐能郡	東傳法村	百三十五度二十七分	三十四度四十一分	十三橋警察署傳法分署
東傳法	攝津國豐能郡	東傳法村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分	豐能郡東傳法村役場

●淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 二尺三寸四分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 一尺九寸一分

二 月	廣瀬		大 日	二 月	廣瀬		大 日	二 月	廣瀬		大 日
	午前六時	午後六時			午前六時	午後六時			午前六時	午後六時	
一 日	一、八五	一、八五	二、〇〇	十一 日	二、五〇	二、五〇	二、五五	二十 日	二、八〇	二、八〇	二、八五
二 日	一、九五	一、九五	二、〇〇	十二 日	二、五五	二、五五	二、七〇	二 日	二、八〇	二、八〇	二、八五
三 日	一、九五	一、九五	二、〇〇	十三 日	二、五五	二、五五	二、七五	三 日	二、八〇	二、八〇	二、八五
四 日	二、〇〇	二、〇〇	二、〇五	十四 日	二、六〇	二、六〇	二、七五	四 日	二、八五	二、八五	二、九〇
五 日	二、〇五	二、〇五	二、一〇	十五 日	二、六五	二、六五	二、八〇	五 日	二、九〇	二、九〇	二、九五
六 日	二、一〇	二、一〇	二、一五	十六 日	二、七〇	二、七〇	二、八五	六 日	二、九五	二、九五	三、〇〇
七 日	二、一五	二、一五	二、二〇	十七 日	二、七五	二、七五	二、九〇	七 日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇五
八 日	二、二〇	二、二〇	二、二五	十八 日	二、八〇	二、八〇	二、九五	八 日	三、〇五	三、〇五	三、一〇
九 日	二、二五	二、二五	二、三〇	十九 日	二、八五	二、八五	三、〇〇	九 日	三、一〇	三、一〇	三、一五
十 日	二、三〇	二、三〇	二、三五	二十 日	二、九〇	二、九〇	三、〇五	十 日	三、一五	三、一五	三、二〇

平均水位 廣瀬二尺七寸
 最高水位 五尺〇五分
 (五日午前六時) 大日二尺八寸
 (五日午前六時、午後六時)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

種 類	發布數	正 中	偏 中	不 中	正比例	天氣豫報	
						風 向	風 度
暴 風 警 報	四	三	一	〇	八七	〇	〇
天 氣 豫 報	二八	二二	六	〇	八七	〇	〇

十時二分其左右に幻月及暈の上部に反對弧邊の相接せるが如きもの稍々著しく現はれ全十時十八分頃より微となり遂に消へしが薄き月暈は翌二日午前零時三十四分まで繼續せり、

(二) 四月四日午後十時高氣壓は阿哥斯克海と支那北部とにありて七百六十四耗以上を示し低氣壓は三陸沖(七百五十四耗)と朝鮮北部(七百五十八耗)とにあり而して關東、東北地方は北西の風稍々強く曇天なれども北海道には雨あり朝鮮北部は曇天にして雨の所あり本州中部は晴曇相半せり、

當地方は朝來曇天なりしが夜に入り快晴となり時々卷層雲西より流れ來り、五日午前一時五十分より薄き月暈現はれ暫時にして其左右に幻月現はれ全二時四十分一旦消へ全二時五十分より又月暈及幻月現はれ全三時三十分より、全四十二分頃迄最も著しく月暈は二重に現はれ其左右の幻月より外方に向ひ長さ約三十度の最も鮮麗なる白芒を放ち又月より左右の幻月に向つて赤黄色の光を放ち幻月の内側は紅色外方は青藍色を帯び最も美觀を呈せしが全四時七分頃より卷層雲漸次濃厚

となり遂に幻月は消へしも月暈は全四時二十分まで現はる、

之れを要するに四月一日の月暈及幻月に比すれば大体に於ては殆んど全形なれども其鮮かなりしことは其比にあらず、近年稀に觀る所の現象と云ふべし

上表に依りて噴火後の潮位を看るに平時即ち噴火前は氣壓の高低に従ひ冬季は潮位低くして夏季は高し、此一年中の普通變化に對して大正三年二月以降月々の平均潮位の上昇は大正三年二月より七月までは約一尺四寸に止りしに八月より著しく増加し十一月及十二月は遂に三尺の上昇を呈するに至りたり、

●鹿兒島附近の土地低下

大正三年夏期主として六七月の頃參謀本部陸地測量部が施行せられたる鹿兒島地方水準測量の結果を前時(明治二十五年)の分と比較すれば鹿兒島灣北部附近の地盤は一般に低下したること明かなり、假に鹿兒島半島の内地にして鹿兒島市より西々北に約四里を距つる伊集院地方は變動を受けざるものと見做し、即ち伊集院に於て噴火前後とも水準點の高低を生ぜざりしものとして起算すれば噴火後の土地低下は鹿兒島市小川町海岸に於て、八寸全市より北方約三里重富附近の大鼻崎にては二尺四寸、鹿兒島灣の北岸加治木國分附近にては一尺八寸、大隅國敷根、福山、牛根等附近の沿岸地方にては一尺より七寸内外を示せり、要するに鹿兒島灣沿岸にありては大鼻崎にて最大の地盤陷落

を示したるも櫻島に至れば變動は一層大にして潮水増昇によりて判するに同島の西北岸二股、高免の如きも六七尺の土地低下あらん、但し上に假定せる伊集院の地盤も實は無變動なるには非らずして、最近の實測に依るに約五寸の低下あるもの、如し故に前記各低下數に其れく、伊集院地方の陷落即ち五寸を加へて更正すれば鹿兒島市の低下は結局昨年夏期に於ては一尺三寸となり、全年二月乃至七月中の平均潮位の増昇一尺三四寸と粗ぼ一致すべし(以上二項大森理學博士論文抄)

●月暈並幻月

技手 圓岡平太郎

四月一日及五日に珍らしき月暈並幻月を觀測せり其概況は左の如し、

(一)四月一日午後十時高氣壓は本州北部にありて七百六十六耗を示し南乃至西方に氣壓遞減し低氣壓は支那北部にありて七百五十八耗以下を示せり、而して滿州、朝鮮及臺灣附近は曇天にして所々に雨あり本邦中部は曇天にして東海道には晴天の所あり

當地方は朝來快晴なりしか夜に入り時々上層雲西より流れ來り午後九時四十分より極めて薄き月暈現はれ全

二月廿八日	午後三時	七五、四	〇、〇	西	一九、四	〇、〇	晴	全	三月一日	午前五時	七五、七	一九、二	西	九、二	〇、〇	快晴
全	全四時	七五、一	〇、四	西	二〇、四	〇、〇	雪	全	全	全六時	七五、四	一九、二	西	一〇、五	〇、〇	快晴
全	全五時	七五、五	一、三	西南西	一九、五	〇、〇	快晴	全	全	全七時	七五、六	一九、三	西	一〇、六	〇、〇	快晴
全	全六時	七五、九	一、三	西	二〇、三	〇、〇	快晴	全	全	全八時	七五、七	一九、三	西	一〇、三	〇、〇	快晴
全	全七時	七五、三	一、二	西	一八、九	〇、〇	快晴	全	全	全九時	七五、八	一九、三	西	一〇、九	〇、〇	快晴
全	全八時	七五、五	一、二	西	一六、六	〇、〇	快晴	全	全	全十時	七五、八	一九、三	西南西	一〇、八	〇、〇	快晴
全	全九時	七五、八	一、三	西	一六、二	〇、〇	晴	全	全	全十一時	七五、二	一九、三	西南西	一〇、三	〇、〇	曇
全	全十時	七五、六	〇、七	西	一九、五	〇、〇	曇	全	正午	午後一時	七五、九	一九、七	西南西	一〇、五	〇、〇	晴
全	全十一時	七五、五	〇、五	西	二〇、四	〇、〇	曇	全	午後一時	午後二時	七五、七	一九、七	西南西	一〇、四	〇、〇	晴
全	夜半	七五、二	〇、三	西	一九、七	〇、〇	曇	全	全二時	全三時	七五、七	一九、七	西南西	一〇、四	〇、〇	快晴
三月一日	午前一時	七五、一	〇、九	西	一六、二	〇、〇	快晴	全	全三時	全四時	七五、二	一九、六	西南西	一〇、三	〇、〇	快晴
全	全二時	七五、〇	一、一	西	一六、九	〇、〇	快晴	全	全四時	全五時	七五、九	一九、六	西南西	一〇、四	〇、〇	快晴
全	全三時	七五、〇	一、五	西	一四、五	〇、〇	快晴	全	全五時	全六時	七五、二	一九、六	西南西	一〇、三	〇、〇	快晴
全	全四時	七五、二	一、五	西	二〇、一	〇、〇	快晴	全	全六時		七五、二	一九、二	西南西	一〇、二	〇、〇	快晴

●鹿兒島灣の潮位増昇 大正三年一月櫻島大噴火後土地陥落に歸因せる鹿兒島灣の潮位増昇は左の如し、但し表中噴火前とあるは明治三十六、七、八、年の平均潮位にして噴火後は大正三年二月より同四年一月に至る潮位なり

月	噴火後		噴火前	
	噴火後	潮位	噴火前	潮位
三月	六、六八	六、六八	五、二八	一、四〇
二月	六、四三	六、四三	五、〇一	一、四二

月	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二月
潮位	六、五四	六、六九	六、九二	七、一六	七、七二	八、一一	八、一〇	八、三五	八、一〇
潮位	五、二四	五、二二	五、六〇	五、九五	六、〇四	六、一一	五、九四	五、三五	五、二九
潮位	一、三〇	一、四六	一、三九	一、二一	一、六七	二、〇〇	二、一六	三、〇〇	二、七七

日朝黃海南部に來り朝鮮南部を横切り二十七日日本海南部を通過し二十八日朝東北地方を横断して太平洋に去れり

此低氣壓は二十六日朝黃海南部に來りたる時は其中心示度は七百五十四耗なりしが北東に進むに従ひ著しく發達し二十八日東北地方に到りたる時は七百四十六耗以下に降り同時に高氣壓は支那北部より東海に擴張し七百七十耗以上を示し氣壓の傾斜急となり爲めに本邦一帯に暴風起り關東地方より北海道に亘り著しき風雪あり數香にては三月一日午前六時氣壓七百三十一耗一に下降し壽都にては風速度毎秒四十九米一、横須賀にては四十一米七に達し其他烈風に達したる所尠からず

多少の被害あり、

大阪にては二十六日朝來氣壓下降し午後より下降急となり一時間に一耗内外の下降を呈し午後七時に至り最低七百五十七耗二を示し爾後稍々上昇せしが二十七日午後より又下降し、二十八日午前四時最低七百五十三耗一に達し爾後上昇せり、風は二十六日午後六時より九時まで北東の強風吹きしが後減力し二十八日午前四時より西の強風吹き起り三月一日午後五時まで吹續せり其最も強かりしは二十八日午後一時の毎秒速度二十一米四にして強烈風の吹きたる時數は三十四時内強風十五時間、烈風十九時間なり
今當所に於ける毎時觀測の結果を記すれば左の如し、

月	日	時	氣壓	氣溫	風向	風速	降水量	天氣
二月	廿八日	午前一時	七四四	六・一	北西	一七	〇・〇	雨
全		二時	七三八	六・二	西	二六	一・一	雨
全		三時	七五〇	六・七	西南西	九	一・五	雨
全		四時	七五一	八・五	西南西	三三	〇・七	雨
全		五時	七五七	八・四	西	二六	〇・二	曇
全		六時	七五九	七・七	西	二	一	曇
全		七時	七五五	六・九	西	二八	一	曇
二月	廿八日	午前八時	七四六	六・二	西	一四	一	曇
全		九時	七四七	五・五	西	一四	一	曇
全		十時	七五七	五・五	西	一五	一	曇
全		十一時	七五七	五・八	西南西	二七	一	快晴
全		正午	七四四	五・一	西南西	二八	一	快晴
全		午後一時	七五〇	五・七	西	三三	一	晴
全		二時	七四七	六・二	西南西	二七	一	曇

(二)二月二十八日及三月一日の暴風概況 二月二十四日揚子江上流に現はれたる大陸低氣壓は北東に進み二十六	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	二月五日				
	全十一時	全十時	全九時	全八時	全七時	全六時	全五時	全四時	全三時	全二時	午前一時	夜半	全十一時	全十時	全九時	全八時	全七時	全六時	全五時	全四時	全三時	全二時	午後一時	
	七九、六	七八、九	七八、八	七八、六	七八、四	七八、三	七八、二	七八、一	七八、〇	七八、〇	七八、〇	七八、八	七八、八	七八、八	七八、七	七八、七	七八、六	七八、四	七八、三	七八、二	七八、一	七八、〇	七八、四	
	二、五	二、六	二、八	二、二	二、七	二、七	二、七	二、六	二、七	二、七	二、一	二、一	二、七	二、六	二、二	二、六	二、二	二、六	二、六	二、五	二、三	二、三	二、八	二、九
	西南西	西南西	西	西	西	西	西	西	西	北	北北東	北北東	北	北	北北東	北	北	北北西	北北西	北北西	北北西	北北西	北	
	二、三	二、三	二、三	二、七	二、三	二、三	二、三	二、二	二、二	二、一	二、一	二、二	二、三	二、二	二、二	二、三	二、六	二、八	二、九	二、七	二、三	二、三	二、八	二、五
	快晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	快晴	快晴	快晴	晴	晴	曇	曇	曇	曇	曇							
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
	全十時	全九時	全八時	全七時	全六時	全五時	全四時	全三時	全二時	午前一時	夜半	全十一時	全十時	全九時	全八時	全七時	全六時	全五時	全四時	全三時	全二時	午後一時	正午	
	七九、七	七八、九	七八、七	七八、六	七八、四	七八、三	七八、二	七八、一	七八、〇	七八、〇	七八、八	七八、八	七八、八	七八、七	七八、七	七八、六	七八、四	七八、三	七八、二	七八、一	七八、〇	七八、〇	七八、七	七八、三
	二、七	二、二	二、八	二、四	二、六	二、五	二、七	二、八	二、六	二、七	二、七	二、五	二、五	二、二	二、二	二、四	二、九	二、四	二、三	二、五	二、三	二、三	二、七	二、五
	北	西	北西	北東	西	西	西	西南西	西南西	西南西	西南西	西	西	西	西	西	西	西	西	西南西	西南西	西南西	西南西	西南西
	八、九	四、三	二、九	二、九	八、二	九、〇	〇、七	二、一	〇、二	八、六	七、八	九、〇	三、三	二、七、五	二、五、九	二、五、九	二、八、四	二、七、二	二、六、三	二、六、八	二、七、五	二、六、〇	二、五、二	二、五、二
	快晴	曇	曇	晴	晴	曇	曇	晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	曇	晴	晴	

り午後零時二十八分まで日量現はれ後漸次上層雲垂下し濃密となり時々驟雨ありしが四日午前六時十分より降雨となり、時々大雨を交へ断続せしが午前十時より十二時に至る間は最も強く一時間に七耗六を豪注し全十一時四十一分より雨勢衰へ午後三時十四分歇む後西

乃至北西の強風に伴はれ時々小雨又は雪液を降らせしが五日午前九時二十五分全く歇む此の總雨量は三十二耗四なり、
更に毎時観測の結果を記すれば左の如し、

月	日	時	氣壓	氣温	風向	風速	降水量	天氣
二月	四日	午前一時	七五、七	九五	北東	五四	—	曇
全		全二時	七五、五	九五	北東	五四	—	曇
全		全三時	七五、五	九五	北東	五四	—	曇
全		全四時	七五、四	九六	北東	五〇	〇・二	雨
全		全五時	七五、三	九六	北東	七、四	〇・二	曇
全		全六時	七五、六	九七	北東	七、四	—	曇
全		全七時	七五、七	九七	北東	九、六	〇・二	雨
全		全八時	七五、九	九七	北東	七、二	—	雨
全		全九時	七五、八	九七	北東	五、八	—	雨
全		全十時	七五、九	九二	北	八、〇	—	雨
全		全十一時	七五、三	八六	北	三、五	七、六	雨
全		正午	七五、六	七五	北	三、二	—	雨
全		午後一時	七五、七	四九	北	三、四	二、六	雨
全		全二時	七五、八	五四	北	三、二	—	雨
全		全三時	七五、三	六五	北	三、九	—	曇
全		全四時	七五、三	七六	北	五、六	〇・〇	曇
全		全五時	七五、九	八二	北北西	九、二	—	快晴
全		全六時	七五、七	七五	北西	二、五	—	快晴
二月	五日	午前七時	七五、七	七六	西北西	九、八	—	曇
全		全八時	七五、七	七二	西北西	七、六	—	曇
全		全九時	七五、七	六六	北西	七、〇	—	快晴
全		全十時	七五、八	五六	北西	五、四	—	快晴
全		全十一時	七五、八	四六	北	五、二	—	曇
全		夜半	七五、九	四八	北北西	四、二	—	曇
全		午前一時	七五、六	四九	北北西	四、一	—	曇
全		全二時	七五、四	四九	西	四、八	—	曇
全		全三時	七五、四	四九	西	四、八	—	曇
全		全四時	七五、五	五九	南西	八、九	—	曇
全		全五時	七五、八	五二	西	七、七	—	曇
全		全六時	七五、九	五七	西南西	五、三	—	雨
全		全七時	七五、九	五四	西南西	四、二	—	曇
全		全八時	七五、三	五二	西	四、四	—	曇
全		全九時	七五、三	一七	北北西	三、七	—	曇
全		全十時	七五、一	一六	北北西	八、五	—	曇
全		全十一時	七五、三	二七	北北西	二、七	—	曇
全		正午	七五、六	三九	北北西	二、二	—	曇

本州北四海岸及信越地方の地震	六回
本州西部の地震	三一回
九州附近より州南諸島の地震	三〇回
臺灣附近の地震	五回
震源未詳	二回
合計	一六二回

之れを要するに本年は紀伊水道及瀬戸内海に發したる小地震稍々多く且つ櫻島爆發の爲め爆發地震多かりしが爲め例年に比すれば本州西部より州南諸島に至る一帯は地震數を増せり

●二月中の暴風概況

本月中に颱風又は大陸低氣壓の當地附近を通過し暴風を起したるもの二回あり其一は四日より七日に亘り南海岸沖を通過したる颱風にして他の一は二月二十七日より二十八日に亘り日本海を通過したる大陸低氣壓とす

今其經路及暴風概況を記すれば左の如し

(一)二月四日より七日に至る暴風概況 二月三日比律賓群島の北東方洋上に現はれたる颱風は北西に進み石垣島附近に到りて北東に轉向し支那東海に入り同夜琉球七

島灘を經て四日の朝土佐沖に來り尙北東に進みて房總沖を通過し五日の朝北海道の東方に去れり

此颱風は本邦各地に風雨を起し東海道沿岸にては暴風雨となりたる所多し、銚子にては、四日午後五時三十分氣壓七百三十八耗に下降し同時に風速度毎秒三十一米一に達し、宗谷にては五日午前五時風速度毎秒四十一米九に達したり

大阪にては三日正午頃より氣壓下降し全夜十時頃より下降急となり四日午前十一時最低七百五十耗二に達し後漸次上昇せり、●風は四日朝來北東乃至北の疾風なりしが午前十一時より強風となり、午後一時には毎秒十六米四を吹送し後風力減殺せしが五日午前五時頃より西の強風吹き起り夜に入り減殺し六日午前四時頃より又西の強風吹き起り正午より烈風となり午後六時最も強く毎秒十八米四に達し後稍々減力せしも七日午前四時まで強烈風吹き續けり、其強烈風吹きたる時數は三十六時にして内強風は廿五時間、烈風は十一時間なり、●天氣は三日の朝來好晴なりしが午前九時頃南西方に卷層雲現はれ漸次滿天に擴り全十一時二十五分よ

測したる地震の總回数は百六十二回にして就中人身に感
覺ありたるものは五月二十三日備後國及六月二十二日大
阪灣に發したるもの、二回に過ぎざりしが人身に感覺な
く普通地震計に感じたるものは七回にして即ち左に記す
るが如し

一月二十八日午前四時三十二分三十七秒 微(感覺なし)琵琶湖の東岸
五月二十三日午後零時三十八分二十九秒 微 備後國
六月二十四日午前九時二十八分三十六秒 微(感覺なし)紀伊東牟婁郡
八月十六日午後九時十六分十秒 微(感覺なし)三河國舉母町
十月二十七日午後十一時十九分五十四秒 微(感覺なし)畿内附近
十一月十五日午後十時二十九分二十五秒 微(感覺なし)高田市附近
十一月二十四日午後八時五十六分五十秒 微(感覺なし)小笠原島の南方
十一月二十八日午後七時四十七分十秒 微(感覺なし)奄美大島近海
又人身に感覺なき地震にして其震源の本邦内にありたる
ものは百八回あり就中顯著なりしは一月十二日櫻島附近
、三月十五日羽後國秋田附近、八月十六日三河國舉母町
附近、十一月二十四日小笠原島南方洋底、全二十八日奄
美大島近海に發したる五回にして最も強烈なりしは櫻島
附近及秋田附近に發したるものにして家屋の倒潰人畜の

死傷土地の龜裂等多かりし

又遠距離地震は四十五回あり其内顯著なりしは三月二十
八日西蔵の東方、四月十二日南洋「ギルバート」島附近、
五月二十六日南洋「セレベス」島附近、六月二十六日南洋
「スマトラ」島附近、十月四日亞細亞土耳其「スミルナ」附
近、十月二十三日南洋「モンダナオ」島の東方洋底に發し
たる大震なり

今百六十二回の地震を月別にする時は一月最も多く二十
四回之れに亞くは三月の十九回、五月の十八回、六月の
十七回にして九月及十二月は最も少く各七回なり即ち左
に記するが如し

一月	二四回	五月	一八回	九月	七回
二月	一〇回	六月	一七回	十月	一五回
三月	一九回	七月	一三回	十一月	一二回
四月	八回	八月	一二回	十二月	七回

前記地震を震源別になす時は左の如し

遠距離の地震

四五回

北海道附近より本州東海岸の地震

二九回

本州南東海岸の地震

一四回

々に霜を結び尾崎、長承寺、大阪に強風吹けり●二十二日概ね晴天所々に霜あり●二十三日概ね曇天なりしが一般に雨降り尾崎、大阪に強風吹けり●二十四日概ね晴天尾崎、長承寺、大阪に強風吹き池田、富田林に霜あり●二十五日概ね晴天所々に霜、天王に霞、清水、枚方に雨降り●二十六日概ね雨降り大阪に強風吹けり●二十七日概ね曇天午後より雨降り●二十八日雨雪霞を混し所々に強風吹けり

大阪地震観測概況

爰に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て観測したるものを記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の器械にて観測したるものを記せり又振動の各部記號は左の如し
 Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動同上、Lは長波即ち主要部同上、Mは主要部の最大動、Gは終期の最大動、Fは振動の終了又(十)は南北動にありては北、東西動にありては東、(一)は南北動にありては南、東西動にありては西なり振幅は「ミクロン」(六兆の千分ノ一)を以て記す

本月は地震極めて少く人身に感覺ありたるものは一回もなく又人身に感覺なく普通地震計に感じたるものも亦一

回もなかりしが遠距離地震にして地動計又は微動計に感じたるもの一回あり其観測概況を記すれば左の如し

一一 二月廿六日午前五時四十六分廿二秒の地震
 此地震は最初より緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は八分四十秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前五時五十七分六秒に於て二百六十五「ミクロン」振動期七秒六、南北動は午前五時五十六分四秒に於て百六十二「ミクロン」振動期五秒八を現し後漸次に微となり靜止せり全振動時間は東西動は四十七分二十四秒、南北動は四十七分十秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれば左の如し

水	澤	午前五時四十五分三〇秒
臺	北	同 五時四十六分一六秒
大	阪	同 五時四十六分二二秒
産	櫃	同 五時四十六分四三秒
函	館	同 五時四十七分四〇秒
大	連	同 五時五十五分四九秒

●大正三年中の地震

當所に於て本年中に觀

廿五日	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
廿六日	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
廿七日	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
廿八日	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
全月	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六

管内天気摘要

- 一日前日來の雨午前歇み後概ね曇天 ●二日概ね曇天午後に至り雨降り大阪に強風吹き新庄、茨木に濃霧あり
- 三日概ね晴天午後に至り雨降り茨木に濃霧あり ●四日未明より雨或は雪降り午後に至り歇み尾崎、大阪に強風吹けり ●五日概ね雪降り尾崎、長承寺、大阪に強風吹けり
- 六日概ね晴天尾崎、堺に雪降り尾崎、長承寺、大阪に強風吹き所々に霜あり ●七日概ね晴天尾崎、大阪に強風吹き所々に霜あり ●八日概ね曇天所々に雨降り ●九日未明より雨降り大阪に霰、天王に雪を混し午後に至り歇み尾崎に強風吹き天王に濃霧あり ●十日概ね曇天大阪、池田、茨木に霜、尾崎に強風吹けり ●十一日概ね曇天所

- 々に霜あり正午頃より雨或は雪降り翌日に亘りし所多し ●十二日前日來の雨未明歇み大阪、池田に霜、天王に雪降り ●十三日概ね晴天大阪、富田林に霜、天王に雪降り大阪に強風吹き所々に霜あり ●十四日概ね晴天北部大阪に霜あり ●十六日概ね晴天所々に霜あり妙見山に雪降り尾崎に強風吹けり ●十七日概ね曇天所々に霜、天王に濃霧あり ●十八日概ね晴天所々に霜あり尾崎に強風吹き午後より雨降り翌日に亘る ●十九日前日來の雨一般に雪を混し概ね午前歇む ●二十日概ね晴天所々に霜、尾崎に強風吹けり ●二十一日未明所々に驟雨あり雷鳴を伴ひ長承寺、富田林は霰を混せしが暫時にして晴天となり所

二月	深日	尾崎	岸和	長承	演寺	堺	天王	大阪	福島	新庄	池田	山見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	富田	長野
一日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
二日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
三日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
四日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
五日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
六日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
七日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
八日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
九日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十一日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十二日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十三日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十四日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十五日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十六日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十七日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十八日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
十九日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
二十日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
廿一日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
廿二日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
廿三日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55
廿四日	170	46	44	44	44	44	45	41	41	46	50	45	80	155	40	70	80	41	70	40	70	55

柏原の十五度九を高極とし其他は十五度乃至十三度、北部の山間は十二度乃至九度を示せり又最低は其起日區々なりしが七日及十六日に現はれしもの最も多く其低極は北部妙見山に於て二十八日の零下九度六に下りしを最とし之れに亞くは天王の零下八度〇東郷の零下七度一にして其他山間部は零下六度乃至零下五度平坦及沿海部は零下四度乃至二度を示せり之れを要するに本年二月の氣温は最高十六度〇より最低零下九度六の間にありて其較差二十五度六に達せり

降 水 總量は北部東郷の百六十九耗四全清水の百六十八耗六より東部八尾の九十八耗一の間にあり

第三表 管内 氣象觀測成績

(表中▲印は高又は多)

りて之れを平年に比すれば著しく多量を示し概ね二倍以上にして就中東郷、清水及南部の南端地方は平年の約三倍に達せり而して一日中の最多量は概ね十八日の大雨の際にありて其最も多きは清水の三十八耗〇之れに亞くは池田の三十五耗〇にして其他三十耗以上なりしは深日、堺、妙見山、東郷、富田林、長野の六ヶ所他は二十九耗より二十二耗の間にあり

雷 雨 二十日滿州より南下し來れる低氣壓の敦賀灣沖を通過するに際し本府管内にては西部より南部、南東部に亘りて二十一日午前二時迄雷鳴起り次第に強雷となり且つ大雨を伴ひしか數分にして雷止み雨も亦微となり平穩に復せり

深 日	觀測所		空 氣		溫 度		降 水		天 氣	
	平均	最高最低	平均	最高最低	總量	最多日	午前時(柏原)	午前九時	觀	午前十時天氣
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

廿二日	五、九	六、五	六、八	七、二	八、〇	三、〇	朝霧あり、午前七時より九時三十分迄薄霧あり
廿三日	六、六	七、一	七、三	七、五	八、〇	二、八	午前八時二十八分より降雨斷續して午後七時五十分歇む午後十時より十一時迄強風吹けり
廿四日	七、三	八、一	七、八	七、八	八、二	〇、一	午前一時より二時迄午前十一時より午後五時迄強風吹けり
廿五日	五、八	六、八	七、四	七、八	八、四	四、三	朝霧あり、午後六時五十分より八時二十五分迄月暈現る
廿六日	五、五	六、六	七、三	七、七	八、三	〇、三	午前三時五十分より降雨斷續して午後十時四十三分歇む、午後七時より九時迄強風吹けり
廿七日	八、九	八、三	七、八	七、八	八、四	六、〇	午後四時五十分より小雨斷續して翌曉に亘る
廿八日	五、一	八、二	八、三	八、四	八、五	三、〇	前日來の小雨午前八時四十五分一旦歇む、午後二時三十分より雪霰交降し夜半に至り歇む、午後四時より正午迄強風吹けり
全月	五、〇	六、三	六、六	七、二	八、〇	二、九	

大阪府管内氣象概況

前項に詳悉したるが如く二月は主として西乃至北西の寒風吹き氣温冷却し年中の低極を現すこと多く時々西の寒風雪霰を伴ひ來ることあるも天氣は概して晴燥の日を多しとす然りと雖も下旬に至れば西風減殺し寒氣稍々衰へ温暖となるを常とす今年二月の氣候を調査するに上半月は比較的晴燥の日多く寒氣凜冽にして飛雪芬々として來り下半月に入りては降雨頻々として其跡を踵き時々大雨を蒙注し天候一變して暖濕となり以て月末に至りしが

二十八日には雨雪霰を混し加之西の寒風吹き起り頓に寒冷となり北部妙見山にては月中の最低に達し零下九度六に低下せり而して平均氣温は平年より高く降水量は平年の二倍以上に達したる所多し更に氣温、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は南部深目の六度一、西部福島の

六度〇より北部妙見山の零度四の間において之れを平年に比すれば概して高き方にあり而して最高は二十三日及二十七日に現はれ西部枚方の十六度〇東部

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

二月
 地皮十種二十種三十種六十種
 地中溫度(平均)
 最低地溫
 諸現象の摘要

廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日		
五八	六〇	五九	四八	三六	二七	三九	五二	五二	五二	二六	五六	五二	四九	三四	一六	二九	六二	六四	四九	五八		
七二	六四	五九	五二	五二	五九	六六	六六	六六	六六	六三	六三	六三	六二	五五	四五	六七	七五	六六	六〇	六〇		
七三	六八	六六	六四	六七	六八	七二	六八	六八	六六	六九	六九	六七	六三	五七	六六	七四	八三	八二	八〇	八三		
七八	七二	六七	七八	八〇	八〇	八二	七九	七九	七八	八〇	七九	七七	七七	七九	八二	八四	八三	八二	八〇	八三		
二八	五	五	四五	六	五八	六	〇	三	三	三	二	一	一八	五	六	五	一	〇	〇	二		
午前二時十六分より南西方に雷雲ありしが同三時十五分より電光のみとなり三時五十六分に至る。同三時十分より雨降時。大雨を交へ三時四十五分歇む。午前八時より十時迄及午後五時強風吹けり。夜微霜あり	夜霜あり	朝霜あり。午前十一時二十五分より二時四十分迄日景現る。午後六時十分より小雨霽日に日る	朝霜あり。午前九時三十五分より十時四十五分迄日景現る。夜霜あり	朝霜あり。午前七時五十分より九時三十分迄霧あり。午後零時二十五分より三時三十分迄時。日景現る。夜微霜あり	夜霜あり	夜霜あり	午後一時より三時迄強風吹けり	霧あり。朝微霜あり。正午より午後四時迄及午後十時より十一時迄強風吹けり。午後八時五分より小雨時々霧を交へ八時二十四分歇む	霧あり。朝微霜あり。正午より午後四時迄及午後十時より十一時迄強風吹けり。午後八時五分より小雨時々霧を交へ八時二十四分歇む	朝霜あり。午前十一時三十分より小雨時々霧を交へ翌曉に至る	夜微霜あり	午前一時五分より小雨斷續し時々霧を交へて斷續し八時二十分歇む	午後七時七分より七時十五分迄微雨あり	午前二時より四時迄強風吹けり。午前四時十五分より五時四十五分迄月光環現る。午前十一時四十分より午後零時二十分迄日景現る	朝微霜あり。午前四時より午後十時迄強風吹けり	六時三十分より七時五分迄微雨あり	前日來の降雨斷續して午後三時二十四分歇む。午前十一時より午後一時迄及午後六時強風吹けり。午後六時三十分より七時五分迄微雨あり	午後三時三十分より午後四時三十分迄薄霧あり。午後三時三十分より四時三十分迄月光環現る。午後三時三十分より四時三十分迄日景現る。午後三時三十分より四時三十分迄薄霧あり。午後三時三十分より四時三十分迄日景現る。午後三時三十分より四時三十分迄薄霧あり。	微霜あり。午前四時五分より四時七十分迄月光環現る。午後三時三十分より四時三十分迄薄霧あり。午後三時三十分より四時三十分迄日景現る。午後三時三十分より四時三十分迄薄霧あり。	十分より十時三十分迄小雨。午後五時強風吹けり	前夜來の月景午前三時十分消ゆ。朝霜多し。午前二時十分より九時五十分迄霧あり。午後五時四十分より十時三十分迄薄霧あり。	前日來の小雨午前八時四十分歇む。夜微霜あり。午後八時二十五分より月景現る。翌曉に至る。

七月	廿六日	七、三	一、八	六、五	八、八	三、三	六、	三、三	六、七	西	西南西	六、八	五、三	六、六	二、	三、四
八月	廿五日	七、九	四、九	一、四	三、四	九、六	四、二	六、	二、五	北中	北中	九、六	二、五	六、六	二、	三、三
九月	廿四日	七、九	五、七	一、三	七、五	四、七	五、七	六、	二、二	北	北中	九、四	一、	五、	五、	一、
十月	廿三日	七、六	五、七	一、八	九、七	一、	七、七	四、	三、七	西南西	北	七、四	四、	五、	四、	一、
十一月	廿二日	六、三	三、七	一、四	四、八	一、	四、七	四、	七、	西南西	北北西	七、七	一、	四、	四、	一、
十二月	廿一日	七、五	五、四	一、四	三、	八、一	四、	七、	四、	北北西	北北西	五、八	三、	三、	三、	一、
十三日	廿十日	七、三	五、九	一、三	九、三	一、八	七、四	四、	三、六	西南西	西	三、三	八、六	三、	三、	一、
十四日	廿九日	七、六	六、	一、三	九、五	三、	六、	三、	三、	北	西南西	三、六	七、	三、	三、	一、
十五日	廿八日	七、七	三、	一、六	六、七	一、五	七、	三、	三、	北	北	六、九	三、	三、	三、	一、
十六日	廿七日	七、七	三、	一、九	八、五	一、八	一、	三、	二、九	西南西	北	五、五	七、	一、	一、	一、
十七日	廿六日	七、八	三、	一、三	六、六	三、	七、	四、	一、	北	北	五、	一、	一、	一、	一、
十八日	廿五日	七、六	四、	全、	一、	二、	四、	六、	三、	北北东	北	七、	六、	一、	一、	一、
十九日	廿四日	七、三	四、八	〇、三	八、九	一、	七、	五、	二、	西	北	七、	二、	〇、	三、	一、
二十日	廿三日	七、三	六、	〇、五	三、九	〇、	二、	七、	〇、	西南	东	九、	六、	三、	三、	一、
廿一日	廿二日	七、四	七、	〇、七	二、	三、	八、九	四、	三、	西	西	三、	六、	三、	一、	一、
廿二日	廿一日	七、三	五、	〇、	一、	四、	一、	四、	二、	西南	北北东	三、	八、	三、	三、	一、
廿三日	廿十日	六、七	八、	一、	三、	四、	七、	六、	一、	北中	北中	三、	一、	三、	三、	一、
廿四日	廿九日	七、五	八、	二、	二、	九、	八、	五、	三、	北	北	三、	九、	三、	三、	一、
廿五日	廿八日	七、二	五、	一、	一、	一、	八、	三、	五、	北	北	三、	九、	三、	三、	一、
廿六日	廿七日	七、四	六、	〇、	九、	三、	六、	五、	七、	北北东	北北东	三、	七、	三、	三、	一、
廿七日	廿六日	七、七	九、	三、	三、	八、	五、	七、	二、	北中	北中	三、	七、	三、	三、	一、
廿八日	廿五日	七、五	四、	二、	三、	一、	一、	四、	二、	西	西	三、	一、	三、	三、	一、
全月		七、	五、	〇、	九、	一、	七、	四、	三、	西	北中	六、	二、	三、	三、	一、

正午	午後										
	一時	二時	三時	四時	五時	六時	七時	八時	九時	十時	十一時
七三、七	七三、八	七三、三	七二、七	七二、二	七一、五	七一、〇	七〇、五	七〇、〇	六九、五	六八、八	六八、二
七五、五	七九、一	八二、五	七八、〇	七五、四	六九、六	六三、九	五八、四	五三、八	四九、一	四四、六	四〇、〇
四八、八	四八、八	四七、七	四六、七	四六、四	四六、六	四六、七	四六、五	四六、八	四六、八	四六、七	四六、〇
六一、五	六一、八	五六、九	六〇、九	六〇、四	六〇、六	六〇、四	六〇、五	六〇、五	六〇、二	六〇、一	五九、四
三、〇	三、二	三、三	三、三	三、二							
六、五八	六、五五	六、四三	六、四三	六、三三	六、二七	六、二九	六、二九	六、二九	六、二九	六、二九	六、二九
七、〇	六、七	七、四	七、六	七、三	七、〇	六、八	六、八	六、五	六、五	六、五	六、三
一五、九五	一三、七〇	一四、九五	一三、四〇	一二、五	八、九〇	一、九〇	—	—	—	—	—
四、四	四、一	三、八	一、三	七、四	七、四	四、一	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三
一〇、七五	一一、二	一一、九	九、九	七、九	七、〇	六、九	六、九	六、九	六、八	六、八	六、八
五、大	六、五	六、二七	六、四	六、七六	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	六、八	六、八	六、八
六、三九	六、二四	六、三九	六、九六	六、六七	六、六七	六、六七	六、六七	六、六五	六、六五	六、六五	六、六五
六、九	六、〇	六、九六	六、〇	六、〇	六、〇	六、〇	六、〇	六、〇	六、〇	六、〇	六、〇
八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇

第二表 大阪每日氣象觀測成績の一 (表中▲印ハ高又ハ多)

二月	平均氣壓		最高氣度	最低氣度	水蒸氣平均張力	平均濕度	平均飽差	平均速度	最大速度	全方向上最	風向	平均雲量	日照時數	降水量	蒸發量
	本年	前年比較													
一月一日	七五、七	五八、▲	〇、三	二、六	五八	八七	一、〇	三、五	四、八	北	北	六、九	二、一	七、六	一、五
二月一日	七四、三	五七、▲	一、五	二、〇	五九	八七	一、〇	三、六	三、〇	北	北	九、五	二、五	七、二	〇、八
三月一日	七六、四	七六、▲	二、三	二、五	六五	八四	一、五	三、九	五、九	北東	北東	五、五	四、四	五、五	〇、九
四月一日	七五、〇	七六、▲	二、二	二、九	六四	八〇	一、六	七、五	六、四	北東	北東	七、六	三、一	五、六	一、八
五月一日	七五、七	七六、▲	二、三	二、五	六四	八〇	一、六	七、五	六、四	北東	北東	七、六	三、一	五、六	一、八
六月一日	七六、〇	七六、▲	二、三	二、五	六四	八〇	一、六	七、五	六、四	北東	北東	七、六	三、一	五、六	一、八

じ最低は地皮にありては午前六時地中十糎にありて
 は午前九時同二十糎にありては午前十時乃至正午同
 三十糎にありては午後一時に生せり之れに依りて地
 皮より地中に熱の傳達する極概を知るを得べし
 最低地温 平均は零下二度二五にして半年に比すれ
 ば零度八九低く月中の最低は六日午前一時の零下六
 度四なり其最低の零下に降りたる日数は二十二日に

して半年に比すれば二日多し
 天気日數 快晴は例年二日ありしも本年は一日も
 なく曇天は七日にして半年より一日多く霜は十八日
 にして半年より四日多く雪は三日にして半年より一
 日少く霰は一日にして半年に等しく電雷は例年なか
 りしも本年は一回ありたり
 尙詳細は左に掲ぐる氣象觀測成績表を参照すべし

第一表 大阪毎時氣象觀測成績

前 午	二 月		地 中 温 度 (平均)											
	平 均 氣 壓	平 均 氣 温	平 均 水 蒸 氣 張 力	平 均 温 度	平 均 飽 差	平 均 風 速 度	平 均 雲 量	日 照 時 數	降 水 量	地 皮	地 下 十 糎	地 下 二十 糎	地 下 三十 糎	地 下 六十 糎
一 時	七 六 ・ 五	三 八 ・ 四	四 八 ・ 八	六 七 ・ 七	一 三 ・ 四	三 八 ・ 八	五 四 ・ 〇	一	六 〇 ・ 〇	六 五 ・ 五	六 六 ・ 六	六 七 ・ 七	七 〇 ・ 六	八 ・ 四
二 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 六	四 八 ・ 九	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 七	五 三 ・ 〇	一	五 七 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 七	六 七 ・ 八	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
三 時	七 六 ・ 〇	三 八 ・ 四	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 五	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
四 時	七 六 ・ 二	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
五 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
六 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
七 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
八 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
九 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
十 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五
十 一 時	七 六 ・ 三	三 八 ・ 三	四 八 ・ 七	六 七 ・ 七	一 三 ・ 三	三 八 ・ 九	五 三 ・ 〇	一	五 九 ・ 〇	六 四 ・ 六	六 六 ・ 八	六 七 ・ 九	七 〇 ・ 五	八 ・ 五

二十八耗一、一時間の最多量は二十三日午後六時の十耗〇なり

地中温度及最低地温

地皮温度の平均は五度〇

二にして平年に比すれば零度九二低く月中の最高は二十二日正午乃至午後一時の十六度一最低は七日午前四時より六時及七時の零下一度三なり、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後一時にありて十一度四一、最低は午前六時にありて一度九八を示し其較差は九度四三なり

地中十糶の温度 平均は六度一八にして平年に比すれば零度〇七低く月中の最高は二十七日午後六時及七時の九度三、最低は七日午前十時の三度〇なり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後六時にありて七度一〇、最低は午前九時にありて五度三一を示し其較差は一度七九なり

地中二十糶の温度 平均は六度五八にして平年に比すれば零度〇九高く月中の最高は二十八日午前四時及五時の八度六、最低は七日午前十時乃至午後二時

の四度六なり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後九時にありて六度八七、最低は午前十時乃至正午にありて六度二九を示し其較差は零度五八なり

地中三十糶の温度 平均は七度〇七にして平年に比すれば零度一七高く月中の最高は二十八日午前三時乃至十時の八度五、最低は七日正午より午後五時の五度八なり又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は夜半にありて七度二二最低は午後一時にありて六度九六を示し其較差は零度二六なり

地中六十糶の温度 平均は八度〇四にして平年に比すれば零度二一高く月中の最高は二十八日午後六時乃至夜半の八度七、最低は十九日午前七時乃至十時の七度六なり但し此深さにありては殆ど一日中の變化を認め難し

以上列記する地中温度を通観するに最高は地皮にありては午後一時地中十糶にありては午後六時同二十糶にありては午後九時同三十糶にありては夜半に生

度〇四なり

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

四耗〇八にして平年に比すれば零耗〇九低く最大は
 二十七日午後九時の八耗八最少は六日午後五時の二
 耗〇なり而して月平均に就きて一日中の變化を見る
 に最大は午後一時にありて四耗八八、最小は午前六
 時にありて四耗六一を示し其較差は零耗二七なり
 濕度の平均は七十一、四にして平年に比すれば〇、
 三多く月中の最少は二十五日午後三時の三十六なり
 而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最多は
 午前五時にありて八十、一最少は午後四時にありて
 六十、四を示し其較差は十九、七なり
 飽差の平均は每立方米中二瓦〇二にして平年に比す
 れば零瓦〇七多く月中の最多は二十四日午後二時の
 六瓦四、最少は二十七日午後八時及九時の零瓦一な
 り、而して月平均に就きて一日中の變化を見るに最
 多は午後二時にありて三瓦四二、最少は午前七時に
 ありて一瓦二二を示し其較差は二瓦二〇なり

風

平均速度は毎秒五米三三にして平年に比すれば

零米一八弱く月中の最大速度は二十八日午後一時の
 毎秒速度二十一米四（一間平方面を垂直に壓する力
 は四十八貫五百目に當る）の西風なり又強風以上の
 吹きたる日數は十二日にして平年に比すれば二日少
 く其吹續時間は八十三時にして平年に比すれば二十
 八時少し又月平均に就きて一日中の變化を見るに最
 大は午後四時にありて七米一四、最小は午前二時に
 ありて三米七〇を示し其較差は三米四四なり風向は
 北及北東風最も多く西風之れに亞き南東風は少し之
 れを平年に比すれば北風は多く其他の風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は六、三にして平

年に比すれば〇、七多く日照時數は百二十二時九五
 にして平年に比すれば十九時九〇少く一日中日照時
 間の最も長かりしは二十五日の九時九〇なり

降水及蒸發量

降水日數は十六日にして平年に

比すれば四日少く其水量は二十二耗〇にして平年に
 比すれば四十七耗八少し又一日中の最多量は四日の

大阪測候所月報

大正四年 月 大 阪 氣 象 概 況

二月は冬期の特態を呈し大陸の氣壓は著しく增高し一大高氣壓を生じ北海道の東方に低壓部ありて氣壓の傾斜は頗る急峻となり西乃至北西風増勢し氣候は此風に支配せられ寒冷となり雪霰を降らし濃霜堅氷を生じ氣温は一年中の低極に達するを當地方の常態とす、然り而して本年二月の氣候を調査するに氣温は平年より概して高くして日照時數は少く降水日數及其水量は多く強風以上の吹きたる日數は少し

今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百六十三耗〇七にして平年に

比すれば二耗〇一低く日々の変化は氣象圖に示すが

如く顯著なる昇降は五回あり、而して月中の最高は

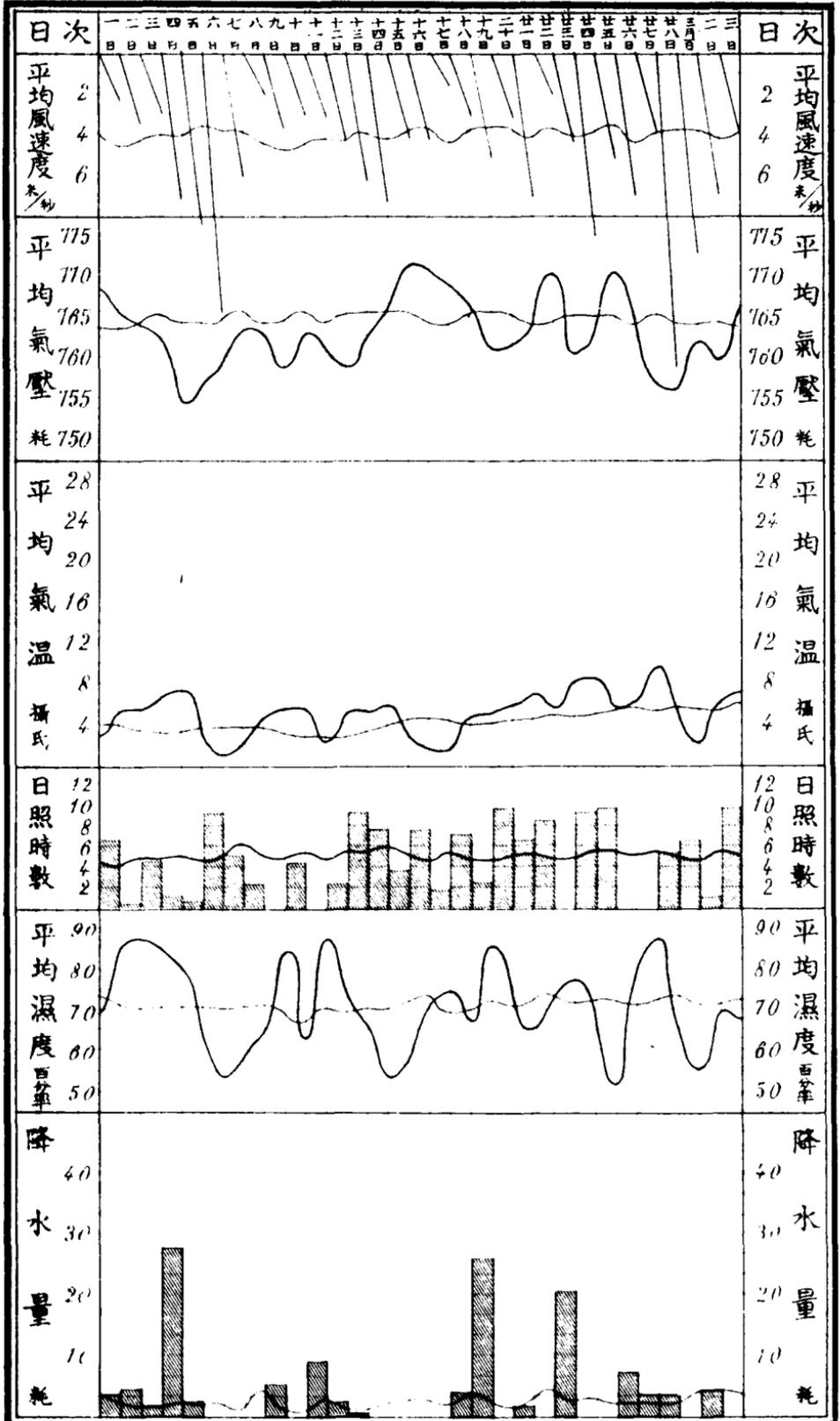
十五日午前十時の七百七十二耗七最低は四日午前十

氣 温 平均は五度二七にして平年に比すれば

一時の七百五十耗六なり、又月平均に就き一日中の變化を見るに第一の最高は午前九時にありて七百六十三耗七四、第一の最低は午後三時にありて七百六十二耗一二又第二の最高は午前一時にありて七百六十三耗五三、第二の最低は午前四時にありて七百六十三耗〇五を示し其主なる最高低の較差は一耗六二なり

〇度二五低く平均氣温日々の變化は氣象圖に示すが如く六回の昇降ありしも概して平年より高し而して最高は二十七日午後二時の十三度二、最低は七日午前七時の零下二度五なり其零下に降りたる日數は八日にして平年より八日少し又月平均に就きて一日中の變化を見るに最高は午後二時にありて八度一五、最低は午前七時にありて三度一一を示し其較差は五

本圖ハ日平均又ハ合計ニ依リテ編製ス 風速度、氣壓、氣温、濕度、ハ本年——平年——日照時數ハ本年——平年——降水量ハ本年——平年——



例言

一 本報は常測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者なり但し日々の觀測は常測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一 氣壓、水蒸氣の攝力及蒸發量は靴(曲尺三厘毫)を以て示す

一 溫度は凡て攝氏の度を用ふる零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふへし

一 最高溫度及降水量并に蒸發量の當日午前十時に觀測したるものば之れを前日に繰上げて記入せり

一 飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(ギラム)忽(二七)にて示す

一 濕度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す

一 降水量は靴を以て其深さを測り之を記す、但し一靴は一步面に水量一升八合三勺を撒布したるに相當す

一 露量は十分率を以て示す

一 風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり

一 風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜權にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かさるもの一は軟風にして人を令して風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一 風向は北北東、東、南、南西、西、北西の八方位に區分す

一 天氣日數中雨とは雨雪霰露の何たるに拘らず降水量一靴の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

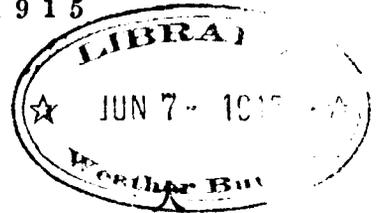
大阪府管内氣象觀測所位置

氣象觀測所	國	郡市	町	村	緯度東經	北緯	觀測主任
深日	和泉	南郡	深日村		三五度〇九分	三四度一九分	北野孝徳
尾崎	和泉	南郡	尾崎村		三五度一六分	三四度二二分	高尾清次
岸和田	和泉	南郡	岸和田町		三五度二三分	三四度二七分	森内清次
長承寺	和泉	北郡	長承寺村		三五度二七分	三四度三二分	前川由太郎
濱寺	和泉	北郡	濱寺村		三五度二六分	三四度三二分	今井富次
天王寺	大阪	市	天王寺町		三五度二九分	三四度三五分	吉村正輔
大坂	大阪	市	大坂市	西區一條通	三五度二六分	三四度三九分	加藤昭純
新島	大阪	市	新島北區	上福島	三五度二九分	三四度四二分	府立大阪一審測候所
池田	豐能	郡	池田町		三五度二六分	三四度四五分	植田靈
妙見	豐能	郡	妙見町		三五度二八分	三四度五五分	笹部文二
東郷	豐能	郡	東郷町		三五度二九分	三四度五七分	阪部文二
天智	豐能	郡	天智町		三五度二三分	三四度〇二分	山田四郎
茨木	豐能	郡	茨木町		三五度二三分	三四度五七分	鈴木重男
清洲	三島	郡	清洲町		三五度三六分	三四度四九分	太田宗太郎
枚方	三島	郡	枚方町		三五度三九分	三四度五三分	山本義一
田原	三島	郡	田原町		三五度四二分	三四度四九分	家村八五郎
八尾	中河内	郡	八尾町		三五度三六分	三四度四三分	東尾重藏
柏原	中河内	郡	柏原町		三五度三六分	三四度三三分	水谷芳松
富田	南河内	郡	富田町		三五度三七分	三四度三五分	畿内農事試驗支場
長野	南河内	郡	長野町		三五度三七分	三四度三〇分	塔本寺太郎
長野	南河内	郡	長野町		三五度三五分	三四度二七分	松本速水

Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory.

February

1915



大阪測候所月報

正四年二月

第拾六年第貳號

目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 本年大阪地震觀測概況
- 大正三年中ノ地震
- 二月中ノ暴風概況
- 鹿兒島灣ノ潮位增昇
- 鹿兒島附近ノ土地低下
- 月暈并幻月
- 淀川ノ水位
- 地方天氣豫報暴風警報適否

大正四年四月十五日印刷
全 年四月十八日發行

府立大阪一等測候所

(電話西八九七番)

大阪市西區江月堀下通三丁目二十五番地

印刷所 合資會社三交堂

(電話土佐堀三三四一番)

地方天氣豫報暴風警報信號標所在地

所 名	國 郡 市 町 村	緯 度 東 經	北 緯	東 經	取 扱 官 衙
谷川	和泉國泉南郡多奈川村	百三十五度九分	三十四度十九分		安治川水上警察署谷川港水上巡査出張所
尾崎	和泉國泉南郡尾崎村	百三十五度十六分	三十四度二十二分		岸和田警察署尾崎分署
佐野	和泉國泉南郡佐野町	百三十五度十九分	三十四度二十五分		泉南郡佐野町役場
岸和田	和泉國泉南郡岸和田町	百三十五度二十一分	三十四度二十七分		安治川水上警察署岸和田港水上巡査出張所
堺	和泉國堺市吾妻橋通	百三十五度二十七分	三十四度三十五分		安治川水上警察署本署出張所
本津川	攝津國大阪府西區南堀江	百三十五度二十九分	三十四度四十分		安治川水上警察署本署出張所
北加賀屋	攝津國東成郡敷津村	百三十五度二十八分	三十四度三十七分		全日本分署北加賀屋水上巡査出張所
雅波島	攝津國大阪府西區中目町	百三十五度二十九分	三十四度三十九分		全日本分署雅波島水上巡査出張所
安治川	攝津國大阪府北區安治通	百三十五度二十八分	三十四度四十一分		安治川水上警察署三保町分署
天保町	攝津國大阪府西區天保町	百三十五度二十六分	三十四度三十九分		安治川水上警察署三保町分署
大阪	攝津國大阪府西區一條通	百三十五度二十七分	三十四度四十一分		十三橋警察署傳法分署
傳法	攝津國豐能郡東郷村	百三十五度二十九分	三十四度五十七分		豐能郡東郷町役場

淀川の水位

三島郡島本村大字廣瀬ノ累年平均水位 二尺二寸二分
 北河内郡庭窪村大字大日ノ累年平均水位 二尺〇寸七分

一月	廣瀬		大日		一月	廣瀬		大日	
	午前六時	午後六時	午前六時	午後六時		午前六時	午後六時	午前六時	午後六時
一月一日	一〇〇	〇九	〇七	〇六	十一月一日	二一〇	三〇	二一〇	二九
一月二日	一〇五	〇六	〇七	〇六	十一月二日	二一五	三〇	二一五	二九
一月三日	〇九	〇六	〇六	〇五	十一月三日	二二〇	三〇	二二〇	二九
一月四日	〇九	〇六	〇五	〇四	十一月四日	二二五	三〇	二二五	二九
一月五日	〇九	〇五	〇五	〇四	十一月五日	二三〇	三〇	二三〇	二九
一月六日	〇九	〇五	〇五	〇四	十一月六日	二三五	三〇	二三五	二九
一月七日	〇九	〇五	〇五	〇四	十一月七日	二四〇	三〇	二四〇	二九
一月八日	〇九	〇五	〇五	〇四	十一月八日	二四五	三〇	二四五	二九
一月九日	〇九	〇五	〇五	〇四	十一月九日	二五〇	三〇	二五〇	二九
一月十日	〇九	〇五	〇五	〇四	十一月十日	二五五	三〇	二五五	二九

平均水位 廣瀬一尺五寸九分
 最高水位 三尺五寸
 (十二日午前六時)

大日一尺六寸一分
 三尺七寸八分(十二日午後六時)

地方天氣豫報暴風警報適否調査

種類	發布數	正中	偏中	不中	正中百 分比例
----	-----	----	----	----	------------

天氣豫報
 風向
 風度
 暴風警報

三	三	四	〇	〇	八五
三	二	一	〇	〇	九四
〇	〇	〇	〇	〇	一〇〇

大阪府告示第九十九號

大阪市西區天保町水上警察分署構内設置ノ地方天氣豫報暴風警報信號柱信號標ハ三月二十日ヨリ揚卸ノ中止

ナシタリ

大正四年三月廿五日

大阪府知事

大久保利武

例へば天氣晴朗の際に於ては重砲隊の如きは豫定の進行をなし得べきも、天候不良の際に於ては豫定の倍時間を費しても猶ほ其目的地に進軍する能はざること屢々あり、或は之に反して戦路上雨雪濃霧等を利用して却つて利益を收むることも尠からず殊に濃霧の如きは軍隊の行動には最も便利にして、現に「ナミュール」の包圍の際の如きは、當時獨逸軍は砲火にも探照燈にも妨げらるゝことなくして有利なる地點に巨砲を運搬することが出来、其結果として、同市の陥落をして豫定以上に早からしむることを得たのであつた、其他風の強い豫報は飛行機偵察上に大關係を及ぼすものなるを以て、斯の如き際には司令官は飛行機の報告に期待することなく之に代ふるに出来得る限り騎兵斥候を以てすることに努めるのであつて、今回の天氣豫報隊の使用は殊の外軍隊の行動上に大影響を有するものであることを證明したものである。(萬朝報)

●三寒四暖の説

三寒四暖なる俚言は、廣く支那

朝鮮に行はれる所から見ると、其の起源は支那にある、併しこれは寒暖急變の狀を形容した語句に過ぎない、通俗に云ふと前三日寒冷なれば、後四日溫暖であるとの迷言であつて其の事實を認め得ない、蓋し冬季亞細亞東部に顯出する高氣壓は世界で有名であつて、特に其の高度八百耗に達する、滿洲、北朝鮮でも内地よりは二十耗も高度である、高氣壓の特徴は、天空清明、空氣乾燥、風力微弱になる、故に地熱の放散は速かで、氣温も著しく下降する、併し風力加はれば氣温下降は甚だしくなくとも、身體に感ずる寒さは却つて嚴酷となる、吾人の感ずる寒威は一定時に皮膚から離脱する熱量の多寡に關し、外氣温の高低のみに左右せられない、吾人は無風の時は氣温低きに拘はらず大いに寒さを感じないが、氣温稍高くとも乾風加はれば寒威が膚を刺す、殊に汗腺の集合せる鼻尖耳朶等に於て一層之を感ずる、又草木の被害も之と同理である

一月十五日	午後八時	表六九	二五	西	一四四	快晴	一月十六日	午前二時	表六九	一五	西	三三	快晴
全	全九時	表六九	二二	西	三三	快晴	全	全三時	表六九	一五	西	三三	快晴
全	全十時	表六九	一九	西	三九	快晴	全	全四時	表六九	二七	西	二八	快晴
全	全十一時	表六九	一九	西	三六	快晴	全	全五時	表六八	二三	西	二二	快晴
全	夜半	表六九	二七	西	三〇	快晴	全	全六時	表六二	二三	西	九五	快晴
一月十六日	午前一時	表六九	二七	西	二四	快晴							快晴

(三) 二月二十八日より三十日に至る暴風概況 一月二十

六日大陸低氣壓は揚子江上流に顯はれ北東に進み二十七日黃海に來り朝鮮中部を横切り二十八日、日本海を通過し二十九日樺太附近に經過し去れり、此の低氣壓は二十七日黃海にありし時は七百六十二耗なりしが二十八日、日本海中部に來りたる時は七百五十二耗となり、更に進で二十九日樺太南部に到りたる時は七百四十六耗となり、當時高氣壓は支那北部にありて七百七十六耗以上を示し本邦に壓迫し來りたる故に一帶に西乃至北西の強烈風吹き起れり
 大阪にては廿八日朝來北乃至北東の軟乃至和風吹き曇天にして時々降雨ありしが午後に至り風向西に轉じ風力稍々加はり午後四時乃至五時には強風となりしが又

減力し疾風となり二十九日午前三時頃より西の強風吹き起り晴天となり、午前七時乃至八時は最も強く毎秒速度十九米五に達し後稍々減力せしも三十日午前一時まで強烈風吹き續けり其の吹續時間は二十二時間にして、内強風十三時、烈風九時なり、但し氣壓は二十八日午後一時乃至二時に於て最低七百五十二耗八を示せり

● 歐州大戰と天氣豫報 今回の大戦に際して、

獨逸軍は最初から天氣豫報隊を使用しつゝ、あるとは嘗て報道したが、聯合軍に於ても熟練なる技師を選抜して二十四時間前に天候を測知すべき部隊を本部に隷屬せしめてゐるのである、蓋し近代戰爭に於ては天候の豫報といふことは總司令官にとりては極めて必要なことであつて

時間強烈風吹き續けり其總吹給時間は七十六時間にし
 て内強風は廿八時、烈風は四十八時、又最も強かりしは
 十三日午前五時四十分より六時に至る間にありて毎秒
 廿三米三なり、斯くの如く強風以上の長く吹き續きたる
 は甚だ稀なる現象にして當所にて毎時觀測開始以來廿

五年間に於て、大正二年二月七日より十一日に至る百時
 間を最とし之に亞は明治卅三年十二月七日より十日に
 至る七十六時間、全四十二年十二月八日より十二日に至
 る七十六時間と今回の七十六時間と都合四回あるのみ
 更に毎時觀測の結果を表記すれば左の如し

月	日	時	氣壓	氣溫	風向	風速	降水量	天氣
一月	十二日	午前六時	七五・二	一五	東北東	二・六	—	快晴
全	全	七時	七五・〇	一五	北北東	二・五	—	快晴
全	全	八時	七四・五	一六	北北東	二・二	—	快晴
全	全	九時	七四・三	四二	北東	三・七	—	快晴
全	全	十時	七四・六	六六	北東	三・五	—	快晴
全	全	十一時	七四・三	八七	北北東	二・八	—	快晴
全	全	正午	七四・六	一一	西南西	三・二	—	曇
全	全	午後一時	七四・六	二二	西	七・八	—	曇
全	全	二時	七四・六	二六	西	八・〇	—	快晴
全	全	三時	七四・六	二四	西	八・三	—	曇
全	全	四時	七四・八	二七	西	八・三	—	曇
全	全	五時	七四・七	二二	西南西	二・二	—	晴
全	全	六時	七四・七	二二	西南西	二・七	—	曇
全	全	七時	七四・七	二二	西	三・二	—	快晴
全	全	八時	七四・六	一九	西	三・四	—	快晴
全	全	九時	七四・四	一九	西	三・四	—	雨
全	全	十時	七四・九	八三	西	三・六	〇・〇	曇
全	全	十一時	七五・〇	七九	西南西	二・六	〇・八	雨
一月	十三日	夜半	七五・三	七	西南西	七・〇	—	雨
全	全	午前一時	七五・六	六	西	六・八	—	雨
全	全	二時	七五・八	六	西	六・六	—	快晴
全	全	三時	七五・八	五	西	七・七	—	曇
全	全	四時	七五・八	四	西	七・〇	—	快晴
全	全	五時	七五・三	三	西	五・八	—	快晴
全	全	六時	七五・一	三	西	三・六	—	快晴
全	全	七時	七五・一	三	西	三・六	—	快晴
全	全	八時	七五・一	三	西	五・四	—	晴
全	全	九時	七五・八	二	西	六・九	—	曇
全	全	十時	七五・一	二	西	六・九	—	晴
全	全	十一時	七五・七	二	西	九・九	—	晴
全	全	正午	七五・九	二	西	七・七	—	晴
全	全	午後一時	七五・四	二	西	六・三	—	晴
全	全	二時	七五・三	二	西	六・三	—	晴
全	全	三時	七五・六	二	西	六・三	—	晴
全	全	四時	七五・七	二	西	六・三	—	快晴
全	全	五時	七五・八	二	西	六・九	—	快晴

今回の暴風は稀に見る所なるが故に爰に當所創立以來三十二年間の最大風速度毎秒三十米以上に達したるものを

列記し對照に使せん

年	月	日	種	日	氣	壓	最	低	最大速度	全上方向	時	間	強	風	全	上	以	始	上	終	時	吹	強	積	風	時	間	風	烈	風	吹	風							
明治十八年	七月	一日			七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	四	一六時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一						
全	二十一年	八月	三十一日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	東北東	一六時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一						
全	二十九年	八月	三十日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	北西	一六時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一	三	一				
全	四十四年	六月	十九日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	南西	九時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一		
全	大正元年	九月	二十三日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	西南西	一九時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一		
全	二年	十月	三日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	北北東	七時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一
全	二年	十二月	十七日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	西	二三時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一
全	三年	一月	七日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	西	三二時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一
全	四年	一月	八日		七六〇	七五三	七五八	七五三	七五三	西	二六時	一	自三十一	自三十一	日	午後	九時	四時	九時	一時	一時	吹	一	五	一	八	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一

(二) 二月十二日より十六日に至る暴風概況 一月十二日

陸低氣壓は日本海の中に現はれ北東に進み十三日朝宗谷海峡を通過し阿哥斯克海に入れり、此の低氣壓は北東に進むに従ひ著しく發達し北海道附近に到りたる頃は其中心示度七百三十四耗に降り、高氣壓は蒙古方面にありては七百八十耗以上を示し氣壓の傾斜は著しく急となり爲めに本邦一帯に西乃至北西の強烈風吹き起り、颶風に達したる所も尠からず、本邦は寒氣甚

だしく、降雪あり就中日本海に面せる地方は特に甚だしく來近稀なる暴風雪となり積雪多くして瀛車の遅延、電氣電話の不通、車馬通行杜絶等枚擧に遑あらず大阪にては十二日朝來北東の軟風吹き快晴なりしが正午頃風向北東より西に逆轉し俄然風力加はり午後五時より強風となり漸次増勢し十四日夜半に至る五十六時間強烈風吹き續き十五日午前一時頃より風力減殺せしが全九時より又強風となり、十六日午前五時に至る二十

、烈風は十二時間、颶風は一時間なり、斯の如き暴風は夏秋季に熱帯颶風の襲來せし時には往々あれども冬季而も寒中には稀なる現象にして大正三年一月七日に亞く所の暴風なり

天氣 六日朝來好晴なりしが午後一時頃より卷層雲現はれ漸次滿天を蔽ひ曇天となり、全十時四十分より翌七日午前前三時三十八分まで月暈現はれ爾後上層雲は漸

次垂下し濃密となり午後一時五十分より雨降り始め八日午前二時十五分歇みしが、西の強風吹き起り倍々増勢し午後零時五十分より再び降雨となり、一時は暴風雨となりしが全十時二十五分雨歇む、然れども西の強風は尙吹き續き時々驟雨ありしが九日午後零時五十二分全く歇む、此總雨量は十六粒六なり更に毎時觀測の結果を表記すれば左の如し

月	日	時	氣壓	氣溫	風向	風速	降水量	天氣	月	日	時	氣壓	氣溫	風向	風速	降水量	天氣
全	一月八日	午前一時	七五八	七三	西南西	三八	三	雨	全	一月八日	午後三時	七六四	七三	西	五八	三	雨
全		午前二時	七五七	六三	西	八七	七	雨	全		午後三時	七五九	七三	西	三三	三	雨
全		午前三時	七五五	六二	西南西	九六	〇	曇	全		三十分	七六五	七三	西	三〇	三	雨
全		午前四時	七五二	六二	西	九四	〇	曇	全		四時	七六五	七三	西	三〇	〇	曇
全		午前五時	七五〇	六二	西南西	八八	〇	曇	全		五時	七六九	七三	西	三二	〇	曇
全		午前六時	七五〇	六二	西	八八	〇	曇	全		六時	七六八	七三	西	三二	〇	曇
全		午前七時	七五二	六二	西	八八	〇	曇	全		七時	七六八	七三	西	三二	〇	曇
全		午前八時	七五五	六三	西	八八	〇	曇	全		八時	七五三	七三	西	三三	〇	曇
全		午前九時	七五〇	六三	西	八八	〇	曇	全		九時	七五四	七三	西	三三	〇	曇
全		午前十時	七五〇	六三	西	八八	〇	曇	全		十時	七五四	七三	西	三三	〇	曇
全		午前十一時	七五〇	六三	西	八八	〇	曇	全		十一時	七五九	七三	西	三三	〇	曇
全		午後零時	七四八	九三	西南西	七五	〇	晴	全	一月九日	午前一時	七六〇	七三	西北北	三三	〇	曇
全		午後零時	七四八	九三	西南西	七五	〇	晴	全		午後二時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後一時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後三時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後二時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後四時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後三時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後四時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後四時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後五時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後五時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後六時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後六時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後七時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後七時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後八時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後八時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後九時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後九時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後十時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後十時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後十一時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇
全		午後十一時	七四八	九三	西南西	七五	〇	曇	全		午後十二時	七六〇	七三	西	三三	〇	曇

全	四十四年	四六	一五七	二五	一四	一六六	五三	三	二	一四	七四	西南四	二四
全	四十五年	四六	一五〇	二五	六	一六〇	三四	八	五	四	三〇	四	二
全	二年	四九	二四〇	二二	二	一四〇	四九	六	四	元	三四	四	二
全	三年	五〇	二五九	一五	八	一六三	三六	八	六	三	三四	四	二
全	四年	四五	一四七	四七	九	一五三	九	一	八	元	三四	四	二
平	年	四〇	一三五	三〇	三	一四四	四九	九	四	元	三九	四	二

● 一月中の暴風概況

一月は西の季節風旺盛な

る時にして年々此季節には暴風多かりしも本年一月八日九日(一)には稀なる強大なる風速度毎秒三十米四に達し、又十二日より十六日に至る間(二)に於ては實に七十六時間の長時間に亘り強烈風吹き續けり、其他二十八日より三十日に至る間(三)にも稍々顯著なる暴風ありたり、其概況は左に記するが如し

(一) 一月八日、九日の暴風概況 一月六日颱風は八重山列

島の南方に現はれ北東に進み七日本邦南海岸の遙なる

沖合に來り同夜八丈島附近を通過し八日の朝犬吠岬の

東方海上を経て太平洋上に去れり、此の颱風通過に際

し本邦一帯に風雨あり、東海道沿岸にては、暴風雨と

なりたる所多く多少被害あり、潮岬にては八日午後六

時風速度毎秒三十六米七に達し、銚子にては同日午前

四時三十分風速度毎秒三十三米二に達したり、

今大阪の氣象測を概記すれば左の如し

氣壓 六日午前六時には七百七十耗二の高度を示せし

が漸次下降し、七日午前一時頃より稍々下降急となり

、八日午前一時に至るに二十四時間に十六耗九の下降

を示し後一高一低定らざりしが全十時頃より再び急降

し午後三時七百四十六耗四の最低に達したり、此の五

時間に低下すること五耗六にして爾後漸次上昇せり

風 六日朝來方向區々の軟乃至和風吹き夜半風向北東

となり、和乃至疾風吹きしが、八日午前一時風向西に

逆轉し俄然風力増勢し全五時より強風となり全九時に

は烈風に達し吹き續き午後七時最も強く毎秒速度三十

米四に達し後稍々減力せしも強風は九日午後四時に到

れり、其吹續時間は廿六時間にして内強風は十三時間

一月二十三日	四九	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 二十四日	三八	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 二十五日	三七	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 二十六日	四六	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 二十七日	七七	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 二十八日	二〇	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 二十九日	五〇	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 三十日	一八	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 三十一日	二六	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
二月一日	五二	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 二日	五七	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 三日	七六	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
全 四日	七八	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
平均又ハ合計	四九	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

●又最近十年間の氣象を記列すれば左の如し

年種	空氣の溫度				日照時數			降水		降雪		結霜		風		
次目	平均	最高	最低	零下ノ日數	日	時數	總日數	日數	日數	日數	日數	日數	日數	最大速度	方向	強風日數
明治三十八年	五、六	三〇、〇	三、五	七	一一三、六	二	六六八	二	一	一九	三	五	三、五	四		五
全 三十九年	六、一	三二、四	三、三	六	一一四、五	二	一四九	二	一	一九	三	五	八、五	四		五
全 四十年	五、〇	二八、八	三、三	六	一一五、五	二	一五六	二	一	一九	三	五	五、六	四		五
全 四十一年	四、八	二七、九	三、三	六	一一三、一	二	一五六	二	一	一九	三	五	三、六	四		五
全 四十二年	四、一	二六、六	二、四	九	一一〇、六	二	一五九	二	一	一九	三	五	四、五	四		五
全 四十三年	四、九	二六、〇	二、八	一〇	一一三、九	二	一六九	二	一	一九	三	五	四、九	四		五

量は平年より多く殆ど二倍に達せり、然れども多くは夜間に於て降雨ありしが故に日照時数は平年より稍々多く之を要するに本年寒中は西の季節風稍々多くして風力も亦稍々強く、強烈風の吹續時間も長かりしが氣候は概し

て温暖の方なりし 今日々の気温日照時数を平年及昨年無比併せて昨今兩年の降水量を列記し其詳細を示さんとす(但し表中▲印は高又は多を示す)

月 日	平 年		最 高		最 度		日 照		降 水	
	平年より	昨年より	本年より	昨年より	本年より	昨年より	本年より	昨年より	本年	昨年
一月六日	四〇	三三	九七	▲ 〇三	三三	二〇	八三	▲ 三六	▲ 一八	—
全 七日	▲ 五八	▲ 一五	▲ 九一	▲ 〇四	▲ 〇七	▲ 二〇	—	▲ 五二	▲ 四二	七九
全 八日	▲ 七〇	▲ 三〇	▲ 一〇〇	▲ 〇五	▲ 四三	▲ 四八	▲ 二八	▲ 二二	▲ 四九	七〇
全 九日	▲ 五〇	▲ 〇六	▲ 八三	▲ 一三	▲ 〇八	▲ 一九	▲ 六九	▲ 二六	▲ 三九	—
全 十日	▲ 四一	▲ 〇四	▲ 八七	▲ 〇三	▲ 〇四	▲ 〇二	▲ 一九	▲ 三〇	▲ 三二	—
全 十一日	▲ 六二	▲ 一九	▲ 九三	▲ 〇七	▲ 一五	▲ 三九	—	▲ 四八	▲ 六	八五
全 十二日	▲ 七一	▲ 二七	▲ 一一一	▲ 三三	▲ 一〇	▲ 二二	▲ 六九	▲ 一五	▲ 一三	—
全 十三日	▲ 〇三	▲ 三九	▲ 七六	▲ 〇九	▲ 二〇	▲ 二八	▲ 七五	▲ 〇〇	▲ 〇七	—
全 十四日	▲ 〇九	▲ 五三	▲ 一九	▲ 六九	▲ 二二	▲ 三二	▲ 八七	▲ 〇三	▲ 〇七	—
全 十五日	▲ 〇八	▲ 三二	▲ 四三	▲ 四	▲ 六三	▲ 四七	▲ 五九	▲ 一六	▲ 二五	—
全 十六日	▲ 三六	▲ 〇三	▲ 六一	▲ 二六	▲ 二八	▲ 一一	▲ 六三	▲ 一〇	▲ 一四	—
全 十七日	▲ 五三	▲ 一五	▲ 八六	▲ 〇三	▲ 〇一	▲ 二六	▲ 六〇	▲ 一七	▲ 〇〇	—
全 十八日	▲ 三九	▲ 〇三	▲ 九四	▲ 一五	▲ 三六	▲ 〇九	▲ 七二	▲ 二二	▲ 七	—
全 十九日	▲ 三六	▲ 〇一	▲ 七五	▲ 〇四	▲ 三三	▲ 一六	▲ 三七	▲ 一七	▲ 五	—
全 二十日	▲ 四四	▲ 一六	▲ 一一四	▲ 三三	▲ 〇一	▲ 一一	▲ 五九	▲ 〇七	▲ 一	—
全 二十一日	▲ 六一	▲ 二五	▲ 一二九	▲ 五三	▲ 五六	▲ 一九	▲ 七八	▲ 四	▲ 〇七	—
全 二十二日	▲ 五五	▲ 二九	▲ 一一五	▲ 二九	▲ 六一	▲ 一九	▲ 三二	▲ 一八	▲ 〇八	—

分十四秒にして主要動となり最大振幅は午前七時三十分二十九秒に於て十六「ミクロン」振動期四秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は十三分六秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は金華山沖に發したるものにして石巻、福島、秋田等にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

九 一月二十七日午前十時四十五分卅五秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は九分三十一秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前十一時三分四十八秒に於て二十五「ミクロン」振動期十五秒四、南北動は午前十一時三分四十一秒に於て二十「ミクロン」振動期十五秒八を現し後漸次に微となり静止せり全振動時間は東西動は五十分四十八秒、南北動は五十分三十二秒なり

附記

此地震は北京來電に依れば支那新州省哈爾濱に發したる大地震にして新州將軍の報告に依れば「人民の死傷二千人家屋の潰滅は擧げて算すべからず回教大僧正は北上の途中臺灣に墜免れたり政府は直ちに調査に着手せり」而して當所地動計の所す所に依りて震央地までの距離を計算するに約四千料にして略は符合せり元來此地方には時々地震あり當所にて観測し

たるものも數回あり就中最近にては大正二年十二月二十二日に二回此方面の地震を観測せり又福岡にては今回の地震を観測せり其發震時は左の如し

福岡 午前二〇時四三分五七秒
大 阪 全 一〇時四九分三五秒

一〇 一月廿七日午後二時五十分五十六秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は午後二時五十三分三十秒に於て十一「ミクロン」振動期三秒八を現し全振動時間は八分二秒なり（南北動微動計百二十倍の観測）

附記

此地震は九州北部に發したるものにして福岡、佐賀にては弱震、下關、新居濱にては微震を感じ又大分にては人身に感覺なきも普通地震計に感じたり

● 寒中の氣象概況

本年の寒中は一月六日より

二月四日に至る卅日間にして其期間の氣象を概記するに氣温平均は四度五にして半年より零度五高く最高氣温の平均は九度二にして半年より零度九高く其高極は十四度七にして半年より零度七高し、最低氣温の平均は零度九にして半年より一度〇高きも其低極は零下四度七にして半年より一度〇低く最近十年間の最低度なり、降水日數及

附記

此の地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども長崎及仁川の地動計にも感じたりと云ふ

五 一月十三日午後四時三十分四十二秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は十分三十二秒、第二は十一分四十九秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後四時四十二分二十一秒に於て百八十七「ミクロン」振動期十八秒二、南北動は午後四時四十四分三十四秒に於て百九十七「ミクロン」振動期十九秒二を現し後漸次に微となり靜止せり全振動時間は東西動は一時三十六分二十三秒南北動は一時三十四分五十一秒なり

附記

此地震は伊太利中部に發したる激震にして多數の都市破壊せられし爲めに死傷者十一萬餘に達せりと云ふ(前號伊太利中部の大地震の項参照)

六 一月十九日午後三時十二分二十秒の地震

此地震は性質急なる波動を呈し初期微動の繼續時間は零分十五秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午後三時十三分十二秒に於て十四「ミクロン」振動期一秒五、南北動は午後三時十三分五十七秒に於て十五「ミクロン」振

動期一秒九を現し後微となり靜止せり全振動時間は五秒なり(簡單微動計六十倍の觀測)

附記

此地震は琵琶湖の東岸に發したるものにして彦根にては性質急なる微震を感じ富津、津、潮岬等にては人身に感覺なきも地震計に感じたり

七 一月二十二日午前零時九分二十二秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅は午前零時十分四十四秒に於て二十四「ミクロン」振動期五秒七を現し全振動時間は十六分十一秒なり(南北動微動計百二十倍の觀測)

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

壱	北	午前零時〇七分四五秒
シカウエー		全 零時〇八分五六秒
福	岡	全 零時〇九分四三秒
大	阪	全 零時〇九分二三秒
水	澤	全 零時一〇分三四秒

八 一月二十七日午前七時零分五十二秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は一

東西動地動計観測

終期 F	主要動		初期微動		最大振幅 (ミクロン)	振動期 (秒)
	M	L	S	P		
九時五八分〇四秒	全 三三分四六秒 (+)	八時三三分三二秒	八時二九分五四秒		六八二	二三、二

附記

此地震は臺灣の東方海底に發したるものにして震域頗る廣く北方は九州南部より東北地方に亘り長徑百二里短徑百二里を有し弱震を感じたる面積は三萬一千二百二十方里にして臺灣島は一般に弱震を感じ家屋動搖し振子時計の運轉を停止し又は瓦の落下、家屋の破損せし箇所あり又石垣島にては強震を感じ石垣の崩壞百五個所其長サ百三十五間に及べり云ふ今各所にて地動計を以て観測したる發震時を列記すれば左の如し

峯北	午前八時二七分二一秒
恒春	全 八時二八分〇九秒
澎湖島	全 八時二八分一四秒
澎湖島	全 八時二八分二九秒
石垣島	全 八時二八分三〇秒
那覇	全 八時二八分一四秒
シカウエー	全 八時二八分一四秒

南北動地動計観測

終期 F	主要動		初期微動		最大振幅 (ミクロン)	振動期 (秒)
	M	L	S	P		
一〇時〇〇分四八秒	全 三四分〇六秒 (+)	八時三三分三二秒	八時二九分五四秒		一五九七	二三、〇

長崎	全 八時二九分〇三秒
仁川	全 八時二九分三九秒
大阪	全 八時二九分五四秒
大連	全 八時三〇分〇一秒
岐阜	全 八時三〇分一二秒
東京	全 八時三〇分五二秒
水澤	全 八時三一分〇六秒

但し表を附したるは普通地動計の観測

四 一月十日午前十時三分四秒の地震

此地震は極めて緩微にして振動の各部判明ならざれども最大振幅(東西動二十倍)は午前十時十分四十八秒に於て三十二「ミクロン」振動期五秒三を現し後微となり静止せり全振動時間は二十一分四十四秒なり

幅は東西動は午前七時二十二分零秒に於て二十二「ミクロン」振動期六秒七、南北動は午前七時二十分二秒に於て三十五「ミクロン」振動期七秒二、を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は三十分五十九秒、南北動は二十七分十六秒なり

附記

此の地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し但し時刻は日本中央標準時に據る以下皆全し

シカウエー(支那上海)	午前七時一分四八秒
臺	全 七時一三分一五秒
大阪	全 七時一四分〇五秒

二 一月五日午後十一時四十二分五十一秒の地震

此地震は最初より緩なる波動を呈し第一初期微動の繼續時間は七分四十二秒第二は七分十七秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前零時四分四十一秒に於て二十「ミクロン」振動期九秒六、南北動は午前零時四分四秒に於て五十「ミクロン」振動期十七秒八を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は五十六分三十秒、南北動

は五十九分零秒なり

附記

此地震は遠距離の所に發したるものにして未だ震源は詳ならざれども各所にて地動計を以て觀測したる發震時を列記すれば左の如し

臺	北	午後二時四二分二六秒
大阪		全 一 二時四二分五一秒
水	澤	全 一 二時四二分五八秒
函	館	全 一 二時四二分一六秒
長	崎	全 一 二時四三分〇二秒
シカウエー		全 一 二時四三分二八秒

三 一月六日午前八時二十九分五十四秒の地震

此地震は性質緩なる波動を呈し初期微動の繼續時間は二分三十八秒にして主要動となり最大振幅は東西動は午前八時三十三分四十六秒に於て六百八十二「ミクロン」振動期二十三秒二、南北動は午前八時三十四分六秒に於て千五百九十七「ミクロン」振動期二十三秒〇を現し後微となり静止せり全振動時間は東西動は一時二十八分十秒南北動は一時三十分五十四秒なり即ち次表に示すが如し

大阪に強風吹けり●十九日未明より雨降り妙見山、天王は雪を交へ午後歇み妙見山に濃霧あり●二十日概ね曇天田原に霞降り所々に濃霧あり●二十一日概ね晴天所々に霜あり●二十二日概ね曇天大阪、茨木、田原、長野に霜あり南部及大阪、富田林に雨降り●二十三日概ね晴天所々に霜あり大阪、新庄に濃霧あり●二十四日概ね晴天所々に霜あり天王に雪降り●二十五日概ね晴天所々に霜あり●二十六日概ね晴天所々に霜あり●二十七日概ね晴天所々に霜あり深日、妙見山、清水に雨降り●二十八日未明より雨降り概ね午後歇み深日、尾崎、大阪に雷鳴尾崎、岸和田、大阪に強風吹けり●二十九日概ね晴天池田に霜あり天王に雪降り所々に強風吹けり●三十日概ね晴天所々に霜あり天王に雪降り尾崎、岸和田、大阪に強風吹けり●三十一日概ね曇天所々に霜あり午後より雨(天王は雪)降り翌日に亘る

大阪地震観測概況

爰に記する所は主として大森式地動計(東西及南北動二十倍)を以て観測したるものゝ記し極微なる地震にありては百二十倍の微動計其他の

器械にて観測したるものゝ記せり又振動の各部記號は左の如し
 Pは第一初期微動の發震時、Sは第二初期微動全上、Lは長波又は主要部全上、Mは主要部の最大動、Dは終期の最大動、Fは振動の終了又十(十)は南北動にありては北、東西動にありては東、(一)は南北動にありては南、東西動にありては西なり、振幅は(ミクロン)ニ(千分一)を以て記す

本月中に地震を観測したる數は十回にして人身に感覺ありたるものは一回もなく人身に感覺なく普通地震計に感じたるものも亦た一回もなかりしが無感覺地震にして地動計又は微動計に感じ其震源本邦内にありたるものは四回即ち金華山沖、琵琶湖の東岸、九州北部、臺灣の東方海底に發したるものにして就中臺灣の東方海底に發したるものを最大とす又遠距離地震は六回にして就中震度の最も強かりしは十三日伊太利中部に發したるものにして二十七日支那新疆省哈密附近に發したるものも稍々強かりしが如し而して其他の四回は未だ震源詳ならず今其観測概況を列記すれば左の如し

一 一月五日午前七時十四分五秒の地震

此地震は振幅微にして振動の各部判明せざれども最大振

廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	卅一日	全月
12.2	11.1	10.0	9.0	8.0	7.0	6.0	5.0	4.0	3.0	2.0
11.0	10.0	9.0	8.0	7.0	6.0	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0
10.0	9.0	8.0	7.0	6.0	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
9.0	8.0	7.0	6.0	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	-1.0
8.0	7.0	6.0	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	-1.0	-2.0
7.0	6.0	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	-1.0	-2.0	-3.0
6.0	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	-1.0	-2.0	-3.0	-4.0
5.0	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	-1.0	-2.0	-3.0	-4.0	-5.0
4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	-1.0	-2.0	-3.0	-4.0	-5.0	-6.0
3.0	2.0	1.0	0.0	-1.0	-2.0	-3.0	-4.0	-5.0	-6.0	-7.0
2.0	1.0	0.0	-1.0	-2.0	-3.0	-4.0	-5.0	-6.0	-7.0	-8.0
1.0	0.0	-1.0	-2.0	-3.0	-4.0	-5.0	-6.0	-7.0	-8.0	-9.0
0.0	-1.0	-2.0	-3.0	-4.0	-5.0	-6.0	-7.0	-8.0	-9.0	-10.0
-1.0	-2.0	-3.0	-4.0	-5.0	-6.0	-7.0	-8.0	-9.0	-10.0	-11.0
-2.0	-3.0	-4.0	-5.0	-6.0	-7.0	-8.0	-9.0	-10.0	-11.0	-12.0
-3.0	-4.0	-5.0	-6.0	-7.0	-8.0	-9.0	-10.0	-11.0	-12.0	-13.0
-4.0	-5.0	-6.0	-7.0	-8.0	-9.0	-10.0	-11.0	-12.0	-13.0	-14.0
-5.0	-6.0	-7.0	-8.0	-9.0	-10.0	-11.0	-12.0	-13.0	-14.0	-15.0
-6.0	-7.0	-8.0	-9.0	-10.0	-11.0	-12.0	-13.0	-14.0	-15.0	-16.0
-7.0	-8.0	-9.0	-10.0	-11.0	-12.0	-13.0	-14.0	-15.0	-16.0	-17.0
-8.0	-9.0	-10.0	-11.0	-12.0	-13.0	-14.0	-15.0	-16.0	-17.0	-18.0
-9.0	-10.0	-11.0	-12.0	-13.0	-14.0	-15.0	-16.0	-17.0	-18.0	-19.0
-10.0	-11.0	-12.0	-13.0	-14.0	-15.0	-16.0	-17.0	-18.0	-19.0	-20.0
-11.0	-12.0	-13.0	-14.0	-15.0	-16.0	-17.0	-18.0	-19.0	-20.0	-21.0
-12.0	-13.0	-14.0	-15.0	-16.0	-17.0	-18.0	-19.0	-20.0	-21.0	-22.0
-13.0	-14.0	-15.0	-16.0	-17.0	-18.0	-19.0	-20.0	-21.0	-22.0	-23.0
-14.0	-15.0	-16.0	-17.0	-18.0	-19.0	-20.0	-21.0	-22.0	-23.0	-24.0
-15.0	-16.0	-17.0	-18.0	-19.0	-20.0	-21.0	-22.0	-23.0	-24.0	-25.0
-16.0	-17.0	-18.0	-19.0	-20.0	-21.0	-22.0	-23.0	-24.0	-25.0	-26.0
-17.0	-18.0	-19.0	-20.0	-21.0	-22.0	-23.0	-24.0	-25.0	-26.0	-27.0
-18.0	-19.0	-20.0	-21.0	-22.0	-23.0	-24.0	-25.0	-26.0	-27.0	-28.0
-19.0	-20.0	-21.0	-22.0	-23.0	-24.0	-25.0	-26.0	-27.0	-28.0	-29.0
-20.0	-21.0	-22.0	-23.0	-24.0	-25.0	-26.0	-27.0	-28.0	-29.0	-30.0

管内天氣摘要

●一日晴曇相半し大阪、新庄、茨木に霜あり ●二日概ね晴天所々に霜あり ●三日概ね晴天尾崎、大阪に強風吹き所々に霜あり ●四日概ね晴天尾崎に強風吹き所々に霜あり ●五日概ね晴天尾崎に強風吹き天王、田原に雪降り所々に霜あり ●六日概ね晴天所々に霜あり ●七日概ね曇天午後より雨降り翌日に互る尾崎、枚方、八尾、柏原に強風吹けり ●八日前日來の雨午前歇みしか午後に至り復々雨或は雪降り所々に強風吹けり ●九日概ね晴天所々に雨降り北部及東部は雪霰を交へ沿海地方は強風吹けり ●十

日概ね晴天所々に霜あり午後より雨降り翌日に互る ●十一日前日來の雨清水は雪を交へ概ね午前歇み尾崎、大阪に強風吹き天王に濃霧あり ●十二日概ね晴天所々に霜あり沿海地方は強風吹けり ●十三日概ね晴天所々に雪降り強風吹けり ●十四日概ね晴天岸和田に霞妙見山、天王に雪降り所々に強風吹けり ●十五日概ね晴天所々に霜あり南部及東部に雪降り沿海地方は強風吹けり ●十六日概ね晴天新庄、池田、茨木に霜あり大阪に霞天王、長野に雪降り尾崎、長承寺、大阪に強風吹けり ●十七日晴曇相半し所々に雪或は霰降り尾崎、長承寺、大阪に強風吹けり ●十八日晴曇相半し所々に霜あり天王に雪降り長承寺、

第四表 管内降水日量

一月	深日	尾崎	岸和	長承寺	濱寺	堺	天王寺	大阪	福島	新庄	池田	山見	東郷	天王	茨木	清水	枚方	田原	八尾	柏原	富田	長野
一日																						
二日																						
三日																						
四日																						
五日																						
六日																						
七日																						
八日																						
九日																						
十日																						
十一日																						
十二日																						
十三日																						
十四日																						
十五日																						
十六日																						
十七日																						
十八日																						
十九日																						
二十日																						
廿一日																						

觀測所

空氣ノ溫度
平均 最高 最低
降水量
午前七時(柏原) 午前九時
天候
風向
降水
霧
霜
霰
雷
地震
午前十時
天候
風

深日 三、五 一、六 六、六 ▲ 〇、三 一、七 九、七 三、四 三、三

尾崎 九、五 一、四 五、五 〇、四 八、〇 六、〇 二、九 三、三

岸和田 九、〇 一、三 五、一 〇、三 七、五 七、〇 二、八 三、四

長承寺 九、四 〇、二 四、〇 〇、二 五、二 五、〇 三、七 三、三

演寺 九、四 〇、三 四、八 〇、一 一、七 一、六 三、五 三、三

堺 九、四 〇、七 五、〇 〇、〇 五、八 六、〇 四、〇 三、五

天王寺 九、一 〇、〇 四、五 〇、二 五、三 五、〇 五、七 五、五

大阪 八、九 一、二 五、〇 ▲ 〇、七 一、四 七、七 四、七 五、五

福島 九、五 〇、三 五、〇 ▲ 〇、三 五、六 五、〇 五、四 五、五

新庄 八、九 〇、〇 四、三 〇、六 六、六 七、〇 六、三 五、五

池田 八、九 〇、九 四、一 〇、五 一、五 二、〇 五、六 五、四

妙見山 六、八 〇、七 〇、一 〇、六 一、〇 一、〇 三、三 三、五

東郷 七、〇 〇、七 三、五 〇、八 三、〇 三、〇 八、三 三、五

天王 五、七 〇、三 三、三 〇、一 一、二 一、四 二、七 二、五

茨木 九、六 一、〇 四、三 〇、五 一、六 一、七 七、九 七、五

清水 九、四 一、四 四、〇 〇、一 一、六 一、七 八、五 八、三

枚方 九、一 〇、八 四、一 〇、八 一、七 〇、七 六、〇 六、〇 五、五

田原 八、八 〇、三 三、三 〇、二 一、五 一、七 五、七 六、八 五、五

八尾 九、五 〇、五 四、四 〇、五 一、五 一、七 五、〇 五、〇 五、二

柏原 九、五 〇、四 四、二 〇、五 一、八 一、八 四、五 四、四

富田林 八、八 〇、八 四、〇 〇、七 一、六 一、六 五、〇 五、〇 五、四

長野 八、四 一、〇 三、七 〇、〇 一、七 一、七 七、三 七、三 五、三

而して最高は二十七日乃至二十八日に現はれ南部尾崎の十八度〇深日の十七度九を高極とし之れに亞くは東部柏原の十七度八南部岸和田の十七度五にして其他は十七度乃至十五度を示し北部の山間は十一度内外なり又最低は概ね十五日に現はれ北部天王の零下十二度五妙見山の零下十二度〇を低極とし之れに亞くは北部清水の零下八度五西部茨木の零下七度九東部長野の零下七度一にして其他平坦部は零下六度乃至零下五度沿海部は零下四度乃至零下三度を示せり之れを要するに本月の氣温は最高十八度〇より最低零下十二度五の間にありて其較差は三十度五に達せり

降 水 總量は北部天王の百四十九耗七、妙見山の百三十三耗二、清水の百二十六耗一より南部

濱寺の四十三耗〇の間にありて之れを平年に比すれば長承寺、八尾、柏原は稍々少なかりしも其他は一般に多く特に北部は最も多量を示し妙見山の如きは平年の二倍以上に達したり而して日量の最多は概ね十日及二十八日の降雨の際にありて其最も多きは北部天王の四十四耗五妙見山の四十二耗〇にして之れに亞くは全清水の三十五耗五なり又日量の二十耗以上なりしは深日、尾崎、池田、東郷、茨木、枚方、田原の七ヶ所にして其他は十六耗八より九耗九の間にあり

雷 雨 二十八日降雨中午後一時三十分頃大阪灣の南西方に微雷起り暫時にして西方に經過し去れり

廿二日	四二	五八	六四	六九	八二	三七
廿三日	五九	五七	六三	六九	八二	三七
廿四日	六四	五二	六二	六八	八三	三二
廿五日	六四	五三	五九	六七	八三	三三
廿六日	六五	五三	六〇	六七	八三	三三
廿七日	五二	五九	六二	六七	八三	三三
廿八日	八〇	七八	七三	七四	八二	三七
廿九日	四一	六九	七四	七八	八四	三三
三十日	三九	五三	六四	七三	八五	三三
卅一日	三一	四九	五七	六七	八四	三三
全月	五七	五六	六四	七三	八九	三三

朝霧あり、午前十時四十分より十一時三十七分迄微雨、午後五時五十分より六時四十分迄月暈現る、夜露あり

朝霧多し、午前一時三十分より八時三十七分迄霧あり、午前七時五十分より八時三十分迄霧あり、午後一時三十分迄月暈現る、午後一時乃至二時強風吹けり、夜露あり

朝霧あり、午後六時より六時五十分迄月光環現る、夜露あり

朝霧あり、午前四時より五時四十分迄薄霧あり、夜露あり

朝霧あり、午前九時より十一時迄烟霧あり、午後八時七分より九時三十分迄月暈現る、夜露あり

朝霧あり、午前十時より十一時迄烟霧あり、午後三時三十分より四時五十分迄月暈現る、午後五時五十分より八時八分まで月暈現る

午前一時二十分より降雨斷絶して午後四時四十分歇む、午後四時乃至五時強風吹けり、午後四時四十分

南西に遠雷あり

午前三時より夜半まで強風吹けり

午前一時強風吹けり、朝霧あり、夜露あり

朝霧あり、午前三時三十分より三時十分まで月暈現る、午後八時五十分より十時二十二分まで及十一時三十七分より夜半まで小雨

大阪府管内氣象概況

前項に詳記せる如く一月は西乃至北西の風卓越し好晴の天氣を持続すること稍々多しと雖も時々驟雨又は雪霰を飛し氣温も亦此の風に支配せられ著しく低下して往々年中の最低を示すことあり而して本年一月の氣候を調査するに上旬は晴燥の日多く稍々温暖なりしが中旬に入り次第に寒冷となり十三日より十五日に至る間は連日寒風吹き荒み飛雪芬々として來り嚴氷を結び氣温最低の極は概

ね十五日に現はれ北部の天王は零下十二度五全妙見山は零下十二度〇に下れり然れ共下旬に至りては稍々温暖となり二十七日及二十八日の兩日に於て月中の高極を現はし南部の南端は十八度に昇れり又降水量は概して半年より多く北部の山間は半年の二倍以上に達したる所あり更に氣温、降水量、雷雨等に就き詳記すれば左の如し

氣 温 平均は南部深日の六度〇より北部妙見

山の零度一の間において之れを半年に比すれば大阪市附近は稍々高きも其他は一般に低き方において

第二表 大阪毎日氣象觀測成績の二

一 月
地皮上 標二十標三十標六十標
最 低
地 温

諸 現 象 の 摘 要

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	廿一	廿二	
三、六	四、三	五、〇	五、六	六、〇	六、三	六、七	七、〇	七、三	七、七	八、〇	八、三	八、七	九、〇	九、三	九、七	一〇、〇	一〇、三	一〇、六	一〇、九	一一、二	一一、五	一一、八
六、二	六、一	六、四	六、六	七、〇	七、六	七、七	七、九	八、一	八、二	八、四	八、六	八、七	八、八	八、九	九、〇	九、一	九、二	九、三	九、四	九、五	九、六	九、七
八、〇	七、九	七、九	七、九	八、〇	七、六	七、六	七、九	七、九	七、七	七、八	七、六	七、七	七、七	七、六	七、六	七、八	七、八	七、八	七、八	七、八	七、八	七、八
一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九
四、一	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七
午前時より五時五分迄月暈現る、朝微霜あり、午後七時四十分より月暈現れ翌曉に亘る、夜薄露あり	前夜來の月暈午前零時三十三分消ゆ、朝微霜あり、午後七時四十分より月暈現れ翌曉に亘る、夜霜あり	前夜來の月暈午前零時三十三分消ゆ、朝微霜あり、午後七時四十分より月暈現れ翌曉に亘る、夜霜あり	前夜來の月暈午前零時三十三分消ゆ、朝微霜あり、午後七時四十分より月暈現れ翌曉に亘る、夜霜あり	前夜來の月暈午前零時三十三分消ゆ、朝微霜あり、午後七時四十分より月暈現れ翌曉に亘る、夜霜あり	朝微霜あり、午前五時四十分より六時十二分迄月暈現る、夜霜あり	朝霜多し、夜薄露あり、午後十時四十分より月暈現れ翌曉に亘る	前夜來の月暈午後三時三十八分消ゆ、朝薄露あり、午後一時五十五分より小雨斷續して翌曉に亘る	前夜來の小雨斷續して午前二時十五分一旦歇み午後零時五十五分より又斷續して十時二十五分歇む午前五時より夜半迄強風吹けり	夜微霜あり、午前一時より午後四時迄強風吹けり、午前五時四十分より午後零時五十二分迄小雨斷續す、朝霜あり、午前三時より六時五十分迄月暈現る、全七時五十分より八時三十分迄小雨斷續す、朝霜あり、午前六時三十分迄霧あり、午前八時三十分より小雨翌日に亘る	朝霜あり、午前六時三十分迄霧あり、午前六時より七時三十分迄強風吹けり、夜霜あり	朝霜あり、午前六時三十分迄霧あり、午前六時より七時三十分迄強風吹けり、午後九時より小雨翌日に亘る	前日來の小雨午後零時三十分歇む、午前六時より七時三十分迄強風吹けり、午後五時より夜半迄強風吹けり、午後九時より小雨翌日に亘る	午前一時より夜半迄強風吹けり	朝霜あり、午前十時より夜半迄強風吹けり	午前一時より四時迄及午後三時と十一時に強風吹けり、午後十時五十八分より十一時十分迄霧降れり	午後三時六分より三時三十分迄小雨全四時二十四分より霧となり全四時三十分より雨を交へ六時二十七分歇む、午前六時より夜半迄強風吹けり	午前一時より二時迄強風吹けり、朝夜微霜あり	午前六時四十分より午後零時五十分迄小雨、夜霜あり	午前零時十四分より十時四十分迄霧あり、午前三時二十分より全九時十分迄最も甚だし、夜薄露あり	朝霜多し、夜微霜あり		

全	卅	三十	廿九	廿八	廿七	廿六	廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七
月	月	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
七六六	七六九	七七〇	七六五	七五八	七五七	七五九	七五二	七六八	七六四	七六七	七六八	七六九	七四七	七五二	七五九	七六三	七六九	七六六	七四四	七五二	七六八	七六四	七四九	七五〇	七五七
四六	二六	一八	五〇	一四	七七	四六	三七	三八	四九	五五	六一	五四	三六	三九	五三	三八	〇八	〇九	〇〇	七三	六二	四〇	五五	七〇	五六
一一	二三	三七	一〇	四六	三三	〇一	〇一	〇五	〇六	〇七	〇七	〇七	〇三	〇五	一一	〇四	二九	四〇	四三	二五	〇三	〇三	〇九	一一	二六
九一	六三	七二	七六	三三	四七	一〇	一〇	八三	九二	二五	二九	二四	七五	九四	八六	六二	四〇	二六	七六	三三	九四	三九	八七	八二	九二
〇八	一九	二〇	〇三	六四	〇六	〇五	〇六	〇六	一一	一九	一九	一一	一六	〇九	二六	一一	四七	二六	二四	二四	二九	三三	〇三	一九	二〇
八二	八二	九四	七三	七一	一四	一三	一六	七六	八一	九六	一〇	一〇	五九	一〇	六〇	四九	九〇	四五	一〇	一一	五五	八五	六三	五三	七一
四九	三七	三五	三四	八一	五二	四五	四三	四一	五〇	五四	五三	五七	五〇	三九	三七	三一	三〇	二九	二五	二五	六二	四五	四五	四三	五四
七一	六九	六三	五五	六八	六六	七五	七四	七二	七八	八一	七六	七七	六六	六六	六五	五四	五三	五九	五九	五〇	七六	六八	七五	六六	六六
二〇	一九	二二	三三	一四	三二	二二	一九	二〇	一六	一五	一九	一三	〇九	二二	二二	二九	二二	一九	二二	二五	二二	〇八	一七	二四	一九
五九	三四	二九	三三	四七	三一	二二	二二	三七	四七	二〇	二九	一五	四一	三一	二二	九三	一〇	二二	一七	二八	四八	二二	六〇	六九	二六
三三	五三	三〇	二〇	一一	七九	四九	九六	二一	二一	四六	二九	五五	七七	二二	二六	四一	五五	三三	二二	二五	二七	三九	三三	三三	三〇
西	北	西	西	西南西	東	北	南西	西南西	西南西	北東	北東	南西	東北東	西	西	西	西	西	西	西南西	北東	北東	西北北	西	北東
西	北東	西	西	北	北北東	北北東	北北東	北	北	北東	北東	北東	北東	西	西	西	西	西	西	西	北東	北東	北北西	北北西	北東
四九	七七	二六	三三	八二	四一	二〇	四六	四一	四一	四三	〇〇	五二	六七	四二	五二	四三	二七	二二	二二	三九	七三	七四	四三	四三	九八
二七	二六	八三	八七	三	八三	八二	三八	五〇	三	三	七六	二七	二七	七四	六〇	六六	五九	八七	七五	六九	一	一	六九	二八	一
一五	一三	〇三	四四	四一	四七	二六	一四	一八	〇九	〇九	一〇	一八	二二	二八	〇	一	〇六	三四	〇〇	〇四	四	八五	〇九	二八	四
英四	〇	〇	〇	三	一	一	一	〇	〇	〇	〇	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八五	〇九	一七	七〇	三九
六七	一〇	〇	四	二	三	一七	一六	一七	一七	一七	一七	一五	一五	一七	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九						

正午	午後										
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
七六、五	七五、九	七五、四	七五、〇	七四、六	七四、二	七三、八	七三、四	七三、〇	七二、六	七二、二	七一、八
七、七	七、六	七、四	七、三	七、二	七、一	七、〇	六、九	六、八	六、七	六、六	六、五
四、五	四、六	四、七	四、四	四、六	四、七	四、七	四、六	四、五	四、四	四、三	四、二
五、二	五、三	五、八	五、五	五、二	五、三	五、四	五、五	五、六	五、七	五、八	五、九
三、四	三、四	三、五	三、五	三、四	三、五	三、五	三、四	三、三	三、二	三、一	三、〇
六、三	六、六	六、七	六、八	六、八	六、八	六、七	六、七	六、六	六、五	六、四	六、三
五、二	五、六	五、五	五、七	五、六	五、五	五、四	五、三	五、二	五、一	五、〇	四、九
五、二	五、三	五、九	五、六	五、三	五、四	五、五	五、六	五、七	五、八	五、九	六、〇
四、九	四、九	四、九	四、九	四、八	四、七	四、七	四、六	四、五	四、四	四、三	四、二
三、七	三、七	三、七	三、七	三、六	三、五	三、四	三、三	三、二	三、一	三、〇	二、九
二、九	二、九	二、八	二、八	二、七	二、六	二、五	二、四	二、三	二、二	二、一	二、〇
六、九	六、八	六、三	六、二	六、二	六、一	六、〇	五、九	五、八	五、七	五、六	五、五
五、二	五、三	五、九	五、六	五、三	五、四	五、五	五、六	五、七	五、八	五、九	六、〇
九、八	九、三	九、六	九、六	九、五	九、四	九、三	九、二	九、一	九、〇	八、九	八、八
五、三	五、五	五、七	五、七	五、六	五、五	五、四	五、三	五、二	五、一	五、〇	四、九
六、三	六、五	六、八	六、八	六、七	六、六	六、五	六、四	六、三	六、二	六、一	六、〇
七、二	七、九	七、七	七、六	七、六	七、五	七、四	七、三	七、二	七、一	七、〇	六、九
八、六	八、六	八、六	八、六	八、五	八、四	八、三	八、二	八、一	八、〇	七、九	七、八

第二表 大阪每日氣象觀測成績の一

(表中▲印、高又ハ多)

一月	平氣壓		最高最低較差	平張力		平飽差	平速度		最大全上方向	最多方向	平均雲量	日照時數	降水量	蒸發量	
	本年	平年比較		本年	平年比較		本年	平年比較							本年
一日	七六、八	四、二	一、二	七、八	一、三	六、五	四、七	一、五	〇、〇	五、三	東北	八、四	三、三	—	—
二日	七六、八	四、八▲	〇、三	一、四	一、七	九、七	四、八	三、〇	四、〇	四、〇	西南西	北	八、九▲	六、九	—
三日	七六、六	六、三▲	三、五	一、七	一、四	一、四	四、九	六、〇	三、七	三、七	西南西	北北西	五、八	七、九▲	—
四日	七六、四	六、〇▲	一、六	八、四	三、一	五、三	三、八	五、三	三、七	三、七	西北西	西	五、五	四、三	—
五日	七七、〇	四、一	〇、八	七、八	〇、八	七、〇	四、二	三、三	四、六	四、六	東北東	北	五、七	六、〇	—
六日	七六、五	四、〇	一、一	九、七	〇、八	六、五	四、五	一、八	三、三	三、三	南西	北北東	四、三	八、三▲	—

しは二日の八時九〇なり

降水及蒸發量

降水日數は十二日にして平年に

比すれば二日其水量は五十六耗四にして平年に比す
れば十一耗二孰れも多く又一日中の最多量は十九日
の十四耗七一時間の最多量は二十八日午後三時の五
耗五なり

地中溫度及最低地溫

地皮溫度の平均は三度七

〇にして平年に比すれば零度四〇低く月中の最高は
二十四日午後一時の十四度〇最低は十四日午前三時
乃至五時の零下二度五なり其零下に降りたる日數は
十四日にして平年に比すれば六日多し又月平均に就
きて一日中の變化を看るに最高は午後一時にありて
十度一〇最低は午前七時にありて零度八八を示し其
較差は九度二二なり

地中十糶の溫度 平均は五度五八にして平年に比す
れば零度五五高く月中の最高は二十八日午後五時乃
至七時の八度八最低は十五日午前九時乃至十一時の
二度五なり、又月平均に就きて一日中の變化を看る
に最高は午後五時にありて六度三九最低は午前九時

にありて四度八〇を示し其較差は一度五九なり

地中二十糶の溫度 平均は六度三八にして平年に比
すれば零度七七高く月中の最高は二十八日午後七時
乃至夜半の七度九最低は十五日正午の四度三なり、
又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後
八時乃至九時にありて六度六〇最低は午前十一時に
ありて六度一二を示し其較差は零度四八なり

地中三十糶の溫度 平均は七度一七にして平年に比
すれば零度八六高く月中の最高は一日午前三時の八
度二最低は十六日午前九時乃至午後三時の五度七な
り、又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は
午前二時にありて七度三〇最低は午後三時乃至四時
にありて七度〇六を示し其較差は零度二四なり

地中六十糶の溫度 平均は八度八七にして平年に比
すれば零度七六高く月中の最高は一日午前一時乃至
四時の十度一最低は十九日午後二時乃至三時の七度
八なり、但し此深さにありては殆ど一日中の變化を
認め難し

以上列記する地中溫度を通觀するに最高は地皮にあ

上昇を呈せり而して月中の最高は廿七日午後三時の十四度七最低は十五日午前六時の零下四度七なり、最低氣温の零下に降りたる日數は九日にして平年より二日少し又月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後二時にありて八度一四最低は午前七時にありて一度九七を示し其較差は六度一七なり

水蒸氣張力、濕度及飽差

水蒸氣張力の平均は

四耗五二にして平年に比すれば零耗一一高く月中の最高は二十八日午後二時の十耗一最低は十三日午後六時乃至十四日午前四時の一耗八なり而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最高は午後六時にありて四耗七一最低は午前五時乃至六時にありて四耗二八を示し其較差は零耗四三なり

濕度の平均は七十、八にして平年に比すれば〇、八多く月中の最少は二十七日午後三時乃至四時の三十八なり而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午前七時にありて八十一、四最少は午後二時にありて五十六、八を示し其較差は二十四、六なり飽差の平均は每立方厘米中二瓦〇三にして平年に比す

風

れば零瓦〇三少く月中の最多は二十一日午後二時の五瓦七最少は二十三日午前三時、五時、八時にありて零瓦一なり而して月平均に就きて一日中の變化を看るに最多は午後二時にありて三瓦五八最少は午前七時にありて一瓦〇三を示し其較差は二瓦五五なり

平均速度は毎秒五米九四にして平年に比すれば零米〇六強く月中の最大速度は毎秒三十米四（一間平方面を垂直に壓する力は九十五貫五百目）の西風なり又強風以上の吹きたる日數は十五日にして平年より一日少く其吹續時數は百六十時にして平年より十四時多し又月平均に就き一日中の變化を看るに最大は午後三時乃至四時にありて七米〇七、最小は午前一時にありて四米九三を示し其較差は二米一四なり風向は西風最も多く北東風之れに亞き南東風は最も少し之れを平年に比すれば西及北東風は多きも北西、東及北の風は少し

雲量及日照時數

雲量の平均は四、九にして平

年に等しく日照時數は百六十七時七五にして平年に比すれば三時五三多く一日中日照時間の最も長かり

大阪測候所月報

大正四年 大阪氣象概況

一月は寒氣最も甚しく爲めに亞細亞大陸の氣壓は著しく濃密となり爰に一大高氣壓を生し北海道の東方に低壓部ありて氣壓の勾配は頗る急となり西乃至北西の風増勢し大陸より寒氣を吹送せるを以て寒威凜冽にして氣溫著しく低下し天氣は比較的晴燥寡雨なるも低氣壓の南洋を通過する時は雨又は雪霰を降らし又日本海を通過せば西又は北西の強風吹き起り寒冷となりて時々飛雪紛々として來るは大阪地方の特態とす、然り而して本月の氣候を調査するに氣溫は平年より稍々高温を呈し日照時數多くして降雨も稍々多し而して強風以上の吹きたる日數及其吹續時間は平年より稍々多く就中風力の最も強かりしは八日の暴風にして最大速度は毎秒三十米四に達したり斯る強大なる速度は夏秋季に熱帶颶風の襲來の場合に往々見る所なるも冬季に於ては稀なる現象なり

今各氣象要素に就き詳記すれば左の如し

但し本項に記する所の平年は現今の地にて觀測したる明治四十四年より本年に至る最近五ヶ年平均なり

氣 壓 平均は七百六十六耗三四にして平年に比すれば零耗二〇低く日々の變化は氣象圖に示すが如く顯著なる昇降は二回にして他は微少なり、而して月中の最高は二十六日午前十時の七百七十三耗八最低は八日午後三時の七百四十六耗八なり、又月平均に就き一日中の變化を看るに第一の最高は午前九時にありて七百六十七耗一四、第一の最低は午後二時にありて七百六十五耗三九を示し第二の最高は午後十時にありて七百六十六耗七二第二の最低は午前四時にありて七百六十六耗二〇を示し其主なる最高

氣 溫 平均は四度六〇にして平年に比すれば零度一五高く平均氣溫日々の變化は氣象圖に示すが如く上旬は微なる昇降を呈せしが中旬の初に著しき低下を示し後微なる昇降となり下旬の末に又著しき

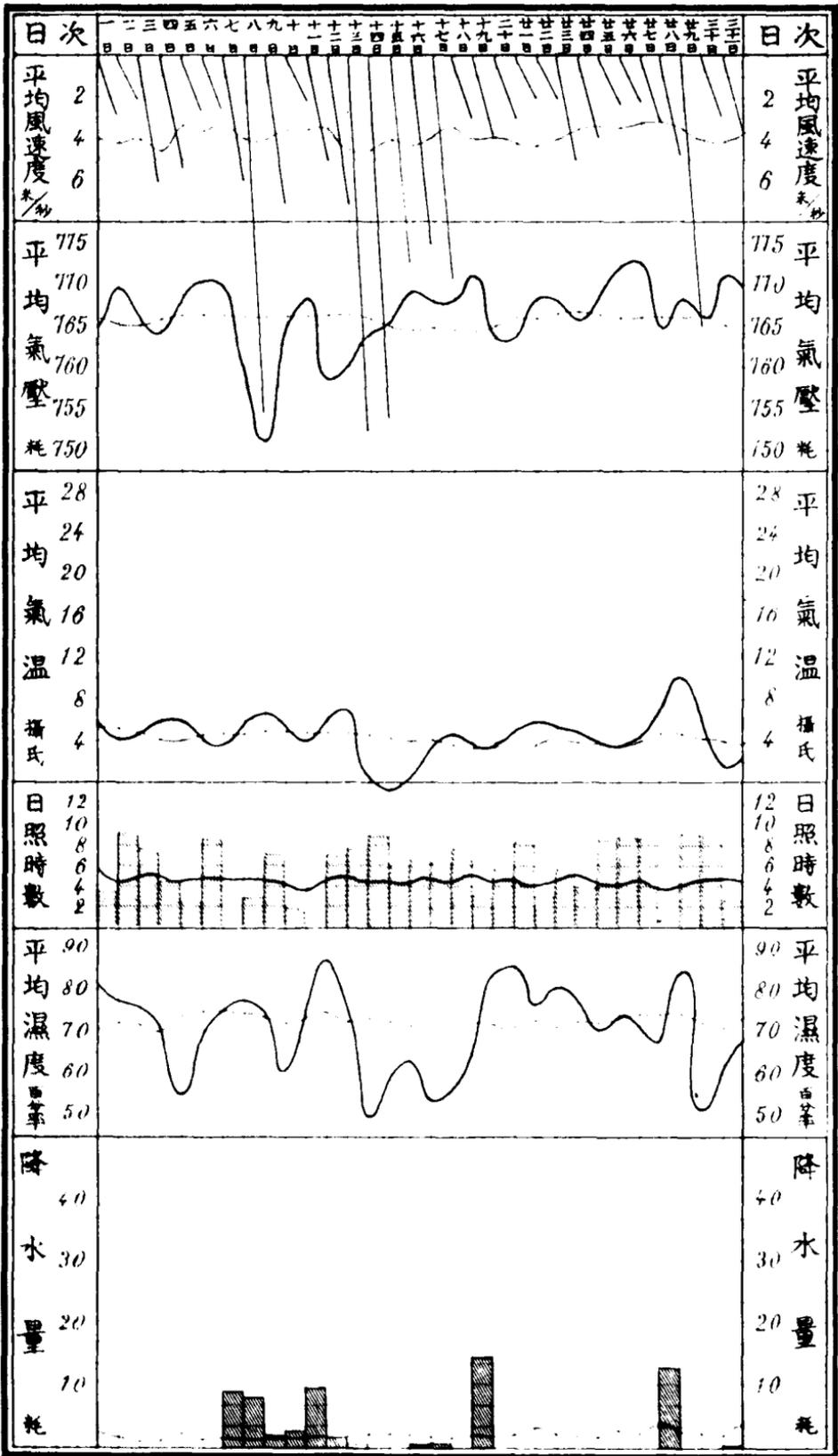
低の較差は一耗七五なり

低下を示し後微なる昇降となり下旬の末に又著しき

低下を示し後微なる昇降となり下旬の末に又著しき

低下を示し後微なる昇降となり下旬の末に又著しき

本圖ハ日平均又ハ合計ニ依リテ調製ス。風速度、氣壓、氣温、濕度ハ本年——平年——日照時數ハ本年——平年——降水量ハ本年——中年——



大阪府管内氣象觀測所位置

一本報は當測候所及管内各觀測所に於て觀測したる毎月の氣象を調査し之れを掲載する者ぞす但し日々之觀測は當測候所に於ては二十四回、柏原は午前九時午後二時及五時の三回其他管内各觀測所は午前十時の一回なり

一氣壓、水蒸氣の張力及濕量は乾(曲尺三厘毛)を以て示す

一溫度は凡て攝氏の度を用る零度以下の度には(一)を附記す、但し攝氏の度を華氏に改算せんには九を乘し五にて除し三十二度を加ふべし

一最高溫度及降水量并に濕量の當日午前十時に觀測したるものば之れを前日に繰上げて記入せり

一飽差は一立方米中に含まるべき水蒸氣缺乏の重量を瓦(グラム)にて示す

一溫度は空氣の最も濕りたるもの即ち水蒸氣を飽和したる者を百とし百分率を以て示す

一降水量は乾を以て其深さを測り之を記す、但し一乾は一步面に水量一升八合三勺を撒布したるに相當す

一雨量は十分率を以て示す

一風速度は一秒時間の米(曲尺三尺三寸)數なり

一風力は零より六に至る階級に分ち推測を以て之を記す即ち零は靜穩にして假令は煙全く直立し又は樹葉動かさるもの一は軟風にして人をして風の感覺を起さしむるもの、二は和風にして樹葉を動かすもの、三は疾風にして小枝を動かすもの、四は強風にして大樹の枝を動かすもの、五は烈風にして大樹の幹を動かすもの、六は颶風にして樹を抜き家を倒すものなり

一風向は北北東、南東、南、南西、西、北西の八方位に區分す

一天氣日數中雨とは雨聲響の何たるに拘らず降水量一乾の十分一以上ありたる日にして快晴とは雲量二以下曇天とは八以上の日を云ふ

氣象所	國都市	町	村	緯度	東經	北緯	觀測主任
深日	和泉國南郡深日	村	一三五度〇九分三四度一九分	北野孝			北野孝
尾崎	國南郡尾崎	村	一三五度一六分三四度二二分	高尾			高尾
岸和田	國南郡岸和田	町	一三五度二三分三四度二七分	森内清			森内清
長承寺	國泉北郡鳳	村	一三五度二七分三四度三二分	前川由大			前川由大
濱寺	國泉北郡高石	村	一三五度二六分三四度三二分	今井富次			今井富次
天王寺	國泉北郡天王寺	町	一三五度二九分三四度三五分	吉村正輔			吉村正輔
大坂	國大阪府西區一條通		一三五度二六分三四度三九分	加藤昭純			加藤昭純
福島	國大阪府北區上福島		一三五度二九分三四度四二分	笠谷正三			笠谷正三
新庄	國西成郡新庄	村	一三五度三一分三四度四五分	植田豐			植田豐
池田	國豐能郡池田	町	一三五度二六分三四度五〇分	笹部利作			笹部利作
妙見山	國豐能郡東郷	村	一三五度二八分三四度五六分	阪部文二			阪部文二
天全	國豐能郡東郷	村	一三五度二九分三四度五七分	山田四郎			山田四郎
茨木	國豐能郡積根	村	一三五度二三分三四度五五分	鈴木重男			鈴木重男
清洲	國三島郡清洲	村	一三五度三四分三四度四九分	太田宗太郎			太田宗太郎
方河内	國北河内郡方河内	町	一三五度三六分三四度五三分	山本義一			山本義一
八尾	國北河内郡八尾	町	一三五度三九分三四度四九分	東村八五郎			東村八五郎
尾全	國中河内郡八尾	町	一三五度四二分三四度四三分	水谷芳松			水谷芳松
富田	國中河内郡富田	町	一三五度四三分三四度四三分	畿内農事試験支場			畿内農事試験支場
長野	國中河内郡長野	町	一三五度三七分三四度三五分	塔本孝太郎			塔本孝太郎
野全	國中河内郡野全	町	一三五度三七分三四度三五分	松本達水			松本達水

Monthly Report
of The
Osaka Meteorological Observatory.

January 1915

大阪測候所月報

大正四年一月

第拾六年第壹號

目次

- 本年大阪氣象概況 附圖
- 本年大阪府管内氣象概況
- 本年大阪地質觀測概況
- 寒中ノ氣象概況
- 一月中ノ暴風概況
- 歐洲大戰ノ天氣豫報
- 三寒四暖ノ況
- 氣象信號播報中止
- 淀川ノ水位
- 地方天氣豫報暴風警報適否

38344